

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也, 小林 基
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01453a1, L科: LL01355a1, D科・S科: IL01362a1, P科: YL01418a2, J科: JL01364a1, W科: WL01343a1, N科: NL01344a1		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。</p> <p>授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。</p> <p>またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。</p> <p>この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 9月10日(土) 1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題: 北河内について調べる(30分) 事後課題: 授業の進め方について確認する(30分)
2	チームビルディング 9月10日(土) 2, 3限	チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題: チームでの取組が円滑に行くにはどのようなことが大切か考える。 事後課題: チームビルディングの成果をまとめる(30分)
3	北河内地域に関する講演 9月24日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
4	北河内地域に関する講演 9月24日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
5	グループワーク・プレゼンテーション 9月24日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
6	北河内地域に関する講演 10月1日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
7	北河内地域に関する講演 10月1日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
8	グループワーク・プレゼンテーション 10月1日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
9	北河内地域に関する講演 10月22日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
10	北河内地域に関する講演 10月22日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
11	グループワーク・プレゼンテーション 10月22日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
12	北河内地域に関する講演 11月19日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
13	グループワーク・プレゼンテーション 最終発表会について 11月19日(土) 2限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。 また、最終発表会についての説明を行う。	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
14	最終発表会 12月3日(土) 1限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)
15	最終発表会 12月3日(土) 2限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)

関連科目 ソーシャルイノベーション副専攻科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個人レポートの評価(40%)、グループごとの聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	増田知也(法学部・法律学科) 11号館10階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01454a1, L科: LL01356a1, D科・S科: IL01363a1, P科: YL01419a2, J科: JL01365a1, W科: WL01344a1, N科: NL01345a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを發揮する自らの職業観を確立する。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-9</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化 (多様性) を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。 			
授業方法と留意点	<p>第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。</p> <p>また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。</p>			
科目学習の効果 (資格)	<p>2019年度以前の入学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自己紹介の原案を考えること (2時間) ・事後学修: 「ビジネスのイメージは?」というテーマでルールを守って自由に書くこと (2時間)
	2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返される理由について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること (2時間) ・事後学修: ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる (2時間)
	3	組織の種類 - 営利組織と非営利組織 -	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: NPOについて調べる (2時間) ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること (2時間)
	4	ビジネス環境をとらえる① - 経済のグローバル化と高度情報化 -	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の明暗について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること (2時間) ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること (2時間)
	5	ビジネス環境をとらえる② - 地球環境問題と少子高齢社会 -	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること (2時間) ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること (2時間)
	6	ビジネス現場をとらえる - オフィスからワークプレイスへ -	<ul style="list-style-type: none"> ・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること (2時間) ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること (2時間)
	7	ビジネス実務能力	<ul style="list-style-type: none"> ・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 1 個条書きにすること (2時間) ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること (2時間)
	8	ビジネス実務の基本① - 仕事の進め方 -	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等のビジネス組織が必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと (2時間) ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと (2時間)
	9	ビジネス実務の基本② - ビジネスと諸活動 -	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: CSRについて調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること (2時間)
	10	ビジネス実務の基本③ - ビジネスと経営資源 -	<ul style="list-style-type: none"> ・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: 人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみる (2時間)
	11	自己実現とキャリアプランニング - セルフマネジメントと自己啓発 -	<ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: テキストの指定箇所 (pp. 164-174) を熟読し、ノートにまとめること (2時間) ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通じた自己意識をレポートにまとめる。 (2時間)

	12	ビジネス実務の基本④ービジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー	<ul style="list-style-type: none"> PDCA サイクルを理解する。 マーケティングとコストの関係について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：業界内の2社のCMを比較し、その特徴をノートにまとめること（2時間） 事後学修：次回のグループワークのために、3つのNPOの資料（スライド12～13）をしっかりと読み込むこと（2時間） 																
	13	ビジネスプラン①ー起業への意識と「寄付の教室」ー	<ul style="list-style-type: none"> 寄付行為の意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（2時間） 事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（2時間） 																
	14	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 作成したビジネスプランに基づいて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること（2時間） 事後学修：ビジネスプランの再考をする（2時間） 																
	15	ビジネスプラン②ープレゼンテーション発表と授業の総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> イノベーションの意味を再考する。 VUCAの時代において、新たなビジネスの創出について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：この授業の学びをまとめること（2時間） 事後学修を：新たな発見をすること（2時間） 																
関連科目	2019年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ビジネス実務総論</td> <td>全国大学実務教育協会</td> <td>紀伊国屋書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>20歳のときに知っておきたかったこと</td> <td>ティナ・シーリグ</td> <td>阪急コミュニケーションズ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>イノベーションと企業家精神</td> <td>P.F.ドラッカー</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「デザイン思考」を超えるデザイン思考</td> <td>DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ	2	イノベーションと企業家精神	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ																	
2	イノベーションと企業家精神	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社																	
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社																	
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。 毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 																			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語読解FⅡ	科目名(英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△○:DP8○		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめ(話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ(話す)	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ(話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テスト内容確認	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テスト内容確認	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ(話す)	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ(話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通して、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のFBを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8○, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語文法F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法F I、日本語読解F II
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画1：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画1：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画1：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
5	映画2：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
6	映画2：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画2：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2 時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
9	映画3：テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
10	映画3：テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画3：テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保, 古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になった場合は、毎回の課題提出により評価する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	2号館 2階 グローバル教育センター			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。			

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保, 古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習(文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	2号館2階 グローバル教育センター			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。			

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRで必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRで必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	新谷 知佳
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	授業で確認した語彙、表現の復習
2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションに必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (50%)、定期試験 (50%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
-----------	------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)
----------	-----------------

備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。 (3) 授業外の質問等には、メールで対応する。
----	--

科目名	日本語会話F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	茶園 直人
ディプロマポリシー (DP)	V科: IIIo, IVo, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: Eo, C科: IIIo, VIo, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	<p>この授業は大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。特に、「身近な話題についてディスカッションを行い、適切な結論が導けるようになること」を目指します。</p> <p>授業の概要は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生同士のディスカッションを行う。 ・身の回りのテーマを中心に扱う。 <p>主に留学生同士の会話になりますが、教員が適宜フィードバックを行い、他の授業で日本人を相手に日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身近な話題について、根拠を示して説得力のある意見を述べるができる 2. 身近な話題について、自分とは異なる意見であっても尊重し、適切に理解することができる。また、必要に応じて質問をして、理解を補うことができる 3. 身近な話題について、グループで協力して、論点を整理し、適切に結論を導くことができる 4. ディスカッションの方法や姿勢、マナーを身につける 																																																																		
授業方法と留意点	<p>ペアワークなどを通して、受講生が「話す」ことを中心とする。</p> <p>教材はプリントを配布する。</p> <p>教員は適宜フィードバックを行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本</td> <td>授業の進め方、自己紹介</td> <td>自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>意見と根拠を言う</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>質問する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ディスカッション①</td> <td>自分の意見を整理する。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ディスカッション①</td> <td>意見を整理して報告する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ディスカッション①</td> <td>整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ディスカッション①</td> <td>ディスカッションの小テスト</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ディスカッション②</td> <td>テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ディスカッション②</td> <td>意見と根拠に対して質問する／質問に答える</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ディスカッション②</td> <td>意見と根拠に対して反論する／再反論する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ディスカッション②</td> <td>結論を出す。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションにおける役割について学ぶ</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの練習</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの小テスト</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの振り返り</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)	2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。	3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。	4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。	5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。	6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。	7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。	8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。	9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する／質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。	10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する／再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。	11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。	12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。	13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。	14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。	15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)																																																																
2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する／質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する／再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題 30%、授業への取り組み 30%、小テスト (2回) 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)																																																																		
備考	試験はディスカッション形式とし、適宜フィードバックを行なう。 授業時間外の相談はメールにて行すが、必要に応じて別途指示する。																																																																		

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7号館 2階)
----------	-------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。
----	--

科目名	専門日本語 FII	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的				
到達目標				
授業方法と留意点				
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)				
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考				

科目名	日本語読解R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力
--------------	------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情R II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画1：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画1：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画1：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
5	映画2：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
6	映画2：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画2：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2 時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
9	映画3：テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
10	映画3：テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画3：テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保, 古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	2号館2階 グローバル教育センター			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。			

科目名	専門日本語R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRで必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRで必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラをONにすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7号館 2階)
----------	-------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。
----	--

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B△, C 科 : II◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01374a1~JT01378a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部 [A]、理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。*遠隔の場合、リアルタイム配信で行う。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか？ どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？ どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まささが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

			罪を取り上げる。																	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青バト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえと思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考	講義毎回の課題正解の提示などは Teams を通じて行う。																			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

評価方法 期末レポート (80%)、中間レポート (20%)

(基準)	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	全学部生のための刑事法	科目名 (英文)	Introduction to Criminal Law
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a1～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的にみて大学生生活を通じて学生による犯罪現象が散見される。 ・たとえば、保護責任者遺棄致死事案（サークル仲間の酩酊学生放置）、あるいは、未成年者誘拐や児童福祉法違反（SNS上での出会い）、職業安定期法違反（バイトでの風俗あっせん）、ストーカー行為規制法違反（25通程度のメッセージ送信）、偽造と詐欺（定期券改ざん）、偽計業務妨害（カンニング）の事案など枚挙にいとまがない。 ・これらの犯罪は、おそらく大学生本人は犯罪だと思って実行したものでないであろう。しかし、こうした犯罪知識を身につけておかなければ知らぬ間に罪人とされ、実名報道により学生本人の将来の芽を摘み取ることになりかねない。 ・他方、これらの犯罪の被害者になりかねない学生も相当数いるであろう。犯罪被害者になったとき、迅速な対処法が被害を軽減するが、こうした知識を身につける機会が全学生にあまりない。 <p>本講座では、「転ばぬ先の杖」として学生時代に身につけておくべき犯罪とその被害対処法を提供し、全学生に安全な学生生活と社会人となった後も有用な刑事法教育を提供することを目的とする。</p>
---------	--

到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刑法の謙抑性、罪刑法定主義、犯罪の成立要件および刑罰制度について説明できる ・薬物犯罪をはじめとする学生にとくに身近な犯罪現象の内容について説明できる ・犯罪被害者となった場合の対処方法について説明できる <p>ようになることが期待される。</p>
------	--

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsを用いる。 ・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を
----------	---

科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> ・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。
-------------	---

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 刑法とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	2	刑法の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想 ・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか） 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	3	刑法の解釈	<ul style="list-style-type: none"> ・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	4	犯罪の基本概念	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪の成立要件 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	5	薬物犯罪	<ul style="list-style-type: none"> ・覚せい剤取締法 ・大麻取締法 ・向精神薬取締法 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	6	カンニング行為と偽計業務妨害	<ul style="list-style-type: none"> ・阪大入試問題漏洩事件 ・明治大学替え玉入試事件 ・京大2次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件 ・大学入試共通テスト問題漏洩事件 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	7	飲み会と保護責任者遺棄罪	<ul style="list-style-type: none"> ・飲み会において生じうる犯罪現象 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	8	定期券の偽造と詐欺罪	<ul style="list-style-type: none"> ・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	9	ストーカー行為規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーカーにならないために ・ストーカーの被害者にならないために 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	10	DVとデートDV	<ul style="list-style-type: none"> ・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	11	性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反	<ul style="list-style-type: none"> ・各種性犯罪 ・家出と誘拐の関連 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	12	少年犯罪と「特定少年」制度の発足	<ul style="list-style-type: none"> ・少年法の厳罰化 ・20歳未満の実名報道 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	13	犯罪被害者救済①	<ul style="list-style-type: none"> ・告訴と被害届 ・証拠保全の重要性 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	14	犯罪被害者救済②	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者に対する種々の救済制度 ・被害者の実名報道と被害者バッシング問題 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>

	15	まとめ	これまでの講義内容の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事法（第8版）	三井誠	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（講義の理解度5%+課題の得点95%）。 			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・刑事事件に関心なる人はぜひ受講してください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。 			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野教授室			
備考				

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	1. 韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて授業を進める。 2. 授業は、①講義、②Moodleを通じたレジュメの配信および課題等の提出、という2つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 授業進捗の調整によって、授業の進行スケジュールに変更が生じる可能性がある。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果 (資格)	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 (「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。)	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (1)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (2)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	第I部 相互信頼から相互不信へ	第4章 「小春日和」の時代	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権 (2) 第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	第II部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	第II部 対立激化への展開	第8章 文在寅政権の転換	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	「平成時代の日韓関係」から何が見えるのか	韓国現代史と現代韓国社会 (講義のまとめと補遺)	[事前学習] 提示する資料を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 提示した資料を参照しながら、テキス

				トを読み返しておくこと（目安時間：60分）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法 （基準）	定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodleを通じて行なう。）			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 ・なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。 			

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 史一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	金融・経済の自由化やグローバル化が進展し、多様な金融商品やサービスが登場するなど消費者の選択肢が拡大して、これまで以上に利便性や収益機会が得られるようになりました。その一方、私たちに自らの判断と責任において金融取引を行うべきとする、「自己責任」が求められる時代になっています。自立した個人として、実際の問題に対処して自身で合理的な選択や意思決定を行うために必要な知識基盤を身につけることが今、大切です。こうした知識や能力は豊かな暮らしや社会の実現に欠かせないばかりか、さまざまな金銭・金融トラブルから私たちの身を守ることに役立ちます。 この授業では、自身のライフデザインにもつづいた資金計画をはじめ、金融資産の基本的なしくみや特性・リスクとリターン、その活用方法、企業研究など実社会で役立つ金融リテラシー(知力)を広く身につけることを目的とします。
到達目標	ライフステージの重要な意思決定の場面で、的確な行動やより良い判断へと導くリテラシーを養うことを目標に、金融やその背景となる経済知識について、基礎的な内容から実務の入口までをわかりやすく解説します。 具体的には ①金融や市場のさまざまな働きを知り、社会や自分との関わりについて理解を深めることができる ②金融リテラシーを習得し、自ら主体的に判断し活用していく能力が身につく ③自己のライフプランに基づく資金計画を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えることができる 以上を到達目標とします。
授業方法と留意点	基本的に対面による講義形式で授業を進めます。各回のテーマ毎にレジュメを配布します。 授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取りメモをとり、「なぜ」と自分の頭で考える訓練をしてください。 また、日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。 課題への参加や提出物は期限を厳守してください。
科目学習の効果 (資格)	日々、刻々と変わるマーケットを理解し、中長期の経済トレンドを理解することができる可能性があります。 金融商品の基礎知識を取得することにより、少なからず将来の資産形成に役立つことでしょう。 また、ファイナンシャルプランナー資格 (民間資格) や、ファイナンシャル・プランニング技能士 (国家資格) の資格にも役立つでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 金融知力リテラシーの必要性	講義内容と成績評価等について説明した後、これからの時代、「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。
2	金融・経済の基礎①	是非とも知っておいていただきたい金融と経済の基本について説明します。また、マーケットの視点で注目度の高い経済統計などの話もします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。
3	金融・経済の基礎②	物価と金利の関係や、金融政策や財政政策など経済と金融のかかわり、そして世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。
4	ライフプランニング①	ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる。
5	ライフプランニング②	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します。	課題①として、大学卒業後のライフイベントを設定し、キャッシュフロー表を作成してもらいます。
6	金融商品の基礎/貯蓄型商品	金融商品の特性について説明した後、預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。
7	リスクとリターン	投資は利益 (リターン) をあげることを目的とする行為ですが、必ずリスクを伴います。このリスクとリターンの関係や、リスクの低減手法、いわゆるリスクマネジメントについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。
8	アセットクラスの基礎知識 / 株式①	株式投資の魅力とリスクについて説明します。また、実際の取引の仕組みや、株式投資を行う際に留意点などについて解説します。 ※アセットクラス: 資産クラス、資産の種類のこと	課題②として、株式投資ゲームに参加してもらいます。
9	アセットクラスの基礎知識 / 株式②	株価の要因について説明します。また、株価のファンダメンタルズ分析手法や、株価チャート、テクニカル分析の基礎についても紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。
10	アセットクラスの基礎知識 / 債券①	債券とは何かから始め、多岐にわたる種類や特徴・リスクを説明します。また、利回りや「格付け」についても学びます。	財務省のHPで20年度予算の概要を確認
11	アセットクラスの基礎知識 / 債券②	債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してもらいます。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。
12	アセットクラスの基礎知識 / 投資信託	皆さんにとって最も身近になる金融商品です。投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。

	13	外為市場・外貨建て商品	外国為替市場の仕組みや取引について解説した後、代表的な外貨建て商品をリスクも併せて紹介します。	日経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。																
	14	証券化商・デリバティブ／セーフティネット	派生商品の概要について紹介します。そのあと、預金者および投資家を保護するための法令等について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。																
	15	講義のまとめ	これまでの講義を振り返り、ポイントを整理します。定期試験対策としての位置づけでもあります。	必ずレジュメを復習し、理解できるようにしてください。																
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>金融経済と資産運用の基礎</td> <td>日興リサーチセンター</td> <td>ブイツーソリューション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 : 60% 課題①キャッシュフロー表 : 25% 課題②株式投資ゲーム参加 : 10% 講義への取り組み姿勢 : 5%																			
学生への メッセージ	長年の実務経験をベースに、より実践的かつ現実的な話を、体験談も踏まえて分かりやすくお伝えしたいと思っています。 皆さんのこれからの時代は、金融・経済の知識、そして金融商品の知識があるのとないのとでは、将来の人生設計が大きく変わる可能性があります。是非、資産形成について一緒に学んでいきましょう。 なお、授業計画は変更される場合があります																			
担当者の 研究室等	11号館1階(教務課)																			
備考	オフィスアワー : 授業の前後に対応します。 その他、質問等は onishi_fumikazu3@nrc.nikko.co.jp までメールをしてください。 この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。																			

科目名	SDG s で読み解く淀川流域	科目名 (英文)	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子, 赤澤 春彦, 朝田 康禎, 石田 裕子, 郭 進, 加嶋 章博, 小林 健治, 手代木 功基, 鳥谷部 壤, 中塚 華奈, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1◎, E 科 : B△, C 科 : II◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01374a1~JT01378a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。 毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来と SDG s	科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 1 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 2 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 14 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第 5 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第 6 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第 7 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第 8 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
9	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
10	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第 10 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
11	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第 11 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
12	産業連関分析	淀川流域における 3 市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第 12 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
13	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第 13 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
14	滋賀県朽木地域の森林利用の変遷	淀川源流の森はどのように変化してきたのか? [関連 SDG 15] (担当: 手代木功基)	事前: 教科書[第 3 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 4 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 第 2 回目~15 回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも 5 点満点、14 回分で計 70 点) と、期末のレポート (30 点) の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、

	いずれか1つを選択し、A4 2枚程度のレポート作成に取り組む。
学生へのメッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはず。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の研究室等	1号館7階 後藤研究室
備考	SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1 (貧困をなくそう)、SDG2 (飢餓をゼロに)、SDG3 (すべての人に健康と福祉を)、SDG4 (質の高い教育をみんなに)、SDG5 (ジェンダー平等を実現しよう)、SDG6 (安全な水とトイレを世界中に)、SDG7 (エネルギーをみんなに そしてクリーンに)、SDG8 (働きがいも経済成長も)、SDG9 (産業と技術革新の基盤をつくろう)、SDG10 (人や国の不平等をなくそう)、SDG11 (住み続けられるまちづくりを)、SDG12 (つくる責任 つかう責任)、SDG13

科目名	脳の情報処理	科目名 (英文)	Processing in Brain
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	人間の知的活動の中核である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。
到達目標	脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。
授業方法と留意点	毎回、関連映像を視聴し、講義内でミニッツペーパーおよび質問作成して提出する。復習のための課題レポートの提出を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	脳について学習する上で知っておくべき用語や概念を説明する	講義プリントを用いた復習
	2	脳の構造	大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたしている。それぞれの器官の構造と役割を概説する	講義プリントを用いた復習
	3	学習: シナプスと可塑性	脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する	講義プリントを用いた復習
	4	視覚	感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する	講義プリントを用いた復習
	5	錯視・錯覚	認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から、人間の認識手法を知る	講義プリントを用いた復習
	6	男女の脳	生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える	講義プリントを用いた復習
	7	注意と選択	認識をはじめとする脳の情報処理は、意識の注がれるところに集中的に作用する。その現象を説明する	講義プリントを用いた復習
	8	聴覚と言語	コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが、いかになされるかを概説する	講義プリントを用いた復習
	9	感覚の連合	複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する	講義プリントを用いた復習
	10	運動	大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による、運動の生成および運動の学習について概説する	講義プリントを用いた復習
	11	思考と推論	高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する	講義プリントを用いた復習
	12	構造と認知	ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する	講義プリントを用いた復習
	13	記憶	大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する	講義プリントを用いた復習
	14	人間関係	人間の社会性における自他の区別や共通性、自我や感情について脳の機能を中心に考える	講義プリントを用いた復習
	15	総括	まとめ	期末試験に向けて復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	MIND HACKS	Tom Stafford, Matt Webb	オライリー・ジャパン
	2			
	3			

評価方法 (基準)	ミニッツペーパー等の平素の活動を含めた授業態度・クイズと課題レポート 60%、試験 40% を総合して判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	誰もが有しており、最も身近な未知の高度情報処理機構である脳について、さまざまな角度から見ていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館10階 寺内研究室
----------	---------------

備考	本人確認のため、メールで連絡する場合には大学のアドレスから送信してください。
----	--

科目名	使えるデータサイエンス	科目名 (英文)	Useful Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也, 朝田 康禎, 植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。
到達目標	この講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる (2) データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている (3) インターンシップや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる
授業方法と留意点	本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。授業時間以外にも利用できるオンラインコンテンツ (履修者のみがアクセス可能) を使って、データサイエンスの利用シーンやビジネスに繋がる知識も学ぶ。また、本科目では【履修生を 50 人に限定】し、有償の e-Learning 教材を提供する。
科目学習の効果 (資格)	社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由 (オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、Society 5.0 時代のデータの価値について C科 伊藤教授、S科 牧野准教授、久保准教授	e-Learning 教材:「第 1 回 データサイエンスとは」
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 2 回 社会で起きている変化」
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 9 回 データを読む (1)」
4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 S科 橋本講師	e-Learning 教材:「第 11 回 データを説明する」
5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S科 橋本講師	e-Learning 教材:「第 10 回 データを読む (2)」
6	オープンデータの収集と活用	RESAS (地域経済分析システム) によるオープンデータの分析 W科 植杉教授	e-Learning 教材:「第 3 回 社会で活用されているデータ」
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W科 朝田准教授	e-Learning 教材:「第 12 回 データを扱う」
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア (SPSS) によるデータ整理 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 6 回 データ活用とは」
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 4 回 データ・AI の活用領域」
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (1)」
11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」
12	データの整理から分析までの連動	オープンデータから FileMaker Pro での整理、R での統計分析の実習 S科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E科 片田准教授	e-Learning 教材:「第 7 回 データ・AI 利活用の現場」
14	広告効果のデータ分析	FileMaker Pro によるフィールドワークノートづくり S科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 8 回 データ・AI 利活用の最新動向」
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション (ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) CEI 石井教授、S科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 15 回 データを守る上での留意事項とまとめ」

関連科目	情報リテラシーI、情報リテラシーII、データサイエンス展開
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI・データサイエンス ～リテラシーレベル～	三谷慶一郎	

		e-learning 教材 (受講者のみ利用可能)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業での課題 50%、e-Learning 教材 40%、事前事後の学修進捗度 (アンケート) 5%、学修ノート 5%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。			
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。			
担当者の 研究室等	1号館3階 伊藤教授室、11号館7階 久保准教授室、牧野准教授室、11号館8階 橋本講師室、1号館7階 植杉教授室、朝田准教授室、1号館4階 片田准教授室、7号館5階 石井教授室			
備考				

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名 (英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点を理解することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知り、ジェンダー視点で俯瞰する。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことから、ジェンダーの基本的理解はもちろん、主な思潮を通して社会を読む。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) 日常生活やビジネスの場面でのコミュニケーションの必要性を理解し、アサーティブコミュニケーションの理論を知る。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-5</p>
---------	--

到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
------	---

授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・2019年度までの入学生で「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」を取得希望者にとっては、「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ダイバーシティに関して、調べる (1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間)
2	ダイバーシティと境界線	<ul style="list-style-type: none"> ・ウチとソトの感覚 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について箇条書きにしておくこと (2時間) ・事後学修: SDGs # 5 がなぜ日本に問われているのか、その理由について、具体的数字を入れてレポートを書くこと (2時間)
3	ジェンダー視点	<ul style="list-style-type: none"> ・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・ジェンダーギャップ指数 ・シモース・ド・ボーボワール ・性別役割分業観 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる (2時間) ・事後学修: 日本が抱える問題 について、具体的数字を入れてレポートを書くこと (2時間)
4	日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> ・大正期の白樺派と女権拡張運動 ・明治の落とし物 ・第5次男女共同参画基本計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間) ・事後学修: 第五次男女共同参画基本計画を読み、興味関心をもった項目についてレポートを書くこと (2時間)
5	国際統計比較	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーギャップ、ジェンダーエンパワーメント指数などのデータから日本をみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間)
6	性役割の形成①	<ul style="list-style-type: none"> ・性役割と発達段階における「刷り込み」 ・性自認 ・GID と SOGI と人権 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間) ・事後学修: テキスト P40~52 と、授業を受けて理解できたことなどをまとめたレポートを作成 (2時間)
7	性役割の形成②	<ul style="list-style-type: none"> ・性自認と家族 ・親役割 ・性的指向 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ハラスメントの事例の一つ探し、具体的内容をレポートする 準備をすること (2時間) ・事後学修: 結婚と母性信仰に関して、レポートを作成 (2時間)
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	<ul style="list-style-type: none"> ・6名の女性に関するグループワークとプレゼン ・セクシュアリティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 6名の女性に関するプレゼン (2時間) ・事後学修: 6名の女性から学んだことのレポート作成 (2時間)
9	ワークライフバランスとビジネス組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーマネジメント ・働き方改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間)
10	アサーティブコミュニケーション①	<ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブとは何か ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネスについて調べる (2時間) ・事後学修: アサーティブネススキルを用いて問題解決事例を考える (2時間)
11	アサーティブコミュニケーション②	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間) ・事後学修: ワークシート#11 (2時間)
12	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	<ul style="list-style-type: none"> ・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デート DV について現状を理解す 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: リプロの意味と現状を調べる (2時間) ・事後学修: ワークシート#12 (2時間)

			る	
	13	DV とデート DV	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：DV とデート DV に関してレポートを作成（2 時間） ・事後学修：ワークシート#13（2 時間）
	14	プレゼンテーション	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2 時間） ・事後学修各プレゼンテーションについての報告書作成（2 時間）
	15	まとめ	・まとめ	・事前学修：まとめのワークシート（2 時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2 時間）
関連科目	2019 年度以前入学生の「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
評価方法 (基準)	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	みなさんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 教育イノベーションセンター（石井）			
備考	予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。			

科目名	データサイエンス展開	科目名 (英文)	Revelation of Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年度	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>インターネットの利用が日常化し、IT による人とのつながりが増えるとともに、影響を受ける場面が飛躍的に増加している。これからの社会においては情報化の特徴を理解した上で、生活を豊かにしていくデータリテラシーを身に付けていることが必要となっている。</p> <p>しかしながら、データの価値に対する理解や、Society 5.0 で謳われているような分野横断的な連携、社会の変革につながる方向性を伝える教育は十分には行われていない。</p> <p>摂南大学ではこれまで学部横断のPBLプロジェクトや地域社会と海外に向けた副専攻課程を設置するなど、大学の知を社会の豊かさとなるような成果に結びつける試みを展開してきた。2020年度より全学の初年次情報科目を統一化し、さらに、2021年度からは全学開講科目として、3年次に「使えるデータサイエンス」を開講し、卒業と就職を控えた学生に、より実践的なデータ利用を目指す教育体制を構築し、ITの利点を引き出せる人材育成を進めている。</p> <p>この流れの中でさらに、初年次と卒業時をつなぐ、2年次にさらに情報社会で活躍する社会人を育成するために文理を問わず全学を対象とした「データサイエンス展開」を開講する。</p>
到達目標	<p>(1) 数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであることを理解し説明できる。</p> <p>(2) 数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることを理解し説明できる。</p> <p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示される。</p>
授業方法と留意点	<p>授業は担当講師がプレゼンツール、板書やグループワーク等のアクティブラーニングで実施する。</p> <p>また、事前学習として予習シート、事後学習としてふりかえりシートを課する。それらの提出には教員の指定するICTツールを活用する。</p>
科目学習の効果 (資格)	AI/データサイエンスの実際を様々な分野の実務家や研究者から学ぶことで、視野を広め、今後の自身のキャリア構築や就職活動に役立てることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1回 大学人としてのデータサイエンス	本講義の目的、オリエンテーション、教育効果測定のためのアンケート	事後学修：ふりかえりシート (30分)
2	第2回 社会を豊かにするデータサイエンス	Society5.0に向けた発展状況を知る。オープンデータの活用による社会活動、研究活動への期待を理解する。	事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分)	
3	第3回 政策とデータサイエンス	政策立案におけるデータ収集から意思決定、評価への流れを知る。Withコロナ時代の産業振興策の現状と課題について学ぶ。	事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分)	
4	第4回 教育とデータサイエンス	数理・データサイエンス・AI教育が目指すものとこれからの社会へのインパクトについて知る。GIGAスクール構想から大学のデジタル化まで教育のDXについて広く学ぶ。	事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分)	
5	第5回 中間まとめ	国がどのようにデータサイエンスを駆使して、国民の生活を豊かにしようとしているかの考察に基づき、グループワークを行う。	事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分)	
6	第6回 居住空間とデータサイエンス	照明のITソリューションに関する最新事例を学ぶ。生活リズムに合わせた照明技術のあり方、生活のデザインへのデータ活用について知る。	事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分)	
7	第7回 国防とデータサイエンス	国防においても、人工知能 (AI) 及びデータ分析に関する高度な知識・スキル及び豊富な経験・実績を有するAI人材を採用しており、データサイエンスの重要性について知る	事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分)	
8	第8回 プロダクト・イノベーションとデータサイエンス	新商品開発におけるデータの活用と生産プロセスでのデータ活用について学ぶ。	事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分)	
9	第9回 広告とデータサイエンス	広告とデータの関係について歴史的に学ぶ。Webやデジタルサイネージなどの新しい形の広告媒体の可能性について視野を広げる。	事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分)	
10	第10回 言語とデータサイエンス	コーパス言語学の概要について学ぶ。言語とデータ化についての歴史や課題を知る。	事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分)	
11	第11回 まちづくりとデータサイエンス	自治体行政の情報化の変遷とその評価について学ぶ。住民視点の行政評価の仕組みその課題を知る。	事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分)	
12	第12回 生命科学とデータサイエンス	医薬品開発、医薬品流通におけるデータの重要性と課題を知る。コロナ以降の医薬業界のDXへの期待について学ぶ。	事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分)	
13	第13回 スポーツとデータサイエンス	戦術におけるデータ活用の歴史と最近の事例を知る。選手のコンディションや戦況を加味した新しいデータ活用の利点と課題を学ぶ。	事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分)	
14	第14回 まちおこしとデータサイエンス	過疎地域には、データサイエンスの知識とそれを基に実行していく力が必要であり、データ分析を駆使した町おこしを行うおとしている事例を知る。	事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分)	

	15	第15回 社会人としてデータサイエンス	社会人として身につけておくべきDX思考、情報倫理、協働姿勢などをグループワークで学ぶ。	事前学習：予習シート作成（60分） 事後学修：ふりかえりシート（30分）
関連科目	情報系科目すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	予習シート（20%）、課題・授業メモ（50%）、ふりかえりシート（30%）の総合点の60%以上を合格とする。 なお、出席率80%以上を成績評価の前提とする。出席に関する不正行為やネガティブな姿勢は関係する学生全員の責任とする。			
学生への メッセージ	社会で注目されているAI・データサイエンス活用の最前線で活躍している講師陣から学んでください。社会に対する視野を広げることができ、就職活動においても選択肢を増やすことになり有利です。			
担当者の 研究室等	7号館 2F 非常勤講師室 1号館 3F 伊藤研究室、7号館 3F 石井研究室、11号館 7F 久保研究室			
備考				

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年度	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、またキャリア支援デザイナーとしての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	テキストはWeb上にアップロードするので、各自で事前に準備すること。授業は、講義中心で進めるが、ペアワーク、グループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。提出した課題については、授業内にてフィードバックを行う。質問等は授業中に受け付ける。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考えること(30分) ・事後学修: ビジネスマナーとは何か、400字でまとめること(60分)
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 企業のエコ活動について調べること(30分) ・事後学修: 仕事とは何か、まとめること(60分)
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定(MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCAについて調べること(30分) ・事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめること(60分)
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修: あなたの1週間予定表を作成すること(30分) ・事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめること(60分)
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0をもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をすること(30分) ・事後学修: ケーススタディプリントをすること(60分)
6	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話対応プリントをすること(30分) ・事後学修: ロールプレイングを繰り返すこと(60分)
7	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修: 来客対応プリント①をすること(30分) ・事後学修: 来客対応プリント②をすること(60分)
8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べること(30分) ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること(60分)
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にをすること(30分) ・事後学修: ビジネス文書②をすること(60分)
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をすること(30分) ・事後学修: ビジネス文書④をすること(60分)
11	ビジネス通信の基本	・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をすること(30分) ・事後学修: メール文書を作成すること(60分)
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護(Pマーク) ・コンプライアンス	・事前学習: コンプライアンスについて調べること(30分) ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成すること(60分)
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること(30分) ・事後学修: 設営事例をまとめること(60分)
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をすること(30分) ・事後学修: 弔・贈答プリント②をすること(60分)
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること(30分) ・事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめること(60分)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、無断欠席が4回以上ある場合には成績評価しない。</p>																
学生への メッセージ	<p>近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。</p>																
担当者の 研究室等	<p>7号館5階 キャリア教育推進室（石井）</p>																
備考	<p>予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。質問等は、メールやチャットにて受け付けます。</p>																

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 譲, 大塚 正人, 喜多 大三, 久保 廣正, 佐藤 大作, 白鳥 武, 田中 鉄二, 鳥谷部 壘
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、法学、経済学、環境工学、建築学、農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め、獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます。このような流れを通じて、大学生として必要な、SDGs を理解するための教養 (特に、社会、経済、環境等) を身につけ、その知識をもとに考え、自分の意見を持ち、討議ができるようになります。
到達目標	(1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について知り、説明と討議をすることができる。 (2) 現代世界の課題について知り、SDGs との関係を説明することができる。 (3) 課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4) 自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使するので、極めて密度の高い授業となります。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、主としてグループワークにより課題に取り組みます。授業最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料の管理状態も評価対象です。
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP 1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後: CHAP 1 を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前: CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nvw
4	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 14, 15 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・適応と緩和 https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPzjE
5	地球共生デザインを考える I: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ
6	地球共生デザインを考える II: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf
7	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1: 目標 2, 3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
8	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後: 第 1 回レポート
9	日本の国際貢献 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: 目標 6, 9, 13 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 以下の Web 記事を読み、世界の水問題の現状と課題、日本が果たすべき役割について、要点を 300 字程度にまとめる。 https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/01/index.html
10	日本の国際貢献 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: 目標 16, 11, 10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 以下の Web 記事を読み、スーダンの現状と日本の復興支援の特徴について、要点を 300 字程度にまとめる。 https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/02/index.html
11	食糧安全保障 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示	事前 1: 目標 2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。(※日本語字幕を選択する。)

			振り返りシート	The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLuGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t
12	食糧安全保障 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート		事前1：目標：2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前2：フードロスとその日本の現状について理解する。 (※日本語字幕を選択する。) REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp , London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon
13	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート		事前1：目標：8, 9, 12, 17 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJ5FYtfcFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c
14	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート		事前1：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：SDGs 達成のために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第2回レポート
15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート		事前：SDGs1-17 の復習 事後：第2回レポート

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊で しっかりわかる教科書」(1680 円+税)	バウンド	技術評論社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 ・理解度確認クイズ (個人：10%)
 ・事前・事後学習課題・ABD サマリ (個人：15%)
 ・取組み姿勢 (チーム：20%)
 ・成果発表・プレゼンテーション1回 (チーム：10%)
 ・振り返りシート (個人：20%)、レポート2回 (個人：20%)、授業資料管理 (個人：5%)
 ※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。

学生へのメッセージ
 この授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs 実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。

担当者の研究室等
 大塚教授 (薬学部 11 号館 5F)、久保教授・学事顧問 (7 号館 8F)、伊藤教授 (1 号館 3F)、喜多教授 (農学部 1 8 号館 2F)、白鳥准教授 (1 2 号館 7 階)、佐藤准教授 (1 号館 3F)、田中准教授 (1 号館 7F)、鳥谷部講師 (11 号館)

備考
 この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。

科目名	まちづくり入門	科目名 (英文)	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	熊谷 樹一郎, 野長瀬 裕二, 野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動が続いている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。
到達目標	(1) まちづくりの課題を多面的に理解できる (2) 大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する (3) 主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多様な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。
科目学習の効果 (資格)	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる気持ちを涵養する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方プロジェクト推進室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	都心とまちづくり 大阪市立大学大学院都市経営研究科 佐藤 道彦 教授 (元堺市副市長、元大阪市都市計画局長)	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	グループ発表、討論会 C科 伊藤教授・熊谷教授	授業担当者から指示する
5	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり W科 野長瀬教授	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり S科 久保准教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり R科 稲地准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり W科 野村教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり (5)	グループ発表、討論会 C科 伊藤教授・熊谷教授	授業担当者から指示する
10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 J科 増田講師	授業担当者から指示する
11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり CEI 上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	文化資源とまちづくり L科 古矢講師	授業担当者から指示する
13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	歴史・文化とまちづくり A科 加嶋教授	授業担当者から指示する
14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり A科 池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表、討論会 教務部長 C科 伊藤教授 C科 熊谷教授	事前: これまでの講義の振り返り 事後: 振り返りレポート

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 各回の事後レポート

学生へのメッセージ ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。

担当者の研究室等 1号館3階 伊藤教授室、1号館4階 熊谷教授室

科目名	グローバル・シチズンシップ論 (入門)	科目名 (英文)	Global Citizenship (Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	大塚 正人、鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>一つの地球社会に対して、未来を創る担い手として参画する市民、これからの多様化する社会において主体的に活動する市民を育成するという取組みをグローバル・シチズンシップ教育 (GCED) という。これは、地球社会という国の枠組みを超えた概念であり、近年は日本だけではなく、他国においても注目され、徐々に基礎教育等に導入され始めている。</p> <p>この科目は、グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。当該副専攻課程を履修する最初の学期に履修することが望ましい。</p> <p>受講者は、グローバル・シチズンシップ (GC) および GCE の基礎的な概念を理解し、これらの概念が必要とされるに至ったグローバルな歴史的背景と、現在まで続く課題について、基礎的な知識を獲得する。また獲得した知識と理解について、説明できるようになることを目的とする。</p> <p>この講義は、GC と GCED にくついでにの授業であると同時に、授業自体が GCED の一環である。GCED では、一方的な講義ではなく、受講生の主体的な学習と対話による学びが重視される。受講生には、この講義を通じて GCED を体験的に学びつつ、自らが GCED のファシリテーターとなり、この授業の内外で GCED の実践者となってゆく姿勢が求められる。</p>			
到達目標	<p>到達目標は以下の通りである</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グローバル時代に必要な知識が習得されている ●グローバルな環境下で成功できるスキルを身につけている ●世界とつながっている <p>具体的には以下のようなコンピテンシーが求められる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●異なる文化、地域にいる人々への共感、深い共感 ●人的、制度的、規範的相互依存への理解 ●自分の行動が他者に影響しているという意識 (ローカルがグローバルに与える影響) ●世界を知り、探求していく力 ●様々な視点を咀嚼する力 ●行動力 ●アイディアを共有していくこと ●グ 			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ●いわゆる「実習」ではなく、知識と理解を身につけることを主目標とする授業であるが、アクティブ・ラーニングは GCED の根幹である。 ●教員からの一方向の情報伝達は最小限に留め、受講する学生が自ら資料を読み、考え、他の学生および教員と対話しながら知識をつけ、理解を深めてゆく。 ●学生には、自律的な予習と復習、情報検索やファクトチェック、ディスカッションと質疑への積極的な参加が求められる。 ●教員によるファシリテーション、学生の質疑やディスカッションなどは原則として日本語で行う。 ●教材の入手、クラスメ 			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション (1) 4月16日(土) 3限目	オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	2	イントロダクション (2) 4月16日(土) 4限目	チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	3	「グローバル・シチズンシップ」の概念 (1) 4月23日(土) 3限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	4	「グローバル・シチズンシップ」の概念 (2) 4月23日(土) 4限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	5	貧困問題、飢餓問題について 4月30日(土) 3限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	6	健康と福祉の格差問題について、教育の格差問題について 4月30日(土) 3限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	7	ジェンダー問題について、水の問題について 5月7日(土) 3限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	8	エネルギー問題について、経済格差について 5月7日(土) 4限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	9	社会基盤の問題について、人権等の不平等に関する問題について 5月14日(土) 3限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	10	まち (都市) の抱える問題に	与えられた課題に関して自ら資料を情	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行

		ついて、持続可能な消費と生産について 5月14日(土) 4限目	報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	う																
	11	気候変動の問題について、水産資源の問題について 5月21日(土) 3限目	ABD読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																
	12	森林破壊等の問題について、平和と公正に対する問題について 5月21日(土) 4限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																
	13	グローバル・シチズンシップ教育について(1) 5月28日(土) 3限目	ABD読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																
	14	グローバル・シチズンシップ教育について(2) 5月28日(土) 4限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																
	15	総括 6月4日(土) 3限目	授業全体の振り返りワーク	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																
関連科目	SDGs で学ぶ世界の課題、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>知っていますか？SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール</td> <td>日本ユニセフ協会</td> <td>さ・え・ら書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	知っていますか？SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール	日本ユニセフ協会	さ・え・ら書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	知っていますか？SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール	日本ユニセフ協会	さ・え・ら書房																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SDGs時代の教育</td> <td>北村友人他</td> <td>学文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SDGs時代の学びづくり</td> <td>かながわ開発教育センター</td> <td>明石書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>貧しい人を助ける理由</td> <td>デイビッド・ヒューム</td> <td>日本評論社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	SDGs時代の教育	北村友人他	学文社	2	SDGs時代の学びづくり	かながわ開発教育センター	明石書店	3	貧しい人を助ける理由	デイビッド・ヒューム	日本評論社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	SDGs時代の教育	北村友人他	学文社																	
2	SDGs時代の学びづくり	かながわ開発教育センター	明石書店																	
3	貧しい人を助ける理由	デイビッド・ヒューム	日本評論社																	
評価方法(基準)	平常評価 80% (小テスト、平常の提出物、グループワークや質疑への貢献を総合的に評価する) プレゼンテーション課題 20% (作成過程を含む)																			
学生へのメッセージ	グローバル・シチズンシップ副専攻で価値ある学びの場を一緒に作りましょう。																			
担当者の研究室等	摂南大学校方キャンパス薬学部I号館5階生命融合化学分野																			
備考	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックにかかる時間、自発的な英語のトレーニングや、グローバル教育センター主催の学習イベントに参加する時間等も全て合算し、週平均で4時間程度、総計で60時間程度の授業外学修時間を確保すること。																			

科目名	グローバル・シチズンシップ論 (応用)	科目名 (英文)	Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 美保, 大塚 正人, 谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科: S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。グローバル・シチズンシップ論 (入門) 履修後に履修することが望ましい。</p> <p>本科目はグローバル・シチズンシップ論 (入門) で学んだ知識や概念等をもとに、日本国内における社会課題 (多文化共生、外国人労働者、SDGs など) に焦点を当て、グローバルとローカルのつながりについて学ぶものである。授業自体がグローバル・シチズンシップ教育の一環であり、受講者自身が授業を通じ体験的に学び、実践者として行動していく姿勢が求められる。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本国内における社会課題について、歴史的背景、現状等が理解できる さまざまな分野での実践者の経験から、実践上の留意点を理解できる 身近にある社会課題について分析し、課題解決の方策の提案ができる
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> いわゆる一方的な講義ではなく、学んだことをもとにグループでディスカッションしたり、関心のある課題について調査、発表するなど、主体的に取り組む形式が多い。 取り扱う課題により、外部講師を招聘し、実践に関する講義やワークショップ等も実施する。 <p>・本科目は2022年度後期90分授業x2・3コマの集中講義で実施される予定である。詳細なスケジュールは決定次第、ポータルサイト等で連絡をする。</p> <p>初回授業以降は担当教員からの連絡を常に受け取れるようにしておく必要がある。</p> <p>・その他、履修にあたって不明</p>
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ	指定された教材の読解、課題を行う
	2	グローバルシチズンシップと海外への支援、国内での支援	ゲストレクチャー 海外に向けてできること、国内でできること、実態、可能性を探る	指定された教材の読解、課題を行う
	3	グローバルシチズンシップと人権①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
	4	グローバルシチズンシップと人権②	マジョリティ、特権のある人間が考えるべきこと	指定された教材の読解、課題を行う
	5	グローバルシチズンシップと経済①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
	6	グローバルシチズンシップと経済②	自らの消費行動が社会にどのような影響を与えるのか	指定された教材の読解、課題を行う
	7	グローバルシチズンシップと起業①	ゲストレクチャー (パネルディスカッション) 社会課題の解決のために起業をした人たちのきっかけ、思い、現状などを知る	指定された教材の読解、課題を行う
	8	グローバルシチズンシップと起業②	同上	指定された教材の読解、課題を行う
	9	学生団体との意見交換会①	他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする	指定された教材の読解、課題を行う
	10	学生団体との意見交換会②	他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする	指定された教材の読解、課題を行う
	11	実践に向けて①	これまでの学びを生かし、自ら課題と感じたことの解決に向けてグループで活動を行う	指定された教材の読解、課題を行う
	12	実践に向けて②	同上	指定された教材の読解、課題を行う
	13	実践に向けて③	同上	指定された教材の読解、課題を行う
	14	発表	11回目から3回目で話し合ってきたことを発表する	指定された教材の読解、課題を行う
	15	まとめ	全体のまとめ、ふりかえり	指定された教材の読解、課題を行う

関連科目 グローバル・シチズンシップ論 (入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習、摂南大学 PBL プロジェクトなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 平常評価 60% (平常の提出物、課題への取り組み等総合的に評価)
プレゼンテーション課題 40% (作成過程を含む)

学生への 身近な場所で自ら行動が起こらせるきっかけになればと思っています。受講生同士の関わりからも多くのことも学んでもらいたいと思いますので、

メッセージ	積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名 (英文)	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論 (入門). This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values. This course will also be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries.
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire pr
授業方法と留意点	This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The c
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
5	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
6	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
7	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
8	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)

	11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues
	12	Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	13	Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	14	Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	15	Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (入門)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Presentations: 40%			
学生へのメッセージ	Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other. We will be working with students in the United States to learn about the common war history and poverty together through online video exchanges. This will be a			
担当者の研究室等	2号館2階グローバル教育センター (旧: 国際交流センター)			
備考				

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン (地球市民) の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目を履修する学生は「グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)」または同等の科目を履修済でなければならない。履修者は、グローバル教育センターが主催する海外派遣プログラムのいずれかに参加し、これまでの副専攻および各学部での学びを生かした応用レベルの活動を行う。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この科目での学びを GCMP の集大成とする成果報告を行い、各学部での卒業研究や進路決定に活用することが期待される。</p> <p>なお、事前に承認された活動 (例: 協定校への長期留学を利用した社会貢献プロジェクト) の成果報告をもって本科目の単位を認定する場合がある。</p>
---------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有し、当該の派遣プログラムの主題となる社会課題との関連を説明できる。 当該の派遣プログラムの主題となる社会課題について、課題の概要と解決への取り組みを実体験に基づいて説明できる。また、日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通を行い、相互理解と信頼関係を築く。 異なる言語、文化が混在するチームで課題に取り組み、必要
------	---

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合 (アルバイト、旅行等) による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 年度末にあたる2~3月に現地派遣さ
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博. 浅野 慎一. 石井 三恵. 伊藤 謙. 木下 和紗. 瀬川 智広. 瀧 千波. 堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1) 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2) ABDによる読書法を身につけている。 (3) チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4) SDGs と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5) 読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6) コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7) 自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABD の体験	事前学習: 『おとなの教養』 序章を読む (1.5 時間以上)
2	教養入門: 第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第一章を読む (1.5 時間以上)	
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第三章を読む (1.5 時間以上)	
4	教養入門: 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)	
5	教養入門: 第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 教科書 第五章を読事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)	
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上) 事後学習: 第 1 回レポート	
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDGs とは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGs とは何か、指定した資料を調べる (3 時間以上)	
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGs とは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。 (1.5 時間以上)	
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAI とは何かを調べる 事後学習: 第 2 回レポート	
10	自分を知る教養: 岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章 「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)	
11	自分を知る教養: 第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)	
12	自分を知る教養: 第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)	
13	自分を知る教養: 第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)	
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上)	

				事後学習：第3回レポート (2時間以上)
	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習：第4回レポート (2時間以上)
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：20%) ・中間発表・まとめ (チーム：20%) ・レポート 4回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：15%) ・理解度確認クイズ (個人：15%) ・事前学習シート (個人：5%) ・授業資料の管理 (個人：5%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	伊藤 譲 (1号館 3F), 寺内 睦博 (11号館 10F), 石井 三恵 (7号館 5F), 木下 和沙 (11号館 7F), 瀬川 智広 (スポ振), 瀧 千波 (スポ審), 浅野 慎一 (7号館 5F), 堀田 裕子 (5号館 1F)			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博, 浅野 慎一, 石井 三恵, 伊藤 謙, 上野山 裕士, 堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2)ABDによる読書法の基礎(要約、プレゼンテーション、対話)を身につけている。 (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4)チームワーク能力やリーダーシップを身につけている。 (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6)テーマにそった対話(感想、質疑応答)を行うことができる。 (7)自主学習の習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか?	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説(教科書、ABDとは) 協働学習(p.18-47:要約、プレゼン、対話)、振り返りシート	『おとなの教養2』序章を読み、事前学習シートを作成する。
2	私たちはいま、どこにいるのか? 第一章「AIとビッグデータ」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説(振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書第一章を読み、事前学習シートを作成する。
3	私たちはいま、どこにいるのか? 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
4	私たちはいま、どこにいるのか? 第三章「想像の共同体」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)
5	私たちはいま、どこにいるのか? 中間発表1回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	教科書第四章～第六章を読み、事前学習シートを作成する。 事後学習:第1回レポート
6	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか?: 第一章「独裁国家はパンデミックに強いのか」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シートを作成する。
7	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか?: 第二章「AIで人類はレジリエントになれる」	QFT(質問づくり) 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
8	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか?: 第三章「ロックダウンで生まれた新しい働き方」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。
9	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか?: 第四章「認知バイアスが感染症対策を遅らせた」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。
10	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか? 中間発表2回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度) 事後学習:第2回レポート
11	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	『星の王子さま』1~10章を読み、事前学習シート(要約、感想)を作成する(2時間程度)
12	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書11~20章を読み、事前学習シートを作成する
13	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話)	教科書21~27章を読み、事前学習シートを作成する

			振り返りシート																	
	14	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート	教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する																
	15	教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養2</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コロナ後の世界</td> <td>大野和基（編）</td> <td>文春新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養2	池上彰	NHK 出版	2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	おとなの教養2	池上彰	NHK 出版																	
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢／ルーブリック（チーム：15%）、・ファイリング（個人：5%） ・ポスター発表（チーム：20%） ・レポート 3回（個人：30%）、・振り返りシート（個人：10%） ・理解度確認クイズ（個人：10%） ・事前学習シート（個人：10%） <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？																			
担当者の 研究室等	伊藤譲（1号館3F）、寺内睦博（11号館10F）、石井三恵（7号館5F）、上野山裕士（7号館3F）、浅野慎一、堀田裕子																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)
-----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博, 津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
	2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)
-----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
	2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)
-----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2029a0		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。また、フィジカルアセスメントを看護過程のプロセスにつなげるために必要な理論について学ぶ。科目責任者は、総合病院及び個人病院で看護師として約10年間勤務した経験から、フィジカルアセスメントに関する実践的な教育を行う。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施したフィジカルアセスメントの基本技術に関する知識と根拠、患者の心情や状態から必要な看護について振り返る。また、事例課題を用いたアセスメントの思考過程をレポートにまとめ、グループワークやディスカッション、発表を通して今後
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	看護における看護過程とヘルスアセスメント	【講義】 看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方、情報収集・整理等の基本的技術に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	2	フィジカルアセスメントの考え方と基本的技術、ヘルスヒストリー	【講義・演習】 問診とフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）の基本的技術のほか、看護過程に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポー

				トを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。
10	消化器系のフィジカルアセスメント (2)	【演習】 消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント (1)	【講義】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント (2)	【演習】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント (1)	【講義】 脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント (2)	【演習】 脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
15	フィジカルアセスメントと看護過程	【講義・演習】 フィジカルアセスメントを看護過程のプロセスにつなげるために必要な考え方や理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読んで出席すること (1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること (2 時間)。	

関連科目 看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、看護過程論、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日常生活行動からみるヘルシア セスメント 看護形態機能学の枠組みを用いて	大久保暢子編	日本看護協会出版会
	2	新体系 看護学全書 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ	深井 喜代子編	メヂカルフレンド社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント	医療情報科学研究所 編	メディックメディア
	2			
	3			

評価方法 (基準) 筆記試験 (50%)、実技試験または小テスト (20%)、事例課題の提出状況及びアセスメントの思考過程 (20%)、授業への参加状況 (10%)
原則全ての授業及び演習に出席していること。
※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。

学生へのメッセージ 「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また、予習・復習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。

担当者の研究室等 7号館3階 研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、研究室3(山居)、共同研究室1(北村他)、

備考 技術演習時の身だしなみ、準備物品等については、事前に別途指示します。
提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。

科目名	基礎看護技術Ⅳ	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP6○, DP7◎		
科目ナンバリング	NDN2030a0		

授業概要・目的	看護ケアを対象者に提供するための基盤となる看護過程について学ぶ。根拠に基づき、対象者の看護上の問題を明確にし、問題を解決するためのプロセスを学ぶ。ヘンダーソンの理論に基づいた看護過程の展開方法を、演習を通して修得する。科目責任者は、総合病院の手術室および救急・ICU病棟、外来等、看護師として約10年間勤務した経験を活かし、実践的な看護過程の展開と看護技術についての教育を行う。
到達目標	授業および演習を通じ、看護過程の展開方法を理解できる。 1) 看護過程の基本的な知識について理解する。 2) 事例の対象者について情報の整理、情報の分析と統合、看護問題の抽出、看護目標・看護計画の立案、評価を行うことができる。 3) 看護実践時の記録の記載方法を理解できる。 4) 看護過程における看護者と倫理性、患者の安全安楽の視点の重要性について理解できる。
授業方法と留意点	講義形式で看護過程の理論を学び、講義室または基礎看護演習室において演習を行いながら、より具体的な看護過程の展開方法をイメージできるように授業を行う。教科書を基本とするが、学生の学修状況を考慮し、適宜配布資料を用いる。また、視聴覚教材やパワーポイントを使用する。初回授業の方法については、Teamsにてアナウンスを行う。看護過程の展開方法を習得するために、少人数制のグループワークや演習を行い、事例展開をする。課題については、講義内で別途指示する。アセスメント内容、関連図、看護計画について、グループ発表
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱおよび看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護過程とは	【講義】 ・看護過程の概要・構造 ・問題解決過程としての看護過程 ・看護過程に必要な能力	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
2	看護過程のステップ①	【講義】 ・事例課題の情報整理 ・看護アセスメントとその枠組み	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
3	看護過程のステップ②	【講義】 ・事例課題の情報の分析と統合 ・看護上の問題と看護目標・優先順位	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
4	看護過程のステップ③	【講義・演習】 ・看護計画の実施と評価 ・事例紹介	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 事後課題を作成する。(2時間)
5	看護記録・看護過程の演習①	【講義・演習】 ・看護記録とは ・看護記録の種類 ・グループワーク	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) グループでディスカッションし、課題を作成する。(2時間)
6	看護過程の演習②	【演習】 グループワークにて、事例の情報分類・アセスメント・看護問題の明確化を行う。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2時間) 事後課題：グループでディスカッションし、課題を作成する。(2時間)
7	看護過程の演習③	【演習】 グループワークにて、事例の情報分類・アセスメント・看護問題の明確化を行う。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2時間) 事後課題：グループでディスカッションし、課題を作成する。(2時間)
8	看護過程の演習④	【演習】 グループで作成した情報整理・アセスメント内容について発表しクラス全体で学びを共有する。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、追記して課題を仕上げる。(2時間)
9	看護過程の演習⑤	【演習】 グループにて、看護問題・関連図の検討を行う。	事前課題：関連図の各自記載してくること。(2時間) 事後課題：グループでディスカッションしグループ課題を作成する。(2時間)
10	看護過程の演習⑥	【演習】 グループにて、看護問題・関連図の検討を行う。	事前課題：全体関連図を各自記載する。(2時間) 事後課題：グループでディスカッションしグループ課題を作成する。(2時間)
11	看護過程の演習⑦	【演習】 グループで作成した関連図について発表しクラス全体で学びを共有する。	事前課題：全体関連図を各自記載する。(2時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、追記して課題を仕上げる。(2時間)
12	看護過程の演習⑧	【演習】 グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。個人面談を行う	事前課題：看護問題の命名、看護目標、看護計画を各自記載する。事例に即した援助の看護計画を立案する。(2時間) 事後課題：グループで看護計画の実践を検討しながら発表資料を作成する。(2時間)
13	看護過程の演習⑨	【演習】 グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。	事前課題：看護問題の命名、看護目標、看護計画を各自記載する。事例に即した援助の看護計画を立案する。(2時間) 事後課題：グループで看護計画の実践を検討しながら発表資料を作成する。(2時間)
14	看護過程の演習⑩	【演習】 グループワークにて、事例の看護	事前課題：看護問題の命名、看護目標、看護計画を各自記載する。事例に即した援助の看護計画を立案

			問題、看護目標、看護計画を検討する。	する。(2時間) 事後課題：グループで看護計画の実践を検討しながら発表資料を作成する。(2時間)
	15	看護過程の演習① まとめ	【演習】グループで作成した看護問題、看護目標、看護計画の内容と実践を発表し、グループ案を振り返り、評価・修正を行う。	事前課題：グループで看護目標、看護計画の発表資料を作成する。(2時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、評価・修正を行い課題を仕上げる。(2時間)
関連科目	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、フィジカルアセスメントおよび基礎看護学実習Ⅱに深く関連する。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践	秋葉公子 江崎フサ子 (他)	ヌーヴェルヒロカワ
	2	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ヘンダーソン看護論と看護実践への応用	金子道子	照林社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験 40%、課題 (グループ課題・個人課題) 40%、授業参加態度 10% ピア評価 10% 原則、全ての授業および演習に出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。			
学生への メッセージ	看護の提供には、その看護師の考え方や思い、倫理観が反映されます。看護職者としてどのようにあるべきか、また、どのようにありたいか、自己の考えを深めてください。 本科目は基礎看護学実習Ⅱに深く関連する科目です。本科目の目標を達成できなければ、基礎看護学実習Ⅱに臨むことができません。本科目の目標を達成していけるように自己学習をしっかりと行っていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)、研究室2 (神谷)、研究室3(山居)、共同研究室1 (北村、他)			
備考	講義時の準備物、個人課題およびグループワーク課題については講義内で別途指示します。指定された期日までに、必ず準備を整え、課題を提出してください。 提出した課題については、必要に応じて授業内でフィードバックします。			

科目名	看護管理学	科目名 (英文)	Nursing Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	神谷 美紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6△		
科目ナンバリング	NDN3031a0		

授業概要・目的	<p>看護管理の視点から、組織・人材、社会・行政、情報、経済・経営、安全などに関する基本的な知識を学び、医療・看護の質の向上に向けた効果的で効率的な看護管理のあり方を検討する。具体的には、医療チームの一員として多職種との連携と看護職の専門性、看護職としてのキャリア形成、自身の健康管理などを学習する。さらに、看護管理の目的は、看護活動によって人々の健康と幸福に貢献することであり、看護管理からみた看護職の倫理、医療安全を患者・家族と協働し組織として取り組む方法などについて学ぶ。</p> <p>授業では、組織における看護管理の実務経験がある看護管理者が、自らの看護管理の経験を活かしてヘルスケア組織における効果的・効率的な運営などの講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>1回/ 安田 照美 (第1回)</p> <p>5回/ 撫養 真紀子 (第2回・第3回・第4回・第5回・第6回)</p> <p>2回/ 神谷 美紀子 (第7回・第8回)</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に関する制度・政策から病院などの組織のあり方と病棟管理までをシステムとして理解することができる。 2. 看護管理に関する諸理論と看護実践のあり方を説明できる。 3. 医療・看護の質向上において、看護管理のあり方や重要性が理解できる。 4. 看護専門職としてキャリア形成に向けて必要なことが考察できる。
授業方法と留意点	<p>授業形式は講義中心であるが、時間内に質疑応答を設ける。遠隔となった場合は、事前に配布した資料を手元におき、ノートしながら画面共有で、パワーポイントで作成した説明資料を用いて、説明を行う。双方向の確保として、遠隔の機能で反応や発言を求めたり、少人数でのグループ討議も取り入れ学びを深める。進め方は教科書の利用とプリントを配布する。※事前に必ず指定の教科書を準備すること。</p> <p>事前・事後学習課題の欄に、各回の内容に該当するテキストページを書いているので、テキストを読み予習をして授業に参加する。テキストページ</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>看護管理はどのような場においても、対象を中心に看護サービスを提供するために必要な学修である。</p> <p>より良い看護の提供を創造できる看護職になるために自律的な成長への課題を見出すことができる。</p> <p>看護師国家試験受験のための必須科目でもある。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	病院における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護サービスと経済のしくみ ・看護サービスマネジメント ・人的資源の確保と開発 ・労務管理 	<p>事前学習: 本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。(1時間)</p> <p>事後学習: 本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。(1時間)</p>
2	看護管理の基本となるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理とは、ディスカッション ・看護管理の基盤となる知識 ・看護管理のプロセス 	<p>事前課題: 教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書 p28-62)。統合実習で受けた病院看護管理者の講義や実習の学びを振り返っておく(1時間)。</p> <p>事後課題: 講義内容に該当する教科書の部分を読み復習する。授業終了後に示す課題についてレポートを作成する(1時間)。</p>
3	看護活動をとりまく法律・制度	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理に関する法律 ・保健医療福祉政策と最近の動向 ・看護と専門機関・職能団体 	<p>事前学習: 教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書 p198-220)。特に、保健師助産師看護師法を調べておく。(1時間)</p> <p>事後学習: 本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み、看護関係法規の学習内容と併せて学びを整理する(1時間)。</p>
4	看護職とキャリア	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人になる ・看護の教育体系 ・看護職としてのキャリア 	<p>事前学習: 教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書 p168-186)。冒頭でキャリアについて小グループでの演習を行うので、自らのキャリアについて考えてくる(1時間)。</p> <p>事後学習: 自己の描くキャリアデザインの実現のためにはどのような課題があるのか考え整理する。授業終了後に示す課題についてレポートを作成する(1時間)。</p>
5	看護の質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理と倫理 ・医療安全 ・医療・看護の質と評価 	<p>事前課題: 教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書 p110-136)。医療安全については授業の冒頭で質問をする。(1時間)</p> <p>事後課題: 臨地実習で実践していた医療安全を想起し学びを整理する(1時間)。</p>
6	看護管理に求められる能力	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフマネジメント ・人とかかわるためのスキル ・集団に働きかけるスキル ・グループワーク、ディスカッション 	<p>事前学習: 教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書 p138-165)。人・集団に関わるために必要なスキルを考えてくる(1時間)。</p> <p>事後学習: 本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み自己の行動傾向として必要なスキルについて考え整理する。授業終了後に示す課題についてレポートを作成する(1時間)。</p>
7	病院のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・病院・医療機関の組織と機能 ・医療事故と安全管理 ・災害対応 ・病院機能評価 	<p>事前学習: 本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。(1時間)</p> <p>事後学習: 本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する(1時間)。</p>
8	病院、施設における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理のスキル 	<p>事前学習: 臨地実習で学修した管理について振り返</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・組織の理解 ・看護と経営 ・看護活動を取りまく法律・制度 	っておく。(1時間) 事後学習:本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み実習での学びの根拠を整理する(1時間)。																
	9																			
	10																			
	11																			
	12																			
	13																			
	14																			
	15																			
関連科目	保健医療福祉行政論、看護関係法規、看護学概論、各領域の看護学概論、看護倫理、実習科目全般、キャリアデザイン																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ナースが・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理 第4版</td> <td>吉田千文他</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ナースが・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理 第4版	吉田千文他	メディカ出版	2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ナースが・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理 第4版	吉田千文他	メディカ出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜提示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜提示する			2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	適宜提示する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	最終の課題レポートおよび授業での小課題の内容を総合して評価する。 最終の課題レポート 70%、小課題 30%。 感染拡大等の状況次第で、評価方法及び割合を変更することがあります。																			
学生への メッセージ	看護管理は管理者だけが行うものではありません。チームの一員として一人一人が自分の果たす役割を認識したうえで、メンバーシップ・リーダーシップを発揮できるように取り組むこと。主体的に参加し、自己の考えを述べ、ディスカッションにより多様な考えを受止め、視野を広げられることを期待します。 講義では教科書を使用します。必ず準備してください。																			
担当者の 研究室等																				
備考	質問等があれば、メールアドレス (makiko_muya@enas.u-hyogo.ac.jp) に連絡をしてください。 オフィスアワーは授業実施後です。 授業内で課された課題については、次の講義内においてフィードバックを行います。																			

科目名	成人看護学援助論 I	科目名 (英文)	Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	竹下 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2036a0		

授業概要・目的	健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象とその家族の特徴を理解し、生命の維持と心身の早期回復、早期社会復帰に向けた看護を实践する能力を身につけることができる。また、急性期にある対象の事例を取り上げ、看護過程を展開する能力を身につけることができる。 集中治療室、外科系病棟で看護師として勤務した経験を活かした実践的教育を行う。
---------	--

到達目標	【一般目標】 1. 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象や、手術を受ける対象とその家族の身体的、心理・社会的特徴および倫理的課題について理解できる。 2. 麻酔・手術における侵襲と生体反応を踏まえ、術後合併症のアセスメントと予防のための看護援助について理解できる。 3. 手術によって、形態変化や機能障害をもたらされた対象とその家族の適応および新たなセルフケア能力獲得を促すための看護援助について理解できる。 4. 手術を受ける対象とその家族が、周手術期および退院後も、QOLのより高い
------	--

授業方法及び留意点	・下記の授業計画に沿って、講義およびグループワーク、ディスカッション等を組み合わせた授業を行います。課題については、授業内または授業後にフィードバックを行う時間を設けます。質問は、授業時間内および、授業時間外でも適宜受け付けます。スケジュールを別途説明しますので、間違いのないように受講してください。 ・授業では、「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)」、「パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護1 急性期・周手術期 第2版 (照林社)」を使用しますので持参してください。
-----------	--

科目学習の効果 (資格)	・臨床実習 (成人看護学実習 I) において、看護援助を实践するための基盤となる。 ・看護師国家試験の出題範囲である。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	周手術期にある対象の特徴と理解①麻酔	麻酔法、手術室環境、麻酔の基礎知識と麻酔時の看護	【事前】「臨床外科看護総論」の第3章、第8章を読んでおくこと (30分) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (30分)。
2	周手術期にある対象の特徴と理解②—手術侵襲と生体反応	麻酔・手術侵襲に伴う生体反応、炎症、創傷治癒	【事前】「臨床外科看護総論」の序章、第1章、第4章を読んでおくこと (30分) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (30分)。
3	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助①	呼吸器合併症、循環器合併症、イレウス予防のための看護	【事前】「臨床外科看護総論」の第9章を読んでおくこと (30分) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく。また、術後の体液バランスと輸液管理についてまとめておく (30分)。
4	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助②	術後感染、縫合不全 (創傷管理・ドレーン管理含む)、術後せん妄予防のための看護	【事前】「臨床外科看護総論」の第1章C～E、第9章を読んでおくこと (30分) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (30分)。
5	周手術期にある対象の特徴と理解③—術前患者	情報収集とアセスメント、術前オリエンテーション、術前日～術当日の看護	【事前】「臨床外科看護総論」の第7章を読んでおくこと (30分) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (30分)。
6	周手術期にある対象の特徴と理解④—術後患者	麻酔・手術侵襲からの回復を促進するための看護 患者アセスメント、早期離床、疼痛管理、自己管理に向けた援助	【事前】「臨床外科看護総論」の第9章を読んでおくこと (30分) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (30分)。
7	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助①+看護過程の展開①	手術を受ける対象に対する看護と看護過程の展開 (胃切除術)	【事前】「パーフェクト臨床実習ガイド」のVII (胃切除術) を参考にしながら、胃がんの原因と誘因、症状と発生機序、分類と進行度、術式と各術式の特徴 (切除部位、再建方法) などをまとめておくこと (30分) 【事後】看護記録の提出 (30分)
8	手術を受ける対象に対する看護過程の展開②	事例をもとに看護過程を展開する一カルテからの情報収集	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる (30分)。 【事後】看護記録の提出 (30分)
9	手術を受ける対象に対する看護過程の展開③	事例をもとに看護過程を展開する一カルテからの情報収集+アセスメント	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する (30分)。 【事後】看護記録の提出 (30分)
10	手術を受ける対象に対する看護過程の展開④	事例をもとに看護過程を展開する一関連図	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる (30分)。 【事後】看護記録の提出 (30分)
11	手術を受ける対象に対する看護過程の展開⑤	事例をもとに看護過程を展開する一関連図・看護問題リスト	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる (30分)。 【事後】看護記録の提出 (30分)
12	周手術期におけるチーム医療	周手術期におけるチーム医療と看護師の役割	【事前】授業時間内に指定した内容を学習しておく (30分) 【事後】資料の内容を復習しておく (30分)。
13	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助②	開胸術・開心術を受ける対象に対する看護	【事前】「パーフェクト臨床実習ガイド」VII (肺切除術・冠動脈バイパス術) を参考にしながら、開胸術・開心術を受ける疾患、症状と発生機序、術式の特徴などをまとめておくこと (30分) 【事後】資料の内容を復習しておく (30分)。
14	形態変化や機能障害への適	開頭術を受ける対象に対する看護	【事前】「パーフェクト臨床実習ガイド」VII (脳動

		応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助③		脈クリッピング術)を参考にしながら、開頭術を受けるクモ膜下出血の原因と誘因、症状と発生機序、術式の特徴などをまとめておくこと(30分) 【事後】資料の内容を復習をしておく(30分)。																
	15	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助④	人工関節置換術を受ける対象に対する看護	【事前】「パーフェクト臨床実習ガイド」Ⅶ(両側人工膝関節置換術)を参考にして関節リウマチの原因と誘因、症状と発生機序、分類、術式特徴などをまとめておくこと(30分) 【事後】資料の内容を復習をしておく(30分)。																
関連科目	成人看護学概論 人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ 病理学総論 疾病治療論 感染と防御																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	定期試験45%、課題の達成状況55%で評価する。原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席届を提出の上、配布資料や課題の指示を受けること(履修要項参照)。																			
学生へのメッセージ	急性期にある対象に対しては、迅速な対応を必要とされることが多く、看護の展開が速いのが特徴です。習得した知識を個別の対象に適用できるためには、十分な事前・事後学習が不可欠です。																			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室30(竹下)																			
備考																				

科目名	成人看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	森谷 利香
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2037a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 慢性的な健康問題のある成人期の人々を理解し、対象者が主体的に療養生活に取り組むために必要な看護援助を学習する。また、代表的な慢性病をモデルにして、疾病や症状をコントロールするために必要とされる対象者のセルフケア、ストレスコーピング、生活の再構築や適応を促進するための看護の援助方法について学習する。担当教員の臨床経験に基づいて、慢性的な健康問題のある人々への看護の考え方や看護援助方法を具体的に教授する。</p> <p>【目的】 慢性的な健康問題を有する成人期の対象と家族の特徴を踏まえ、そのQOLの維持・向上、および主体的な療養生活に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p>
到達目標	<p>1. セルフケア、生活の再構築・適応、ストレスコーピングの促進が必要な対象とその家族の特徴と課題を、倫理的側面を含めて説明できる。</p> <p>2. 対象と家族の生活をセルフケアの視点でアセスメントし、増悪因子を踏まえた、主体的な生活習慣の修正に向けた援助が理解できる。また、これに関連する援助技術を習得できる。</p> <p>3. 対象とその家族にとっての病や障がいの受け止めや治療への意思決定、および、生活への影響を説明できる。また、これらを踏まえた上で、対象と家族の、その人らしい生活に向けた看護援助を理解できる。さらに、これに関連</p>
授業方法と留意点	本授業は講義を中心とし、ディスカッションやグループワークを含む。病態、検査、治療に関しては、人体の構造と機能とともに理解が必要であるため、既習の内容を復習しながら進める。看護については、まず、病態の理解に関連させて理解を深められるようにする。そして、疾病による心理・社会的影響を理解できるよう、慢性病者の療養生活のイメージ化を促す。これらの上で、看護援助を具体的に説明する。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業の中でフィードバックする。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィードバック
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験に必須の科目である

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	セルフケアを促進するための看護援助 (1)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護 1)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>
2	セルフケアを促進するための看護援助 (2)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護 2)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>	
3	セルフケアを促進するための看護援助 (3)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護 1)	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>	
4	セルフケアを促進するための看護援助 (4)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護 2)	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>	
5	セルフケアを促進するための看護援助 (5)	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護 1)糖尿病の発症に伴う身体的・心理社会的反応とセルフケアの特徴	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-4-1を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。 レポートを課す (1時間)。</p>	
6	生活の再構築や適応を促進するための看護援助 (1)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護 1) 難病患者の身体的・心理社会的反応への看護	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-7-3を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す (1時間)。</p>	
7	生活の再構築や適応を促進するための看護援助 (2)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護 2)生活の再構築の過程を支える看護	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-7-3を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す (1時間)。</p>	
8	生活の再構築や適応を促進するための看護援助 (3)	慢性閉塞性肺疾患により新たな療養法を必要とする患者の理解と看護	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-2を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>	
9	ストレスコーピングを促進するための看護援助 (1)	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護 1)	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>	
10	ストレスコーピングを促進するための看護援助 (2)	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護 2)	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>	
11	ストレスコーピングを促進するための看護援助 (3)	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護 1)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-3を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>	
12	ストレスコーピングを促進	肺がんによる症状マネジメントを必要	【事前学習】	

		するための看護援助（４）	とする患者の理解と看護２）	病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-1-3を読んでもおくこと（１時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（１時間）。																
	13	ストレスコーピングを促進するための看護援助（５）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護１）	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-6-2を読んでもおくこと（１時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（１時間）。																
	14	ストレスコーピングを促進するための看護援助（６）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護２）	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-6-2を読んでもおくこと（１時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（１時間）。																
	15	まとめの演習	まとめの演習	【事前学習】 提示した課題に取り組む（30分）																
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅲ、成人病態看護論 人体の構造と機能、疾病・治療論や薬物治療学など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版</td> <td>鈴木久美 他</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版	鈴木久美 他	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版	鈴木久美 他	南江堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学 慢性期看護論</td> <td>鈴木志津枝 他</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経過別成人看護学3 慢性期看護</td> <td>黒江ゆり子 他</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ	2	経過別成人看護学3 慢性期看護	黒江ゆり子 他	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ																	
2	経過別成人看護学3 慢性期看護	黒江ゆり子 他	メヂカルフレンド社																	
3																				
評価方法（基準）	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。また、筆記試験（90%）およびレポート（10%）の内容を総合して評価する。																			
学生へのメッセージ	成人看護学実習Ⅱにつながる基本的な内容ですので、しっかり学習しましょう。成人看護学援助論Ⅲと連動していますので、具体的な進め方は別途説明します。																			
担当者の研究室等	研究室 29 森谷																			
備考																				

科目名	成人看護学援助論Ⅲ	科目名 (英文)	Adult Nursing III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	森谷 利香
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2038a0		

授業概要・目的	<p>〔授業概要〕 成人期にある看護の対象となる人々の健康段階における代表的な健康問題を取り上げて、対象者の身体・心理・社会的特徴を学習する。これらを踏まえて、それぞれの健康問題のある対象に対する看護の方向性および具体的な看護援助方法について学習する。 担当教員の臨床経験に基づいて、健康問題のある人々への看護の考え方や看護援助方法を具体的に教授する。</p> <p>〔目的〕 成人期にある対象およびその家族のニーズを、健康レベルや生活背景を踏まえてアセスメントしたうえで、根拠に基づいた看護を計画、展開できる基礎的能力を養う。また、アセスメントをもとにした模擬患者への看護援助技術の実施計画の立案や計画の評価を通して、より適切な看護援助技術の実践に向けた自己の課題に気付くことができる。演習の振り返りを通して、看護職者としての倫理観や対象に適した看護実践を展開する基礎的能力を養う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術侵襲により身体的・精神的状態に急激な変化をきたしやすい急性期にある対象の観察とモニタリングの方法を計画しアセスメントすることができる。 2. 急性期にある対象の心身の苦痛を理解し、緩和するための看護援助方法について計画および評価ができる。 3. 急性期にある対象の合併症予防と心身の早期回復を促進するための看護援助方法について計画および評価ができる。 4. 慢性的な健康問題のある対象の看護に必要な看護技術を理解したうえで、患者のセルフケアを促進する援助を説明できる。 5. 慢性的な健康問題のある対象
授業方法と留意点	本科目は看護過程や看護技術の学習など演習を中心に行う。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、シミュレーションなどを含む。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業中、もしくは授業終了後にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	成人看護学実習Ⅰ、Ⅱで実際に活用する援助方法である。また、看護師国家試験受験において必須科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	手術を受ける対象への看護過程の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の展開は、「成人看護学援助論Ⅰ」と連動させて行う。 ・看護問題の明確化、優先順位決定、計画立案を行う。 	<p>事前課題：看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(2時間)</p> <p>事後課題：看護記録の提出 (1時間)</p>
	2	手術を受ける対象への看護過程の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・自身が展開した看護過程を他者に説明する。 ・看護過程全体のまとめを行う。 	<p>事前課題：看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(2時間)</p> <p>事後課題：看護記録の提出 (1時間)</p>
	3	手術を受ける対象への看護技術①	・救急蘇生① (講義)	<p>事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間)</p> <p>事後課題：課題の提出 (1時間)</p>
	4	手術を受ける対象への看護技術②	・救急蘇生② (技術演習)	<p>事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間)</p> <p>事後課題：課題の提出 (1時間)</p>
	5	手術を受ける対象への看護技術③	・術直後の全身状態の観察とモニタリング (技術演習)	<p>事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間)</p> <p>事後課題：課題の提出 (1時間)</p>
	6	手術を受ける対象への看護技術④	・術直後の全身状態の観察とモニタリング (技術演習)	<p>事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間)</p> <p>事後課題：課題の提出 (1時間)</p>
	7	手術を受ける対象への看護技術⑤	・早期離床と日常生活援助 (技術演習)	<p>事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間)</p> <p>事後課題：課題の提出 (1時間)</p>
	8	手術を受ける対象への看護技術⑥	・早期離床と日常生活援助 (技術演習)	<p>事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間)</p> <p>事後課題：課題の提出 (1時間)</p>
	9	慢性的な健康問題のある対象への看護過程1)	情報の整理・解釈・分析 1) (グループワークを含む)	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(2時間)
	10	慢性的な健康問題のある対象への看護過程2)	情報の整理・解釈・分析 2) (グループワークを含む)	事後課題：完成させた課題を提出する。(情報の整理・解釈・分析) 提出 (1時間)
	11	慢性的な健康問題のある対象への看護過程3)	関連図、統合・看護問題の明確化 (グループワークを含む)	<p>事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。(2時間)</p> <p>事後課題：完成させた課題 (関連図、統合・看護問題の明確化) を提出する。(1時間)</p>
	12	慢性的な健康問題のある対象への看護過程4)	看護計画の立案 (グループワークを含む)	<p>事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。(1時間)</p> <p>事後課題：完成させた課題 (看護計画) を提出する。(1時間)</p>
	13	慢性的な健康問題のある対象への看護過程5)	看護過程成果の共有 (グループワークを含む)	事後課題：完成させた全ての課題を提出する。(1時間)
	14	慢性的な健康問題のある対象への看護技術1)	セルフマネジメント (フットケア) を必要とする患者への援助 (技術演習)	<p>事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する (1時間)</p> <p>事後課題：演習に関する資料および振り返りレポートを提出する。(1時間)</p>
	15	慢性的な健康問題のある対象への看護技術2)	継続的な療養法の習得に向けた教育的支援 (技術演習)	<p>事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する (1時間)</p> <p>事後課題：実施を振り返りレポートを提出する。(1時間)</p>
関連科目	成人看護学援助論Ⅰ、Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	本科目では原則として 2/3 以上の出席を成績評価の対象とする。急性 50%、慢性 50%を合わせて 100%について、授業の中で課したレポート、事前学習、その他の課題の取り組み状況から評価する。			
学生への メッセージ	本授業では、成人看護学実習に向けた看護過程や看護技術についての基本的な内容を学習します。成人看護学援助論 I、II と連動して進めます。具体的には別途説明します。			
担当者の 研究室等	研究室 26 稲垣美・ 研究室 29 森谷			
備考				

科目名	成人看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	稲垣 美紀
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3039a0		

授業概要・目的	周手術期にある対象を全人的にとらえ、理論と実践を結びつけた看護活動を展開する能力を養う。急性期看護の臨床経験のある教員が、臨地実習指導者と協働して指導を行う。
到達目標	1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別的特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 術前・術中・術後の基本的な看護技術を原理・原則に基づき、安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることがで
授業方法と留意点	本実習は、2年後期の成人看護学援助論Ⅰ（急性）、3年前期の成人看護学援助論Ⅱ（急性）で学修を活かして、臨地で受け持ち患者に対して看護実践を行います。既習科目の資料や教科書を復習し、大切に保管してください。実習計画については、オリエンテーションで具体的に説明します。オリエンテーションをきいて、しっかりと事前学習を行って、実習に参加してください。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験に必須の科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実習病棟および受け持ち患者を想定した知識の理解	事前 オリエンテーション 学内オリエンテーション	【事前】一般的な周術期患者の看護に必要な知識・実習病棟や受け持ち患者に必要な知識の整理 【事後】実習後の追加・修正
	2	実習病棟および受け持ち患者を想定した看護展開の理解	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した情報収集項目の整理、病態関連図の作成【事後】実習後の追加・修正
	3	実習病棟および受け持ち患者を想定した看護実践の理解	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した看護技術ワークシートの記載 【事後】実習後の追加・修正
	4	受け持ち患者に沿った看護問題の明確化、看護目標の設定、看護計画・実践・評価	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した看護計画の立案、評価 【事後】実習後の追加・修正
	5	実習の成果の発表 自己課題の明確化	臨地実習成果発表会 学内成果発表会	【事前】自己課題シート、成果発表会資料の作成 【事後】実習後の追加・修正
	6	詳細な予定や事前・事後課題の説明は、各オリエンテーションで、担当教員より個別に説明します。		
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ（急性）、成人看護学援助論Ⅱ（急性）
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	ルーブリック評価表を用いて、評価を行います。評価表は、オリエンテーションで説明します。
-----------	---

学生へのメッセージ	失敗を恐れず、しっかりと報告・連絡・相談を行って、積極的に実習できることを期待しています。不明なことや不安なことがあれば、遠慮なく教員にたずねてください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	森谷 利香
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3040a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 臨地実習としての看護実践を通して以下について学習し、慢性疾患を持つ対象への看護に関する基礎的能力を身に着ける。 本科目は担当教員の実務経験に基づき実践的教育を行う。</p> <p>【目的】 慢性疾患の発病初期、急性増悪期、終末期といった様々な経過にある、主に成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向けて対象が治療に伴う療養生活に主体的に取り組むことができるよう援助する看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p>																																																																		
到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性疾患を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。 2) 対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。 3) 対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。 4) 対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。 5) 対象とその家族が直面 																																																																		
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 1) 実習グループは原則として1グループ5名編成とする。 2) 実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。 3) 実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。 4) 原則として臨地に出向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。 5) カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。 6) 実習中に指定された記録物を作成する。すべての記録物は、期日を 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験に関係する科目です。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>別途説明します。</td><td>別途説明します。</td><td>別途説明します。</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	別途説明します。	別途説明します。	別途説明します。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	別途説明します。	別途説明します。	別途説明します。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ(慢性)、成人看護学援助論Ⅱ(慢性)、疾病・治療Ⅰ～Ⅲ等																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	この実習は慢性的な健康問題をもつ対象への看護の実際を学ぶ機会となります。まずは関連する科目の学習が重要です。それらを基盤として、実習で応用することで理解を深めるとともに技術を習得しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	研究室29 森谷																																																																		
備考																																																																			

科目名	看護倫理	科目名 (英文)	Nursing Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	NDN3064a0		

授業概要・目的	あらゆる対象や看護場面で遭遇する倫理的諸問題に対する感受性を高め、倫理原則や理論を用いて、倫理問題の解決に向けた姿勢を育む。担当責任者である鎌田は、臨床で看護師としての6年の実践経験をもとに、具体的な事例に対する倫理原則や理論を用いたアプローチ方法および、倫理的な姿勢について教授する。
到達目標	1. 倫理理論、倫理原則、諸概念について理解する。 2. 倫理問題に関わる人々の立場や背景を理解し、考慮できる。 3. あらゆる側面から倫理的に判断する素地を身に付ける
授業方法と留意点	臨地実習で各学生が体験した倫理場面を取り上げ、課題を見出す。臨地実習で経験した1事例を選択し、倫理課題の整理とアプローチ方法に基づきグループでディスカッションを行い、倫理的な姿勢や態度を養う。各グループで検討した内容についてプレゼンテーションを行い、学びを共有する。本授業は原則対面授業で行います。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護倫理の基礎	倫理とは 倫理原則 看護における倫理 意思決定のプロセス	事前：基礎看護学概論で学習した看護倫理にかかる概念について、復習しておく。(1時間) 事後：実習での倫理課題の場面を再構成する(1時間)
2	倫理課題へのアプローチ法	倫理原則に基づくアプローチ法について 倫理原則に基づく倫理カンファレンスについて	事前：個々の事例の整理(1時間) 事後：事例について、倫理的課題を明確にする(1時間)
3	倫理課題へのアプローチの実際	各事例について、倫理原則に基づくアプローチを検討する	事前：個々の事例の整理(1時間) 事後：事例について、倫理的課題を明確にする(1時間)
4	倫理課題へのアプローチの実際	各事例について、倫理原則に基づくアプローチを検討する	事前：事例の倫理課題についてグループワーク(1時間) 事後：グループワークのプロダクト作成(1時間)
5	事例検討	1. 倫理問題へのアプローチおよび看護倫理について、グループワーク 2. プレゼンテーション	事前：事例の倫理課題についてグループワーク(1時間) 事後：グループワークのまとめ資料作成(1時間)
6	事例検討	1. 倫理問題へのアプローチおよび看護倫理について、グループワーク 2. プレゼンテーション	事前：事例の倫理課題についてグループワーク(1時間) 事後：グループワークのまとめ資料作成(1時間)
7	子ども虐待と倫理	多視点から子ども虐待の現状を理解し、看護を考える	事前：子ども虐待の現状について(1時間) 事後：グループワークのまとめ資料作成(1時間)
8	子ども虐待に対する看護者の役割 臨時試験	子ども虐待に対する看護者としての在り方、姿勢を考える	事前：子ども虐待に対する看護者の役割について(1時間) 事後：全授業の振り返り(1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 生命倫理、看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、母性看護学概論、助産学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、在宅看護学概論、全看護学実習

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 課題 20%、臨時試験 80%

学生へのメッセージ 臨地実習では、看護倫理の授業を意識し、倫理的な感受性を高めて下さい。また、皆さんが体験した倫理場面に応じて検討、プレゼンテーションがなされるため、シラバス内容および順番が変更する可能性があります。

担当者の研究室等 7号館3階 鎌田研究室17

備考 ・実習で経験した事例をもとに倫理的な視点から振り返り、グループディスカッションを通じて事例を検討を行う。

科目名	看護教育学	科目名 (英文)	Nursing Education
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3065a0		

授業概要・目的
看護学教育における教育制度とその歴史の変遷について知り、看護基礎教育の教育目標と教育内容、評価等に関する基礎的知識を得る。また、看護師育成のための基礎理論、看護ケアの質を高めるために必要な臨床現場における指導方法、研修の具体的方法など、継続教育の重要性をふまえた知識や理論・方法論、キャリア開発支援について学修する。科目責任者は、総合病院の手術室および救急・ICU病棟、外来等、看護師として約10年間勤務した経験を活かし、臨床実践も踏まえた看護教育に関する教育を行う。

- 到達目標**
1. 看護教育学と関連する概念について述べることができる。
 2. 看護教育制度の歴史の変遷について説明することができる。
 3. 看護基礎教育の目標と教育内容、評価等に関する基礎的知識について説明できる。
 4. 看護師育成のための基礎理論について説明することができる。
 5. 臨床現場における指導、研修の背景となる理論を学び、説明することができる。
 6. キャリア発達、キャリア開発支援について説明することができる。
 7. 今後の自己の学習姿勢について考え、述べるすることができる。

授業方法と留意点
配布資料を中心として授業を進める。最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また、具体的な教育場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。また、教育者と学習者への関わり方、倫理的配慮についてグループワークまたはディスカッションを通して学びを共有する。

科目学習の効果 (資格)
これまで自身が受けてきた看護基礎教育全般と今後の継続教育に関わる科目です。現在、自身が学んでいる看護学教育の歴史、学習に関する理論・方法、評価などの基礎的知識と、今後行われる現任教育に関して学びます。教育側が何を考え、何を大切にしているのかを客観的に知り、学びに変えてゆくことは大きな意味をもちます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護学教育における教育制度とその歴史の変遷	<ul style="list-style-type: none"> ・看護教育課程について ・看護教育制度と歴史の変遷 ・看護教育制度の現状 	事前課題：授業に関連するトピックについて書籍等を調べ予習をすること。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
2	看護基礎教育の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・看護基礎教育の現状 ・社会のニーズと看護基礎教育の課題 	事前課題：授業に関連するトピックについて書籍等を調べ予習をすること。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
3	看護師育成の基盤となる理論①	<ul style="list-style-type: none"> ・現任教育とは ・看護師育成のための教育の特徴 ・成人学習 	事前課題：授業に関連するトピックについて書籍等を調べ予習をすること。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
4	看護師育成の基盤となる理論②	<ul style="list-style-type: none"> ・動機付け ・学習目標と教育評価 	事前課題：授業に関連するトピックについて書籍等を調べ予習をすること。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
5	臨床現場における指導方法①	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床における指導の特徴 ・経験学習 ・コーチングの技法 	事前課題：授業に関連するトピックについて書籍等を調べ予習をすること。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
6	臨床現場における指導方法②	<ul style="list-style-type: none"> ・講義法の長所と課題 ・協同学習 	事前課題：授業に関連するトピックについて書籍等を調べ予習をすること。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
7	キャリア開発と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアとは ・キャリア開発と組織的支援 	事前課題：授業に関連するトピックについて書籍等を調べ予習をすること。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
8	まとめ	これまでの講義をふまえ、今後の看護教育の在り方や自己の学習姿勢についてまとめる。	事前課題：授業に関連するトピックについて書籍等を調べ予習をすること。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 看護学概論、看護関係法規その他これまでに学んだ全ての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護のための教育学	中井 俊樹 / 小林 忠資	医学書院
2	看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う	クレック美鈴 / 池西悦子	南江堂	
3				

評価方法 (基準)	課題レポート (60%)、プレゼンテーション、授業態度等 (40%) 原則、全講義を出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。
学生への メッセージ	これまで自身が受けてきた教育とこれから受ける教育の理論的背景や教育者の意図を俯瞰的にとらえることは、自身に向き合うだけでなく、人として成長することにもつながります。この科目で得た基礎的知識は、これからの継続教育のなかで看護専門職としてのよりよい学びや成長の一助になると考えます。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)
備考	授業資料は授業内で配布し、参考となる資料・書籍等を必要に応じて提示する。 提出した課題またはレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。

科目名	国際看護学	科目名 (英文)	International Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2⑩, DP6①		
科目ナンバリング	NDN3066a0		

授業概要・目的	世界の人々の健康問題について理解を深め、国際看護活動の現状と課題及び意義について学び、看護を行う上で身につけておきたい国際的な視野を養う。海外での看護活動をめざす学生だけでなく、日本の看護現場でも必要な異文化の理解とグローバル化、国際化の中で求められる国際看護や国際協力のあり方に関する自分の意見を持てるようにする。
到達目標	(1) グローバル・ヘルスの変遷とグローバル看護の概念および現状と課題について説明できる。 (2) 日本社会が多文化共生を目指すうえで、異文化・多文化における看護の実際と課題について説明できる。 (3) グローバル看護における社会制度と看護実践の課題、情報の利用について説明できる。 (4) 世界の人々の健康問題と国際協力における看護の役割について説明できる。
授業方法と留意点	この授業は対面で、教科書および配付資料を用いた講義やディスカッションの形式を用いる。 教科書および配付資料は必ず毎回準備すること。 昨今の社会の時事やニュース、例なども紹介しながら、授業を進行するため、それらに日々関心をもってふれるようにすること。
科目学習の効果 (資格)	日本社会が多文化共生を目指すうえで、医療・保健・看護の分野においても異文化・多文化の理解は必要不可欠で、看護専門職としての支援について幅広く考えることができる。また、将来の活躍の場の可能性を広く捉えることができる。将来的に国家試験での出題も予測されるため、試験対策としての知識習得ともなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	国際看護学のオリエンテーション、グローバル・ヘルスとグローバル看護	国際看護学オリエンテーション(カリキュラム上の位置づけについて)、グローバル・ヘルスの変遷とグローバル看護の概念および現状と課題について学ぶ。	事前: テキストを読んでくる (テキスト P2~23) と同時に、関係する資料を調べて読み予習する (1 時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (1 時間)。
2	異文化・多文化と看護 1	日本社会が多文化共生を目指す上での異文化・多文化の日本の現状と、日本の看護の実際について学ぶ。	事前: テキスト P26~52 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (1 時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (1 時間)。
3	異文化・多文化と看護 2	日本社会が多文化共生を目指す上での異文化・多文化の日本の現状と、日本の看護の実際と課題について事例を通じて学ぶ。	事前: テキスト P33-65 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (1 時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (1 時間)。
4	グローバル看護における社会制度と看護実践、情報の利用	グローバル看護における社会制度と看護実践の課題、情報の利用について、事例を通じて学ぶ。	事前: テキスト P65~93 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (1 時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める (1 時間)。
5	国際協力と看護 — 青年海外協力隊の活動 —	国際協力の仕組みと国際看護活動の現状と課題、看護の役割について学ぶ。	事前: 教科書 P128~141 を読み、分からない言葉を調べる (1 時間)。 事後: 授業内容を振り返り整理する (1 時間)。
6	異文化理解とコミュニケーション	異文化の疑似体験を通して、言葉や価値観が異なる人同士が分かり合うために必要な態度やスキルについて学ぶ。	事前: 事前配布資料を読む (1 時間)。 事後: 授業内容を整理し、ミニレポートをまとめる (1 時間)。
7	開発途上国における子どもの健康	開発途上国の子どもの健康問題について学ぶ。	事前: 教科書 P115-117 を読む。開発途上国における子どもの健康問題について調べ、ミニレポートにまとめる (1 時間)。 事後: 授業内容を振り返り、整理する (1 時間)。
8	開発途上国における女性の健康	開発途上国の女性の健康問題について学ぶ。	事前: 教科書 P62-64 を読む。開発途上国における女性の健康問題について調べ、ミニレポートにまとめる (1 時間)。 事後: 授業内容を振り返り、整理する (1 時間)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	公衆衛生学、保健医療福祉行政論、その他各領域の看護学概論
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際看護学: グローバル・ナースィングに向けての展開	南裕子監修, 新川加奈子, 大野夏代, 神原咲子	中山書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業の各回で提示される課題・ミニレポートなどの提出物で評価する。 遅刻・欠席、授業態度不良の場合は減点する。
-----------	---

学生へのメッセージ	・本科目は、海外で看護実践者として実務経験を有する教員に加え、海外の在留邦人や国内の外国人の研究経験を有する教員が担当します。授業ではそれらの経験を踏まえ事例などの紹介を積極的に取り入れ行います。授業では、テキストを使用しますので必ず毎回持参してください。 ・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼らない習慣を持つようして下さい。
-----------	---

担当者の	富永真己 7号館3階研究室7
------	----------------

研究室等	西頭知子 7号館3階研究室14
備考	本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業の座席を指定とすることがあります。追加の文献や資料などは授業中に紹介します。

科目名	災害看護論	科目名 (英文)	Nursing in Disaster
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	稲垣 美紀
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP5△, DP7○		
科目ナンバリング	NDN2068a0		

授業概要・目的	災害看護を行うためには、災害に関する看護独自の知識や技術を用いることや他の専門分野と協力して活動していくことが必要である。この活動を行うためにまず災害について理解し、さらに災害サイクルに応じた人々への影響、災害時に特徴的な看護課題や看護ニーズを学ぶ。災害時に、先遣隊で災害地での活動経験のある教員が担当します。
到達目標	1) 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解することができる 2) 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響について説明することができる 3) 災害サイクルに応じた看護活動を説明することができる 4) 災害をもたらす人々へのこころの影響とそのケアについて説明することができる 5) 個人の備えを含め、看護師としての具体的な備えを理解することができる
授業方法と留意点	本講義では教科書・資料を用いて行います。新聞、テレビ等のマスメディアで取り上げられている災害看護に関する問題について情報収集しておいてください。
科目学習の効果 (資格)	講義を通して災害看護の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	災害とは 災害看護とは	1) 災害の定義と分類・特性 2) 災害サイクルと各期の特徴 3) 災害看護の定義 4) 災害時のニーズアセスメント 5) 災害時に特徴的な健康問題	事前:教科書の1章、2章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
2	災害急性期の看護	1) 災害医療システム 2) 初動期の医療救護活動 3) トリアージ 4) 災害訓練	事前:教科書の3章、4章、7章、8章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
3	災害中・長期の看護 こころのケア	1) 避難所における看護活動 2) 中・長期における健康問題 3) 被災者の心理 4) 災害時のストレス反応やPTSD 5) 被災者のメンタルケア	事前:教科書の6章、7章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
4	要援護者へのケア	1) 災害時に子どもに起こること 2) 災害時に妊産婦に起こること 3) 災害時に慢性疾患患者に起こること 4) 災害時に高齢者に起こること	事前:教科書の5章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
5	災害への備え	1) 自己防災 2) 病院防災 3) 地域防災 4) ネットワークの構築	事前:教科書のコラムに目を通し、備えについて考えておく 事後:授業の振り返り (各30分)
6	救援活動(国内・国際)	1) 災害に対する国内の体制 2) 災害に対する国際的な体制 3) 支援活動 4) 救護者へのケア	事前:教科書の10章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
7	災害時の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。	事前・事後学習:興味のある対象者の災害看護について学習し、まとめる。(各1時間)
8	災害時の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討し、発表する	事前・事後学習:学習した内容を提出する。(各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	看護学概論を含む看護科目
------	--------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(3): 災害看護	酒井明子	メディカ出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	災害看護学・国際看護学、	西上あゆみ・神崎初美	放送大学教育振興会
2	災害看護	三澤寿美・太田晴美	学研
3	避難所・仮設住宅の看護ケア	黒田裕子・神崎初美	日本看護協会出版会

評価方法 (基準)	レポート32%、テスト68%で評価する
学生へのメッセージ	提出物は期限を厳守して下さい。日頃から災害に関するニュース記事などに興味を持って、より災害看護に対する考え方や理解が深められるようにしておいて下さい。授業時間内の積極的な質問を歓迎します。授業後についてはメールを頂ければ、その都度対応いたします。
担当者の研究室等	

科目名	総合看護学演習	科目名 (英文)	Seminar in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP7○		
科目ナンバリング	NDN4071a0		

授業概要・目的	4年間の学習内容を総合的に振り返り、専門基礎科目、専門科目の統合学修を行なう。学修した知識を系統的に整理し、理解することで、看護を行う上での基盤を形成し、加えて、将来にわたり主体的に学修が継続できる力を養う。 担当教員の経験に基づき、以下の内容を教授する。																																																																		
到達目標	1. これまでに学習した学習内容の知識を系統的に整理し、理解する。 2. 自ら主体的に学習を継続することができる。																																																																		
授業方法と留意点	各専門科目をオムニバス形式で、対面での講義および演習形式で講義を行なう。各教員の指示に従うこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	看護師国家資格																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬理学</td> <td>担当教員の指示どおり</td> <td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>基礎看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病</td> <td>担当教員の指示どおり</td> <td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>成人看護学(急性)および関連する人体の構造・病理学・疾病</td> <td>担当教員の指示どおり</td> <td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>成人看護学(慢性)および関連する人体の構造・病理学・疾病</td> <td>担当教員の指示どおり</td> <td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>老年看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病</td> <td>担当教員の指示どおり</td> <td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>小児看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病</td> <td>担当教員の指示どおり</td> <td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>母性看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病</td> <td>担当教員の指示どおり</td> <td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>精神看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病</td> <td>担当教員の指示どおり</td> <td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>在宅看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病</td> <td>担当教員の指示どおり</td> <td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>地域看護学</td> <td>担当教員の指示どおり</td> <td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>公衆衛生学</td> <td>担当教員の指示どおり</td> <td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>医療福祉</td> <td>担当教員の指示どおり</td> <td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	薬理学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	2	基礎看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	3	成人看護学(急性)および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	4	成人看護学(慢性)および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	5	老年看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	6	小児看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	7	母性看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	8	精神看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	9	在宅看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	10	地域看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	11	公衆衛生学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	12	医療福祉	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	薬理学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
2	基礎看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
3	成人看護学(急性)および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
4	成人看護学(慢性)および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
5	老年看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
6	小児看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
7	母性看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
8	精神看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
9	在宅看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
10	地域看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
11	公衆衛生学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
12	医療福祉	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	全専門基礎科目、全専門科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業中に資料を配布する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に資料を配布する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	授業中に資料を配布する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問</td> <td>東京アカデミー</td> <td>東京アカデミー</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護学生スタディガイド</td> <td>池西静江、石束佳子</td> <td>照林社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レビューブック</td> <td>岡庭 豊</td> <td>MADIC MADIKA</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問	東京アカデミー	東京アカデミー	2	看護学生スタディガイド	池西静江、石束佳子	照林社	3	レビューブック	岡庭 豊	MADIC MADIKA																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問	東京アカデミー	東京アカデミー																																																																
2	看護学生スタディガイド	池西静江、石束佳子	照林社																																																																
3	レビューブック	岡庭 豊	MADIC MADIKA																																																																
評価方法 (基準)	定期試験で評価する																																																																		
学生へのメッセージ	看護学の総合的な科目です。自己の学習を進めながらしっかり復習をしていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	各担当教員の研究室																																																																		
備考	講師の都合により、上記授業順序はこの限りではありません。																																																																		

科目名	助産学概論	科目名 (英文)	Introduction to Midwifery
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	井田 歩美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3074a0		

授業概要・目的	助産の歴史および母子保健の変遷を学び、助産の概念と意義、助産師の役割と専門性を学ぶ。また、助産ケアの基盤となる考え方を学び、国際的な共通水準をもつ助産師業務や活動のあり方を学ぶことで、助産師としてのアイデンティティの確立をスタートさせる。 本科目は、助産師として臨床での実務経験を持つ教員が担当します。
到達目標	1. 助産の概念と関連する理論について理解できる。 2. 助産の歴史と文化について理解できる。 3. 助産師教育の変遷と専門職業人としての責務を果たすための卒後教育制度について理解できる。 4. 母子保健の動向と諸制度について理解できる。 5. 助産に関連する倫理について理解できる。 6. リプロダクティブヘルスケアについて理解できる。 7. 助産師の行う研究の意義について理解できる。
授業方法と留意点	講義を聴くことを契機とし、自己の探求心に気づき、積極的に学びを深化させるよう努力してください。 講義とグループワークを中心に進めていきます。毎回の講義の振り返りをしてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の自身の助産師としてのアイデンティティの確立に影響を及ぼす科目です。 さらに、助産師国家試験受験資格取得にかかわる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	助産と概念	助産の定義と意義について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 2~27) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、現在の助産師に求められている役割を考える。(前後、各1時間)
2	助産に関係する概念と理論	対象を理解するための理論、リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダー、性差医療について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 28~33) を読んでくる。(0.5時間) 事後学習課題：講義内容を整理し、自分の言葉で理論の説明ができるようにまとめる。(1.5時間)
3	助産師の歴史と文化	古代から昭和時代の助産の変遷、諸外国の助産の変遷および文化における助産 (妊娠・出産・育児) について学ぶ。	事前学習：テキストの該当部分 (p. 130~159) を読んでくる。 事後課題：講義内容を整理し、助産師とはどのような職種なのか、現代社会における課題にどう貢献する役割をもつのかを考える。(前後、各1時間)
4	助産師教育	助産師教育の変遷と卒後教育について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 162~172) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、助産師としての責務を果たすための自己の卒後教育プランを考える。(前後、各1時間)
5	助産と法律	助産師の定義と業務・責務について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 36~52) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、法律については、正確に記憶するよう努める。(前後、各1時間)
6	日本と諸外国の母子保健(1)	日本と諸外国の母子保健の歴史と現状と母子保健の動向と諸制度について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 98~128) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、21世紀における新たな課題について、自己の考えをまとめる。(前後、各1時間)
7	日本と諸外国の母子保健(2)	日本と諸外国の母子保健の歴史と現状と母子保健の動向と諸制度について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 98~128) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、21世紀における新たな課題について、自己の考えをまとめる。(前後、各1時間)
8	助産に関連する倫理(1)	生殖補助医療、人工妊娠中絶、減数手術について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 88~96) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、助産師としてかわる倫理的問題について、自己の考えをまとめる。(前後、各1時間)
9	助産に関連する倫理(2)	出生前診断、着床前診断について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 88~96) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、助産師としてかわる倫理的問題について、自己の考えをまとめる。(前後、各1時間)
10	リプロダクティブヘルスケア(1)	リプロダクティブヘルスケアとはなにかを学ぶ。	事前課題：リプロダクティブヘルスケアとは何かを調べて、まとめてくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、リプロダクティブヘルスを達成するためのケアについて考える。(前後、各1時間)
11	リプロダクティブヘルスケア(2)	プレコンセプションケア、DV防止、妊娠期からの虐待予防などについて学ぶ。	事前学習：プレコンセプションケア、DV防止、妊娠期からの虐待予防について調べてくる。 事後課題：グループワークのテーマについて調べ、資料を収集する。

				(前後、各1時間)																
	12	グループワーク	助産に関連した倫理とリプロダクティブヘルスケアについてグループワーク、発表準備をする。	事前課題：グループワークのテーマについてまとめる。(1.5時間) 事後学習課題：グループワークした内容を発表するための準備(発表資料、発表原稿 PowerPoint の作成)を行う。(2時間)																
	13	グループワークの発表	助産に関連した倫理とリプロダクティブヘルスケアについての発表およびディスカッションを行う。	事前課題：配布された発表資料を読み、質疑を考える。 事後学習課題発表・質疑応答を整理する。(前後、各1時間)																
	14	助産と研究(1)	助産学における研究について、エビデンスに基づく実践の重要性を学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分(p.62~85)を読む。 事後学習課題：講義内容を整理し、興味のあるテーマを抽出する。(前後、各1時間)																
	15	助産と研究(2)	助産学における研究について、エビデンスに基づく実践の重要性を学ぶ。	事前課題：テーマに沿った文献を1論文準備する。 事後学習課題：講義内容を整理し、準備した文献をクリティークする。(前後、各1時間)																
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習、周産期医学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座1基礎助産学〔1〕助産学概論</td> <td>我部山キヨ子編</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>助産学講座2基礎助産学〔2〕母子の基礎科学〔第5版〕</td> <td>我部山キヨ子編</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座1基礎助産学〔1〕助産学概論	我部山キヨ子編	医学書院	2	助産学講座2基礎助産学〔2〕母子の基礎科学〔第5版〕	我部山キヨ子編	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座1基礎助産学〔1〕助産学概論	我部山キヨ子編	医学書院																	
2	助産学講座2基礎助産学〔2〕母子の基礎科学〔第5版〕	我部山キヨ子編	医学書院																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	テーマレポート30%、発表資料の作成と準備および発表会への参加度20%、試験50%																			
学生へのメッセージ	この科目は、助産師を目指す皆さんが最初に学ぶ第一歩めの科目になります。母子を取り巻く社会や性と生殖に関する課題の変化とともに助産師のあり方も拡大・複雑化しています。助産師としてのアイデンティティの確立に向け、興味関心をもち積極的に取り組まれることを期待しています。																			
担当者の研究室等	井田(研究室12)																			
備考																				

科目名	助産診断・技術学 I	科目名 (英文)	Midwifery Diagnostics and Technique I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	井田 歩美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3075a0		

授業概要・目的	妊娠期の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理について学習する。妊娠時期の診断、妊娠経過の診断、妊婦の心理・社会的側面の診断、状況に応じたケアについて学習する。また、流産・胎内死亡など心理的危機に直面した妊婦と家族のケアやハイリスク妊婦と家族のケアと助産師の役割について学習する。
到達目標	本科目は、助産師として臨床での実務経験を持つ教員が担当します。 1. 妊娠期の助産診断の特徴について理解できる。 2. 妊娠期の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化について理解できる。 3. 正常および異常妊婦の妊娠経過と適応過程についてアセスメントし、助産診断できる。 4. 助産診断に基づき、必要な助産計画を立案できる。 5. 妊婦の家族も含めた支援について考えることができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って、講義とグループワークにて進める。グループワークでは、指定教科書や配布資料以外にも活用できる資料を見つけて利用すること。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	助産診断・技術学の概要	助産診断・技術学の概要を学ぶ。	事前学習：教科書 1 (p. 2~40) と授業資料を読む。(1 時間) 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
2	妊娠の生理と正常妊娠期の経過 (1)	妊娠に伴う母体の変化と胎児の発生・成長・発達について学ぶ。	事前学習：教科書 1 (p. 42~79) を読み、授業資料を整理する。(1 時間) ※準備確認のテストを実施 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
3	妊娠の生理と正常妊娠期の経過 (2)	妊娠に伴う母体の変化と胎児の発生・成長・発達について学ぶ。	事前学習：教科書 1 (p. 42~79) を読み、授業資料を整理する。(1~2 時間) ※準備確認のテストを実施 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
4	妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメント	妊娠期の心理状態と妊婦・夫婦・家族にとっての社会的変化およびそれらに対する妊婦の適応状態を把握するためのアセスメントについて学ぶ。	事前学習：教科書 2 (p. 28~56, p. 76~89) を読む。(1 時間) 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
5	妊娠期のフィジカルアセスメント	妊婦のフィジカルアセスメントを実施するために必要な情報収集と診断技術について学ぶ。	事前学習：教科書 1 (p. 160~196) を読み授業資料を整理する。(1 時間) ※準備確認のテストを実施 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
6	妊娠期の助産過程の展開 (1)	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型について学ぶ。(経過診断)	事前学習：教科書 1 (p. 146~159)、実践マタニティ診断 (p. 30~93) を読む。(1 時間) 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
7	妊娠期の助産過程の展開 (2)	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型について学ぶ。(健康生活診断)	事前学習：教科書 1 (p. 5~7, p. 146~159)、実践マタニティ診断 (p. 30~93) を読む。(1 時間) 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
8	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常 (1)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。	事前/事後学習：グループで助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする。(各 2 時間)
9	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常 (2)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。	事前/事後学習：グループで助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする。(各 2 時間)
10	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常 (3)	展開した助産過程の発表およびグループ討議を行う。	事前学習：グループで助産過程を展開し、発表資料として提出する。(1 時間) 事後学習：グループ討議の内容を受けて展開した助産過程を見直し、修正後最終提出する。(1 時間)
11	妊娠期の異常・ハイリスク妊娠 (1)	妊娠期におこる可能性のある病態について学ぶ。	事前学習：教科書 1 (p. 296~349) を読み、授業資料を整理する。(1 時間) ※準備確認のテストを実施 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
12	妊娠期の異常・ハイリスク妊娠 (2)	合併症を有する妊婦の妊娠経過について学ぶ。	事前学習：教科書 1 (p. 296~349) を読み、授業資料を整理する。(1 時間) ※準備確認のテストを実施 事後学習：授業内容を整理する。(1 時間)
13	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク (1)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。リスクに応じた適切な管理、妊婦と家族がセルフケア能力を持つための支援、必要な生活習慣の変容についての指導や利用できる社会資源・制度について考える。	事前/事後学習：グループで助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする。(各 2 時間)
14	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク (2)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。リスクに応じた適切な管理、妊婦と家族がセルフケア能力を持つための支援、必要な生活習慣の変容についての指導や利用できる社会資源・制度について考える。	事前/事後学習：グループで助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする。(各 2 時間)

	15	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク (3)	る。 展開した助産過程の発表およびグループ討議を行う。	事前学習：グループで助産過程を展開し、発表資料として提出する。(1時間) 事後学習：グループ討議の内容を受けて展開した助産過程を見直し、修正後最終提出する。(1時間)																
関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習，周産期医学，助産学概論、助産診断・技術学Ⅱ，助産診断・技術学Ⅲ、助産技術学演習Ⅰ，助産技術学演習Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 医学書院</td> <td>我部山キヨ子 他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>助産学講座 4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学 医学書院</td> <td>村瀬 聡美/我部山 キヨ子 編集</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020 日本産科婦人科学会</td> <td>日本産科婦人科学会</td> <td>日本産科婦人科学会</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 医学書院	我部山キヨ子 他	医学書院	2	助産学講座 4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学 医学書院	村瀬 聡美/我部山 キヨ子 編集	医学書院	3	産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020 日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 医学書院	我部山キヨ子 他	医学書院																	
2	助産学講座 4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学 医学書院	村瀬 聡美/我部山 キヨ子 編集	医学書院																	
3	産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020 日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座 2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学</td> <td>我部山キヨ子他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>助産学講座 3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学</td> <td>我部山キヨ子他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>今日の助産 [第4版]</td> <td>北川眞理子他編集</td> <td>南江堂</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座 2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学	我部山キヨ子他	医学書院	2	助産学講座 3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学	我部山キヨ子他	医学書院	3	今日の助産 [第4版]	北川眞理子他編集	南江堂
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座 2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学	我部山キヨ子他	医学書院																	
2	助産学講座 3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学	我部山キヨ子他	医学書院																	
3	今日の助産 [第4版]	北川眞理子他編集	南江堂																	
評価方法 (基準)	定期試験 70% 提出課題 30%																			
学生へのメッセージ	看護基礎教育 (母性看護学) における学習内容を習得していることを前提に進めます。助産学実習での実践につながるような授業を行います。助産学実習で活用できるよう、資料や自己学習ノートを整理しまとめておいてください。また、グループワークが円滑に進むよう、各自が役割を果たし、積極的に取り組んでください。																			
担当者の研究室等	井田 歩美 (研究室12)																			
備考																				

科目名	助産診断・技術学Ⅱ	科目名 (英文)	Midwifery Diagnostics and Technique II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	但馬 まり子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3076a0		

授業概要・目的	<p>(概要) 産婦の安全・安楽な分娩のために必要な助産診断とケアを実践するための基本を学び、分娩開始・分娩経過の診断、リスクの査定、産婦の心理・社会的側面の診断ができ、状況に応じたケアが実践できる知識と技術の基本について学ぶ。また、分娩進行に伴う異常の発生予測と予防的行動、異常発生時の観察と対処について学習し、産婦のケアと助産師の役割について考える。また講義時にはCG動画を用いて、分娩のメカニズムを学習する。助産診断は分娩経過に合わせて事例を用い、思考過程に沿って助産診断を学習する。</p> <p>(目的) 分娩期の助産診断の特徴と、正常分娩の経過に伴う助産診断、および異常分娩の経過と助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる。</p> <p>授業担当者は、助産師としての臨床経験と周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースである Advanced Life Support in Obstetrics (ALSO) プロバイダーコースの認証を受け、現在もアシスタントとしてコースへの参加をしている経験をもとに事例を取り上げながら分娩の現象をわかりやすく解説し、学生のアセスメント力を強化します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる 2. 産婦・胎児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる 3. 分娩期の経過と適応過程についてアセスメントと助産診断ができる 4. 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる 5. 助産診断に基づいて援助計画が立案できる 6. ハイリスク産婦の分娩経過に伴うリスク査定、助産診断と援助について理解できる
授業方法と留意点	資料、テキスト、DVD、PowerPoint を用いて授業を実施します。助産診断過程の展開は、講義終了後に課題が出ます。次回の講義までに完成させないといけません。また個人の理解度を確認するため、適宜課題の提出を求めます。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産診断の特徴と診断に必要な知識	正常分娩の経過についての理解 ・分娩の3要素について調べた内容を各学生がプレゼンテーション 娩出力 産道 娩出物 (胎児及び附属物) ・胎児の分娩機転 ・児頭の回旋 ・分娩経過の全体像 ・前駆期 ・分娩の開始 ・分娩第1期 ・分娩第2期 ・分娩第3期 ・分娩第4期 ・分娩期における助産診断の特徴	事前課題：事前課題を仕上げてくる (講義当日朝に提出) (1時間) 事後課題は：本日の知識の復習 (30分)
2	正常分娩の経過と助産診断 (1)	・分娩期の助産診断の特徴と診段名のつけ方 ・分娩期の診断類型と診断名のつけ方 ・診断に必要な情報 ・経過診断の診断類型と診断名のつけ方	事前課題：実践マタニティ診断 p96～127 まで読んでくる (1時間) 事後課題：本日の知識の復習 (30分)
3	正常分娩の経過と助産診断 (2)	分娩期の診断類型と診断名のつけ方 ・経過診断の診断類型と診断名のつけ方	事前課題：実践マタニティ診断 p96～127 まで読んでくる (1時間) 事後課題：本日の知識の復習 (30分)
4	正常分娩の経過と助産診断 (3)	分娩期の診断類型と診断名のつけ方 ・健康生活診断の診断類型と診断名のつけ方 ・CTG モニターの判読	事前課題：「図説 CTG テキスト」P2～10 までを読み、理解してくる。(1時間) 事後課題は：提示されたモニター所見を判読・診断を記載し、提出する。(1時間)
5	正常分娩の経過と助産診断 (4)	分娩時の心理・社会的変化 ・夫立ち会い分娩について ・無痛分娩について	事前課題：助産診断技術学Ⅱ (医学書院) P80～85 を読む (1時間) 事後課題：診断項目の復習 (30分)
6	分娩期の事例を用いた助産過程の展開 (1)	事例を用いて助産過程を展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案 ・電話連絡時 ・分娩第1期 (分娩開始～極期まで)	事前課題：陣痛発来で入院時の判断について、電話での問診項目を調べてくる。(1時間) 事後課題：本日用いた資料の完成 (1時間)
7	分娩期の事例を用いた助産過程の展開 (2)	事例を用いて助産過程を展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画立案 ・分娩第1期 (極期～分娩第2期まで)	事前課題：助産過程の展開を行う (1時間) 事後課題：本日用いた資料の完成 (1時間)

	8	分娩期の事例を用いた助産過程の展開 (3)	事例を用いて助産過程を展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案 ・分娩準備及び分娩室入室の診断 ・児娩出までの診断	事前課題：助産過程の展開を行う (1時間) 事後課題：本日用いた資料の完成 (1時間)																
	9	分娩期の事例を用いた助産過程の展開 (4)	事例を用いて助産過程を展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案 ・分娩第3期 ・分娩第4期	事前課題：助産過程の展開を行う (1時間) 事後課題：本日用いた資料の完成 (1時間)																
	10	助産診断の実践	助産診断・助産計画・援助の発表およびグループ討議を行う。	事前課題：事例の助産診断を完成させる (1時間) 事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返り助産過程の修正・追加を行う (2時間)																
	11	助産診断の実践	助産診断・助産計画・援助の発表およびグループ討議を行う。	事前課題：事例の助産診断を完成させる (1時間) 事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返り助産過程の修正・追加を行う (2時間)																
	12	分娩経過の異常と助産診断	分娩の3要素の異常と診断	事前課題：助産診断技術学Ⅱ (医学書院) P148～173まで読んでくる (1時間) 事後課題：本日の知識の復習 (30分)																
	13	分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症のアセスメントと支援	軟産道裂傷と弛緩出血、産科ショックの原因と対応	事前課題：助産診断技術学Ⅱ (医学書院) P214～230まで読んでくる (1時間) 事後課題：本日の知識の復習 (30分)																
	14	産科手術及び産科医療処置	分娩誘発・分娩促進法 骨盤位牽出術 器械的急速逸娩術 会陰裂傷縫合術 産科麻酔	事前課題：助産診断技術学Ⅱ (医学書院) P181～195まで読んでくる (1時間) 事後課題：本日の知識の復習 (30分)																
	15	産科手術を受ける産婦のアセスメントと支援	帝王切開術を受ける産婦の術前後のアセスメントと支援	事前課題：助産診断技術学Ⅱ (医学書院) P195～198まで読んでくる (1時間) 事後課題：本日の知識の復習 (30分)																
関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学実習, 周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学Ⅰ, 助産診断・技術学Ⅲ, 助産診断技術学演習, 助産学実習, 助産管理論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期</td> <td>我部山キヨ子 他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>図説 CTG テキスト</td> <td>中井章人</td> <td>MEDICAL VIEW</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>実践マタニティ診断</td> <td>日本助産診断実践学会</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院	2	図説 CTG テキスト	中井章人	MEDICAL VIEW	3	実践マタニティ診断	日本助産診断実践学会	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院																	
2	図説 CTG テキスト	中井章人	MEDICAL VIEW																	
3	実践マタニティ診断	日本助産診断実践学会	医学書院																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>産科診療ガイドライン—産科編 2020—</td> <td>日本産婦人科学会</td> <td>日本産婦人科学会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>母体急変時の初期対応第2版</td> <td>日本母体救命システム普及協議会</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>病気がみえる 10 産科</td> <td>井上裕美他</td> <td>MEDIC MEDIA</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	産科診療ガイドライン—産科編 2020—	日本産婦人科学会	日本産婦人科学会	2	母体急変時の初期対応第2版	日本母体救命システム普及協議会	メディカ出版	3	病気がみえる 10 産科	井上裕美他	MEDIC MEDIA
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	産科診療ガイドライン—産科編 2020—	日本産婦人科学会	日本産婦人科学会																	
2	母体急変時の初期対応第2版	日本母体救命システム普及協議会	メディカ出版																	
3	病気がみえる 10 産科	井上裕美他	MEDIC MEDIA																	
評価方法 (基準)	定期試験 70% プレゼンテーション、助産過程の展開・助産診断と助産計画の課題 30%																			
学生へのメッセージ	学生は講義時に提示された課題を通して知識の確認を行い、助産学実習や助産師国家試験対策のための資料や要点をまとめておきましょう。助産過程の展開は指示されたところまで必ず期限内に完成させるようにしましょう。分娩期の知識が分娩助産技術を習得するうえで必要な知識となります。																			
担当者の研究室等	7号館3階 但馬 (研究室20)																			
備考	講義時の資料や助産過程の展開資料は助産学実習で活用します。																			

科目名	助産診断・技術学Ⅲ	科目名 (英文)	Midwifery Diagnostics and Technique III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	名草 みどり
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3077a0		

授業概要・目的	<p>(概要) 褥婦・新生児経過の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理を学習する。分娩想起や褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦の復古促進や母子の愛着形成促進のためのケアが実践できるよう学習する。そして、母子とその家族を包括したケアの展開をめざし、新しい役割や家族システムの変化への支援を行うための知識・技術の基礎を学習する。また、新生児は正常な適応過程が診断でき、状況に応じたケアを学習する。</p> <p>(目的) 産褥・新生児期の助産診断の特徴と経過の助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる。</p> <p>この科目は、助産師としての実務経験をもつ教員が担当します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥・新生児期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる。 2. 褥婦・新生児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる。 3. 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる。 4. 助産診断に基づいて個別指導案を立案できる。
授業方法と留意点	講義を聴き、各自レポート作成ののち、グループワークおよび発表、ディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	助産学実習に直接つながる科目であり、助産師国家試験受験資格取得にかかわる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	産褥期の助産過程の展開 正常産褥期の助産診断	産褥期における助産診断の特徴と助産過程の展開における理論・方法について学ぶ。 正常な産褥経過の身体的・心理的・社会的側面に関する助産診断について学ぶ。	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ [2] (第6版)第9章「産褥期の生理」第10章「産褥期の助産診断」を一読してくる。(1時間) 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 (1時間)
2	産褥の事例を用いた助産過程の展開(1)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の情報整理を行う。	事前課題：マタニティ診断ガイドブック「産褥期のマタニティ診断」を一読する。(30分) 事後課題：事例の情報整理をする。 (1時間)
3	母乳栄養確立および母子関係・家族形成過程の助産診断と援助	産褥期の進行性変化の助産診断および母乳育児を促進するための援助を学ぶ。母子関係形成・育児行動取得・家族形成に向けた援助を学ぶ。	事前課題：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] (第6版)第11章「褥婦への支援」第14章「乳房管理」を一読してくる。 (1時間) 事後課題：事例のアセスメントをする。 (1時間)
4	産褥の事例を用いた助産過程の展開(2)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例のアセスメントと助産診断を行う。	事前課題：マタニティ診断ガイドブック「産褥期のマタニティ診断」を一読する。(30分) 事後課題：事例の情報整理、アセスメントと助産診断をする。 指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。 (1時間)
5	ハイリスク褥婦の助産診断と援助	ハイリスク褥婦の助産診断と必要な援助について学ぶ。	事前課題：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] (第6版)第12章「産褥期の異常・偶発疾患」第13章「ハイリスク・異常褥婦へのアセスメントと支援」を一読してくる。 (1時間) 事後課題：学習した内容を整理する。 (1時間)
6	産褥の事例を用いた助産過程の展開(3)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画を立案する。	事前課題：指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。 (1時間) 事後課題：事例の助産計画を立案する。 (1時間)
7	産褥の事例を用いた助産過程の展開(4)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案する。	事前課題：指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。 (1時間) 事後課題：事例の個別指導内容を立案する。 (1時間)
8	新生児期の助産過程の展開 正常新生児の助産診断	新生児の胎外生活への適応過程と生後1か月までの生理的变化について学ぶ。 新生児期における助産診断の特徴と助産過程の展開における理論・方法について学ぶ。	事前課題：『助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] (第6版)第1章「新生児・乳幼児ケアの基本」第2章「新生児期のアセスメントとケア」を一読してくる。 事後課題：学習した内容を整理する。 (各1時間)
9	新生児の事例を用いた助産過程の展開(1)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の情報整理について学ぶ。	事前課題：マタニティ診断ガイドブック「新生児期のマタニティ診断」を一読する。(1時間) 事後課題：各自、新生児の助産過程の展開を進める。 (情報整理) (1時間)
10	新生児の事例を用いた助産過程の展開(2)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例のアセスメント、助産診断について学ぶ。	事前課題：指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。(1時間) 事後課題：各自、新生児の助産過程の展開を進める。 (情報整理・アセスメント・助産診断)

				(1時間)																
	11	新生児の事例を用いた助産過程の展開(3)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画立案について学ぶ。	事前課題:指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。(1時間) 事後課題:各自、新生児の助産過程の展開を進める。(助産計画の立案) (1時間)																
	12	新生児の事例を用いた助産過程の展開(4)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導の立案について学ぶ。	事前課題:指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。(1時間) 事後課題:各自、新生児の助産過程の展開を進める。(個別保健指導の立案) (1時間)																
	13	新生児の事例を用いた助産過程の展開(5)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導の立案について学ぶ。	事前課題:指導を受けた内容について、各自、加筆・修正を行う。(1時間) 事後課題:各自、新生児の助産過程の展開を進める。(個別保健指導の立案) (1時間)																
	14	発表とまとめ(1)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行う。	事前課題:発表資料をまとめ、発表準備を行う。(2時間) 事後課題:最終提出に向けて、加筆・修正を行う。 (1時間)																
	15	発表とまとめ(2)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行う。	事前課題:発表資料をまとめ、発表準備を行う。(2時間) 事後課題:最終提出に向けて、加筆・修正を行う。 (1時間)																
関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学実習, 小児看護学概論, 小児看護学援助論Ⅰ, 小児看護学援助論Ⅱ, 地域看護学, 家族看護学, 精神看護学援助論Ⅰ, 周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学Ⅰ, 助産診断・技術学Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期</td> <td>石井邦子編</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>助産学講座3基礎助産学〔3〕母子の健康科学</td> <td>我部山キヨ子編</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期</td> <td>我部山キヨ子編</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期	石井邦子編	医学書院	2	助産学講座3基礎助産学〔3〕母子の健康科学	我部山キヨ子編	医学書院	3	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子編	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期	石井邦子編	医学書院																	
2	助産学講座3基礎助産学〔3〕母子の健康科学	我部山キヨ子編	医学書院																	
3	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子編	医学書院																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新生児学入門第4版</td> <td>仁志田博司著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>助産学講座4基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学</td> <td>我部山キヨ子編</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新生児学入門第4版	仁志田博司著	医学書院	2	助産学講座4基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学	我部山キヨ子編	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新生児学入門第4版	仁志田博司著	医学書院																	
2	助産学講座4基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学	我部山キヨ子編	医学書院																	
3																				
評価方法(基準)	課題への取り組み(各自レポート作成、グループワークおよびディスカッション参加状況、発表準備)50% 筆記試験50%																			
学生へのメッセージ	産褥・新生児期における助産過程を展開して必要な助産ケアを導きだし、個別指導案の作成を行います。助産技術学演習Ⅰでの個別・集団指導の実施につながる科目となりますので、積極的に取り組まれることを期待しています。																			
担当者の研究室等	名草みどり(研究室13)																			
備考	助産過程の展開、および保健指導内容は助産学実習Ⅰで活用します。																			

科目名	助産技術学演習 I	科目名 (英文)	Practice in Midwifery Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	井田 歩美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3078a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 助産診断・技術学の履修内容をもとに、妊娠各期および産褥期健康教育の準備・計画・実施・評価の過程とその方法について学ぶ。</p> <p>【目的】 健康教育について学び、妊娠期および産褥期に必要な健康教育を展開できるようになる。 本科目は、助産師として臨床での実務経験を持つ教員が担当します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期および産褥期の健康教育の目的・目標を理解し、説明できる。 2. 健康教育に必要な教育技術を理解し、説明できる。 3. 個別・集団それぞれを対象とした健康教育の特徴や利点・欠点を踏まえ、健康教育を企画することができる。 4. 企画した健康教育をロールプレイにて実施し、評価することができる。 5. 代替医療と助産ケアについて理解できる。
授業方法と留意点	演習を中心に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	相談・教育活動の基本 妊娠期の健康教育: 個別指導 (1)	相談・教育活動の基本について学ぶ。 妊娠期の個人を対象とした健康教育の展開について学ぶ。 妊娠各期の保健指導案を作成する	事前: ①カウンセリング論での学習内容を想起する。②教科書 1 (p. 78~114) を読む。(1 時間) ③妊娠各期の保健指導項目を整理する。 事後: 個別指導案を作成する。(2 時間)
2	妊娠期の健康教育: 個別指導 (2)	妊娠期の個人を対象とした健康教育の展開について学ぶ。(ロールプレイによる妊婦個別指導の実施と討議)	事前: 個別指導案を完成し、提出する。(1 時間) 事後: 討議内容を受け指導案の見直し・修正を行い、最終提出する。(1 時間)
3	妊娠期の健康教育: 集団指導 (1)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。(集団指導のテーマ決定、企画書の作成、実施準備)	事前: 教科書 1 (p. 143~151) を読む。(1 時間) 事後: グループに分かれ、妊婦を対象とした集団指導のテーマを設定し企画書を作成、実施準備をする。(2 時間)
4	妊娠期の健康教育: 集団指導 (2)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。(企画書の作成、実施準備)	事前・事後: グループに分かれ、妊婦を対象とした集団指導の企画書を作成し、実施準備をする。(各 1 時間)
5	妊娠期の健康教育: 集団指導 (3)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。 (ロールプレイによる集団指導の実施と評価)	事前: 各グループで集団指導の企画書を完成させ、提出する。(1 時間) 事後: 企画および実施の評価をまとめて提出する。(1 時間)
6	産褥期の健康教育: 個別指導 (1)	産褥期の個人を対象とした健康教育の計画・実施・評価方法について学ぶ。 (企画書の作成、実施準備)	事前: 「助産診断・技術学 I」第 3 章 (p. 128~142) を読む。(1 時間) 事後: 褥婦を対象とした個人指導のテーマを設定し企画書を作成、実施準備をする。(1 時間)
7	産褥期の健康教育: 個別指導 (2)	産褥期の個人を対象とした健康教育の計画・実施・評価方法について学ぶ。 (企画書の作成、実施準備)	事前: 指導を受けた企画書の追加修正を行う。(1 時間) 事後: 褥婦を対象とした個人指導のテーマを設定し企画書を作成、実施準備をする。(1 時間)
8	産褥期の健康教育: 個別指導 (3)	産褥期の個人を対象とした健康教育の計画・実施・評価方法について学ぶ。 (ロールプレイによる個別指導の実施と評価)	事前: 個人指導の企画書を完成させ、実施練習を行い指定日時に企画書を提出する。(1 時間) 事後: 企画および実施の評価をまとめて指定日時に提出する。(1 時間)
9	育児における健康教育: 個別指導 (1)	産褥入院中における育児技術獲得に向けた健康教育 (沐浴・育児・退院指導) の計画・実施・評価について学ぶ。	事前学習: 沐浴指導案の作成をする。 事後課題: 沐浴指導案の追加・修正を行う。 育児・退院指導案の作成をする。 (前後、各 2 時間)
10	育児における健康教育: 個別指導 (2)	作成した沐浴指導案・育児・退院指導案の発表 (ロールプレイ) を行い、他者からの意見を踏まえ評価をする。	事前学習: 沐浴指導、育児・退院指導案の発表の準備をする。個人指導の企画書を完成させ、実施練習を行い指定日時に企画書を提出する。(2 時間) 事後課題: 発表後の評価を行い、沐浴指導、育児・退院指導案を追加・修正する。(1 時間)
11	育児における健康教育: 個別指導 (3)	作成した沐浴指導案・育児・退院指導案の発表 (ロールプレイ) を行い、他者からの意見を踏まえ評価をする。	事前学習: 沐浴指導、育児・退院指導案の発表の準備をする。個人指導の企画書を完成させ、実施練習を行い指定日時に企画書を提出する。(2 時間) 事後学習: 発表後の評価を行い、沐浴指導、育児・退院指導案を追加・修正する。企画および実施の評価をまとめて指定日時に提出する。(1 時間)
12	家族計画指導 (1)	家族計画指導における基礎知識について理解し、家族計画指導案の作成の実際を学ぶ。	事前課題: 助産診断・技術学 I 第 7 章を読む。(1 時間) 事後課題: 事例の家族計画指導案を作成する。(1 時間)
13	家族計画指導 (2)	作成した家族指導案の発表 (ロールプレイ) を行い、他者からの意見を踏まえ評価をする。	事前課題: 指導案発表の準備をする。個人指導の企画書を完成させ、実施練習を行い指定日時に企画書を提出する。(2 時間) 事後課題: 指導案発表後の評価を行い、指導案を追加・修正する。 企画および実施の評価をまとめて指定日時に提出する。(1 時間)
14	代替医療と助産ケア (1)	西洋医学を基盤とし、代替療法と助産ケ	事前学習: 配布資料を読んでくる。

			アについて理解する。 ※アロマセラピー	事後学習：講義、演習内容、助産ケアについて整理する (前後、各1時間)																
	15	代替医療と助産ケア(2)	西洋医学を基盤とし、代替療法と助産ケアについて理解する。 ※アロマセラピー	事前学習：配布資料を読んでくる。 事後学習：講義、演習内容、助産ケアについて整理する (前後、各1時間)																
関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習，小児看護学概論，小児看護学援助論Ⅰ，小児看護学援助論Ⅱ，地域看護学，家族看護学，精神看護学援助論Ⅰ，周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学Ⅱ，助産診断・技術学Ⅲ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ</td> <td>堀内林子他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>UNICEF/WHO 赤ちゃんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース「母乳育児成功のための10か条の実践」</td> <td>BFHI 2009 翻訳編集委員会</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学</td> <td>我部山キヨ子他編</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ	堀内林子他	医学書院	2	UNICEF/WHO 赤ちゃんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース「母乳育児成功のための10か条の実践」	BFHI 2009 翻訳編集委員会	医学書院	3	助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学	我部山キヨ子他編	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ	堀内林子他	医学書院																	
2	UNICEF/WHO 赤ちゃんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース「母乳育児成功のための10か条の実践」	BFHI 2009 翻訳編集委員会	医学書院																	
3	助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学	我部山キヨ子他編	医学書院																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今日の助産 改訂[第4版]</td> <td>北川真理子、内山和美編集</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最新産科学 異常編 改訂第22版</td> <td>荒木勤</td> <td>東京文光堂本郷</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今日の助産 改訂[第4版]	北川真理子、内山和美編集	南江堂	2	最新産科学 異常編 改訂第22版	荒木勤	東京文光堂本郷	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	今日の助産 改訂[第4版]	北川真理子、内山和美編集	南江堂																	
2	最新産科学 異常編 改訂第22版	荒木勤	東京文光堂本郷																	
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 50% 指定された課題の提出、発表等 50%																			
学生への メッセージ	助産学実習準備になる科目です。個人の自主的な学習およびグループワークによるチームワークやメンバーシップを発揮して主体的に課題に取り組みましょう。																			
担当者の 研究室等	井田歩美(研究室12)、名草みどり(研究室13)、泉川孝子(研究室15)																			
備考	課題である各指導案は、助産学実習Ⅰで活用します。																			

科目名	助産技術学演習Ⅱ	科目名 (英文)	Practice in Midwifery Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	但馬 まり子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3079a0		

授業概要・目的	<p>(概要) 助産師としてケアを提供するために必要な知識、技術、態度について助産診断・技術学の履修内容をもとに、演習を通して統合できる能力を養う。 目的：妊婦健康診査、分娩介助技術および出生時の新生児ケア技術を学修する。</p> <p>授業担当者は臨床経験と周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースである Advanced Life Support in Obstetrics (ALSO) プロバイダーコースの認証を受け、現在もアシスタントとしてコースへの参加をしている経験を活かし、学生がわかりやすいように、習得しやすいように技術を実践し、一人一人の技術習得状況を確認しながら関わります。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の知識と助産診断をもとに対象者への援助を実施できる 2. 妊婦健診、分娩介助技術、新生児のケア技術を習得できる 3. 対象者へのケアの提供に対する責任と敬意をもった態度で援助ができる
授業方法と留意点	演習を主に行う。妊婦健康診査、分娩介助、出生直後の新生児のケアに必要な知識と技術を習得するための演習を行う。分娩介助技術は練習することで上達する。授業時間内での練習には限りがあるため、自主的練習を促す。授業内での技術演習は一人一人の到達度を確認しながら行う。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験および助産学実習に関わる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	妊婦の健康診査	妊婦健康診査に必要な技術 外診 (視診、計測診、触診、聴診) 子宮底・腹囲の測定、レオポルド触診法、胎児心音聴取、骨盤外計測	事前課題：母性看護学援助論Ⅱと助産診断技術学Ⅰの内容を復習 (1時間) 事後課題：実施した技術の復習 (1時間)
2	胎児発育・健康状態の診査	正常新生児のフィジカルイグザミネーション ・バイタルサイン測定 ・体重・身長、頭位、胸囲測定 ・運動神経学的状態 ・保育器の機能と使用方法	事前学習：助産診断技術学Ⅲの講義の復習 (1時間) 事後課題：実施した技術の復習 (1時間)
3	分娩介助技術演習 (1)	・分娩介助の意義と原理 ・分娩体位と介助法	事前課題：講義までに分娩経過のビデオ視聴とテキスト P88～94 まで目を通す。(1時間) 事後課題：本日の復習 (1時間)
4	分娩介助技術演習 (2)	・分娩介助手順と根拠	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す (1時間) 事後課題：本日の復習 (1時間)
5	分娩介助技術演習 (3)	分娩介助時の物品の準備と清潔野の作成方法デモンストレーション	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す (1時間) 事後課題：本で行った技術を練習する (1時間)
6	分娩介助技術演習 (4)	分娩介助時の物品の準備と清潔野の作成方法の実践	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す (1時間) 事後課題：本で行った技術を練習する (1時間)
7	分娩介助技術演習 (5)	デモンストレーション ・人工破膜の実施判断と方法 ・会陰保護の手技 ・児娩出までの介助方法 前在肩甲・後在肩甲娩出法 軀幹娩出法 ・臍帯切断の方法 ・胎盤の娩出法	事前課題：事前課題レポートを完成させる (1時間) 事後課題：本で行った技術を練習する (1時間)
8	分娩介助技術演習 (6)	実践 ・人工破膜の実施判断と方法 ・会陰保護の手技 ・児娩出までの介助方法 前在肩甲・後在肩甲娩出法 軀幹娩出法 ・臍帯切断の方法 ・胎盤の娩出法	事前課題：なし 事後課題：本で行った技術を練習する (1時間)
9	分娩介助技術演習 (7)	その他の技術 臍帯巻絡の解除法 会陰切開時の対処法 出生直後の児のケアの実践 胎盤計測	事前課題：事前課題レポートを完成させる (1時間) 事後課題：本で行った技術を練習する (1時間)
10	分娩介助技術演習 (8)	一連の分娩介助技術のデモンストレーション	事前課題：介助手順の資料の予習 (1時間) 事後課題：本で行った技術を練習する (1時間)
11	分娩介助技術演習 (9)	一連の流れの助産技術の実践	事前課題：なし 事後課題：本で行った技術を練習する (2時間)
12	分娩介助技術演習 (10)	出生直後の新生児のケア 保育器収容中の児のケア	事前課題：資料を予習 (1時間) 事後課題：実施技術の振り返り
13	異常分娩時の対処 (1)	以下の項目に必要な知識と実践 ・肩甲難産時の体位と介助	事前課題：資料を予習 (1時間) 事後課題：本で行った技術を練習する (1時間)
14	異常分娩時の対処 (2)	児心音低下時の実践 吸引分娩時の準備の実践	事前課題：資料を予習 (1時間) 事後課題：本で行った技術を練習する (1時間)
15	異常分娩時の対処 (3)	異常出血時の対処 シナリオを用いてシミュレーションと	事前課題：シナリオを読み、事前に課題を仕上げてくる。(1時間)

			討議	事後課題：トレーニング後の評価（1時間）																
関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習， 小児看護学概論，小児看護学援助論Ⅰ，小児看護学援助論Ⅱ，地域看護学，家族看護学，精神看護学援助論Ⅰ， 周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学Ⅱ，助産診断・技術学Ⅲ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期</td> <td>我部山キヨ子 他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ</td> <td>我部山キヨ子 他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児・乳幼児期</td> <td>我部山キヨ子 他</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院	2	助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ	我部山キヨ子 他	医学書院	3	助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児・乳幼児期	我部山キヨ子 他	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院																	
2	助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ	我部山キヨ子 他	医学書院																	
3	助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児・乳幼児期	我部山キヨ子 他	医学書院																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今日の助産 改訂第3版</td> <td>北川真理子・内山和美 編集</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>病気が見える Vol10 産科第4版</td> <td>医療情報科学研究所</td> <td>MEDIC MEDIA</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今日の助産 改訂第3版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂	2	病気が見える Vol10 産科第4版	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	今日の助産 改訂第3版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂																	
2	病気が見える Vol10 産科第4版	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA																	
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 50% (定期試験で6割に達しない場合、再試験となります) 分娩介助技術試験 50% (評価表を用いて採点します。合格点に達しない場合は技術再試験となります)																			
学生への メッセージ	分娩介助技術は助産学実習の実施項目です。助産学実習では10例の分娩介助を実践しなければいけません。実習に出たときに自信を持って介助ができるようにしっかり学内で練習しましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 但馬 (研究室20)																			
備考	分娩介助技術は助産学実習で10例の分娩介助時に活用します。																			

科目名	助産管理論	科目名 (英文)	Midwifery Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	泉川 孝子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3080a0		

授業概要・目的	助産管理の概要及び運用に必要な基本概念 (法的根拠やその内容、管理の原則) を理解し、管理者が果たす役割、助産における危機管理について学ぶ。また周産期管理システム (母体搬送システム、新生児搬送等) を理解する。 授業担当の教員は、総合病院で助産師として7年間勤務、その後、非常勤で夜間当直勤務をした経験から、助産学、助産過程の展開に実践的な教育を行います。また、木村先生は、開業助産師の立場から助産管理の実践的な教育を行います。
到達目標	助産管理の概要を理解し、助産における危機管理について理解する。 また、助産業務の行われる場の管理、業務の管理に必要な基礎的知識、さらに、産科医療の特徴と医療事故防止について理解を深める。
授業方法と留意点	実際の事例を通して、産科医療の特徴を学び、助産の場面での管理の在り方を考えていきます。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得に関連する必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産管理の基本概念とプロセスについて	マネジメントの定義とマネジメントサイクル、管理理論について学ぶ。	事前学習: テキストの該当部分を読んでくる (第1章A) 事後学習: 講義内容を整理する (前後、各1時間)
2	助産管理の概念	助産師の業務範囲、助産管理の特性と組織化について学ぶ。 院内助産・院内助産院の管理、外来の助産管理について理解する。	事前学習: テキストの該当部分を読んでくる (第1章B) (第4章DE) 事後学習: 講義内容を整理する (前後、各1時間)
3	関係法規と助産師の義務・責任について (助産と医療経済含む)	医療保障制度と助産業務について、助産業務の診療報酬を学ぶ。	事前学習: テキストの該当部分を読んでくる (第1章C, 第2章A) 事後学習: 講義内容を整理する (前後、各1時間)
4	関係法規と助産師の義務・責任について	助産業務に関する法律について学ぶ。 助産業務ガイドラインについて理解する。	事前学習: テキストの該当部分 (第2章B)、助産業務ガイドラインを読んでくる 事後学習: 講義内容を整理する (前後、各1時間)
5	周産期の管理システムとリスクマネジメント	周産期管理システム (NICU)、周産期搬送システム、オープンシステム、周産期の医療事故とリスクマネジメントについて学ぶ。	事前学習: テキストの該当部分を読んでくる (第3章AB) 事後学習: 講義内容を整理する (前後、各1時間)
6	周産期の医療事故とリスクマネジメントー1	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて事例を用いてグループワーク *講師: アドバンス助産師と協同	事前学習: 実習中の事例や課題事例について想起する (第3章AB、配布資料) 事後学習: 討議内容を整理する (前後、各1時間)
7	周産期の医療事故とリスクマネジメントー2	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて事例を用いてグループワーク *講師: アドバンス助産師と協同	事前学習: 実習中の事例や課題事例について想起する (配布資料) 事後学習: 討議内容を整理する (前後、各1時間)
8	助産所における助産業務管理	助産所の管理・運営について学ぶ。 講師: 助産院院長	事前学習: テキストの該当部分を読んでくる (第5章ABCD) 事後学習: 講義内容を整理する (前後、各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、助産学概論、周産期医学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産技術学演習Ⅰ・Ⅱ、母性看護学実習、統合看護学実習、助産学実習
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座 10 助産管理	我部山キヨ子 他	医学書院
2	助産業務ガイドライン	日本助産師会	日本助産師会	
3	母子保健の主なる統計 令和4年刊行	公益財団法人母子衛生研究会 編集	公益財団法人母子衛生研究会	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	試験: 70%、グループワーク・個別課題等: 30%
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	周産期の母子や家族に対して、産婦の主体性を担保しつつ、助産師業務ガイドラインの理解を深め、遵守しつつ安全な助産ケアや管理の在り方について考えていきましょう。
-----------	--

担当者の 研究室等	泉川（研究室 15）、木村泰恵（学外講師：木村助産院）
備考	

科目名	公衆衛生看護学演習Ⅱ	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Method and Practice II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3088a0		

授業概要・目的	ディプロマ・ポリシーで求められる「広く多元的に情報を収集し、科学的根拠に基づき、問題を解決できる能力を身につけている。(問題解決力)」の到達に向けて、本科目では、「地域の人々の生活と健康を多角的・総合的にアセスメントする」「地域の潜在的・顕在的な健康課題を明確にする」ことを目的に、情報処理演習室を利用しながらグループ演習に取り組む。 保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を踏まえ、地域診断の実際を紹介しながら授業・演習を進行する。
到達目標	(1) 地域で生活する人々について、身体的・精神的・社会文化的な側面から生活と健康に関する情報を収集できる。 (2) 人々の生活の場である地域について、物理的・社会的な側面から生活と健康に関する情報を収集できる。 (3) 収集した情報を統合してアセスメントし、集団・地域の特性を明確にできる。 (4) 顕在化している健康課題を明確にできる。 (5) 潜在化している健康課題を明確にし、今後起こりうる健康課題を予測できる。
授業方法と留意点	情報処理演習室等を使用しながらグループで情報の収集やアセスメント、ディスカッションを行う。そのため、課題には主体的に取り組むとともに、グループメンバーと協調しながら進めていく必要がある。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や支援技術についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地域診断の考え方と方法	講義 地域診断の目的と展開 情報収集と分析	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
2	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
3	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
4	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
5	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
6	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
7	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
8	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
9	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
10	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
11	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
12	地域特性の文章化	演習 情報の分析と統合 グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
13	地域特性の文章化	演習 情報の分析と統合 グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
14	地域の潜在的・顕在的な健康課題の明確化	演習 情報の分析と統合、診断 グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
15	地域の潜在的・顕在的な健康課題の明確化	演習 情報の分析と統合、診断	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、

			グループワーク	進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.jp 第5版	荒賀直子, 後関容子	インターメディカル
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 保健師業務要覧 第4版 2022年版	井伊久美子, 勝又浜子, 森永裕美子, 荒木田美香子, 坂本真理子, 村嶋幸代	日本看護協会
	2	国民衛生の動向 2021/2022	厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会
	3			
評価方法 (基準)	課題の提出物(グループ)50%、グループワーク評価(調整力・貢献度など)20%、レポート(個人)30% 欠席、遅刻および授業態度が不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。			
学生への メッセージ	保健師の支援技術の一つである地域診断を演習をとおして学んでいきます。体調管理に気をつけ、毎回出席できるようにしましょう。			
担当者の 研究室等	富永真己 7号館3階 7研究室 足立安正 7号館3階 22研究室 安田香 7号館3階 共同研究室1			
備考				

科目名	公衆衛生看護学実習 I	科目名 (英文)	Public Health Nursing Practicum I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3089a0		

授業概要・目的	地域で生活している人々に対する理解を深め、生活の場で展開される公衆衛生看護活動の実際を理解し、その展開に必要な知識・技術・態度を学ぶ。 実務経験をもつ教員が、都道府県・市町村の保健所・保健センターの実習指導者とともに担当し、地域診断の展開を中心に、保健師活動の実際を経験しながら学習する。
到達目標	1. 地域の環境とそこで暮らす人々の生活・健康との関係を多角的にアセスメントし、地域の特性を考えることができる。 2. 保健行政システムに対する理解を深め、保健所・保健センターで実施される保健事業の目的や法的根拠、展開プロセスを理解できる。 3. 保健所・保健センターの保健師の主要な業務と支援技術について、体験を通して理解できる。 4. 保健師活動の展開に必要な基本的態度を培うことができる。
授業方法と留意点	保健所・保健センターでの実習を行う。 看護学臨地実習要綱をよく読み理解したうえで、公衆衛生看護学実習 I 要綱で示している実習目的・目標を達成できるように努める。 事前学習を十分に行うとともに、自己の目標を設定するなど積極的・主体的な学習態度で実習に臨む。 グループメンバーと協調しながら実習に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	自治体で働く保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。 保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論 I、公衆衛生看護学活動論 II、公衆衛生看護学演習 I、公衆衛生看護学演習 IIをはじめとしたその他の専門科目すべてが関連する。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公衆衛生看護学.jp 第5版	荒賀直子, 後閑容子	インターメディカル
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向 2021/2022	厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会
2	新版 保健師業務要覧 第4版 2022年版	井伊久美子, 勝又浜子, 森永裕美子, 荒木田美香子, 坂本真理子, 村嶋幸代	日本看護協会出版
3			

評価方法 (基準) 事前準備、実習記録、実習態度、実習目標の達成状況を総合して評価する。なお、実習はすべて出席が原則であり、欠席・遅刻・早退は減点対象となることがある。

学生へのメッセージ 臨地実習では、大阪府下の自治体で活躍する保健師の活動の実際を自分の目で見て学習し、指導を受けることができる貴重な機会です。より良い学びにするためにも、自己の学習目標を明確にして実習に取り組みましょう。また、欠席することがないように、体調管理には十分に留意してく

	ださい。
担当者の 研究室等	富永真己 7号館 7研究室 足立安正 7号館 22研究室 安田香 7号館 共同研究室1
備考	

科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Public Health Nursing Practicum II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3090a0		

授業概要・目的
人間の権利や価値観、生涯発達の視点を踏まえたうえで、地域の特性と地域住民の生活を理解し、地域で生活する人々の健康課題を総合的に捉え、課題解決に向けたヘルスケアシステム構築のために必要な知識・技術・態度を習得することで、保健師に求められる基礎的能力を養う。実務経験をもつ教員が、都道府県・市町村の保健所・保健センターの実習指導者とともに担当し、地域診断の展開を中心に、保健師活動の実際を経験しながら学習する。

到達目標
1. 保健所・保健センターの機能と活動および保健師の活動方法を理解できる。
2. 地域の人々の生活、文化および健康などを取り巻く環境を多角的にアセスメントすることで地域の特性を理解し、顕在化・潜在化している健康課題を見出すことができる。
3. 地域の健康課題を解決するための支援計画を立案し、計画を実施・評価できる。
4. 健康課題解決のための社会資源をアセスメントできる。
5. 対象の生活や特性に応じた公衆衛生看護活動を展開できる。
6. 公衆衛生看護管理の実際について理解できる。
7. 主体的・継続的に学

授業方法と留意点
保健所・保健センターでの実習を行う。
看護学臨地実習要綱をよく読み理解したうえで、公衆衛生看護学実習Ⅱ要綱で示している実習目的・目標を達成できるように努める。
事前学習を十分に行うとともに、自己の目標を設定するなど積極的・主体的な学習態度で実習に臨む。
グループメンバーと協調しながら実習に取り組む。

科目学習の効果(資格)
自治体で働く保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。
保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目
公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅱをはじめとして、その他の専門科目すべてが関連する。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公衆衛生看護学.jp 第5版	荒賀直子, 後閑容子	インターメディカル
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向 2021/2022	厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会
2	新版 保健師業務要覧 第4版 2022年版	井伊久美子, 勝又浜子, 森永裕美子, 荒木田美香子, 坂本真理子, 村嶋幸代	日本看護協会出版
3			

評価方法
事前学習、実習記録・レポート、実習態度や取り組み、実習目標の達成状況を総合して評価する。なお、実習はすべて出席が原則であり、欠席・

(基準)	遅刻・早退は減点対象となることがある。
学生へのメッセージ	臨地実習では、大阪府下の自治体で活躍する保健師の活動の実際を自分の目で見て学習し、指導を受けることできる貴重な機会です。より良い学びにするためにも、自己の学習目標を明確にして実習に取り組みましょう。また、欠席することがないように、体調管理には十分に留意してください。
担当者の研究室等	富永真己 7号館 7研究室 足立安正 7号館 22研究室 安田香 7号館 共同研究室1
備考	

科目名	英語V	科目名 (英文)	English V
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP9◎		
科目ナンバリング	NEN3305c1		

授業概要・目的	本授業では、医療、看護、科学に関する英文学術論文を読解できる能力を養う。また、より多くの情報を得るために、インターネット等を用いた学術論文の収集方法を学習し、学術論文の要点を把握する能力を修得することを目的とする。さらに、医療現場等で必要とされる実用的な英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。
到達目標	1) 医療、看護、科学等に関する英語の代表的な用語を列挙し、その内容を説明できる。 2) 医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。 3) 医療、看護、科学等に関連する英語の代表的な用語、英語表現を列記できる。 4) インターネット等を用いて学術論文の読解に必要な情報を収集できる。 5) 医療、看護、科学等に関する英文学術論文を読解し、その内容を説明できる。
授業方法と留意点	医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読解します。また、英文学術論文を読み、その内容に関する説明資料の作成・発表を行います。辞書を必ず持参して下さい。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (1)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	2	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (2)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	3	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (3)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	4	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (4)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	5	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (5)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	6	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (6)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	7	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (7)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	8	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (8)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	9	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (9)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	10	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (10)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	11	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (11)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	12	英文の学術論文の読み方 (1)	学術論文の読み方について実際の論文を用いて説明する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。

				Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。 復習： 授業で用いた学术论文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	13	英文の学术论文の読み方 (2)	学术论文のデータの読み方について実際の論文を用いて説明する。	
	14	英文の学术论文の要約作成	学术论文の要約を作成する。	復習： 授業で用いた学术论文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	15	英文の学术论文の内容発表 と全体のまとめ	学术论文の内容を発表する。	復習： 授業で用いた学术论文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
関連科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「プリント」を講義で配付します。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	耳から学ぶ楽しいナース英語	野ロジュディー、川越栄子、仁平雅子	講談社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学术论文の発表に用いるプレゼン資料 (20%)、各授業中の発表と学术论文発表 (20%) および定期試験 (60%) で総合的に評価します。なお、出席、受講態度不良の者については20点を限度に減点することがあります。			
学生への メッセージ	本講義は、アドバンス型の英語の講義です。英語の論文を毎週読んでもらいますので、講義外での、予習・準備が相当必要になります。意欲的態度で臨み、積極的に授業に参加し、発表して下さい。			
担当者の 研究室等	1号館5階 生化学研究室 (薬学部)			
備考	事前学習：次回の授業範囲の単語、慣用語句等に関する学習および要約作成・発表に必要な情報調査等 (1時間×15回) 事後学習：授業で用いた英語文章の単語等の復習 (0.5時間×15回)			

科目名	哲学	科目名 (英文)	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1403a2		

授業概要・目的				
到達目標				
授業方法と留意点				
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)				
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考				

科目名	文学	科目名 (英文)	Literature
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	辻 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1404a2		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 物語や説話、絵巻などの古典文学に描かれた、生老病死の諸相を読みます。作品の文化的背景についての講義・作品読解・映像資料など関連作品鑑賞を行います。自身の専門とする学びや、これからの生き方に反映させながら、受講してください。</p> <p>【授業目的】 ・中世のひとびとが、生命や身体をどのように捉えていたかを知る。 ・経験を振り返り、自分を自分たらしめる物語を想う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の生命観・身体観について、具体的に説明できる。 ・自身の生命観・身体観を言語化し、他者に対して表現できる。 ・自分を支える物語を見つけることができる。
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 ・講義形式の授業です。 ・PowerPointにより講義を行います。 ・教科書はありません。適宜、資料を配布します。 ・第2回以降、毎回、ミニレポートを課します。毎回の授業後に提出してください。 ・ミニレポートに対しては、翌回の授業でフィードバックとして全体講評を行います。</p> <p>【留意点】 ・質問は、授業の前後か、メールで受け付けます。</p>

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「生」を読む —ガイドランス—	授業の説明 講義	【事前学習】 シラバスをよく読む (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
2	「子ども」を読む (1) —こどもとは誰か—	講義 ミニレポート	【事前学習】 子どもに関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
3	「子ども」を読む (2) —語られる成長—	講義 ミニレポート	【事前学習】 子どもに関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
4	「妊娠」を読む —密教と胎児—	講義 ミニレポート	【事前学習】 妊娠に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
5	「出産」を読む —出産の文化史—	講義 ミニレポート	【事前学習】 出産に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
6	「育児」を読む —母乳の文化史—	講義 ミニレポート	【事前学習】 母乳育児に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
7	「性」を読む —日本の性愛—	講義 ミニレポート	【事前学習】 性愛に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
8	「身体」を読む —身体は誰のもの—	講義 ミニレポート	【事前学習】 身体に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
9	「老い」を読む —老いの文化史—	講義 ミニレポート	【事前学習】 老いに関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
10	「病」を読む —描かれる病—	講義 ミニレポート	【事前学習】 病に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
11	「死」を読む —死は誰のもの—	講義 ミニレポート	【事前学習】 死に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
12	「死体」を読む —描かれる死体—	講義 ミニレポート	【事前学習】 死体に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
13	「死後」を読む	講義	【事前学習】

		—死後の世界—	ミニレポート	死後の世界について知っている情報をリストアップする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	14	「魂」を読む —描かれる幽霊—	講義 ミニレポート	【事前学習】 幽霊について知っている情報をリストアップする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	15	再び、「生」を読む —詩歌の世界—	講義 ミニレポート	【事前学習】 思い出深い出来事を、言葉で他者に伝えられるようにする (60分) 【事後学習】 自分の基礎となっている物語を振り返る (60分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のミニレポートの提出状況と内容により評価します。定期試験や期末レポートはありません。 ・全14回(第2回～15回)のミニレポートのうち、6回以上未提出であれば、合格できません。ただし、提出の回数を満たしていても、内容が不十分であれば、合格に達しないことがあります。 ・ミニレポートの評価基準は、以下の5つです。 <ol style="list-style-type: none"> ①授業(講義資料)の理解度 ②与えられた問いに答えているか ③分量は十分か ④その回の条件をクリアしているか(タイトルを付ける、ミニワークに取り組む等) ⑤自分 			
学生への メッセージ	<p>高等学校の「古文」が苦手だった人も歓迎します。 古典文法や古文単語を覚えていなくても全く問題ありません。 一緒に、古典世界を楽しく学びましょう。</p>			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>メールでのお問い合わせの際は、以下を厳守してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の学生であることを明記 ・大学のアカウントから送信(標的型攻撃メールとの区別が付かないため、プライベートアドレスから送信されたメールは開封しません) ・曜日時限・授業名・授業回数・学生番号・氏名を明記 ・件名(件名がないと迷惑メールに振り分けられてしまいます) ・これらの情報がそろっていないメールには、対応できない場合があります <p>すぐに返信できない場合がありますので、余裕をもってお問い合わせください。 メールアドレスは、毎</p>			

科目名	経済学	科目名 (英文)	Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 昌宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01411a2		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 経済学は、近代以降の科学や産業の発展と共に進歩してきた学問分野です。社会の豊かさの追求やその過程で直面する各種の課題（経済発展、貧困や格差の解消問題、社会保障の給付と負担の問題、環境問題など）の解決を求めていく上で、経済学の考え方やそれに基づく政策は重要な役割を果たします。本講義では、身近なトピックスから経済学的視点に基づく問題意識を持ってもらった上で、教科書に則してミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学習して理解してもらい、獲得した知識をどのように現実問題の解決に活用するかを育て、最後に我々が直面する各種課題、特に医療分野での課題にどのように応用できるかを考えてもらいます。</p> <p>【講義の目標】 一般教養としての経済学の基礎知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて身の回りの社会経済の仕組みや時事問題を理解して、問題の原因や解決策を自らで考えられることができる知識とスキルを獲得することを目標とします。また、経済学の医療制度の分野への応用としての診療報酬の決め方、逆選択が起こりがちな医療保険や増大し続ける医療費の問題などを扱う、専門科目である医療経済論への橋渡しをすることも目標の一つとします。</p>			
	到達目標	経済学は、消費者および生産者のよりミクロな（小さな）個別の行動に着目して分析するミクロ経済学と財市場や貨幣市場や労働市場やGDPなどのよりマクロな（大きな）観点から分析するマクロ経済学に大別されます。本講義では、これらのミクロとマクロの両面の視点で経済学的に経済主体の行動原理や社会の仕組みを理論に基づいて解説しますので、受講生は、環境問題、経済格差問題、不況問題など、身の回りの諸問題の原因と解決策を考えるにあたって必要な経済学の基本知識を習得し、経済学の医療分野への応用としての診療報酬の決め方、逆選択が		
授業方法と留意点	教科書に基づき、また pdf ファイルで配布する資料などを用いて、パワーポイントのスライドや板書を活用して講義を行います。 各回の講義の事前学習として、各回の学習方法・自己学習課題の欄に示した教科書の指定箇所を一通り読んでください。（予習として30分） この際、理解できない箇所をノートに箇条書きしておくなり、付箋（ポストイット）に書き込んで該当箇所に貼り付けておくとういでしょう。 講義の補助として、Moodle を利用して、各種資料、教材、講義のポイントをまとめたノートなどを提供します。			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに：講義の概要と講義の進め方	15回の講義で何を学ぶかを概説します。また、経済学的な考え方を例を用いて説明します。	
	2	経済学の課題と日本経済の現状の理解	教科書の第1部（pp. 2-56）を解説します。	事前に教科書の第1部を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の第1部を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	3	所得制約のもとで効用最大化を図る消費者行動の理論の理解	教科書の第2部第4章（pp. 58-74）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	4	技術制約のもとで費用最小化を図る生産者行動の理論の理解	教科書の第2部第5章（pp. 75-92）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	5	市場（しじょう）の分類と完全競争のもとでの市場均衡と調整過程の理論の理解	教科書の第2部第6章（pp. 93-110）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	6	不完全競争市場では価格と数量はどのように決定されるかの理論の理解	教科書の第2部第7章（pp. 111-134）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	7	マーケットメカニズム（市場機構）の優れた点とその限界としての市場の失敗の理解	教科書の第2部第8章（pp. 135-149）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	8	比較優位の原理に基づく国際貿易と国際資本移動の理論の理解	教科書の第2部第9章（pp. 150-171）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	9	不確実性や不完全情報のもとでの消費者行動や所得分配の不平等に関する理論の理解	教科書の第2部第10章（pp. 172-193）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	10	GDPをはじめとする国民所得の諸概念と均衡所得の決定理論の理解	教科書の第3部第11章（pp. 196-209）と第3部第12章（pp. 210-221）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	11	財市場と貨幣市場の理論であるIS-LM分析の理解	教科書の第3部第13章（pp. 222-237）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	12	貨幣賃金上昇率と失業率との関係を示すフィリップ曲線、合理的期待仮説、為替レートの決定理論の大まかな理解	教科書の第3部第14章（pp. 238-256）、第15章（pp. 257-277）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。

	13	景気循環ならびに経済成長の理論の理解とマクロ経済学の諸理論の背後にある個々人の合理的行動を分析するマクロ経済学のミクロ的基礎の大まかな理解	教科書の第3部第16章 (pp. 278-292)、第17章 (pp. 293-314) を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	14	経済学の新しい課題と直面している諸問題の解決に向けての取組の理解	教科書の第4部 (pp. 316-374) を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	15	まとめ:何を学んできたかの振り返り	教科書全体を対象に、これまでの14回の講義で説明してきたことの要点を説明します。	教科書全体を通じて、理解が難しかった概念や理論を書き出してから講義に臨んでください。
関連科目	医療経済論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経済学・入門	塩澤修平	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	第1回から第14回までの毎回の講義で課す課題に対するレポートが56%、定期試験が44%。			
学生へのメッセージ	経済学は、消費者および生産者のよりミクロな(小さな)個別の行動に着目して分析するミクロ経済学と財市場や貨幣市場や労働市場やGDPなどのよりマクロな(大きな)観点から分析するマクロ経済学に大別されます。これらのミクロとマクロからの視点で経済学的に経済主体の行動原理や社会の仕組みを理論に基づいて理解していると、環境問題、経済格差問題、不況問題など、身の回りの諸問題の原因と解決策を考えるのに役立つだけでなく、診療報酬の決定や医療保険へ加入するかどうかの決定問題や増大する医療費問題など、看護学部の学生の皆さんの			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考	教科書に基づき、またpdfファイルで配布する資料などを用いて、パワーポイントのスライドや板書を活用して講義を行います。各回の講義の事前学習として、各回の学習方法・自己学習課題の欄に示した教科書の指定箇所を一通り読んでください。(予習として30分)この際、理解できない箇所をノートに箇条書きにしておくなり、付箋(ポストイット)に書き込んで該当箇所に貼り付けておくといでしょう。講義の補助として、Moodleを利用して、各種資料、教材、講義のポイントをまとめたノートなどを提供します。			

科目名	臨床医療演習 I	科目名 (英文)	Clinical Medical Seminar I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松本 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2505a3		

授業概要・目的	<p>[授業概要] 看護の対象となる人々への看護実践する上で必要となる専門的知識について学習する。また、対象の観察やコミュニケーションを通して、対象を理解するための情報収集を行う。対象者のニーズについて、情報から科学的根拠に基づいてアセスメントし看護技術を提供する。さらに、医療チームの一員としての倫理観やチームワーク等の臨床実践に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>[目的] 看護の対象およびその家族のニーズについて、健康レベルや生活背景を踏まえ、科学的根拠に基づいてアセスメントし、アセスメントをもとにした模擬患者への看護実践ができる。模擬患者への看護実践や患者役の体験を通して、患者とのコミュニケーション・臨床判断・看護技術などの実践上の自身の課題に気付くことができる。また、演習を通じて、看護職者としての倫理観、保健医療チームの一員として意欲的に他者と協働関係を築くための基礎的能力を養う。</p>
---------	---

到達目標	<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象のニーズを把握するために必要な対象の観察、対象とのコミュニケーションができる。 2. 対象のニーズについて、収集した情報から科学的根拠に基づきアセスメントし、看護実践ができる。 3. 対象のニーズを充足するために必要な知識及び看護技術について習得する。 4. 多職種それぞれの役割を理解し、知識・技術を活かし合えるよう、看護の役割を説明できる。 5. 生活文化に対応したエンド・オブ・ライフ・ケアについて理解できる。 6. 臨終期にある対象とその家族に求められる援助やグリーフケアを理解
------	---

授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って進める。授業方法は、学内演習を中心とする。
----------	----------------------------------

科目学習の効果 (資格)	3年次以降の臨床実習で実際に活用できる能力を習得する科目であり、看護師国家試験内容にも関連している。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	エンド・オブ・ライフとは	【講義・演習】 エンド・オブ・ライフの概念について学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
2	エンド・オブ・ライフに関連する文化の理解①	【演習】 エンド・オブ・ライフに関連する社会的背景や文化について国内外の現状を学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
3	エンド・オブ・ライフに関連する文化の理解②	【演習】 エンド・オブ・ライフに関連する社会的背景や文化について国内外の現状を検討し、GWで共有します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
4	臨終時の看護①	【講義・演習】 臨終期にある対象とその家族に求められる援助やグリーフケアを学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
5	臨終時の看護②	【演習】 看取り時の際の対象者や家族へのかかわり、対話について学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
6	エンゼルケア	【講義】 ゲストスピーカーによるエンゼルケアの実践について学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
7	死生観	【演習】 「生き生きを支える」ための意思決定への支援をGWで検討し、自己の死生観を振り返ります。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
8	専門的知識の活用①	【講義・演習】 ・摂食・嚥下障害、栄養管理の基本的考え方について学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
9	専門的知識の活用②	【講義・演習】 ・事例患者に生じている摂食・嚥下障害及び栄養障害を理解し、必要な治療・ケアについて学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
10	専門的知識の活用③	【講義・演習】 ・収集した情報から根拠に基づきアセスメントして、事例患者のニーズを把握し、優先すべき問題を明確にします。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
11	退院後を見据えた目標設定	【演習】 ・退院後の生活に向けた患者のニーズ、生活上の問題を明確にします。 ・退院に向けての医療チームの関わりについて学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
12	ケア立案①	【演習】 ・事例患者のニーズを満たすために、必要な計画についてグループで話しあい、根拠に基づく具体的な計画を立案します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
13	ケア立案②	【演習】 ・立案した計画を、グループごとに発表し、質疑応答をふまえて、計画を修正します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
14	援助の実施①	【演習】 ・模擬患者とコミュニケーションを図り	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分)

			ながら、援助を実施します。 ・実践および患者体験により、実践上の課題について振り返り、改善策を検討します。	事後課題：課題の提出(30分)
	15	援助の実施②	【演習】 ・各グループの実践内容、振り返り、改善策についてグループごとに発表し、学びを共有します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
関連科目	これまで履修した専門基礎科目と専門科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 経過別成人看護学 4 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア	田村恵子	メヂカルフレンド社
	2	パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護 I 急性期・周術期<第2版>	井上智子	照林社
	3			
評価方法(基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。演習課題(レポートや記録等)の達成状況：80点、および演習態度(積極性や取り組みへの姿勢等)20点により総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	本授業では、各教員の病院での実践経験を踏まえて授業内容を教授します。1・2年次に学修した内容をもとに、授業を実施します。既修科目の内容について、復習をしておいてください。授業のスケジュールは、初回に具体的に別途説明します。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業中、もしくは授業終了後にフィードバックします。			
担当者の研究室等	第1回～第7回：7号館 3階 松本葉子 研究室 (28) 第8回～第15回：7号館 3階 稲垣範子 研究室 (25)			
備考				

科目名	臨床医療演習Ⅱ	科目名 (英文)	Clinical Medical Seminar II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	竹下 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2506a3		

授業概要・目的	医療の高度化・複雑化及び医療の質や安全性の向上に伴い、多職種によるチーム医療が様々な臨床で実践されている。その中で、看護学と工学の新たな科学的知見に基づく考えや技術の導入が求められている。本科目では、人間工学、建築環境工学、情報科学の基礎知識を学修し、看護学と工学の融合について考える。
到達目標	1) 人間工学の定義、目的を説明できる 2) 建築環境工学の定義、目的を説明できる 3) 情報科学の定義、目的を説明できる 4) 看護学における工学の役割が理解できる 5) これからの看護学と工学の融合について考察できる
授業方法と留意点	講義と施設の見学を通して、人間工学、建築環境工学、機械工学の基礎を理解しやすいように解説する。施設の見学後はグループワークを行い、学生間で学びの共有ができるよう発表の時間を設ける。講義、施設見学、グループワークの一連の学習により、看護における工学の役割について理解する。授業日程は、別途スケジュールを提示します。授業内で課した課題に対しては、教員からの助言や提案等を授業内あるいは授業後にフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	本科目は、看護学と工学の融合した学問の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護学における工学の理解	看護学における工学とは	事前学習：配布資料を読んでおく (30分) 事後学習：授業で考察したことを記録しておく (30分)
2	人間工学の基礎 (1)	人間工学の定義	事前学習：人間工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
3	人間工学の基礎 (2)	臨床における人間工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている人間工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
4	建築環境工学の基礎 (1)	建築環境工学の定義	事前学習：建築環境工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
5	建築環境工学の基礎 (2)	臨床における建築環境工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている建築環境工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
6	機械工学の基礎 (1)	機械工学の定義	事前学習：機械工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
7	機械工学の基礎 (2)	臨床における機械工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている機械工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
8	工学の実際 (1)	工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
9	工学の実際 (2)	工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
10	工学の実際 (3)	工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
11	工学の実際 (4)	工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
12	看護学における工学の理解 (1)	これまでの学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合について考察する	事前学習：発表資料作成のための情報・資料収集 (30分) 事後学習：発表資料作成 (30分)
13	看護学における工学の理解 (2)	これまでの学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合について考察する	事前学習：発表資料作成のための情報・資料収集 (30分) 事後学習：発表資料作成 (30分)
14	看護学と工学のこれから (1)	看護学と工学のこれからについて考察した内容を発表する	事前学習：発表資料作成 (30分) 事後学習：発表資料を仕上げ提出する (30分)
15	看護学と工学のこれから (2)	看護学と工学のこれからについて考察した内容を発表する	事前学習：発表資料作成 (30分) 事後学習：発表資料を仕上げ提出する (30分)

関連科目	これまで履修した専門科目のすべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護理工学	真田弘美・森武俊 編	東京大学出版会

	2			
	3			
評価方法 (基準)	施設見学への参加、課題への取り組み（ディスカッション、質問）、課題レポートや発表資料の提出内容により 100%総合的に評価する。したがって、課題は指定された期日までに忘れず提出をしてください。			
学生への メッセージ	担当される先生方は、人間工学、温熱環境工学、情報生命科学におけるエキスパートで、この科目は看護学と工学の融合という新しい学問領域になります。施設見学と講義を通して、担当の先生方から学んだことを基に、学生間でのディスカッションを行い、みなさんからの斬新なアイデアが創出されることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館3階 竹下（研究室30）			
備考				

科目名	臨床医療実践演習	科目名 (英文)	Clinical Medical Practice
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2507a3		

授業概要・目的	チーム医療を推進するために、多職種および地域医療機関などにおける協働や連携に関して、現状を把握し、今後のあり方を考察する。本科目では、看護師および薬剤師との連携、役割と機能への理解を深めるため、チーム医療の行われる実践の場での活動例や体験などを基に、実践的に修得する。
到達目標	ここでは、さまざまな年齢層や生活の背景をもった人が集まるコミュニティ活動に場を広げ、健康づくりにおける支援策を検討する。また、コミュニケーション合意形成のプロセス等、協働したチーム医療活動することについて、より発展的な学習を目指す。 1. 地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識を獲得する。 ①モデル地区が抱える地域医療の課題を理解し、地域における健康に関する課題に対し介入方法を考案する。 ②地域で暮らす様々な健康レベルにある人、その家族の生活について理解する。 ③地域社会を健康の視点から捉える方法を理解する。 ④地域で暮らす人々の健康を支える資源・システムを理解する。 ⑤ヘルスプロモーションの理念および地域の健康を推進する方策を理解する。 2. パートナーシップを形成する基本的態度を獲得する。
授業方法と留意点	事前・事後学習をもとにグループ内でのディスカッションを経て提言をまとめていく。6年前から関わりのある松塚地区をモデル地区として、保健医療福祉について考える。学生主体の能動的学習が主な授業方法となる。
科目学習の効果 (資格)	地域の活性化、地域医療、健康寿命の延伸に関わる活動に参加することは、看護職者の役割の広がりを体感することとなり、看護の機能・役割を再認識することに寄与する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	松塚地区の地域医療とチーム医療の取り組み(公助、共助(互助)、自助) 地域診断について	演習形式 統計資料を基に、松塚地区の健康概況を学ぶ 地域診断の重要性、地域診断を行うための地区踏査の方法について学ぶ	事前:松塚地区の人口動態、衛生統計資料を収集する(0.5時間) 事後:地域診断方法について復習し、地区踏査の視点をまとめておく(0.5時間)
3	地区踏査の実施	実践 松塚地区の地区踏査を行う 交野市社会福祉協議会、松塚地区地区長、松の実カフェ運営者といった方々とディスカッションを行う。	事後:地区踏査の視点に沿って、まとめる。写真、資料などの選択をする
4	地区踏査の実施	実践 松塚地区の地区踏査を行う 交野市社会福祉協議会、松塚地区地区長、松の実カフェ運営者といった方々とディスカッションを行う。	事後:地区踏査の視点に沿って、まとめる。写真、資料などの選択をする
5	地区踏査の整理	演習形式 地区踏査の内容をマップにする。既存資料やインタビューで得た内容を合体し松塚地区の地域診断を明らかにする	事後:時間内にマップ作りができなかった場合は、グループで作成する(1時間)
6	地区踏査の発表	実践 地域診断の結果について、松塚地区の方々にプレゼンテーションを行う	事前:発表の資料、役割を決めプレゼンできるようにしておく(1時間)
7	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの企画-	演習形式 健康教育・学習において効果的な媒体の学習を行う 松塚地区の地域診断を基に、また、現在の健康トピックスを検討しテーマを決め、健康だよりの1ページ分を企画・作成する既存の媒体の検討	事前:①健康教育・学習の効果的な媒体作成について学習しておく(0.5時間) ②既存の健康だよりの資料を集めておく(0.5時間) ?健康に関するトピックスについて案をもちよる(1時間) 事後:グループ課題を自己で行う(1時間)
8	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの作成-	演習形式 健康教育・学習において効果的な媒体の学習を行う 松塚地区の地域診断を基に、また、現在の健康トピックスを検討しテーマを決め、健康だよりの1ページ分を企画・作成する既存の媒体の検討	事後:グループ課題を自己で行う(1時間)
9	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(1)	演習形式 松塚区民祭りでのアクティブエイジング健康チェックの企画を立案する P.Pモデルを用いてニーズを分析し、企画書、指導案を作成していく	事前:①昨年の状況について情報を収集しておく。 ②企画案に必要な項目を学習する(0.5時間) 事後:グループ課題を行う(0.5時間)
10	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(2)	演習形式 松塚区民祭りでのアクティブエイジング健康チェックの企画を立案する P.Pモデルを用いてニーズを分析し、企画書、指導案を作成していく	事後:グループ課題を行う(1時間)
11	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康	同上 関係機関、関係者、ボランティア学生と	事後:企画書、スケジュール、役割、アンケートを指定期日までに作成する(1時間)

		チェック- 企画(3)	の打ち合わせに参加する アンケートの作成																	
	12	アクティブエイジング健康 チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打 ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5 時 間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にして おく(0.5時間)																
	13	アクティブエイジング健康 チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打 ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5 時 間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にして おく(0.5時間)																
	14	アクティブエイジング健康 チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打 ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5 時 間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にして おく(0.5時間)																
	15	アクティブエイジング健康 チェックの評価	演習形式 当日の全体の状況、アンケート集計結果 から健康チェックの評価を行う アンケートについては、事前に入力し図 表に表しておく 健康認識、健康状況、昨年からの改善な どから健康チェックの意義・改善点につ いて提言する	事後:レポートを期日までに作成し提出する(1 時 間)																
関連科目	各領域別看護学、公衆衛生看護学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Karen Glanz 編 曾根智史訳</td> <td>健康行動と健康教育-理論、研究、 実践-</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著</td> <td>健康教育論</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>厚生統計協会(最新号)</td> <td>国民衛生の動向</td> <td>厚生統計協会</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Karen Glanz 編 曾根智史訳	健康行動と健康教育-理論、研究、 実践-	医学書院	2	宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著	健康教育論	メヂカルフレンド社	3	厚生統計協会(最新号)	国民衛生の動向	厚生統計協会
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Karen Glanz 編 曾根智史訳	健康行動と健康教育-理論、研究、 実践-	医学書院																	
2	宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著	健康教育論	メヂカルフレンド社																	
3	厚生統計協会(最新号)	国民衛生の動向	厚生統計協会																	
評価方法 (基準)	企画書、指導案、作品、実践レポートについて 60%、地域活動の実践状況について 40%の評価を行う。																			
学生への メッセージ	この科目は、学生の能動的学習が中心です。松塚地区の概況やそこに暮らす人々の健康・生活・思考に興味関心を抱き、健康増進へ向けての課題を多職種や住民の方々と検討していきたいと考えています。領域別実習で身につけてきた知識・技術・態度を十分に発揮して、チーム医療の本来の在り方や地域包括ケアの在り方について実践を踏まえて考えていきましょう。この科目の主担当である山本十三代は、医療機関で保健師として継続看護や訪問看護を行ってきました。また、保健師養成専門学校では、健康教育、地区組織活動、地区活動といった講義・演習・実																			
担当者の 研究室等	山本十三代 研究室 5 田中真佐恵 共同研究室 2																			
備考	課題のフィードバックについては、毎回の授業時にグループ単位で行います。																			

科目名	薬物治療学	科目名 (英文)	Pharmacotherapeutics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 雅幸
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1009a0		

授業概要・目的
薬理学総論で修得した薬物の作用機序をもとに、さらに幅を広げ、全身の各種疾患に対して科学的根拠に基づいた薬物治療を行うための実践的な医薬品の使用方法を学ぶ。教員の大学病院薬剤部における実務経験を基に、医療チームの一員として患者の治療に貢献できる看護師となるべく、医薬品を投与した際の患者の管理や観察に必要な知識・技能・態度を身につけることを目的に講義を行う。

到達目標
以下の治療薬について、作用、副作用と看護上の留意点を交えて説明できる。

- ・心臓・血管系疾患治療薬
- ・血液・造血器系疾患治療薬
- ・消化器系疾患治療薬
- ・呼吸器系疾患治療薬
- ・腎臓・尿路・生殖器系疾患治療薬
- ・ホルモン関連薬
- ・代謝系疾患治療薬
- ・抗炎症薬、鎮痛薬
- ・免疫・アレルギー系疾患治療薬
- ・骨・関節系疾患治療薬
- ・抗感染症薬
- ・抗がん薬
- ・中枢神経系疾患治療薬
- ・感覚器・皮膚系疾患治療薬
- ・外科手術で用いられる薬物
- ・救急の際に用いられる

授業方法と留意点
下記の授業計画に沿って講義を行います。臨床的観点からの薬物治療や新薬の話題を合わせて提供します。事前事後学修のテスト（予習テスト・復習テスト）および講義中の確認テストを毎回の授業で実施する予定です。

科目学習の効果（資格）
看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の概要 心臓・血管系疾患治療薬（1）	講義の進め方、注意事項、評価方法について説明する。心臓・血管の構造とはたらき、高血圧と治療薬、虚血性心疾患と治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
2	心臓・血管系疾患治療薬（2）	心不全と治療薬、不整脈と治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
3	血液・造血器系疾患治療薬 消化器系疾患治療薬（1）	血液と造血器系、貧血と治療薬、抗血栓薬と止血薬、血液製剤、消化性潰瘍と治療薬、食欲不振・消化不良と治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
4	消化器系疾患治療薬（2） 呼吸器系疾患治療薬	嘔吐と治療薬、下痢・便秘と治療薬、腸疾患と治療薬、肝臓・脾臓疾患と治療薬、呼吸器系のしくみ、気管支喘息と治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸抑制と呼吸刺激薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
5	腎臓・尿路・生殖器系疾患治療薬 ホルモン関連薬（1）	腎臓の構造とはたらき、電解質平衡異常と治療薬、利尿薬、神経因性膀胱と治療薬、前立腺肥大症と治療薬、その他の泌尿器系疾患と治療薬、内分泌系について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
6	ホルモン関連薬（2）	視床下部一下垂体系と関連薬、甲状腺ホルモンと関連薬、副腎皮質ホルモンと関連薬、性ホルモンと関連薬、副甲状腺ホルモンとカルシトニンについて学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
7	代謝系疾患治療薬（1）	糖尿病と治療薬、脂質異常症と治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
8	代謝系疾患治療薬（2） 抗炎症薬・鎮痛薬	高尿酸血症・痛風、抗炎症薬、鎮痛薬、疼痛治療の考え方について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
9	免疫・アレルギー系疾患治療薬 骨・関節系疾患治療薬	免疫のしくみと異常、免疫異常による疾患の治療薬、免疫抑制薬、骨・カルシウム代謝、骨粗鬆症と治療薬、関節リウマチと治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
10	抗感染症薬（1）	感染症と病原微生物、感染症と抗菌薬治療、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、駆虫薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
11	抗感染症薬（2） 抗がん薬（1）	消毒薬、予防接種、がんの基礎知識と治療、抗がん薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
12	抗がん薬（2） 中枢神経系疾患治療薬（1）	抗がん薬、中枢神経系の構造とはたらき、不眠症と治療薬、不安障害と治療薬、統合失調症と治療薬について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
13	中枢神経系疾患治療薬（2）	気分障害と治療薬、てんかんと治療薬、パーキンソン病と治療薬について学修	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習して

			する。	ください。
	14	中枢神経系疾患治療薬（3） 感覚器・皮膚系疾患治療薬 外科手術で用いられる薬物（1）	認知症と治療薬、脳血管障害と治療薬、 皮膚疾患と治療薬、眼疾患と治療薬、耳 疾患と治療薬、全身麻酔薬、局所麻酔薬 について学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30 分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習して ください。
	15	外科手術で用いられる薬物 （2） 救急の際に用いられる薬物 中毒と解毒薬 漢方薬 薬物療法における看護のポ イント	筋弛緩薬、造影剤および放射性医薬品、 救急の際に用いられる薬物、中毒、解毒、 漢方薬、薬物療法における看護のポイン トについて学修する。	指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30 分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習して ください。
関連科目	人体の構造と機能 I～IV、疾病・治療論 I、II、薬理学総論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護学テキスト NiCE 薬理学	荻田喜代一 他 編	南江堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	定期試験（70%）、予習テスト+講義中テスト+復習テスト（30%）で評価し、100点満点の60点以上で合格とする。 受講態度が不良の場合は、20点を限度に減点することがあります。			
学生への メッセージ	授業担当の田中は、関西医科大学附属病院で薬剤師として20年間勤務し、現在も非常勤職員として業務を行っている経験から、薬物治療に関する実践的な教育を行います。私達が日常の生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で医師・薬剤師と意見交換が出来るよう、薬物に関する基礎的な知識を身につけましょう。			
担当者の 研究室等	1号館1階 田中准教授室			
備考	予習テスト、復習テストはmoodle、講義中テストはFormsで行う予定です。 なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、連絡します。			

科目名	病院薬学演習	科目名 (英文)	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	菊田 真穂
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	NDN1010a0		

授業概要・目的	薬に強い看護師になるために、(模擬)処方せんを用いた注射剤等の医薬品調製や(模擬)患者に対する薬の説明を実践する中で、そのために必要な医薬品や衛生管理の専門知識を理解・修得することを目指す。
到達目標	医師や薬剤師を含むチーム医療を支える看護師になるために、薬剤に関わる基本的な実務(技能)を体験し、その技能の根拠となる薬の基本的な専門知識(「薬が効くとはどういうことか」など)を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義(7もしくは8号館にて実施)とグループワーク(3もしくは5号館にて実施)を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果(資格)	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・処方鑑査 代表的な処方の方意図を理解する	講義(小森)	講義(授業)内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。 講義前の予習(関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
2	生化学的知見から見た薬① 糖・脂質代謝と関連する検査や治療薬について理解する	講義(竹内)	講義前の予習(関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
3	生化学的知見から見た薬② 核酸代謝と関連する検査や抗がん剤について理解する	講義(竹内)	講義前の予習(関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
4	検査薬の原理① 医薬品の規格や免疫学的検査(インフルエンザ検査や妊娠検査など)について理解する	講義(小西元美)	講義前の予習(関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
5	課題症例 ～患者に提供すべき「医薬品情報」と「ケア」を考える～	グループワーク (菊田・小森・小西麗子・三田村)	グループワーク前の予習(関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
6	課題症例 ～患者に提供すべき「医薬品情報」と「ケア」を考える～	グループワーク (菊田・小森・小西麗子・三田村)	グループワーク前の予習(関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
7	課題症例 ～患者に提供すべき「医薬品情報」と「ケア」を考える～	グループワーク (菊田・小森・小西麗子・三田村)	グループワーク前の予習(関連図書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
8	医薬品情報提供書の作成の基本を理解し、服薬指導を実践する(発表会)	プレゼンテーション (菊田・小森・小西麗子・三田村)	プレゼンテーション前の予習(関連図書を読む) : 1時間程度 復習(発表後の振り返り) : 1時間程度
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	薬理学総論、薬物治療学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ④ 疾病の成り立ち-臨床薬理学	古川裕之、赤瀬智子、林正健二	メディカ出版
2	ナーシンググラフィカ② 臨床生化学	宮澤忠二	メディカ出版	
3				

評価方法(基準)	受講態度70%および成果物30%(発表内容を含む)で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には20点を限度に減点することがある。100点満点中60点以上で合格。 新型コロナウイルスの感染状況により変更がある場合、別途、連絡する。
----------	--

学生へのメッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称をはじめとする多くの専門知識を学ぶことになると思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。
-----------	---

	<p>授業担当者は臨床経験を有した教員4名に加え、生化学や分析化学などの専門領域から医薬品を教育できる教員2名の計6名が指導します。</p>
<p>担当者の研究室等</p>	<p>1号館2階 薬学教育センター 統合薬学分野 (小西元美) 1号館4階 実践薬学研究室 (小森浩二・小西麗子) 1号館5階 生物系薬学分野 (竹内健治) 6号館3階 医療薬学研究室 (菊田真穂・三田村しのぶ)</p>
<p>備考</p>	<p>講義前の予習 (教科書を読む) : 1時間×8回 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間×8回</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、連絡する。</p>

科目名	カウンセリング論	科目名 (英文)	Counseling
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	吉田 幸平
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2011a0		

授業概要・目的	対人援助職が臨床現場で求められる能力は多岐に渡り、その中に「コミュニケーションの技術」が含まれます。臨床現場で生じるコミュニケーションは日常で用いられるコミュニケーションとは異なるものであり、専門的な知識と訓練及び経験を必要とします。カウンセリング論では、臨床心理学の理論と実践内容を学習することでコミュニケーションの技術を獲得することを目標とする講義です。担当講師は、医療現場（主として緩和ケア領域）で活動している現役の臨床心理士・公認心理師です。講師の実際のケースを紹介することで治療的コミュニケーションを学ぶ機会を提供したいと思います。
到達目標	本授業を通して、受容・共感といった対人援助職に必要な職業的姿勢に加え、臨床場面におけるコミュニケーションの技術を学ぶことができる。

授業方法と留意点	本授業は集中講義の形式を採り、講義に加え、グループワーク（※1）などの演習を中心に授業を進めます。その性質上、遅刻や欠席はグループワークの進行を困難にするため、やむを得ない場合を除き原則として遅刻・欠席は認めません。 授業日の最後の時間に、毎回レポートを課します。本授業はレポート及びグループワークへの積極的参加を評価対象とするため、必ず提出を求める。もし提出が困難な場合は、速やかに講師に相談すること。 授業日の最初の講義で質疑応答の時間を設けます。学生は前回の講義やグループワークで疑問に感じたことなど
----------	---

科目学習の効果（資格）	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	カウンセリング総論①	ロールプレイ① 看護とカウンセリングの相違 カウンセリング総論	講義内容の理解を深めましょう。積極的にグループワークに参加しましょう。
2	カウンセリング総論②	コミュニケーションとは 治療場面における信頼関係の意義 信頼関係の構築のプロセス	講義内容の理解を深めましょう。
3	カウンセリングの技法①	質問の性質と効用 信頼関係構築の技法	講義内容の理解を深めましょう。
4	カウンセリングの技法②	ロールプレイ②	積極的にグループワークに参加しましょう。
5	症例提示①	講師によるカウンセリングの症例発表① レポート①	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。
6	振り返り	質疑応答 ロールプレイ③（復習）	積極的にグループワークに参加しましょう。予習として、前回の講義資料を再読しておきましょう（1時間）。
7	カウンセリングにおけるアセスメント	アセスメントの重要性 治療方針としてのアセスメント	講義内容の理解を深めましょう。
8	カウンセリングの技法③	“問題志向”と“解決志向” 患者のリソースを探す質問法	講義内容の理解を深めましょう。
9	カウンセリングの技法④	ロールプレイ④	積極的にグループワークに参加しましょう。
10	症例提示②	講師によるカウンセリングの症例発表② レポート②	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。
11	振り返り	質疑応答 ロールプレイ⑤	積極的にグループワークに参加しましょう。予習として、前回の講義資料を再読しておきましょう（1時間）。
12	カウンセリングにおける治療者の留意点	転移と逆転移、治療者の“枠組み” 「巻き込まれ」と「燃え尽き」	講義内容の理解を深めましょう。
13	カウンセリングの技法⑤	能動的介入技法 変化を促す介入	講義内容の理解を深めましょう。
14	カウンセリングの技法⑥	ロールプレイ⑥	積極的にグループワークに参加しましょう。
15	症例提示③	講義内容の総括 レポート③	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。

関連科目	臨床心理学
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	レポート 70%、授業への積極的な関与 30% ※集中講義形式のため、3日とも当日レポートを課します。 ※グループワークを重視するため、積極性も評価の対象とします。
----------	--

学生へのメッセージ	この授業では、講義はもちろんのこと、ロールプレイなどの実践形式の演習を中心に進めていきます。実際に臨床場面に出てその場で患者さんに接する際に役立つコミュニケーション能力を学習してもらうことが重要と考えているためです。楽しみながら、実際のカウンセリングの内容を学習していきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	授業時間外の質問に対しては、授業当日に連絡先を提示します。
----	-------------------------------

科目名	疾病・治療論Ⅱ	科目名 (英文)	Clinical Medicine II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷 利香
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP7Δ		
科目ナンバリング	NDN1013a0		

授業概要・目的	看護の場において、病気が生じる原因と病態、および治療法を理解することは重要です。本授業では、看護職者に必要となる様々な病態と診断、治療法を理解します。
到達目標	本科目では、主に消化器疾患、血液疾患、内分泌・代謝疾患、アレルギー疾患、腎・泌尿器疾患に関する理解を深め、これらの疾患を持つ患者さんへの医学診断と対処法、治療法を学び、将来の、的確で質の高い看護の実践に役立てます。
授業方法と留意点	対面授業
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	血液 2 造血器腫瘍	①白血病の分類、症候を説明できる。 ②骨髄異形成症候群を説明できる。 ③悪性リンパ腫の分類を概説できる。 ④多発性骨髄腫を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく (1 時間)。授業後は学んだ内容の復習すること (1 時間)。
3	免疫・アレルギー 1 免疫総論	①自然免疫と獲得免疫について概説できる。 ②液性免疫、細胞性免疫、T リンパ球、B リンパ球について説明できる。 ③炎症の四徴を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく (1 時間)。授業後は学んだ内容の復習すること (1 時間)。
4	消化器総論 (解剖・生理・症候) と画像検査 (内視鏡、CT)、腫瘍性疾患	①食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違いを説明できる。 ②肝の構造と機能を説明できる。 ③胃液の作用と分泌機序を説明できる。 ④胆汁の作用と胆嚢収縮の調節機序を説明できる。 ⑤小腸における消化・吸収の仕組みを説明できる。 ⑥大腸における糞便形成と排便の仕組みを説明できる。 ⑦消化器系疾患の画像検査を列挙し、その適応と異常所見を説明できる。 ⑧生検と細胞診の意義と適応を説明できる。 ⑨食道癌・胃癌の病理所見、肉眼分類と進行度分類、症候、診断、治療と予後を説明できる。 ⑩大腸癌の病理	授業前に教科書の当該章を読んでおく (1 時間)。授業後は学んだ内容の復習すること (1 時間)。
5	食道と胃・十二指腸の疾患	①胃食道逆流症と逆流性食道炎の病態生理、症候と診断を説明できる。 ②Mallory-Weiss 症候群を概説できる。 ③胃潰瘍、十二指腸潰瘍 (消化性潰瘍) の病因、症候、進行度分類、診断と治療を説明できる。 ④Helicobacter pylori 感染症の診断と治療を説明できる。 ⑤胃ポリープを概説できる。 ⑥急性胃粘膜病変の概念、診断と治療を説明できる。 ⑦急性胃腸炎、慢性胃炎を概説できる。 ⑧胃切除後症候群の病態生理を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく (1 時間)。授業後は学んだ内容の復習すること (1 時間)。
6	腸・腹膜の疾患	①急性虫垂炎の症候、診断と治療を説明できる。 ②腸閉塞とイレウスの病因、症候、診断と治療を説明できる。 ③炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎・Crohn 病) を概説できる。 ④痔核と痔瘻を概説できる。 ⑤機能的消化管障害 (過敏性腸症候群) を概説できる。 ⑥腸管憩室症 (大腸憩室炎と大腸憩室出血) を概説できる。 ⑦消化管ポリポスを概説できる。 ⑧腸重積症を概説できる。 ⑨感染性腸炎を概説できる。 ⑩腹膜炎を概説できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく (1 時間)。授業後は学んだ内容の復習すること (1 時間)。
7	免疫・アレルギー 2 免疫の異常 (アレルギー、免疫不全、アナフィラキシーなど)	①主要な全身性アレルギー性疾患の分類と特徴を概説できる。 ②アナフィラキシーの症候、診断と治療を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく (1 時間)。授業後は学んだ内容の復習すること (1 時間)。

			③HIV 感染症について概説できる。	
8	肝臓・胆道・膵臓の疾患		①A 型・B 型・C 型肝炎の疫学、症候、診断、治療、経過と予後を説明できる。 ②急性肝炎、慢性肝炎の定義を説明できる。 ③急性肝不全の概念、診断を説明できる。 ④肝硬変の病因、病理、症候、診断と治療を説明できる。 ⑤胆石症の病因、症候、診断と治療を説明できる。 ⑥胆嚢炎と胆管炎を概説できる。 ⑦胆嚢ポリープを概説できる。 ⑧急性・慢性膵炎（アルコール性、胆石性、特発性）の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
9	免疫・アレルギー3 膠原病・自己免疫疾患		①膠原病と自己免疫疾患を概説し、代表的疾患を列挙できる。 ②関節炎をきたす疾患を列挙できる。 ③膠原病に代表的疾患を列挙できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
10	内分泌総論・内分泌（甲状腺・副甲状腺・副腎・視床下部・下垂体）疾患		①各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙できる。 ②視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係を説明できる。 ③甲状腺と副甲状腺（上皮小体）から分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。 ④副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。 ⑤Cushing 病、先端巨大症、汎下垂体機能低下症、尿崩症を概説できる。 ⑥Basedow 病、慢性甲状腺炎、甲状腺機能低下症を概説できる。 ⑦Cushing 症候群、原発性アルドステロン症、副腎	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
11	腎・泌尿器疾患 1 腎泌尿器疾患総論・症状・検査		①腎・尿路系の構造と機能を理解する。 ②ネフロンにおける濾過・再吸収機構を説明できる。 ③水電解質、酸・塩基平衡の調節機構を概説できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
12	腎・泌尿器疾患 2 尿路結石症・腫瘍・感染症		①尿路結石の症候、治療を説明できる。 ②腎癌、精巣腫瘍、前立腺癌、膀胱癌を含む尿路上皮癌について説明できる。 ③尿路の炎症（膀胱炎等）を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
13	腎・泌尿器疾患 3 腎不全・腎代替療法		①急性腎不全（急性腎障害）、慢性腎不全（慢性腎臓病）について説明できる。 ②慢性腎臓病<CKD>重症度分類を説明できる。 ③糸球体疾患について説明できる。 ④腎性貧血・骨ミネラル代謝異常について理解する。 ⑤末期腎不全の治療（人工透析・腎移植）について理解する。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
14	糖尿病		①糖尿病の病因、病態生理、分類、症候と診断を説明できる。 ②糖尿病の急性合併症を説明できる。 ③糖尿病の慢性合併症を列挙し、概説できる。 ④糖尿病の治療（食事療法、運動療法、薬物治療）を概説できる。 ⑤低血糖症を概説できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
15	脂質代謝異常・肥満・メタボリック症候群・尿酸代謝異常		①脂質異常症（高脂血症）の分類、病因と病態を説明できる。 ②脂質異常症（高脂血症）の予防と治療を説明できる。 ③高尿酸血症・痛風の病因と病態を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気がみえる 1, 3, 5, 6, 8	武藤 学ら	メディックメディア
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験にて評価 (100%)
学生への メッセージ	看護学を学習する上で必要な基本的知識を習得しますので、しっかり学習しましょう。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	疾病・治療論Ⅲ	科目名 (英文)	Clinical Medicine III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	森谷 利香
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1014a0		

授業概要・目的	看護の場において、身体の構造と機能のみならず、病気が発現する原因と機構（病態）を理解することは重要です。本科目では、各種疾病の、原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等「病気の診かたと対処の仕方」について学びます。将来の「共に働く職場チーム」に、的確に、患者さんの病状と時々の経過と、今注意すべき点を説明するための基礎力、建物で言えば、末永く支える土台を作ります。
到達目標	本科目では、主に運動器および脳・神経疾患に関する理解を深め、これらの疾患を持つ患者さんへの医学的診断と対処法、治療法を学び、将来的に確度の高い看護の実践に役立ちます。
授業方法と留意点	下の欄にある授業計画に沿って授業を進めますが、授業内容の短縮、延長・拡大、または、省略が生じ得ます。 講義中心で行います。講義の時間は限られていますので、教科書をすべて網羅することは叶わず、代表的な疾患を中心に講義を行います。このため、教科書の自習は欠かせません。
科目学習の効果 (資格)	医学領域の理解の大切さと、それらに関する知識が増えることの楽しさを学ぶことで、常に成長し続けるプロフェッショナルへの道を支援します。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	疾病・治療論(運動器 整形外科1)	教科書：病気が見える vol. 11 運動器 整形外科 について共に学びます。	・教科書とは、日本地図のようなもの。全体に目を通し、自分にとって興味ある、または、面白そうなところを見て読んで、そして見たままを一つの風景としても感じてみます (1時間)。 ・授業で理解できた所を含めて全体を復習し、イメージ (文字と図や写真という風景) も含め、記憶に定着させることに楽しく挑戦します (1時間)。
2	疾病・治療論(運動器 整形外科2)	教科書：病気が見える vol. 11 運動器 整形外科 について共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
3	疾病・治療論(運動器 整形外科3)	教科書：病気が見える vol. 11 運動器 整形外科 について共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
4	疾病・治療論(運動器 整形外科4)	教科書：病気が見える vol. 11 運動器 整形外科 について共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
5	疾病・治療論(脳・神経疾患 1)	教科書：病気が見える Vol. 7 脳・神経の、脳・神経 (脳・神経総論・症状・検査) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
6	疾病・治療論(脳・神経疾患 2)	教科書：病気が見える Vol. 7 脳・神経 (脳血管障害・認知症) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
7	疾病・治療論(脳・神経疾患 3)	教科書：病気が見える Vol. 7 脳・神経 (神経変性疾患・末梢神経疾患・筋疾患) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
8	疾病・治療論(脳・神経疾患 4)	教科書：病気が見える Vol. 7 脳・神経 (感染症・脳腫瘍・頭部外傷) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 病理学総論、人体の構造と機能、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気が見える vol. 11		メディックメディア
2	病気が見える Vol. 7		メディックメディア	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 試験にて100%評価します。

学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	疾病・治療論Ⅳ	科目名(英文)	Clinical Medicine IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	大橋 敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1015a0		

授業概要・目的	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。対象の個性(年齢、疾患の重症度、家庭環境)に応じた看護援助を行うための疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学修する。
到達目標	小児に特有の急性疾患・慢性疾患、手術を必要とする先天性疾患、早産児・低出生体重児などに関する特殊な病態生理、検査・処置、治療等について理解できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。スライドを中心に講義を行い、スライドと同等の内容が記載されている資料を事前に配付する。事後学習としてミニテストに取り組み、知識の定着に努める。またミニテストの解説動画をMLSにアップロードするので、事後学修に活用して頂きたい。受講に際して解剖生理についての基礎的な知識が必要となるので、関連科目について事前学修を十分に行う。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学概論、小児看護学援助論、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	新生児の疾患について	新生児、早産児の生理機能と代表的な疾患を理解する。	事前課題：配付資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.26-38 P.374~401 「小児看護学概論/小児保健」P.97-103 148-162 「小児疾患」P.123-144 事後課題：ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴により、知識の定着をはかる。
2	小児の呼吸器疾患について	小児の呼吸器生理の特徴と、小児に多い呼吸器疾患を理解する。	事前課題：配付資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.95-101 439~448 「小児疾患」P.241-250 事後課題：ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴により、知識の定着をはかる。
3	小児の循環器疾患について	小児の循環器生理の特殊性と先天性心疾患を理解する。	事前課題：配付資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.110-112 450~467 「小児疾患」P.251-276 事後課題：ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴により、知識の定着をはかる。
4	小児の血液疾患・悪性新生物について	小児に多い血液疾患、悪性新生物を理解する。	事前課題：配付資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.531~545 「小児疾患」P.324-354 事後課題：ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴により、知識の定着をはかる。
5	小児の消化器疾患、腎・泌尿器疾患について	小児に多い消化器疾患、腎・泌尿器疾患を理解する。	事前課題：配付資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.84-95 117-119 468~486 487-504 「小児疾患」P.277-323 事後課題：ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴により、知識の定着をはかる。
6	小児の神経疾患、染色体異常、発達障害について	小児に多い神経疾患を理解する。染色体異常、発達障害について理解する。	事前課題：配付資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.105-109 366~372 515~530 605~610 「小児疾患」P.110-122 171-183 事後課題：ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴により、知識の定着をはかる。
7	小児の内分泌・代謝疾患について	小児に多い内分泌疾患、代謝性疾患を理解する。	事前課題：配付資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.113-116 558~569 「小児疾患」P.145-170 事後課題：ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴により、知識の定着をはかる。
8	小児の感染症、免疫・アレルギー、予防接種について	小児に多い感染症、免疫・アレルギー疾患を理解する。予防接種について理解する。	事前課題：配付資料、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.72-74 79-83 546~557 570~578 579~587 「小児疾患」P.64-68 207-240 事後課題：ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴により、知識の定着をはかる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 人体の構造と機能、疾病治療論、小児看護学概論、小児看護学援助論、小児看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児看護学①小児看護学概論/小児保健	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社
2	小児看護学②健康障害をもつ小児の看護	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社	
3	看護学テキスト 病態・治療論 14 小児疾患	真部 淳、松藤 凡、小林京子	南江堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護のための臨床病態学	浅野嘉延、吉山直樹	南山堂
2				
3				

評価方法(基準) 合否判定は定期試験で判定する。筆記試験100点満点の60点以上で合格とする。
新型コロナウイルス感染症が流行している場合は、オンラインで試験を行う可能性あり。

学生へのメッセージ 疾病・治療論Ⅳでは非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶にとどまらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学修を深めて下さい。ミニテストの実施、ミニテスト解説動画の視聴により知識の定着をはかり、次年度の実習に役立てて下さい。

担当者の 研究室等	
備考	

科目名	疾病・治療論V	科目名(英文)	Clinical Medicine V
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	井田 歩美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1016a0		

授業概要・目的	次世代を担う母性準備期(思春期)、母性が最も発揮される時期(成熟期)および母性継承期(更年期・老年期)にある女性に特有とされる月経異常、更年期障害、婦人科疾患(子宮筋腫、子宮がんなど)、および、妊娠・分娩・産褥・新生児に関する健康障害と治療法について学ぶ。 1~4 回婦人科疾患における担当講師は、産婦人科医として周産期医療、婦人科医療、女性のヘルスケアの臨床に長年携わった経験をもち、女性特有の疾患や健康の維持について有機的な講義を展開する。 5~8 回周産期疾患における担当講師は、助産師としての臨床経験をもち、看護基礎教育に必要な重要箇所をポイントに講義を展開する。
到達目標	婦人科疾患(月経異常、性感染症、不妊症、子宮筋腫、子宮がんなど)、妊娠・分娩・産褥・新生児(周産期)に関する健康障害と治療法について理解する。
授業方法と留意点	女性生殖器の構造と機能から婦人科疾患についての授業時間は、4コマと少なく、他に関連する科目はないため、集中して講義に臨んでください。周産期に関する健康障害については、同時期に開講している『母性看護学援助論Ⅰ』と連動させた学習が必要です。
科目学習の効果(資格)	母性看護学援助論Ⅰ、Ⅱの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	女性生殖器の構造と機能	外性器と内性器、視床下部-下垂体-卵巣におけるホルモン調節機能、卵胞発育、排卵の機序、月経の機序、基礎体温の変化の機序	事前学習課題:教科書1該当部分(p.106~127)を読み、予習する。(1時間) 事後学習課題:本時の内容を復習する。(1時間)
2	女性生殖器疾患の診察、主な検査と治療法	婦人科の一般検査(内診・直腸診、膣鏡診、細胞診・組織診、妊娠検査、超音波検査など) 婦人科の主な治療(ホルモン療法、放射線療法、化学療法、手術療法など)	事前学習課題:教科書1該当部分(p.106~127)を読み、予習する。(1時間) 事後学習課題:本時の内容を復習する。(1時間)
3	女性生殖器疾患の病態と診断・治療(1)	月経異常、膣炎、更年期障害、骨粗鬆症	事前学習課題:教科書1該当部分(p.130~135, p.184~198)を読み、予習する。(1時間) 事後学習課題:本時の内容を復習する。(1時間)
4	女性生殖器疾患の病態と診断・治療(2)	女性生殖器の腫瘍(子宮筋腫、子宮内膜症、子宮頸癌、子宮体癌、瘍卵嚢腫、卵巣癌)	事前学習課題:教科書1該当部分(p.145~162)を読み、予習する。(1時間) 事後学習課題:本時の内容を復習する。(1時間)
5	妊娠の経過と異常	妊娠の異常について学ぶ。 妊娠初期(妊娠悪阻、流産、異所性妊娠) 妊娠中期(多胎妊娠、早期産、切迫早産) 妊娠後期(前置胎盤、常位胎盤早期剥離) ・妊娠高血圧症候群 ・胎児発育不全 ・母子感染(風疹、トキソプラズマ症、B型肝炎、梅毒、性器クラミジア、エイズ等)	事前学習課題:テキスト「母性看護学各論」(第7章I節、B~F)を読んでくる。(1時間) 事後学習課題:講義内容の復習(30分)
6	分娩の経過とその異常	分娩期の異常について学ぶ。 産道:骨産道と軟産道の異常 娩出力:陣痛微弱と分娩の遷延、過強陣痛 娩出物:胎児の異常、胎位異常、回旋の異常、胎盤の異常、卵膜の異常、臍帯の異常、羊水の異常 胎児機能不全、分娩時損傷、弛緩出血、子宮内反症、分娩時異常出血 *無痛分娩や急速遂娩(吸引分娩、鉗子分娩)について	事前学習課題:テキスト「母性看護学各論」(第4章A・B、第7章II節)を読んでくる。(1時間) 事後学習課題:講義内容の復習(30分)
7	産褥の経過と異常	産褥期の異常について学ぶ。 子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、精神障害、マタニティブルー、エジンバラ産後鬱診断表について	事前学習課題:テキスト「母性看護学各論」(第6章A、第7章IV、V節)を読んでくる(30分) 事後学習課題:講義内容の復習(30分)
8	新生児期の経過と異常	新生児期の異常について学ぶ。 新生児仮死、新生児蘇生アルゴリズム 分娩時外傷、高ビリルビン血症、低出生体重児、呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症等	事前学習課題:テキスト「母性看護学各論」(第5章A、第7章III節)を読んでくる。(30分) 事後学習課題:講義内容の復習(30分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブと看護	中込さと子他編
2		系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学 [2] 母性看護学各論	森恵美他	医学書院

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気が見える vol.10 産科第4版	医療情報科学研究所	メディックメディア
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 80%、レポート課題等 20%、授業参加度等を見て総合的に評価する。			
学生への メッセージ	婦人科疾患（性・生殖機能障害など）、妊娠・分娩に関する健康障害について理解を深め、身体面だけでなく心理面、社会的側面に及ぼす影響について考える機会としてください。前期に学習した母性看護学概論と同時期開講の母性看護学援助論 I での学習とリンクさせ、学びを深めてください。			
担当者の 研究室等	井田 歩美（研究室 12）、但馬 まり子（研究室 20）、西頭 知子（研究室 14）、名草 みどり（研究室 13）			
備考	婦人科部分の授業担当は非常勤講師のため、授業時間外での質問等に対する対応方法は授業開始時に知らせる。			

科目名	疾病・治療論VI	科目名(英文)	Clinical Medicine VI
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	眞野 祥子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1017a0		

授業概要・目的	精神科医療における診断と治療の概念、主な精神疾患の病因、症状、診断、回復過程、治療について学ぶ。一部、現代の精神保健に関する事項についても触れる。
到達目標	各精神疾患の病因・症状・診断・回復過程・治療、現代の精神保健上の問題について理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、適宜質問を受け付け授業への積極的参加を促す。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	総論・外因性精神疾患	精神疾患の分類・診断基準・原因・症状の捉え方に続き、外因性精神疾患(症状性精神疾患、器質性精神疾患、中毒性精神疾患、認知症など)、急性・心的外傷後ストレス障害、適応障害などの病因、症状、治療について理解する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第2章(P.21~59)」「第3章I(P.61~64)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
2	うつ病・躁うつ病・統合失調症	医学が「こころ」をどう捉えているかに続き、うつ病・躁うつ病(双極性障害)・統合失調症の病因、症状、予後、治療法、精神疾患と遺伝の関連について理解する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章II-B、C、D(P.71~86)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
3	神経発達障害・脳神経と精神疾患	神経発達障害(精神遅滞、学習障害、注意欠如・多動性障害、自閉症スペクトラム障害など)の病因、症状、治療法について理解する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章II-E、F(P.64~71)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
4	神経症性障害・心身症・パーソナリティ障害	神経症性障害(不安障害、強迫性障害、解離性障害、身体症状症)、心身症、パーソナリティ障害の分類、病因、症状、治療法について理解する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章II-E、F(P.87~97)、N(P.134~137)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
5	精神科的治療I ～基礎的介入・身体療法～	精神科で行われている治療法(支持的療法、疾患教育、生活指導、薬物療法、電気けいれん療法、高照度光療法、認知リハビリテーションなど)について理解する。漢方薬も概説する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第4章I、II(P.148~167)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
6	精神科的治療II てんかん、睡眠障害、摂食障害	精神科で行われている治療法(催眠療法、精神分析療法、行動療法、認知療法、アート・セラピー、森田療法、来談者中心療法、ユマニチュードなど)について理解する。また、てんかん、睡眠障害、摂食障害の分類、症状、治療法について理解する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第4章III(P.167~188)」「第3章II-J、K(P.110~121)」「第3章II-O(P.137~146)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
7	依存・乱用・嗜癖・脳波	アルコール使用障害、薬物使用障害の概念、症状、治療、依存からの回復過程、アディクション、脳波の基礎について理解する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章II-L(P.121~127)」「第7章II-E(P.300~306)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
8	性関連障害、ストレス	性同一性障害(性別違和)、性嗜好障害の症状と治療、ストレス過程、ストレスによって起こる身体・精神的反応、労働ストレスについて理解する	事前:参考書③精神看護学① 精神看護学概論/精神保健「第5章I~III(P.150~165)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 精神看護学概論、精神看護学援助論I、精神看護学援助論II、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	専門医がやさしく語るはじめての精神医学 改訂第2版	渡辺雅幸	中山書店
2	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社	

	3	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社
評価方法 (基準)	試験 100%			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	授業の最後には必ず質問の時間を取ります。			
備考	<p>学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがあります。</p> <p>連絡事項は原則 Team を経由するつもりですが、Teams が使えない場合はポータルとします。</p> <p>日程（日程変更を含む）は追って連絡するので、注意深く Teams（ポータル）を確認してください。</p>			

科目名	疫学	科目名 (英文)	Epidemiology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1018a0		

授業概要・目的	授業では、集団の健康や疾病の分布とその関連要因を明らかにする疫学について講義し、その基本的な考え方を学ぶ。まず、疾病とそのリスク要因の関係に注目した説明変数と結果変数という考え方、因果関係と関連の違い、各研究デザインの利点と限界、そして誤差・バイアスについて学び、最後にスクリーニングについて基本事項を解説する。
到達目標	疫学の概要や役割を知り、疾病予防の背景にある科学的な根拠およびその意味が理解できるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	健康に関する事象について、論理的捉え方・考え方ができるようになる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	疫学の概要	疫学の歴史と指標	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p1-7, 13-24) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
2	因果推論と研究デザイン (1)	因果推論、コホート研究	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p93-94, 34-35, 47-49, 62-66) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
3	研究デザイン (2)	ランダム化比較試験	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p67-78) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
4	研究デザイン (3)	症例対照研究	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p47-49, 54-61) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
5	研究デザイン (4)	横断研究、生態学的研究、症例報告/症例集積、システマティック・レビュー	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p47-49, 52-53, 50-52, 79-82) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
6	誤差とバイアス (1)	偶然誤差と系統誤差 (選択バイアス)	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p83-84, 34) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
7	バイアス (2)	情報バイアス	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p84-86) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
8	バイアス (3)	交絡	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p86-91) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	公衆衛生学、統計の基礎、保健統計学
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第3版	日本疫学会	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題および/または小テスト(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。 出席は、学生便覧にある摂南大学看護学部履修規定に従う (正当な理由がなく出席常でない者は、単位を与えないことがある。)
-----------	---

学生へのメッセージ	・授業資料と教科書をよく勉強すること。 ・わからない点を次回授業までに必ず解決しておくこと。そのために質問をすること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階24
----------	---------

備考	提出された課題や小テストについて授業で解説する。
----	--------------------------

科目名	保健医療福祉行政論	科目名 (英文)	Health and Welfare Administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 十三代, 松田 千登勢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6△		
科目ナンバリング	NDN1019a0		

授業概要・目的	人口の少子高齢化、格差の拡大など、日本国内の社会のあり方が大きく変わりつつあり、人々の生活の安心・安定を支える社会の仕組みも変わる必要に迫られている。将来、保健医療専門職として社会で活躍する上で必要不可欠な社会保障を中心に、根拠法を含む保健医療福祉行政とその制度の歴史の変遷と概要、仕組みについて、講義を通じて学び、理解を深める。また、日本の公衆衛生の向上と発展の視点から、今後あるべき保健医療福祉行政や、保健・医療・福祉の連携、専門職の役割について、講義を通じて考察する。
到達目標	1. 保健医療福祉行政の概要について理解できる。 2. 保健医療福祉行政の歴史の変遷について理解できる。 3. 社会福祉制度について理解できる。 4. 社会保障制度について理解できる。 5. 保健医療福祉行政とその制度・仕組み、制度ごとの関係や違いについて理解できる。 6. 今後の保健医療福祉行政の方向性や、専門職の連携と役割について考察できる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義中心に moodle、Teams を用いて行う。教科書は必ず持参すること。授業の内容によっては資料も配布する。また視聴覚教材の活用、時事ニュースなどの引用、事例を交えた形で授業を進める。講義終了後は、講義資料やノートの整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、調べるなどした上で、次の授業時間を活用して質問するなど、主体的に学習にとりくむ。
科目学習の効果 (資格)	社会保障制度と福祉の動向を知ることにより、看護の対象者への支援について幅広く考えることができる。 看護師・助産師国家試験においても社会保障制度の出題は増加しているため、試験対策としても知識習得をしていく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	保健医療福祉行政の概要と変遷 (1)	社会福祉・社会保障とは何か 社会保障の仕組み・機能・歴史 保健医療福祉の財源	事前: テキスト p42 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
2	保健医療福祉行政の概要と変遷 (2)	社会福祉の担い手と役割 社会福祉の実践方法 社会資源の活用方法	事前: テキスト p43~p76 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
3	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <子ども・家庭と福祉>	子ども・家庭福祉の理念と目的 子育て支援・少子化対策に関する施策 児童虐待・母子保健に関する施策	事前: テキスト p80~p96 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
4	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <障害児・者と福祉>	障害者を守る法律の概要 障害者を支援するサービス体系 自立支援医療 障害者雇用および支援	事前: テキスト p98~p110 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
5	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <難病対策>	難病対策の取り組み、改革の内容 難病患者に対する医療等に関する法律	事前: テキスト p111~p119 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
6	社会福祉の制度 <生活保護>	公的扶助制度 生活保護における生活保障 給付の要件と保護基準、見直し	事前: テキスト p136~p149 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
7	社会福祉の制度 <地域福祉>	地域福祉の定義と理念 地域福祉計画 保健・医療と福祉の連携	事前: テキスト p152~p161 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
8	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <高齢者と福祉>	高齢者保健福祉施策の社会的背景、目的、理念、経緯 老人福祉法による高齢者支援 今後の課題 高齢者の権利擁護と虐待防止	事前: テキスト p120~p133 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
9	社会保障制度 <医療保険制度>	医療保険制度の沿革、しくみ 高齢者医療制度 医療保険制度の課題	事前: テキスト p171~p186 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得ておくこと (30分以上)。 事後: 授業内容を整理しておくこと (1時間)。
10	社会保障制度 <年金制度>	公的年金制度の意義としくみ 沿革、概要、給付 企業年金などの概要 課題	事前: テキスト p164~p170 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
11	社会保障制度 <雇用保険と労災保険>	雇用保険制度の役割、しくみ、課題 労災保険制度の概要、給付 業務災害、通勤災害の認定	事前: テキスト p200~p210 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
12	社会保障制度	制度創設の背景	事前: テキスト p187~p199 まで熟読する。さらに

		<介護保険 (1) >	介護保険制度の概要(意義、しくみ、実施体制と財源)	授業テーマに関する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む(30分以上)。事後:ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく(1時間)。	
	13	社会保障制度 <介護保険 (2) >	介護サービスの利用 介護サービスの内容	事前:授業テーマに関する事柄について最新情報を臨む(30分以上)。事後:ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく(1時間)。	
	14	社会保障制度 <介護保険 (3) >	介護保険制度の見直しと課題	事前:授業テーマに関する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む(30分以上)。事後:ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく(1時間)。	
	15	保健医療福祉行政の計画と評価	地方自治体の保健医療福祉計画 地方自治体の計画策定 計画の推進と管理・評価	授業テーマに関する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む(30分以上)。事後:ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく(1時間)。	
関連科目	公衆衛生学、医療経済論、各領域の看護学概論				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障(3):社会福祉と社会保障 第4版		増田 雅暢 編集	メディカ出版
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2020/2021 (第67巻第9号)			一般財団法人 厚生労働統計協会
	2	国民の福祉と介護の動向 2020/2021 (第67巻第10号)			一般財団法人 厚生労働統計協会
	3				
評価方法 (基準)	授業ごとのミニレポートの提出と期末試験中に定期試験を行い総合して評価を行う。				
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は看護師・保健師として15年の豊富な実務経験を有する教員が、看護職として必要な保健医療福祉行政の法や制度について具体的な事例を紹介しながら、授業を進めていきます。 ・授業では、保健医療福祉行政論を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義します。看護師、保健師、助産師の国家試験の出題率も高い内容であるため、予習復習をしっかりと行うと同時に、社会保障制度や社会福祉制度に関する日々のニュースに関心を持って、国の動きに着目していきましょう。 				
担当者の 研究室等	山本十三代 7号館3階 研究室5 松田千登勢 7号館3階 研究室6				
備考	事後学習課題であるミニレポートについては、毎回、教員が確認した後、次の授業開始時に返却します。本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業の座席は指定とします。追加の文献や資料などは授業中に紹介します。				

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Introduction to Public Health
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6△		
科目ナンバリング	NDN1020a0		

授業概要・目的	授業では、公衆衛生の歴史、人口の現在と将来からはじまり、集団の健康をはかるための健康指標、および集団の健康を守るための予防医学の考え方、それに基づいて行われている感染症や慢性疾患の罹患の現状と対策などについて学ぶ。
到達目標	公衆衛生学が扱う各分野の概要について基本的知識を身につけ、公衆衛生の実際の取り組みとその意義を理解する。

授業方法と留意点	講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	人類史と人口・疫学転換	人類史と人の健康	・予習する (教科書第1章 p8-10, 第2章 p24-25) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
2	日本の公衆衛生の歴史	歴史と概要	・予習する (教科書第1章 p1-12) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
3	人口統計 (1)	人口静態統計	・予習する (教科書第2章 p19, 25-27) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
4	人口統計 (2)	人口動態統計、生命表	・予習する (教科書第2章 p19-23, 27-30) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
5	疾病予防と予防戦略	予防医学の考え方	予習する (教科書第4章 p53-58) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
6	感染症と予防	感染症の疫学と予防	・予習する (教科書第5章 p83-101, 166-178) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
7	生活習慣病と予防	生活習慣病の疫学と予防	・予習する (教科書第5章 p101-113, 79-82) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
8	環境保健	環境と健康	・予習する (教科書第6章 p139-149, 203-208, 211-221) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	疫学、統計の基礎、保健統計学、情報リテラシー II
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプル衛生公衆衛生学 2022	辻一郎他	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2022/2023	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題および/または小テスト(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。 出席は、学生便覧にある摂南大学看護学部履修規定に従う (正当な理由がなく出席常でない者は、単位を与えないことがある。)
-----------	---

学生へのメッセージ	・授業資料と教科書をよく勉強すること。 ・わからない点を次回授業までに必ず解決しておくこと。そのために質問をすること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階24
----------	---------

備考	提出された課題や小テストについて授業で解説する。
----	--------------------------

科目名	家族看護学	科目名 (英文)	Family Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3○, DP6○		
科目ナンバリング	NDN1022a0		

授業概要・目的
 家族は、家族員の疾病予防や疾病回復、健康管理において、互いに重要な役割を担う。このことから、疾病をもつ家族の関係性や役割、家族としての力関係などの変化、問題を克服する家族の力量について学び、理解する。さらに、家族看護学において用いられる理論と、実践的の場で活用するアセスメント方法を学び、そのうえで、家族のセルフケア力の向上を目指して、看護職としての家族への支援のあり方を理解する。加えて、看護学の専門領域別に具体的事例を用いて家族看護の実際について学び、看護職としての在り方について考察する。

到達目標
 1. 家族について理解する
 2. 家族看護学の目的、家族の定義、理論を学ぶ。
 3. 家族看護過程の理解と、家族アセスメントモデルについて理解する。
 4. 家族看護における看護者の役割と援助姿勢について理解する。
 5. 看護の以下の専門領域における家族看護について理解する。
 1) 小児看護学における家族看護
 2) 精神看護学における家族看護
 3) 在宅看護学における家族看護

授業方法と留意点
 授業計画に沿って講義中心に行う。教科書、資料を用いて授業を行いますので、該当箇所をしっかりと学習すること。講義後は、既学習における学びを復習しつつ、看護の対象としての家族への理解を深めるようにする。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	家族とは何か	家族の定義、その多様性と現代的課題について理解する	テキスト第1章について予習する (事前:1時間)。家族の現代的課題について自身の考えについて、ミニレポートを提出する (事後:1時間)。
2	家族の「こころ」を取り扱う	ナラティブの視点から個人のこころと家族関係について理解する。	講義内で指定する資料について予習する (事前:1時間)。身近な話題を心理的な問題として捉えなおし、ミニレポートとして提出する (事後:1時間)。
3	家族を理解するための理論 1	家族発達論・システム論について理解する	テキスト第3章について予習する (事前:1時間)。授業内容を整理し、ミニレポートを提出する (事後:1時間)。
4	親と子の関係 1	アタッチメントについて理解する	テキスト第4章・第5章について予習する (事前:1時間)。講義内で提示する映像資料について考えをまとめ、ミニレポートを提出する (事後:1時間)。
5	親と子の関係 2	親子関係の心理社会的問題、特に虐待について理解する	講義内で指定する資料について予習する (事前:1時間)。虐待における心理的な問題を整理し、ミニレポートとして提出する (事後:1時間)。
6	家族関係の発達と喪失	対象喪失や死別、離婚などについて理解する。	テキスト第3章について予習する (事前:1時間)。授業内容を整理し、ミニレポートを提出する (事後:1時間)。
7	家族病理	家庭内暴力・依存について理解する	テキスト第6章について予習する (事前:1時間)。家族病理について自分の考えをまとめて、ミニレポートを提出する (事後:1時間)。
8	家族を理解するための理論 2	家族ストレス対処論について理解する	講義内で指定する資料について予習する (事前:1時間)。授業内容を整理し、ミニレポートとして提出する (事後:1時間)。
9	家族看護学とは	家族看護学の目的、定義、用いられる理論について学ぶ	事前:テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。事後:授業内容を整理し、家族の理論等についての理解を深める (1時間)。
10	家族看護過程	家族看護過程の概要、家族のセルフケア機能について学ぶ	事前:テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。事後:授業内容を整理し、家族アセスメントモデルについての理解を深める (1時間)。
11	家族アセスメント	フリードマン家族アセスメントモデル、家族エンパワーメントモデル、カルガリーアセスメントモデル、ジェノグラム、エコマップの学習	事前:テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。事後:授業内容を整理し、家族アセスメントモデルについての理解を深めること (1時間)。
12	家族看護における基本姿勢と看護者の役割	1. 家族との関係のあり方 2. 看護者の基本的な姿勢 3. 家族成員に対する援助 4. 家族間後における役割	事前:テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。事後:授業内容を整理し、家族看護における基本的な考え方と看護者の役割についての理解を深める (1時間)。
13	母性看護学における家族看護	母性看護学における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	事前:資料や指定された参考書等を読んで予習する (30分以上)。事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、母性看護学における家族看護として看護者の役割についての理解を深める (1時間)。
14	精神看護学における家族看護	精神看護学における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	事前:資料や指定された参考書等を読んで予習する (30分以上)。事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、精神看護学における家族看護として看護者の役割についての理解を深める (1時間)。
15	在宅看護学における家族看護	在宅看護学における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。事例を用いて学習する。	事前:資料や指定された参考書等を読んで予習する (30分以上)。事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、在宅看護学における家族看護として看護者の役

				割についての理解を深める (1時間)。
関連科目	看護学概論他			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかる家族心理学	柏木恵子	ミネルヴァ書房
	2	家族看護学	上別府圭子	医学書院
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	家族看護学 理論と実践 第5版	鈴木和子	日本看護協会出版会
	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験、提出されたレポートにより評価する。			
学生への メッセージ	本科目はオムニバス形式で、医療機関や保健機関、事業所などで看護職として豊富な実務経験を有する教員陣が担当します。家族の形が多様化する昨今、患者や対象者だけでなく家族への支援も看護職に求められる中、支援の基礎となる学問です。日々の学習（予習・復習）を大事にし、学びを深めてください。			
担当者の 研究室等 備考	教員研究室は枚方キャンパス7号館3階。			

科目名	医療経済論	科目名 (英文)	Healthcare Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1023a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 医療における課題を経済学的に考察し、医療サービスの供給体制、制度及び医療機関の経営問題に関わる考察を行い、看護職に求められる経済学的視点を修得する。 看護職となるに当たって保健・医療・福祉における経済面・経営面に関する社会常識としての知識を修得する。 動画によって米国の医療制度について考察し、日本における皆保険制度についての理解を深める。 <p>・40 診療科 24 時間対応の救急業務、感染症等の政策医療を実施している市立病院にて人事、経理及び病院情報システム構築業務に従事した実務経験を活かして病院勤務する看護師に求められる人的能力（コンピテンシー）向上に必要な経済的視点を今後看護師が考慮すべきワークライフバランス検討に必要な給与と労働時間の関係や勤務病院の選択指針についての授業を行う。また今後大卒看護師として修得すべき看護職の管理職（副院長、看護部長）として求められる資質についても説明する。</p> <p>・SDGs-3（全ての人に健康と福祉を）</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬制度として収入が規定されており、一般の企業における売上とは異なる収入体系とその制度の必要性について認識・理解した上で適正なコスト意識と業務改善意識を持って看護業務に従事できることを目標とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 看護職に求められる経済学視点について講義する。診療報酬制度に基づく報酬の支払いを中心に経済学による需要と供給の価格決定プロセスを比較しながら考察する。 医療における財・サービスの交換システムの特殊性に焦点を置きながら、多くの看護職が勤務する病院での現状と課題について講義する。 後半は、看護職の管理的立場の職種である看護部長において求められる考え方について講義する。 授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> 看護専門職の科目だけでなく、就職・勤務にむけた経済社会の財・サービス交換活動への経済学的思考の修得を目的とする。 経済理論だけでなく実際の組織において必要とされる看護職の今後の課題に対する政策構築に関する考察についても考慮したい。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	看護師が経済学を学ぶという事 経済学からみた看護サービス	経済活動と医療経済との違いについて講義する。	序章、第1章 教科書序章、第1章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
2	社会経済環境の変化と看護・医療サービス	変化に伴う看護師の環境と雇用関係について講義する。	第2章 教科書第2章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
3	看護の生産性と看護師の生産性	2つの生産性概念について講義する。	第3章 教科書第3章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
4	診療報酬制度がもたらす影響1	看護師の技能評価を妨げるメカニズムについて講義する。	第4章 教科書第4章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
5	診療報酬制度がもたらす影響2	看護師が他の職種業務を担うメカニズムについて講義する。	第5章 教科書第5章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
6	無視できない結婚と出産・育児	看護師労働市場における結婚と出産・育児における影響について講義する。	第6章 教科書第6章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
7	看護師の労働需要と労働力不足	生産性に見合わない賃金と労働力不足について講義する。	第7章 教科書第7章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
8	賃金・労働条件の格差と人的資本論	看護師の賃金を決める要因は何か、看護師の賃金決定メカニズムについて講義する。	第8章 教科書第8章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
9	看護師間の賃金格差を生み出すメカニズム	賃金格差を説明するもう1つの分析視角、「職務価値」と看護師の賃金との関係について講義する。	第9章 教科書第9章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
10	看護師のワークライフバランスと生産	看護師のワークライフバランスと生産性について講義する。	第10章 教科書第10章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
11	よりよい看護を消費者のもとへ届けるために	よりよい看護のあり方について講義する。	第11章 教科書第11章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
12	新しい病院体制についての動画による習熟度確認試験。(予定)	やりがいのある病院体制、新しい診療科連携の実践動画によるレポート作成を行う。	これまでの配布資料、教科書および受講による直筆作成ノートのみ参照可。	
13	看護管理職の備えるべき視点1	看護管理者、看護部長の基本事務、変化への対応力等を講義する。	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習1時間程度と配布資料による復習2時間程度	
14	看護管理職の備えるべき視点2	看護管理者の特性（変革期の人材マネジメント、看護政策対応力、院内看護政策力等）について講義する。	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習1時間程度と配布資料による復習2時間程度	
15	看護管理職の備えるべき視点3	看護師管理者に求められるもの（コスト意識と金銭感覚、看護業務の電子化、病院統治力等）について講義する。	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習1時間程度と配布資料による復習2時間程度	
関連科目	労働経済学、ミクロ経済学、経営学			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護サービスの経済・政策論 看護師の働き方を 経済学から読み解く</td> <td>角田由佳</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護サービスの経済・政策論 看護師の働き方を 経済学から読み解く	角田由佳	医学書院	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	看護サービスの経済・政策論 看護師の働き方を 経済学から読み解く	角田由佳	医学書院														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	レポート内容及び定期試験（70%）及び、レポート提出等を受講態度（30%）として総合評価する。																
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職になるための科目の修得は、国家資格取得も含め必須である。しかし、卒業後、多くの看護職が勤務する病院や福祉施設の運営は、公的な補助があるものの経済学の考え方に基づいて運営されている。 ・少子高齢化社会の到来に向けて、これからの看護職は、社会的な知識（経済学等の社会科学科目）も必要とされる。本講義は、そのための基礎的な考え方の習得を目指す。 ・急性期だけでなく慢性期治療にも対応した市立病院で15年間事務職として総務、人事、医事、システム関連部署に勤務し診療関係全般に従事した経験から高度医療機関 																
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス1号館7階 田井教授室（経済学部）																
備考	社会科学分野である経済学、経営学による分析内容について、看護職の視点から必要な項目を説明する。																

科目名	看護関係法規	科目名 (英文)	Nursing-related Laws
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	松本 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6△		
科目ナンバリング	NDN1024a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 看護職は保健医療福祉サービスに携わる多くの職種と連携し、対象となる人々の健康を回復・維持・増進する職業である。看護職が人々の健康を守り、その職務を全うするためには、基盤となる保健師助産師看護師法をはじめ諸法令の理解が必要である。</p> <p>【授業目的】 医療・保健に関連する諸制度や法令を修得し、看護職としての法的責任や義務について医療や看護事故の事例などをもとに理解し、看護職としての在り方を考えることを目指す。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 保健師助産師看護師法に定められている内容を説明することができる。 母子保健に関する法令について、人々の健康の維持・増進にかかわる制度と法令の関係を説明することができる。 医療従事者に問われる3種類の法律上の責任について理解することができる。 医療事故の事例をもとに看護職の責任と義務、および、看護職としての在り方について自分の考えを示すことができる。
授業方法と留意点	講義形式を中心とする。各授業回の開始時に資料を配布するが、教科書も併用する。最終回には学習した知識を活用して、事例をもとにグループディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	看護職に必要な法的な知識を学び、過去の事故事例から看護の責任や義務を考察することによって、専門的知識が身につくとともに、根拠に基づいた判断と行動ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション 保健医療福祉と法との関連	・授業概要と進め方の説明 ・政策と制度と法の関連	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
2	医療法と医療提供の理念	・医療提供の理念 ・医療法での規定 ・医療職の責務 ・医療提供体制	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
3	看護をめぐる法 (1)	・保健師助産師看護師法の目的 ・保健師、助産師、看護師の法律上の定義・免許の要件、義務、業務、試験について	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
4	看護をめぐる法 (2)	・保健師助産師看護師法に基づく罰則、特定行為研修など ・看護師等の人材確保の促進に関する法律	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
5	母子の健康に関する法律 (1)	・母子保健法 ・母体保護法 など	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
6	母子の健康に関する法律 (2)	・労働基準法 ・育児・介護休業法 など	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
7	看護師の法的責任 (1)	・法的責任の種類 ・医療事故と医療過誤	事前：事例をよく読んでおく。 事後：事例の考察を振り返る。
8	看護師の法的責任 (2)	・医療事故における看護師の義務と責任について (事例学習) ・事例をもとにグループディスカッション	事前：事例をよく読んでおく。 事後：グループワークでの検討内容をもとに、医療事故における看護師の責任、義務などについて考察し、看護師のあるべき姿について自己の考えをまとめる。 医療事故における看護師の義務と責任についてレポートを作成し、提出する。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 法学入門、日本国憲法、保健医療福祉行政論、看護学全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度 第3版	平林勝政、小林知世、和泉澤千恵	メディカ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験および課題レポートによって評価する。
・定期試験：85%
・課題レポート：15%

学生への 法令を理解・解釈し、その根拠に基づいて活動することが、人々をまもり、自分をまもることに繋がります。法的な知識を自分の力に変えて

メッセージ	活動できるように学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7号館 3階 研究室28 松本葉子
備考	

科目名	フィジカルアセスメント	科目名 (英文)	Physical Assessment
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2029a0		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。また、フィジカルアセスメントを看護過程のプロセスにつなげるために必要な理論について学ぶ。科目責任者は、総合病院及び個人病院で看護師として約10年間勤務した経験から、フィジカルアセスメントに関する実践的な教育を行う。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施したフィジカルアセスメントの基本技術に関する知識と根拠、患者の心情や状態から必要な看護について振り返る。また、事例課題を用いたアセスメントの思考過程をレポートにまとめ、グループワークやディスカッション、発表を通して今後
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	看護における看護過程とヘルスアセスメント	【講義】 看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方、情報収集・整理等の基本的技術に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	2	フィジカルアセスメントの考え方と基本的技術、ヘルスヒストリー	【講義・演習】 問診とフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）の基本的技術のほか、看護過程に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
	9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポー

				トを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。
10	消化器系のフィジカルアセスメント (2)	【演習】 消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント (1)	【講義】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント (2)	【演習】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント (1)	【講義】 脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント (2)	【演習】 脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること (2 時間)。修得した技術について自己練習すること (1 時間)。	
15	フィジカルアセスメントと看護過程	【講義・演習】 フィジカルアセスメントを看護過程のプロセスにつなげるために必要な考え方や理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読んで出席すること (1 時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること (2 時間)。	

関連科目 看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、看護過程論、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日常生活行動からみるヘルシア セスメント 看護形態機能学の枠組みを用いて	大久保暢子編	日本看護協会出版会
2	新体系 看護学全書 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ	深井 喜代子編	メヂカルフレンド社
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント	医療情報科学研究所 編	メディックメディア
2			
3			

評価方法 (基準) 筆記試験 (50%)、実技試験または小テスト (20%)、事例課題の提出状況及びアセスメントの思考過程 (20%)、授業への参加状況 (10%)
原則全ての授業及び演習に出席していること。
※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。

学生へのメッセージ 「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また、予習・復習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。

担当者の研究室等 7号館3階 研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、研究室3(山居)、共同研究室1(北村他)、

備考 技術演習時の身だしなみ、準備物品等については、事前に別途指示します。
提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。

科目名	看護過程論	科目名 (英文)	Nursing Process
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP6○, DP7◎		
科目ナンバリング	NDN2030a0		

授業概要・目的	看護ケアを対象者に提供するための基盤となる看護過程について学ぶ。根拠に基づき、対象者の看護上の問題を明確にし、問題を解決するためのプロセスを学ぶ。ヘンダーソンの理論に基づいた看護過程の展開方法を、演習を通して修得する。科目責任者は、総合病院の手術室および救急・ICU病棟、外来等、看護師として約10年間勤務した経験を活かし、実践的な看護過程の展開と看護技術についての教育を行う。
到達目標	授業および演習を通じ、看護過程の展開方法を理解できる。 1) 看護過程の基本的な知識について理解する。 2) 事例の対象者について情報の整理、情報の分析と統合、看護問題の抽出、看護目標・看護計画の立案、評価を行うことができる。 3) 看護実践時の記録の記載方法を理解できる。 4) 看護過程における看護師と倫理性、患者の安全安楽の視点の重要性について理解できる。
授業方法と留意点	講義形式で看護過程の理論を学び、講義室または基礎看護演習室において演習を行いながら、より具体的な看護過程の展開方法をイメージできるように授業を行う。教科書を基本とするが、学生の学修状況を考慮し、適宜配布資料を用いる。また、視聴覚教材やパワーポイントを使用する。初回授業の方法については、Teamsにてアナウンスを行う。看護過程の展開方法を習得するために、少人数制のグループワークや演習を行い、事例展開をする。課題については、講義内で別途指示する。アセスメント内容、関連図、看護計画について、グループ発表
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱおよび看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護過程とは	【講義】 ・看護過程の概要・構造 ・問題解決過程としての看護過程 ・看護過程に必要な能力	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
2	看護過程のステップ①	【講義】 ・事例課題の情報整理 ・看護アセスメントとその枠組み	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
3	看護過程のステップ②	【講義】 ・事例課題の情報の分析と統合 ・看護上の問題と看護目標・優先順位	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 個人課題を作成する。(2時間)
4	看護過程のステップ③	【講義・演習】 ・看護計画の実施と評価 ・事例紹介	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) 事後課題を作成する。(2時間)
5	看護記録・看護過程の演習①	【講義・演習】 ・看護記録とは ・看護記録の種類 ・グループワーク	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(1時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1時間) グループでディスカッションし、課題を作成する。(2時間)
6	看護過程の演習②	【演習】 グループワークにて、事例の情報分類・アセスメント・看護問題の明確化を行う。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2時間) 事後課題：グループでディスカッションし、課題を作成する。(2時間)
7	看護過程の演習③	【演習】 グループワークにて、事例の情報分類・アセスメント・看護問題の明確化を行う。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2時間) 事後課題：グループでディスカッションし、課題を作成する。(2時間)
8	看護過程の演習④	【演習】 グループで作成した情報整理・アセスメント内容について発表しクラス全体で学びを共有する。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、追記して課題を仕上げる。(2時間)
9	看護過程の演習⑤	【演習】 グループにて、看護問題・関連図の検討を行う。	事前課題：関連図の各自記載してくること。(2時間) 事後課題：グループでディスカッションしグループ課題を作成する。(2時間)
10	看護過程の演習⑥	【演習】 グループにて、看護問題・関連図の検討を行う。	事前課題：全体関連図を各自記載する。(2時間) 事後課題：グループでディスカッションしグループ課題を作成する。(2時間)
11	看護過程の演習⑦	【演習】 グループで作成した関連図について発表しクラス全体で学びを共有する。	事前課題：全体関連図を各自記載する。(2時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、追記して課題を仕上げる。(2時間)
12	看護過程の演習⑧	【演習】 グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。個人面談を行う	事前課題：看護問題の命名、看護目標、看護計画を各自記載する。事例に即した援助の看護計画を立案する。(2時間) 事後課題：グループで看護計画の実践を検討しながら発表資料を作成する。(2時間)
13	看護過程の演習⑨	【演習】 グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。	事前課題：看護問題の命名、看護目標、看護計画を各自記載する。事例に即した援助の看護計画を立案する。(2時間) 事後課題：グループで看護計画の実践を検討しながら発表資料を作成する。(2時間)
14	看護過程の演習⑩	【演習】 グループワークにて、事例の看護	事前課題：看護問題の命名、看護目標、看護計画を各自記載する。事例に即した援助の看護計画を立案

			問題、看護目標、看護計画を検討する。	する。(2時間) 事後課題：グループで看護計画の実践を検討しながら発表資料を作成する。(2時間)
	15	看護過程の演習① まとめ	【演習】グループで作成した看護問題、看護目標、看護計画の内容と実践を発表し、グループ案を振り返り、評価・修正を行う。	事前課題：グループで看護目標、看護計画の発表資料を作成する。(2時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、評価・修正を行い課題を仕上げる。(2時間)
関連科目	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、フィジカルアセスメントおよび基礎看護学実習Ⅱに深く関連する。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践	秋葉公子 江崎フサ子 (他)	ヌーヴェルヒロカワ
	2	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ヘンダーソン看護論と看護実践への応用	金子道子	照林社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験 40%、課題 (グループ課題・個人課題) 40%、授業参加態度 10% ピア評価 10% 原則、全ての授業および演習に出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。			
学生への メッセージ	看護の提供には、その看護師の考え方や思い、倫理観が反映されます。看護職者としてどのようにあるべきか、また、どのようにありたいか、自己の考えを深めてください。 本科目は基礎看護学実習Ⅱに深く関連する科目です。本科目の目標を達成できなければ、基礎看護学実習Ⅱに臨むことができません。本科目の目標を達成していけるように自己学習をしっかりと行っていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)、研究室2 (神谷)、研究室3(山居)、共同研究室1 (北村、他)			
備考	講義時の準備物、個人課題およびグループワーク課題については講義内で別途指示します。指定された期日までに、必ず準備を整え、課題を提出してください。 提出した課題については、必要に応じて授業内でフィードバックします。			

科目名	成人看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Adult Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	稲垣 美紀
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2034a0		

授業概要・目的	ライフサイクルにおける成人期の特性をふまえ、家族や職場・地域社会で様々な役割をもつ成人期の対象の健康及び健康の危機状況や急性期症状を呈する健康問題をもつ成人期の対象の理解と看護、及び慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解と看護について学習する。また成人看護に有用な主要概念・理論について理解する。
到達目標	本授業では、各教員の病院での実践経験を踏まえて授業内容を教授します。 1. ライフサイクルにおける成長発達と特徴について説明できる。 2. 成人保健の動向について統計的な視点から説明できる。 3. 急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護について説明できる 4. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 5. 成人看護に有用な主要概念・理論について説明できる。 6. リハビリテーションを必要とする対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 7. がんと共に生きる患者の理解及び特徴的な看護について説明できる。 8. ター
授業方法と留意点	成人期にある対象を理解する。そして授業計画に沿った講義を通して、ライフサイクルにおける青年期から向老期の成人の特徴を理解する。成人の特徴を踏まえた急性期看護および慢性期看護を学習する。教科書による予習・復習を課し、教科書の内容を活用して学習する。また臨床事例や視聴覚教材を活用して、主要概念や看護理論の知識を深め、実践に活用できるようなみかた・考え方を学習する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験に必須の科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ライフサイクルからみた成人期の特徴	・成人期の成長・発達と健康レベル ・成人保健の動向	・授業前に第1章「成人看護学の概念と構成」、第2章「成人看護学の特性」を読んでおく。 (1時間) 特に第1章2,3, 第2章1,3を読んでおくこと。授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)
2	成人期にある対象の健康保健・医療・福祉における動向と課題	・成人期における健康、健康レベルにおける枠組み ・成人期における健康障害の特徴と予防の現状 ・第1・2回で理解した内容をもとに、成人期にある対象の健康課題について、自身や周囲の人々の経験などから、理解を深めることができる。	・授業前に第3章「保健・医療・福祉における動向と課題」、第5章「健康レベルにおける枠組み」を読んでおくこと。(1時間) 授業後は課題を提出する。(1時間)
3	急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護	・侵襲に対する生体反応 ・急性期にある対象の特徴 ・急性期にある対象の看護 ・心身の危機状態に対する看護の基盤となる理論・モデル	・授業前に第5章「健康レベルにおける枠組み」、第6章3「ストレス理論・ストレスコーピング・危機理論」、4「生体侵襲理論」を読んでおくこと。(1時間)授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)
4	成人期にある人の理解	・アクティブラーニング 成人期にある対象の健康課題や看護の役割について、説明できる。	・授業前に第2回講義後に提出した課題及び今までの講義内容をもとに、成人期にある対象の健康課題や看護師の役割について、自身の考えをまとめておくこと。(1時間) 授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)
5	急性期にある対象の理解①	・アクティブラーニング ・がんで手術療法を受ける対象の事例を活用しながら、周手術期にある対象の心身の特徴や問題についてグループ討議する。	・授業前に配布する資料を読んでおく。(30分) 授業後は課題を提出する。(1時間)
6	急性期にある対象の理解②	・アクティブラーニング ①で明らかにした周手術期にある対象の心身の特徴や問題について他者に説明(発表)し、看護の方向性について討議する。討議を通して、様々な理解の視点や考え方を得る。	・授業前に配布する資料を読んでおく。(30分) 授業後は課題を提出する。(1時間)
7	成人看護における倫理的課題と看護者の役割、緩和ケア	・アクティブラーニング 看護倫理と倫理原則、成人看護にまつわる倫理的課題について理解する。さらに、教科書の症例検討シートを参考にしながら事例検討を行い、倫理的問題解決過程を学習する。 ・急性期にある対象の全人的苦痛の理解と緩和ケア	・授業前に教科書第4章「成人看護における倫理と看護者の役割」を読んでおくこと。緩和ケアについては資料を配布する。(1時間) 授業後は課題を提出する。(1時間)
8	成人看護学におけるヘルスアセスメント、成人期の特徴をとらえた看護過程の展開	・成人看護学におけるヘルスアセスメント ・心理社会的側面に関するアセスメント、アセスメントの統合、看護展開	・授業前に教科書第7章「成人におけるヘルスアセスメント」、第8章「看護過程の展開」を読んでおくこと(1時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること(1時間)。
9	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(1)	・慢性疾患及び治療法の特徴について ・対象の心理・身体・社会的な特徴と看護 ・健康の再構築への支援が必要な対象の理解 (グループワークを含む)	・授業前に教科書第5章3「慢性的な経過をたどる健康障害の患者」、第5章4「健康再構築への支援を必要としている対象」を読んでおくこと(1時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること(1時間)。
10	慢性的な経過をたどる健康	・セルフケア理論の理解と活用	・授業前に教科書第6章5「セルフケア論」を読ん

		障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(2)		<p>でしておくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	11	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の看護に有用な主要概念・理論 (1)	<p>・アンドラゴジー理論の理解と活用</p> <p>・自己効力理論の理解と活用、患者支援教育の理解</p>	<p>・授業前に第VI章10「アンドラゴジー」、6「自己効力理論」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	12	リハビリテーションを必要とする対象の理解と特徴的な看護 (1)	<p>・リハビリテーションの概念の理解</p>	<p>・授業前に第V章3「リハビリテーションを必要とする患者」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	13	リハビリテーションを必要とする対象の理解と特徴的な看護 (2)	<p>・リハビリテーションを必要とする対象の理解 (障害受容) と看護の役割</p>	<p>・授業前に第V章3「リハビリテーションを必要とする患者」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	14	がんと共に生きる患者の理解と特徴的な看護	<p>・がんとともに生きる対象の理解 (全人的苦痛をもつ患者の理解) と特徴的な看護</p> <p>・がん医療における緩和ケア</p>	<p>・授業前に参考書の「がん看護」の「がん患者の特徴」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	15	ターミナル期の患者の理解と特徴的な看護	<p>・ターミナル期の定義</p> <p>・ターミナル期にある対象の特徴 (心理過程の理解) と必要な援助</p>	<p>・授業前に第V章5「ターミナル期の援助を必要としている対象」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること。またレポート課題を行う (2時間)。</p>																
関連科目	成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習 (急性)・(慢性)																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学概論 (第2版)</td> <td>大西和子、岡部聡子</td> <td>ヌーベルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア</td> <td>田村 恵子</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学概論 (第2版)	大西和子、岡部聡子	ヌーベルヒロカワ	2	新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア	田村 恵子	メヂカルフレンド社	3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	成人看護学概論 (第2版)	大西和子、岡部聡子	ヌーベルヒロカワ																	
2	新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア	田村 恵子	メヂカルフレンド社																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国民衛生の動向 2020/2021 (厚生指針)</td> <td>厚生労働統計協会</td> <td>厚生労働統計協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護：クリティカルケア</td> <td>明石恵子、益田美津美</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>がん看護学</td> <td>大西和子、飯野京子</td> <td>ヌーベルヒロカワ</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国民衛生の動向 2020/2021 (厚生指針)	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	2	新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護：クリティカルケア	明石恵子、益田美津美	メヂカルフレンド社	3	がん看護学	大西和子、飯野京子	ヌーベルヒロカワ			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国民衛生の動向 2020/2021 (厚生指針)	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会																	
2	新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護：クリティカルケア	明石恵子、益田美津美	メヂカルフレンド社																	
3	がん看護学	大西和子、飯野京子	ヌーベルヒロカワ																	
評価方法 (基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。定期試験 (50%)、レポート課題 (40%)、グループワークの参加状況 (10%) を総合して総合的評価をする。尚レポート課題は授業中に説明する。																			
学生へのメッセージ	成人看護学に関する基礎となる知識を習得しますので、しっかり学習しましょう。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業の中でフィードバックします。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィードバックします。																			
担当者の研究室等	稲垣 (研究室 26)、森谷 (研究室 29)																			
備考																				

科目名	成人看護学援助論Ⅰ（急性）	科目名（英文）	Adult Nursing I(Acute)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	竹下 裕子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2036a0		

授業概要・目的
【授業概要・目的】
 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象とその家族の特徴を理解し、生命の維持と心身の早期回復、早期社会復帰に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。
 集中治療室、外科系病棟で看護師として勤務した経験を活かした実践的教育を行う。

到達目標
【一般目標】
 1. 手術を受ける対象とその家族の身体的、心理・社会的特徴および倫理的課題について理解できる。
 2. 麻酔・手術における侵襲と生体反応を踏まえ、術後合併症のアセスメントと予防のための看護援助について理解できる。
 3. 手術を受ける対象とその家族が、周手術期および退院後もQOLのより高い生活を獲得できるよう、チーム医療のもとで行う看護援助について理解できる。
 4. 生命の危機的状態に陥った対象とその家族の特徴、アセスメントおよび救命救急処置の必要性について理解できる。

授業方法と留意点
 下記の授業計画に沿って、講義およびディスカッション等を組み合わせた授業を行います。教科書を利用し、適宜プリントを配布するので持参してください。課題については授業内にフィードバックを行う時間を設けます。質問は、授業時間内および、授業時間外でも適宜受け付けます。本授業の教科書は、3年前期の成人看護学援助論Ⅱ（急性）でも使用しますので、大切に保管してください。

科目学習の効果（資格）
 ・臨床実習（成人看護学実習（急性））において、看護援助を実践するための基盤となる。
 ・看護師国家試験の出題範囲である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	周手術期にある対象の特徴と理解①—手術侵襲と生体反応	麻酔・手術侵襲に伴う生体反応、炎症、創傷治癒	【事前】教科書1の序章、第1章、第4章を読むこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（30分）
2	周手術期にある対象の特徴と理解②—術前患者	情報収集とアセスメント、術前オリエンテーション、術前日～術当日の看護	【事前】教科書1の第7章を読むこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（30分）
3	周手術期にある対象の特徴と理解③—術中看護	麻酔法、手術室環境、手術室での看護	【事前】教科書1の第3章、第8章を読むこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（30分）
4	周手術期にある対象の特徴と理解④—術後看護	麻酔・手術侵襲からの回復を促進するための看護 患者アセスメント、早期離床、疼痛管理、自己管理に向けた援助	【事前】教科書1の第9章を読むこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（30分）
5	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助①	呼吸器合併症、循環器合併症、イレウス予防のための看護	【事前】教科書1の第9章を読むこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく。また、術後の体液バランスと輸液管理についてまとめておく（30分）
6	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助②	術後感染、縫合不全（創傷管理・ドレーン管理含む）、術後せん妄予防のための看護	【事前】教科書1の第1章C～E、第9章を読むこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（30分）
7	救急医療を必要とする対象の特徴と理解	救急医療における看護、救急患者に対するアセスメント、救命救急処置	【事前】教科書2のI「急性期の看護技術：救急（救急患者のアセスメント、心肺蘇生法）」を読むこと（30分） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（30分）
8	急性期におけるチーム医療	急性期におけるチーム協働の在り方と連携	【事前】授業時間内に指定した内容を学習しておく（30分） 【事後】資料の内容を復習しておく（30分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目
 成人看護学概論
 人体の構造と機能
 病理学総論
 疾病治療論
 感染と防御

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第11版	矢永勝彦 他編	医学書院（目安価格：税抜き2,800円）
2	パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ 急性期・周手術期 第2版	井上智子 編	照林社（目安価格：税抜き3,200円）
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	成人看護学 周手術期看護論 (第3版)	雄西智恵美 他編	ヌーヴェルヒロカワ
	2	経過別成人看護学2 周手術期看護 (第2版)	畷田 理佳 他編	メヂカルフレンド社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、課題の達成状況 40%により総合的に評価する。原則として 2/3 以上の出席を成績評価の対象とする。また遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。やむを得ない理由で欠席した場合には、欠席届を提出の上、配布資料や課題の指示を受けること (履修要項参照)。			
学生への メッセージ	急性期にある対象に対しては、迅速な対応を必要とされることが多く、看護の展開が速いのが特徴です。習得した知識を個別の対象に適用できるためには、十分な事前・事後学習が不可欠です			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室30 (竹下)			
備考	スケジュールを別途説明しますので、間違いないように授業の事前準備を行ってください。			

科目名	成人看護学援助論Ⅰ（慢性）	科目名（英文）	Adult Nursing I(Chronic)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	森谷 利香
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2037a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 慢性的な健康問題のために生活の再構築、あるいはストレスコーピングの促進が必要となる成人期の人々を理解し、対象者が主体的に療養生活に取り組むために必要な看護援助を学習する。また、代表的な慢性病をモデルにして、看護援助の方法について理解するとともに看護技術の基礎を習得する。担当教員の臨床経験に基づいて、慢性的な健康問題のある人々への看護の考え方や看護援助方法を具体的に教授する。</p> <p>【目的】 慢性的な健康問題を有する成人期の対象と家族の特徴を踏まえ、そのQOLの維持・向上、および主体的な療養生活に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p>
---------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な健康問題のために生活の再構築、あるいはストレスコーピングの促進が必要な対象（以下対象とする）とその家族の特徴と課題を説明できる。 2. 対象の症状、および治療に伴う副作用に対する看護援助について説明できる。 3. 対象と家族の生活をアセスメントし、関連要因を踏まえた上で主体的な療養生活に向けた援助が理解できる。 4. 対象とその家族のQOLの維持・向上のために必要なチーム医療の在り方と看護の役割を理解できる。 5. 対象と家族に生じることが予想される倫理的課題について理解し、自分の考えを考察
------	---

授業方法と留意点	本授業は講義を中心とし、ディスカッションやグループワークを含む。病態、検査、治療に関しては、人体の構造と機能とともに理解が必要であるため、既習の内容を復習しながら進める。看護については、まず、病態の理解に関連させて理解を深められるようにする。そして、疾病による心理・社会的影響を理解できるよう、慢性病者の療養生活のイメージ化を促す。これらの上で、看護援助を具体的に説明する。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業の中でフィードバックします。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィード
----------	---

科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験に必要な科目です
-------------	-------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	生活の再構築や適応を促進するための看護援助（1）	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護 1) 難病患者の身体的・心理社会的反応への看護	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-7-3を読んでおくこと（1時間）。
2	生活の再構築や適応を促進するための看護援助（2）	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護 2) 生活の再構築の過程を支える看護	【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す（1時間）。
3	ストレスコーピングを促進するための看護援助（1）	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護 1)	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
4	ストレスコーピングを促進するための看護援助（2）	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護 2)	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
5	ストレスコーピングを促進するための看護援助（3）	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護 1)	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-3を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
6	ストレスコーピングを促進するための看護援助（4）	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護 2)	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-3を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
7	ストレスコーピングを促進するための看護援助（5）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護 1)	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
8	ストレスコーピングを促進するための看護援助（6）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護 2)	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅱ（慢性）、疾病・治療論Ⅰ～Ⅲ
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版	鈴木久美 他	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ
	2	「系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器」	浅野浩一郎 他	医学書院
	3	「系統看護学講座 成人看護学[4] 血液・造血器」	飯野京子 他	医学書院
評価方法 (基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。また、筆記試験(90%)およびレポート(10%)の内容を総合して評価する。			
学生への メッセージ	提出されたレポートに関しては必要に応じて授業の中でフィードバックします。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィードバックします。			
担当者の 研究室等	研究室 29 森谷			
備考				

科目名	成人看護学援助論Ⅱ(急性)	科目名(英文)	Adult Nursing II(Acute)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	稲垣 美紀 竹下 裕子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2038a0		

授業概要・目的	健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象およびその家族に関して、予測の問題を含めて看護問題を抽出し、問題解決へ導くために根拠に基づいた看護を展開する能力を養う。また、模擬患者に対して、アセスメントをもとにした看護援助技術の提供や患者役の体験を通して、より適切な看護援助技術の実践に向けた自己の課題に気付くことができる。学内演習の振り返りを通して、看護職者としての倫理観や対象に適した看護実践を展開する基礎的能力を養う。
到達目標	集中治療室、外科系病棟で看護師として勤務した経験を活かした実践的教育を行う。 1. 手術を受ける対象とその家族への看護実践に必要な情報収集、アセスメント、計画立案の過程について理解できる。 2. 手術を受ける対象の観察とモニタリングについて、計画に基づき実施・評価できる。 3. 手術を受ける対象の合併症予防と心身の早期回復を促進するための看護について、計画に基づき実施・評価できる。 4. 急性期にある対象の心身の苦痛を理解し、緩和に必要な看護技術について習得する。 5. 急性期にある対象とその家族の看護問題を解決するために、学生同士で関わり合いながら主体的な学習態度で取
授業方法及び留意点	本科目は看護過程や看護技術の学習など演習を中心に行う。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、シミュレーションなどを含む。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業中、もしくは授業終了後にフィードバックする。 2年後期の成人看護学援助論Ⅰ(急性)で使用した「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第11版(医学書院)」と「パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ 急性期・周手術期 第2版(照林社)」の2冊を使用しますので持参してください。
科目学習の効果(資格)	成人看護学実習(急性)で実際に活用する援助方法である。また、看護師国家試験受験において必須科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助①、手術を受ける対象への看護過程の展開①	・胃切除術を受ける対象に対する看護と看護過程展開に向けたオリエンテーション	事前課題: 胃の構造と機能、胃癌の特徴、胃がんの治療について学習しておく(30分) 事後課題: 授業で提示する課題に取り組む(30分)
2	手術を受ける対象への看護過程の展開②	・模擬電子カルテより情報収集を行う	事前課題: 看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題: 看護記録の提出(30分)
3	手術を受ける対象への看護過程の展開③	・情報の整理、解釈、分析を行う	事前課題: 看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題: 看護記録の提出(30分)
4	手術を受ける対象への看護過程の展開④	・収集した情報の統合、関連図の作成を行う	事前課題: 看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題: 看護記録の提出(30分)
5	手術を受ける対象への看護過程の展開⑤	・関連図、看護問題リスト作成、優先順位の検討を行う	事前課題: 看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題: 看護記録の提出(30分)
6	手術を受ける対象への看護過程の展開⑥	・優先順位の高い看護問題に対して、目標の設定、計画立案を行う	事前課題: 看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題: 看護記録の提出(30分)
7	手術を受ける対象への看護過程の展開⑦	・自身が展開した看護過程を他者に説明する。 ・看護過程全体のまとめを行う。	事前課題: 看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題: 看護記録の提出(30分)
8	救急患者に対するアセスメント・救命救急処置	・救命救急時の観察・心肺蘇生(技術演習)	事前課題: 技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題: 課題の提出(30分)
9	手術を受ける対象への看護技術①	・手術室からの掃室準備、吸引、心電図モニター他(技術演習)	事前課題: 技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題: 課題の提出(30分)
10	手術を受ける対象への看護技術②	・術直後の全身状態の観察とモニタリング(技術演習)	事前課題: 技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題: 課題の提出(30分)
11	手術を受ける対象への看護技術③	・術直後の全身状態の観察とモニタリング/モニター、ライン、ドレーン等(技術演習)	事前課題: 技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題: 課題の提出(30分)
12	手術を受ける対象への看護技術④	・早期離床と日常生活援助(技術演習)	事前課題: 技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題: 課題の提出(30分)
13	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助②	・人工関節置換術を受ける対象に対する看護	事前課題: 教科書2のVII(両側人工関節置換術)を読んでおくこと(30分) 事後課題: 講義、資料の内容を復習しておく(30分)
14	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助③	・開胸術・開心術を受ける対象に対する看護	事前課題: 教科書2のVII(肺切除術、冠動脈バイパス術)を読んでおくこと(30分) 事後課題: 講義、資料の内容を復習しておく(30分)
15	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助④	・開頭術を受ける対象に対する看護	事前課題: 教科書2のVII(脳動脈クリッピング術)を読んでおくこと(30分) 事後課題: 講義、資料の内容を復習しておく(30分)

関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ(急性)		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。授業の中で課したレポート、課題の達成状況により100%総合的に評価する。したがって、指示された課題は必ず期日までに提出してください。			
学生への メッセージ	本授業では、成人看護学実習（急性）に向けた看護過程や看護技術について、臨床現場を再現したシミュレーションやロールプレイ等を通して基本的な内容を学習します。学生同士で協力し合いながら、学びを高めてください。具体的には別途説明します。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室30 竹下			
備考				

科目名	成人看護学援助論Ⅱ (慢性)	科目名 (英文)	Adult Nursing II(Chronic)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷 利香
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN3039a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 慢性的な健康問題によってセルフケアの促進が必要となる成人期の人々を理解し、対象者が主体的に療養生活に取り組むために必要な看護援助を学習する。また、代表的な慢性病をモデルにして、看護援助の方法について理解するとともに看護技術の基礎を習得する。</p> <p>【目的】 慢性的な健康問題によってセルフケアの促進が必要となる成人期の対象と家族の特徴を踏まえ、そのQOLの維持・向上、および主体的な療養生活に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な健康問題のためにセルフケアの促進が必要な対象（以下対象とする）とその家族の特徴と課題を説明できる。 2. 対象の症状、および治療に伴う副作用に対する看護援助について説明できる。 3. 対象と家族の生活をアセスメントし、関連要因を踏まえた上で主体的な療養生活に向けた援助が理解できる。また、これに関連する援助技術を習得できる。 4. 対象とその家族のQOLの維持・向上のために必要なチーム医療の在り方と看護の役割を理解できる。 5. 対象と家族に生じることが予想される倫理的課題について理解できる。
授業方法と留意点	本授業は講義、技術演習、グループワーク、プレゼンテーションを用いながら授業目的の達成を目指す。病態、検査、治療に関しては、人体の構造と機能とともに理解が必要であるため、既習の内容を復習しながら進める。看護については、まず、病態の理解に関連させて理解を深められるようにする。そして、疾病による心理・社会的影響を理解できるよう、慢性病者の療養生活のイメージ化を促す。これらの上で、看護援助を具体的に説明する。看護過程ではグループワークを中心として、慢性病者に対する看護展開について基本を学ぶ。技術演習では、臨床で看
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験に必須の科目である

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	セルフケアを促進するための看護援助 (1)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護 1)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>
2	セルフケアを促進するための看護援助 (2)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護 2)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>	
3	セルフケアを促進するための看護援助 (3)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護 1)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>	
4	セルフケアを促進するための看護援助 (4)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護 2)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>	
5	セルフケアを促進するための看護援助 (5)	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護 1)糖尿病の発症に伴う身体的・心理社会的反応とセルフケアの特徴	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-4-1を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。 レポートを課す (1時間)。</p>	
6	セルフケアを促進するための看護援助 (6)	慢性閉塞性肺疾患により新たな療養法を必要とする患者の理解と看護	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-2を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>	
7	慢性的な健康問題のある対象への看護過程 (1)	情報の整理・解釈・分析 1): グループワーク	【事前課題】 演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(2時間)	
8	慢性的な健康問題のある対象への看護過程 (2)	情報の整理・解釈・分析 2): グループワーク	【事後課題】 完成させた課題を提出する。(情報の整理・解釈・分析) 提出 (1時間)	
9	慢性的な健康問題のある対象への看護過程 (3)	関連図, 統合・看護問題の明確化: グループワーク	<p>【事前課題】 演習に関する資料および課題を事前に配布する。(2時間)</p> <p>【事後課題】 完成させた課題 (関連図, 統合・看護問題の明確化) を提出する。(1時間)</p>	
10	慢性的な健康問題のある対象への看護過程 (4)	看護計画の立案: グループワーク	<p>【事前課題】 演習に関する資料および課題を事前に配布する。(1時間)</p> <p>事後課題: 完成させた課題(看護計画)を提出する。(1時間)</p>	
11	慢性的な健康問題のある対象への看護過程 (5)	看護過程成果の共有: プレゼンテーション	【事後課題】 完成させた全ての課題を提出する。(1時間)	
12	慢性的な健康問題のある対象に必要な看護技術 (1)	自己血糖測定・インスリン自己注射を用いてセルフマネジメントを必要とする患者への援助: 演習	<p>【事前課題】 演習に関する資料および課題を事前に配布する (1時間)</p> <p>事後課題: 演習に関する資料および振り返りレポートを提出する。(1時間)</p>	
13	慢性的な健康問題のある対象に必要な看護技術 (2)	継続的な療養法の習得に向けた教育的支援: 演習	<p>【事前課題】 演習に関する資料および課題を事前に配布する (1時間)</p> <p>事後課題: 実施を振り返りレポートを提出する。(1時間)</p>	
14	慢性的な健康問題のある対象に必要な看護のまとめ (1)	まとめの演習 1) グループワーク	【事前課題】 演習に関する資料および課題を事前に配布する (1時間)	
15	慢性的な健康問題のある対	まとめの演習 2) プレゼンテーション	【事後課題】 実施を振り返りレポートを提出する。	

	象に必要な看護のまとめ (2)	(1時間)																
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅲ、成人病態看護論 人体の構造と機能、疾病・治療論や薬物治療学など																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版</td> <td>鈴木久美 他</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版	鈴木久美 他	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名															
1	看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版	鈴木久美 他	南江堂															
2																		
3																		
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学 慢性期看護論</td> <td>鈴木志津枝 他</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経過別成人看護学3 慢性期看護</td> <td>黒江ゆり子 他</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ	2	経過別成人看護学3 慢性期看護	黒江ゆり子 他	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名															
1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ															
2	経過別成人看護学3 慢性期看護	黒江ゆり子 他	メヂカルフレンド社															
3																		
評価方法 (基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。また、筆記試験(50%)およびレポートなどの成果物の内容(50%)を総合して評価する。																	
学生への メッセージ	成人看護学実習Ⅱに向けて実践がイメージできるように授業を行います。																	
担当者の 研究室等	研究室 29 森谷																	
備考																		

科目名	成人看護学実習（急性）	科目名（英文）	Clinical Practice in Adult Nursing(Acute)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	稲垣 美紀
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3040a0		

授業概要・目的	周手術期にある対象を全人的にとらえ、理論と実践を結びつけた看護活動を展開する能力を養う。急性期看護の臨床経験のある教員が、臨地実習指導者と協働して指導を行う。
到達目標	1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別的特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 術前・術中・術後の基本的な看護技術を原理・原則に基づき、安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることがで
授業方法と留意点	本実習は、2年後期の成人看護学援助論Ⅰ（急性）、3年前期の成人看護学援助論Ⅱ（急性）で学修を活かして、臨地で受け持ち患者に対して看護実践を行います。既習科目の資料や教科書を復習し、大切に保管してください。実習計画については、オリエンテーションで具体的に説明します。オリエンテーションをきいて、しっかりと事前学習を行って、実習に参加してください。
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験に必須の科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実習病棟および受け持ち患者を想定した知識の理解	事前オリエンテーション 学内オリエンテーション	【事前】一般的な周術期患者の看護に必要な知識・実習病棟や受け持ち患者に必要な知識の整理 【事後】実習後の追加・修正
	2	実習病棟および受け持ち患者を想定した看護展開の理解	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した情報収集項目の整理、病態関連図の作成【事後】実習後の追加・修正
	3	実習病棟および受け持ち患者を想定した看護実践の理解	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した看護技術ワークシートの記載 【事後】実習後の追加・修正
	4	受け持ち患者に沿った看護問題の明確化、看護目標の設定、看護計画・実践・評価	学内実習、臨地実習	【事前】受け持ち患者を想定した看護計画の立案、評価 【事後】実習後の追加・修正
	5	実習の成果の発表 自己課題の明確化	臨地実習成果発表会 学内成果発表会	【事前】自己課題シート、成果発表会資料の作成 【事後】実習後の追加・修正
	6	詳細な予定や事前・事後課題の説明は、各オリエンテーションで、担当教員より個別に説明します。		
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ（急性）、成人看護学援助論Ⅱ（急性）
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	ルーブリック評価表を用いて、評価を行います。評価表は、オリエンテーションで説明します。
----------	---

学生へのメッセージ	失敗を恐れず、しっかりと報告・連絡・相談を行って、積極的に実習できることを期待しています。不明なことや不安なことがあれば、遠慮なく教員にたずねてください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	成人看護学実習（慢性）	科目名（英文）	Clinical Practice in Adult Nursing(Chronic)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	森谷 利香
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3040a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 臨地実習としての看護実践を通して以下について学習し、慢性疾患を持つ対象への看護に関する基礎的能力を身に着ける。 本科目は担当教員の実務経験に基づき実践的教育を行う。</p> <p>【目的】 慢性疾患の発病初期、急性増悪期、終末期といった様々な経過にある、主に成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向けて対象が治療に伴う療養生活に主体的に取り組むことができるよう援助する看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p>																																																																		
到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。 対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。 対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。 対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。 対象とその家族が直面 																																																																		
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 実習方法 実習グループは原則として1グループ5名編成とする。 実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。 実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。 原則として臨地に出向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。 カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。 実習中に指定された記録物を作成する。すべての記録物は、期日を 																																																																		
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験に関係する科目です。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>別途説明します。</td><td>別途説明します。</td><td>別途説明します。</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	別途説明します。	別途説明します。	別途説明します。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	別途説明します。	別途説明します。	別途説明します。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ（慢性）、成人看護学援助論Ⅱ（慢性）、疾病・治療Ⅰ～Ⅲ等																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	この実習は慢性的な健康問題をもつ対象への看護の実際を学ぶ機会となります。まずは関連する科目の学習が重要です。それらを基盤として、実習で応用することで理解を深めるとともに技術を習得しましょう。																																																																		
担当者の研究室等備考	研究室29 森谷																																																																		

科目名	老年看護学援助論 I	科目名 (英文)	Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 宣子, 村瀬 由貴, 田中 真佐恵
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2042a0		

授業概要・目的	(概要) 高齢者の生きてきた背景や価値観を踏まえたうえで、「高齢者が望む生活は何か」を重視する生活機能の視点からアセスメントし、高齢者の QOL を高める具体的なケアについて学びます。そのために、講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生活支援についてのグループ学習・実技等を行い、高齢者理解を深めます。 (全 15 回)
到達目標	1) 高齢者に生じやすい認知症への理解を深め、生活への影響や具体的援助を考えることができる。 2) 加齢や疾患に伴う日常生活能力の変化をアセスメントし、それに適した援助を考えることができる。 3) 長年の生活で培われた価値観や生活習慣を尊重する態度を養う。
授業方法と留意点	講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生活支援の演習、高齢者の特徴をふまえた活動を拡大するための演習を行います。事前および事後課題・レポート (疑似体験・ゲスト・活動を拡大する演習・生活支援演習)・テスト等を組み合わせて評価します。また、グループワーク参加状況・グループ貢献度も評価に含みますので、欠席しないようにしましょう。また、各講義や演習時に課すレポートや評価の対象になるので、必ず提出するようにしてください。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当教員に連絡の上、後日、課題を提出してください
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	高齢者疑似体験演習①	【演習】 高齢者疑似体験を行います。	【事前】 老年看護学実習 I・II での体験を思い出し、高齢者の身体的特徴について要点をレポートする (一時間) 【事後】 高齢者疑似体験から考察した高齢者への生活援助の視点をワークシートに記入し提出する。(一時間)
2	高齢者疑似体験演習②	【演習】 高齢者疑似体験を行います。	【事前】 老年看護学実習 I・II での体験を思い出し、高齢者の身体的特徴について要点をレポートする (一時間) 【事後】 高齢者疑似体験から考察した高齢者への生活援助の視点をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
3	高齢者の生活機能から捉えた看護 (活動と休息①)	【講義】高齢者における活動と休息のバランスや、活動状況に影響を与える心身の特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 テキスト P142~146 を読み、廃用性症候群の原因と種類について要点をまとめておく (一時間) 【事後】 高齢者の活動の援助の必要性について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
4	認知症高齢者の理解と支援 ①	【講義】 認知症の疫学、定義、診断、病態、薬物療法等について学習します。	【事前】 認知症を理解するための資料 (第 2 講目に配布) を読み、要点をまとめておく (一時間) 【事後】 認知症高齢者の援助について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
5	高齢者の生活機能から捉えた看護 (清潔/身じたく)	【講義】 高齢者の皮膚の状態等を踏まえながら、清潔/身じたくに関するアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 加齢による皮膚や粘膜の変化についてテキストを読み要点をまとめておく (一時間) 【事後】 高齢者の清潔の援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
6	高齢者の生活機能から捉えた看護 (活動と休息②)	【講義】 高齢者の活動・休息は、心身の機能の変化によって安全・安楽が脅かされやすくなります。高齢者の安全、安楽を支えるアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 高齢者の活動を阻害する要因についてテキストを読んで要点をまとめておく。(一時間) 【事後】 高齢者の休息の援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
7	高齢者の生活機能から捉えた看護 (食事)	【講義】 高齢者の食・栄養における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 高齢者の食事や栄養の特徴について要点をまとめておく (一時間) 【事後】 高齢者の食事について指示されたワークシートに記入し提出する。(一時間)	
8	高齢者を尊重した生活支援の実際	【講義】 高齢者施設での生活支援の実際と高齢者を尊重したダイバーショナルセラピーターとしての活動をゲストスピーカーの講演を通して学びます	【事前】 テキスト P218~224 を読み、高齢者の社会参加についての要点をまとめておく (一時間) 【事後】 講演を聴講後に学びをレポートに記入し提出する。(一時間)	
9	認知症高齢者の理解と支援 ②	【講義】 認知症の症状からくる生活障がいへの対応、家族への支援などの具体的なケアについて学習します。	【事前】 認知症を理解するための資料 (第 2 講目に配布) を読み、要点をまとめておく (一時間) 【事後】 認知症高齢者の援助について指示された内容をワークシートに記入し提出する (一時間)	
10	高齢者の生活機能から捉え	【講義】	【事前】	

	た看護 (排泄)	高齢者の排泄機能における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	加齢による排泄への影響についてテキストを読み要点をまとめておく(一時間) 【事後】 高齢者の排泄援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)
11	高齢者の活動を拡大するための演習①	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた活動を拡大するための方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握していただくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)
12	高齢者の活動を拡大するための演習②	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた活動を拡大するための方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握していただくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)
13	高齢者の生活支援演習①	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた生活支援の方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握していただくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)
14	高齢者の生活支援演習②	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた生活支援の方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握していただくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)
15	高齢者の生活機能から捉えた看護 (コミュニケーション)	【講義】 高齢者のコミュニケーションにおける特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 老年看護学実習Ⅰでの体験を思い出し、気がかりに感じた場面をレポートに記入しておく。(一時間) 【事後】 授業時に作成したワークシートを完成させ、テキストP198～213の要点をまとめておくこと。(一時間)

関連科目 人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、老年看護学実習Ⅰ～Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 老年看護学	北川公子	医学書院
	2	医学書院の生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 定期テストと提出物・レポート(授業内で指示するもの)、演習中の学習態度や事前課題およびレポート提出状況も加味して総合的に評価します。体調に留意し、毎回の授業に積極的に参加してください。

学生へのメッセージ 既習の基礎看護学を高齢者に適応する知識や技術と、老年看護学概論で学んだ「加齢現象」をもとにしての学習になります。しっかりと復習、理解した上で、老年看護学援助論に取り組みましょう。実務経験のある教員が行う。

担当者の研究室等 村瀬由貴 7号館3階 研究室4
小川宣子 7号館3階 研究室10
田中真佐恵 7号館3階 共同研究室2

備考

科目名	老年看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 宣子, 村瀬 由貴, 田中 真佐恵
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2043a0		

授業概要・目的	<p>1年時から履修した老年看護学概論と老年看護学援助論Ⅰの知識と老年看護学実習Ⅰ・Ⅱの体験を合わせて、高齢者への看護実践方法を学びます。毎回の授業時にグループワークなどの演習で援助方法の視点を検討し、看護技術演習での実践を目指します。さらに、実践後の評価から高齢者の看護において重要と考える内容を自分自身の課題と合わせて振り返ります。</p> <p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・心理的变化の知識をもとに、高齢者の健康逸脱からの回復を促す看護と終末期を支える看護について理解する。 2. 高齢者によくみられる脳神経・循環器・呼吸器・内分泌・筋骨格系等の疾患をもつ方への援助方法を学習し、健康上の課題を解決するための看護過程が展開できる能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 疾患を持つ高齢者の健康障害の特徴と看護について理解できる。 2) エンドオブライフケアが必要な高齢者と家族の看護について理解できる。 3) 健康障害を持つ高齢者の看護過程の展開ができる。
授業方法と留意点	<p>基本的にはテキストを使用して授業を進めますが、適宜プリント等の補助教材を使用します。毎回、テキストと配布したプリントを必ず持参してください。講義で学習した内容については毎回復習を行い、疑問があれば、解決を図るようにしてください。演習では、高齢者への看護実践にむけた主体的な学習を行っていきます。自己学習や事前・事後学習の成果物はポートフォリオとしてまとめますので、なくさないように管理してください。演習では看護実践方法を検討していきます。また、各講義や演習時に課題を課すレポートも評価の対象となる。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>臨地実習での看護実践のために必要な基本的な知識を得ることができます。看護師国家試験にも必須の学習内容です。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	老年看護における看護過程の展開と健康段階に応じた高齢者看護	<p>【講義・演習】 老年看護における看護過程の展開の考え方と様々な健康段階でのアセスメントの視点や看護のあり方について学習します。</p>	<p>【事前】 テキスト第7章 (P314~344) を読み、治療を必要とする高齢者の看護の要点をまとめておく (一時間)</p> <p>【事後】 手術を受ける高齢者に必要な看護の要点をまとめる (一時間)</p>
2	疾患をもつ高齢者の看護 (1: 筋骨格系疾患)	<p>【講義・演習】 大腿骨頸部骨折や変形性膝関節症等、高齢者に多い筋骨格系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。</p>	<p>【事前】 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく (一時間)</p> <p>【事後】 大腿骨頸部骨折の看護についての要点をまとめる (一時間)</p>	
3	疾患をもつ高齢者の看護 (2: 脳神経系疾患)	<p>【講義・演習】 脳出血や脳梗塞等、パーキンソン病等、高齢者に多い脳・神経系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。</p>	<p>【事前】 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく (一時間)</p> <p>【事後】 リハビリ期の高齢者に必要な看護について要点をまとめる (一時間)</p>	
4	疾患をもつ高齢者の看護 (3: 呼吸器・循環器・内分泌疾患)	<p>【講義・演習】 COPD、虚血性心疾患、糖尿病等高齢者に多い呼吸器・循環器・内分泌系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。</p>	<p>【事前】 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく (一時間)</p> <p>【事後】 在宅療養を行う高齢者の看護について要点をまとめる (一時間)</p>	
5	看護過程の展開 (3: 退院支援)	<p>【講義・演習】 疾患や障害を抱えながら退院していく高齢者への退院支援におけるアセスメントや看護について学習します。</p>	<p>【事前】 高齢者を支える家族の世帯構成の特徴や日本の課題を見直してまとめておく (一時間)</p> <p>【事後】 看護過程の事例に必要な退院支援を考える (一時間)</p>	
6	看護過程の展開 (4: 病態のアセスメント)	<p>【講義・演習】 看護過程の事例の疾患関連情報のアセスメントの視点について解説します。加齢変化を踏まえながら、二次的障害の予測を思考していきます。</p>	<p>【事前】 記録用紙に沿って、事例の健康上の課題を抽出して記入する (一時間)</p> <p>【事後】 授業後に不足する内容を記載する (一時間)</p>	
7	看護過程の展開 (5: 生活機能のアセスメント)	<p>【講義・演習】 看護過程の事例について、生活機能の側面からアセスメントの視点について解説し、グループで検討します。</p>	<p>【事前】 記録用紙に沿って、事例の生活機能の分析をおこなって記入する (一時間)</p> <p>【事後】 授業後に不足する内容を記載する (一時間)</p>	
8	看護過程の展開 (5: 生活機能のアセスメント)	<p>【講義・演習】 看護過程の事例について、生活機能の側面からアセスメントの視点について解説し、グループで検討します。</p>	<p>【事前】 記録用紙に沿って、事例の健康上の課題を抽出して記入する (一時間)</p> <p>【事後】 授業後に不足する内容を記載し次回提出する (一時間)</p>	
9	看護過程の展開 (6: 看護の方向性)	<p>【講義・演習】 看護過程の事例について、看護の必要性を総括し、優先度の高い看護の方針について検討します。</p>	<p>【事前】 記録用紙に沿って全体像をまとめる (一時間)</p> <p>【事後】 授業後に不足する内容を記載する (一時間)</p>	

	10	看護過程の展開 (7:看護計画立案)	【演習】 看護計画を詳細に検討します。	【事前】 看護計画立案に必要な参考書等の準備(一時間) 【事後】 記録用紙に沿って課題に取り組む(一時間)
	11	看護過程の展開 (8:援助計画立案)	【演習】 看護計画から援助計画を詳細に検討します。	【事前】 看護計画立案に必要な参考書等の準備(一時間) 【事後】 記録用紙に沿って課題に取り組む(一時間)
	12	エンド・オブ・ライフケア	【講義・演習】 高齢者のエンドオブライフケアに必要な看護の視点の理解と看取りをする家族への援助を学びます。	【事前】 テキスト第8章(P348~357)を読んでおく(一時間) 【事後】 高齢者の意思決定についての自己の考えをまとめレポートする(一時間)
	13	看護過程の展開 (9:看護技術演習)	【演習】 演習での対象理解を踏まえた個別的な看護計画の立案と援助方法を検討します。	【事前】 所定の用紙に看護計画を立案する(1時間) 【事後】 看護計画の修正する(1時間)
	14	看護過程の展開 (9:看護技術演習)	【演習】 演習での対象理解を踏まえた個別的な看護計画の立案と援助方法を検討し、実際に行います。	【事前】 援助場面を想定し、バイタルサイン測定練習を行う(1時間) 【事後】 援助場面を振り返り、評価を行う(1時間)
	15	看護過程の展開 (10:評価)	【講義・演習】 高齢者の看護の評価のポイントを学び、安全安楽、もてる力の視点でグループで振り返る	【事前】 配布資料を事前に読む(1時間) 【事後】 看護の評価から自己の学びと今後の課題についてまとめる(1時間)

関連科目 老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	老年看護学	北川公子	医学書院
2	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ
2	老年看護技術 アセスメントとその根拠	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ
3			

評価方法 (基準) 定期テストと提出物・レポート(授業内で指示するもの)より総合的に評価します。体調に留意し、毎回の授業に積極的に参加してください。

学生へのメッセージ 疾患をもつ対象者の看護については老年期における特徴をふまえて考えていくことが必要となります。高齢者によくみられる疾患の特徴と、どのような看護を必要とするのかについての基本を学習しますので、これまでに学習した疾病治療論や看護の実践方法について復習をしておいてください。授業担当者は実務経験がある。

担当者の研究室等 小川宣子 7号館3階研究室10
村瀬由貴 7号館3階研究室3
田中真佐恵 7号館3階共同研究室2

備考 看護過程の展開の演習は進度によって、内容が変更になる場合があります。授業中に案内します。

科目名	小児看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	池田 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2047a0		

授業概要・目的
 小児看護学の対象である子どもと家族の理解を踏まえ、発達の促進および健康保持増進に向けた看護者の役割と機能、支援方法を学習する。また、子どもと家族の理解を深めるために、必要な発達理論、親子関係理論、家族システム理論および概念について理解し、子ども観・家族観を深める。
 鎌田は看護師として6年、池田は看護師及び助産師として5年の実務経験を活かし、具体的な子どもと家族の事例を用いながら、理論や倫理的側面を踏まえながら実践的な教育を行う。

到達目標
 1. 小児看護の対象である子どもの成長発達と家族を理解する
 2. 子どもの健康保持増進および発達を促進に向けた看護者の役割と機能を理解する
 3. 小児看護でよく適用される発達理論や家族理論について理解し、看護への適用を考えることができる

授業方法と留意点
【授業方法】 原則対面授業を行う
【留意点】 授業の確認テストを行うので受験すること
 授業内容の理解を促すため、事前課題実施した上で授業に参加すること

科目学習の効果 (資格)
 看護師国家試験受験のための必須科目である。
 本科目は、小児援助論Ⅰ、小児援助論Ⅱ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	小児看護学の概観	・小児看護の対象、役割 ・子どもの発達区分、特徴について ・小児医療・看護の歴史と変遷について ・保健統計からみた子どもと家族、および子どもを取り巻く環境について	事前課題：教科書「序章 小児看護学を学ぶにあたって」を読んでおくこと。(1時間) 事後課題：身近にいる子どもを観察し、その内容や気づきをまとめる(1時間)
2	子どもの権利	・子どもの権利条約、児童福祉法、母子保健法等 ・医療における子どもの権利について ・小児医療で起こりやすい倫理的問題について ・子どもの遊びと教育	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
3	小児看護で用いる概念と理論	・発達理論 (ピアジェ、エリクソン) について	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
4	小児看護で用いる概念と理論	・母子関係理論 (ボウルビー) 等について	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
5	子どもの成長・発達の特徴	・成長・発達の一般原則について ・成長・発達への影響因子について ・成長・発達過程について ・成長・発達の評価について	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
6	各発達段階にある子どもの特徴 (新生児期・乳児期)	・新生児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴 ・乳児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
7	各発達段階にある子どもの特徴 (幼児期)	・幼児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴	事前課題；授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
8	各発達段階にある子どもの特徴 (学童・思春期)	・学童期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴 ・思春期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴	事前課題；授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 看護学概論、生命倫理、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、小児看護学実習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小児看護学概論/小児保健	添田啓子他	メヂカルフレンド社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小児看護学概論	奈良間美徳他	医学書院
2			
3			

評価方法 (基準) 定期テスト 80%、授業毎に実施する確認テスト 20%

学生への 小児看護学概論では広範な内容を網羅し、子どもの看護を理解する上での基盤となります。知識の記憶ではなく、自らが主体的に考え、理解する

メッセージ	ことを目指しましょう。習得した知識を活用できるよう、周囲の子どもにも目を向け、洞察を深めてください。
担当者の 研究室等	7号館・3階、研究室17（鎌田）、研究室16（池田）
備考	

科目名	小児看護学援助論 I	科目名 (英文)	Pediatric Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	亀田 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2048a0		

授業概要・目的	様々な発達段階にある子どもの健康状態に応じた日常生活を理解し、適切な看護を提供するために必要な基本的知識と援助技術を学修する。また、子どもの健康上の問題を理解するために、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響、子どもの疾病の原因や検査や治療法の理解を深め、子どもと家族を尊重した看護のあり方を考える。 授業担当者である鎌田、池田、亀田は看護師としての5年以上の臨床経験から子どもと家族との援助の実際を踏まえながら、ディスカッションやグループワークも含めながら授業や演習を展開する。
到達目標	1. 各発達段階にある子どもの日常生活と看護援助の特徴を理解する。 2. 子どもの健康問題の特徴と、健康問題が子どもと家族に与える影響について理解する。 3. 子どもの日常生活援助技術および子どものヘルスアセスメントについて理解する。 4. 子どもの身体構造的・機能的な特徴に基づいた症状を理解する。 5. 子ども特有の急性疾患・慢性疾患、障がいの子どもの病態生理、検査・処置、治療の看護について理解する。
授業方法と留意点	小児看護学概論で習得内容の振り返りを行いながら授業をすすめる。授業は、講義、グループワークやディスカッションを行う。簡単な事例を用いて演習を行い、習得した知識の活用を促す。 小児看護学における援助技術については、事前に自己学習し、学生が主体となってデモンストレーション、実施、ピア評価を行うことで、学生の自主性、主体性、相乗効果を促せるよう工夫する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学援助論IIの理解を深め、小児看護学実習を行うために基盤となる科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	健康問題や障害が子どもと家族に与える影響と看護	・子どもが病気や入院をどのように理解するか学ぶ	事前課題教科書：「健康障害をもつ小児の看護」のP8～23を自己学習しておくこと、ピアジェの認知発達理論について復習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。(1/2時間)
2	新生児・乳幼児期の発達段階に応じた看護	・新生児・乳児の特徴と看護を理解する。	事前課題：教科書教科書「健康障害をもつ小児の看護」P26-46を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)	
3	幼児の発達段階に応じた看護	・幼児の特徴と看護を理解する。	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P47-58を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)	
4	学童・思春期の成長発達と看護	・学童・思春期の特徴と看護を理解する。	事前課題：事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P59-75を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)	
5	乳幼児の日常生活援助技術演習	・定頭していない乳児の抱っこ、移動に関する援助技術 ・定頭している幼児の抱っこ、移動に関する援助技術	事前課題：教科書メディカ出版「小児看護技術」P30-50を自己学習しておくこと、技術自己練習(3/4時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/4時間)	
6	乳幼児の日常生活援助技術演習	・ベッド柵の取扱い	事前課題：教科書メディカ出版「小児看護技術」P30-50を自己学習しておくこと、技術自己練習(3/4時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/4時間)	
7	子どもによくみられる症状と看護 I	・啼泣、不機嫌、発熱、発疹、けいれんなど、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P70-123の該当部分を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)	
8	子どもによくみられる症状と看護 II	・呼吸困難、嘔吐、下痢、脱水など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P70-123の該当部分を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)	
9	子どものヘルスアセスメント I	・子どもとのコミュニケーションについて ・ヘルスアセスメントの目的・意義について ・子どもの観察と情報収集の方法について	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P270-274(1/2時間) 自己学習しておくこと 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)	
10	子どものヘルスアセスメント II	・フィジカルアセスメントの実手順について	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」フィジカルアセスメントの項目を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)	
11	フィジカルアセスメント技術演習	・事例に応じたバイタルサイン測定	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」教科書「小児看護技術」P204-242を自己学習しておくこと。技術自己練習 ((3/4時間) 事後課題：技術演習内容の振り返り(1/4時間)	
12	フィジカルアセスメント技術演習	・事例に応じたバイタルサイン測定	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」教科書「小児看護技術」P204-242を自己学習しておくこと。技術自己練習 (3/4時間)	

				事後課題：技術演習内容の振り返り(1/4時間)
	13	子どもの事故と事故予防	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの事故の特徴 子どもの事故の予防について 	事前課題：教科書「小児看護学概論」発達段階における事故防止を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
	14	さまざまな治療を受ける子どもと家族への看護Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 隔離や活動制限を必要とする子どもと家族の看護 	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」の隔離や活動制限を必要とする子どもと家族の看護 P178-183 を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
	15	さまざまな治療を受ける子どもと家族への看護Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 検査や処置を受ける子どもの看護 プレパレーションについて 	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」の検査や処置を受ける子どもの看護 P166-169 を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
関連科目	小児看護学概論、基礎看護技術			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論/小児保健	小林京子 編	メジカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	小林京子 編	メジカルフレンド社
	3	小児看護学(2)：小児看護技術 第4版	中野綾美 編	ナーシンググラフィカ
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版	奈良間美穂 他	医学書院
	2			
	3			
評価方法(基準)	後期の定期試験 80%、課題、演習、グループワーク 20%とし総合的に評価する シラバスの順番が多少前後する場合があるが、事前に連絡する。			
学生へのメッセージ	小児看護学援助論Ⅰでは非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶に止まらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。演習日時および内容の詳細は第1回目の授業で説明します。			
担当者の研究室等備考	7号館 3階 研究室17(鎌田)、研究室16(池田)、研究室23(亀田)			

科目名	小児看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Pediatric Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	亀田 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2049a0		

授業概要・目的	<p>疾病・障がいがある子どもと家族の健やかな育ちを支えるために、小児期によくみられる疾患や障がいのある子どもの看護を理解する。子どもとその家族の最善の利益を目指し、発達段階、健康状態、子どもと家族の個別性、子どもと家族の「いま・ここ」の状況を捉え、最善の看護計画を立案し、実施する力を養う。架空事例を通して看護過程を展開する。</p> <p>授業担当の教員全員が小児看護の臨床経験を有している。既修の知識・講義内容と教員の小児看護実践経験や子どもと家族との関り経験を関連付けることにより、看護実践へと繋がる知識・技術となるよう導く。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患や障がいがある子どもと家族の援助について説明できる。 2. 急性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 3. 慢性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 4. さまざまな発達段階、健康状態にあり、個別性を有する子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を考察できる。 5. 小児看護特有の基本的技術を習得する。
授業方法と留意点	<p>対面授業で行う。必要時には Teams でのリアルタイムオンライン授業に切り替える。Moodle での教材・課題提供を活用する。反転授業形式を一部採用する。授業内で質疑応答時間を設ける。レポートには Moodle にて個別もしくは全体フィードバックを行う。</p> <p>主体的に講義やグループワークに参加でき、楽しく学びを得られるように、講義までに事前課題を行っておくこと。事後課題で知識を整理し、アウトプットすることと、看護過程で取り組む架空事例への看護計画に基づき技術演習を行うことで、小児看護学実習に繋がる思考力、技術力</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>小児看護学実習の先修科目であり、看護師国家試験受験資格を得るための必須科目である。</p> <p>小児看護学実習における『子どもと家族のための最善のケア』の実践に繋がる科目である。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	さまざまな健康障害がある子どもと家族の援助	<ol style="list-style-type: none"> ①授業オリエンテーション ②さまざまな健康障害がある子どもと家族 ③さまざまな小児看護実践/教育・研究の場 ④小児看護学実習の概要 (小児領域教員の小児看護実践体験談等・VTR 視聴) ⑤ミニレポート「小児看護学実習に行くまでに必要となること」 	<p>【事前課題】</p> <p>シラバスを確認しておく</p> <p>【事後課題】</p> <p>ミニレポート Moodle に提出 (30 分間)</p>
2	救急処置を要する子どもと家族の看護 (救急蘇生法) 子どもとのコミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> ①救急処置を要する子どもと家族の看護 ②窒息時の対処と子どもの心肺蘇生法 (グループワーク・動画視聴) ③子どもとのコミュニケーション 	<p>【事前課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教科書第 5 編第 1 章を読む ②小児看護のコミュニケーションに関する授業動画を視聴する。 ③教科書第 4 編第 1 章 VI、第 6 編第 4 章 VII を読む ④救急蘇生法に関する自己学修 ⑤心肺蘇生法の動画視聴 <p>【事後課題】</p> <p>救急蘇生法の復習・イメージトレーニング (1 時間)</p>	
3	小児看護の看護過程 入院中の子どもたちの生活と日常生活援助	<ol style="list-style-type: none"> ①小児の看護過程 ②小児看護学実習記録ガイド (個人ワーク) ③入院中の子どもたちの生活 ④日常生活援助 	<p>【事前課題】</p> <p>小児看護学実習記録ガイドを一読しておく</p> <p>【事後課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小児の看護過程 ②小児の発達段階 ③乳児/幼児/学童児への看護の復習 (1 時間) 	
4	【事例演習】 急性期にある子どもと家族の看護 (1)	<ol style="list-style-type: none"> ①急性期にある子どもと家族の特徴 ②急性期における子どもと家族の看護過程の展開 情報収集・関連図作成 (ネフローゼ症候群 VTR 視聴・グループワーク/個人ワーク) 	<p>【事前課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教科書第 3 編第 4 章 1 を読む ②ネフローゼ症候群の病態、治療、看護について調べ、A4 用紙 2 枚分にまとめて、Moodle に提出 <p>【事後課題】</p> <p>小児看護学実習記録 (準備編：看護過程急性期) 記入、次回授業時に持参 (1 時間)</p>	
5	【事例演習】 急性期にある子どもと家族の看護 (2)	<ol style="list-style-type: none"> ①急性期における子どもと家族の看護過程の展開 関連図完成 (グループワーク/個人ワーク) 	<p>【事後課題】</p> <p>小児看護学実習記録 (準備編：看護過程急性期) 完成、Moodle に提出 (1 時間 30 分)</p>	
6	【事例演習】 慢性期にある子どもと家族の看護 (1)	<ol style="list-style-type: none"> ①慢性疾患を抱えながら生活する子どもと家族の特徴 ②慢性期における子どもと家族の看護過程の展開 情報収集/分析、看護計画立案 (川崎病 VTR 視聴・グループワーク/個人ワーク) 	<p>【事前課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教科書第 3 編第 4 章 III を読む ②川崎病の病態、治療、看護について調べ、A4 用紙 2 枚分にまとめておく <p>【事後課題】</p> <p>小児看護学実習記録 (準備編：看護過程慢性期) 記入 (1 時間)</p>	
7	【事例演習】 慢性期にある子どもと家族の看護 (2)	<ol style="list-style-type: none"> ①慢性期における子どもと家族の看護過程の展開 看護計画完成 (グループワーク/個人ワーク) 	<p>【事前課題】</p> <p>援助計画書作成とイメージトレーニングを行う。(1 時間 30 分)</p>	
8	【技術練習】 課題 1：ネフローゼ症候群と診断され入院中の幼児のバイタルサイン測定と全身清拭 課題 2：川崎病と診断され入	<ol style="list-style-type: none"> ①技術演習に向けて、自主練習を行う。 ②看護過程や技術演習に関する学びを共有する。(グループワーク) 	<p>【事前課題】</p> <p>援助計画書作成とイメージトレーニングを行う。(1 時間)</p>	

		院中の乳児のバイタルサイン測定と臀部浴 【学びの共有会】																		
9	第8回と同じ(2コマ続き)	第8回と同じ(2コマ続き)	第8回と同じ(2コマ続き)	【事後課題】 援助計画書への追記とイメージトレーニングを行う。(1時間)																
10	【技術テスト①】 急性期・慢性期にある子どもと家族の看護 【学びの共有会】	①立案した計画に基づく援助実施 ②①の評価表兼振り返りレポート記入と援助計画修正 ③看護過程や技術演習/テストでの学びを共有する		【事前課題】 ①各事例のバイタルサイン測定と保清に関する援助計画完成 ②①に基づくイメージトレーニング (1時間)																
11	第10回と同じ(2コマ続き)	第10回と同じ(2コマ続き)		【事後課題】 ①援助計画の追記・修正(個人課題) ②評価表兼振り返りレポート記載(グループ課題) ①②をMoodleで提出 (1時間)																
12	災害に遭遇した子どもと家族の看護 心の問題がみられる子どもと家族の看護	①子どもの被災の特徴 ②心の問題をもつ子どもと家族への援助 (グループワーク/個人ワーク)		【事前課題】 教科書第4編第3章Ⅰ・Ⅲを読む 【事後課題】 授業で分からなかった内容やさらに深く学修したいことについて調べる(45分間)																
13	障がいのある子どもと家族の看護 在宅に移行する子どもと家族の看護 (意思決定を支える看護、医療的ケア)	①障がいのある子どもと家族の看護 ②子どもと家族の意思決定を支える看護 ③在宅療養に移行するための準備と地域で療養生活を支えるための医療チーム/看護師の役割		【事前課題】 ①教科書第4編第1章Ⅷ~Ⅹ、第2章Ⅳを読む 【事後課題】 授業で分からなかった内容やさらに深く学修したいことについて調べる (45分間)																
14	周手術期における子どもと家族の看護	①子どもの手術の特徴 ②手術を受ける子どもと家族への援助 (グループワーク/個人ワーク)		【事前課題】 教科書第3編第4章Ⅱを読む 【事後課題】 ①手術を受ける子どもと家族への援助シート ②第1回ミニレポート「小児看護学実習に行くまでに必要となること」に記載した内容を振り返り、自己課題の達成度、小児看護学援助論Ⅱで学んだことを追記し、振り返る。 (1時間)																
15	終末期にある子どもと家族の看護	①死にゆく子どもとその子どもと子どもを看取る家族への援助 (グループワーク/個人ワーク)		【事前課題】 教科書第3編第4章Ⅴを読む 【事後課題】 授業で分からなかった内容やさらに深く学修したいことについて調べる(1時間)																
関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学実習																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護</td> <td>小林京子、高橋孝雄</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ナーシング・グラフィカ小児看護学②小児看護技術</td> <td>中野綾美</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社	2	ナーシング・グラフィカ小児看護学②小児看護技術	中野綾美	メディカ出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社																	
2	ナーシング・グラフィカ小児看護学②小児看護技術	中野綾美	メディカ出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系看護学全書 小児看護学概論/小児保健</td> <td>小林京子、高橋孝雄</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>写真でわかる小児看護技術</td> <td>山元恵子</td> <td>インターメディカ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系看護学全書 小児看護学概論/小児保健	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社	2	写真でわかる小児看護技術	山元恵子	インターメディカ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新体系看護学全書 小児看護学概論/小児保健	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社																	
2	写真でわかる小児看護技術	山元恵子	インターメディカ																	
3																				
評価方法(基準)	定期テスト(60%)、レポート/ミニテスト(30%)、技術テスト(10%)により総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	小児看護学実習に向けての実践的な授業になります。主役は皆さんです。主体的に仲間と共に楽しく学んでいきましょう。これまでの学修状況、修得し活用できる状態にある知識量、応用力、記述力等によって、課題に要する時間が異なります。事前に取り組める内容を提示しています。既習の知識を振り返りながら、計画的に取り組みましょう。																			
担当者の研究室等	7号館3階 亀田(研究室23)、池田(研究室16)、鎌田(研究室17)																			
備考	※感染拡大/収束状況等により、日程・授業内容・対面授業/遠隔授業などを急遽変更することがあります。Teamsによる連絡を見逃さないようにしてください。																			

科目名	母性看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	井田 歩美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2051a0		

授業概要・目的	リプロダクティブヘルツ/ライツを理解し、人間の性および男女の性の特徴と性役割、一生を通じた女性の発達課題や女性を取り巻く環境との関係から女性の健康について学習する。また、母子保健の指標とその変遷、基本となる法律を知ったうえで、母性看護の目的や方向性について考える。
到達目標	1. 母性看護の概念、セクシヤリティ、リプロダクティブヘルツ/ライツの考え方を理解する。 2. 母性に関連する倫理的問題や母性看護の対象を取り巻く環境を理解する。 3. 人間の性と生殖のメカニズムとその意義を理解する。 4. 対象のライフサイクル各期に応じた健康の維持・増進、疾病予防と次世代の子どもを健やかに養育するための母性機能の健全な発達を促すための母性看護の役割と必要性を理解する。
授業方法と留意点	ニュース、新聞、雑誌などから発信される母子保健、生殖医療等に関する時事情報を意識し、自己の考えを明確にしてみましょう。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験資格取得のための必修科目です。母性看護学援助論 I、II、母性看護学実習につながる基礎的内容ですが、自信のライフプランを考えるための知識も得られると思います。自分事として、興味関心を持ち、積極的に学習してください。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	母性看護の基盤となる概念 リプロダクティブヘルスに関する概念	母性とは、愛着理論、ボンディングと親子相互作用、女性を中心としたケア、リプロダクティブヘルス/ライツ、セクシヤリティとジェンダーについて	事前学習：教科書の該当部分 (p.16~37) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
2	リプロダクティブヘルスに関する動向、法や施策と支援 (1)	出生・死亡に家族形成に関する統計、子どもと女性の保護、女性の就労、子育て支援、虐待防止に関する法律・制度・施策と支援について	事前学習：教科書の該当部分 (p.48~56、78~103) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
3	リプロダクティブヘルスに関する動向、法や施策と支援 (2)	出生・死亡に家族形成に関する統計、子どもと女性の保護、女性の就労、子育て支援、虐待防止に関する法律・制度・施策と支援について	事前学習：教科書の該当部分 (p.48~56、78~103) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
4	思春期の健康と看護	思春期における心身の特徴と健康問題 (月経異常、やせ、若年妊娠、性感染症) について	事前学習：教科書の該当部分 (p.130~145) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
5	成熟期の健康と看護	成熟期における心身の特徴と健康問題 (月経前症候群、不妊・不育) について	事前学習：教科書の該当部分 (p.164~180) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
6	更年期・老年期の健康と看護	更年期における心身の特徴と健康問題 (更年期障害、骨粗鬆症) について 老年期における心身の特徴と健康問題 (尿失禁、萎縮性膀胱炎、骨盤臓器脱) について	事前学習：教科書の該当部分 (p.182~198) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
7	リプロダクティブヘルスに関する倫理	人工妊娠中絶、出生前診断、生殖補助医療に関する現状と倫理的課題について	事前学習：教科書の該当部分 (p.58~76) を読んでくる。(1時間) 事後学習：講義内容のキーワードについて整理する。(30分)
8	リプロダクティブヘルスケア	家族計画、喫煙、国際化社会と母性看護	事前学習：配布を読んでくる。(30分) 事後学習：レポート『母性看護学概論を学ぶ意義』A4 1枚を作成、提出する。(2時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 人体の構造と機能、家族関係論、疾病治療論、看護関係法規、看護学概論、看護対人関係論、生命倫理、公衆衛生看護学活動論 I、家族看護学、看護倫理、女性学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブと看護	中込さと子他編	メディカ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	親と子のきずな	クラウス, M.H.・ケネル, J.H.	医学書院
2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン・R, 新藤幸恵・後藤桂子訳	医学書院	
3				

評価方法 (基準) 定期試験、レポート、授業参加度 (提出課題・授業態度等) を総合して判定する。
定期試験 70%、レポート 20%、提出課題等 10%

学生への メッセージ	セクシュアリティ、母性、家族に関する社会状況や問題、法改正などの情報や報道等に関心を向け自分自身の考え方を広げて行きましょう。授業は学生と教員とのパートナーシップで、力を合わせて実りある内容にしましょう。授業担当は、総合病院での助産師（看護師）としての勤務および地域母子保健活動の経験から、母子保健や周産期の看護に関心を高める教育を心がけています。
担当者の 研究室等	井田 歩美（研究室 12）
備考	

科目名	小児看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	池田 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3050a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 小児看護学の既習内容の知識・技術を統合して、子どもと家族を理解し、最良の健康状態の維持促進を目指して、子どもと家族を尊重した支援を実践するための基礎的能力を養う。そのため、実習施設の小児病棟において、小児期にある対象を受け持ち、子どもの発達や健康段階に応じた子どもと家族への看護過程を展開する。 本科目を担当する鎌田、池田、亀田は全員が臨床での看護職および小児病棟での実践経験をもっている。それらの経験を踏まえ、講義で学習した知識を子どもと家族の看護実践に活かすことが出来るよう、具体的に現実的な内容を教授する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長・発達を統合的に理解し、個々の特性に応じた日常生活援助を行う。 2. 健康問題や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。 3. 子どもの健康レベル、発達段階に応じた看護問題・ニーズを抽出し、計画・実践・評価する。 4. 子どもと家族の生活を支えるチームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携の実際を知る。 5. 実習を通して自己の看護観・子ども観を深め、今後の課題を明らかにする。
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1グループ2～5人編成とし、小児病棟や保育所、学内等において2週間の実習を行う。 2. 原則として1名の子どもを受け持ち、子どもと家族との関わりを通して、看護過程を展開する。 3. 看護の実施は、臨地実習指導者または実習指導教員と共に行う。 4. 実習時には行動計画を指導者に発表し、終了時には必ず報告を行う。 5. 毎日カンファレンスを実施し、子どもと家族への理解を深め、ニーズに応じた計画の立案を促す。 6. ケア実施後は記録することで、自己の実践の振り返りを行い、学習を深める。 <p>【留意点】</p>

科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。
--------------	-----------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	小児看護学実習	実習施設において実習を行う。	<p>【事前の計画】 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、受け持ちの子どもについての理解を深める。</p> <p>【実習計画】 1) 2日間の保育所実習を行い、子どもの成長発達および日常生活について理解を深める。 2) 病院実習 受け持ちの子どもと家族との関係形成および看護実践に必要な情報収集、分析、統合を行う。 子どもと家族のニーズに基づいた看護計画を立案する。立案した計画を実施し、評価を行い計画を修正する。</p> <p>【事後の計画】 臨</p>
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、疾病・治療論Ⅳ
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	実習内容・カンファレンスでの討議状況、提出記録をもとに総合的に実習指導教員が評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した知識を活かして、子どもと家族が真に必要な看護を実践して下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田研究室 17、池田研究室 16、亀田研究室 23
備考	実習施設：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属病院、愛仁会リハビリテーション病院、大阪市立総合医療センター、保育所

科目名	母性看護学援助論 I	科目名 (英文)	Maternal Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年度	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西頭 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2052a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 妊娠期・分娩期・産褥期の生理的变化、心理・社会的特徴、胎児の発育、新生児の生理、周産期における家族の役割について学び、アセスメントの視点と看護について理解する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>【目的】 妊産褥婦と新生児の身体・心理・社会的特徴を知ること、アセスメントの視点が理解できるとともに必要な看護を考える力を身につける。</p>
到達目標	<p>1. 正常経過にある妊産褥婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメントの視点と看護を理解する。</p> <p>2. 異常経過にある妊産褥婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメントの視点と看護を理解する。</p>
授業方法と留意点	講義・DVD視聴などの方法で学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	母性看護学援助論IIの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	科目オリエンテーション 妊娠期における看護 (1) 妊娠の生理	科目オリエンテーション 妊娠の生理について学ぶ。	事前課題：シラバス・教科書1 (第3章A①) を読む。(1時間) 事後課題：授業内容を整理する。(1時間)
2	妊娠期における看護 (2) 妊娠期の身体・心理・社会的特性	妊婦の身体的・生理的特徴について学ぶ。 妊婦の心理・社会的特徴と妊婦・家族の新しい役割獲得に関する課題について学ぶ。	事前課題：教科書1 (第3章A②③, B) を読む。(1時間) 事後課題：授業内容を整理する。(1時間)
3	妊娠期における看護 (3) 妊婦と胎児のアセスメントと援助	必要な情報とアセスメントの視点について学ぶ。 妊婦のセルフケア能力を高める援助について学ぶ。	事前課題：教科書1 (第3章C, D) を読む。(1時間) 事後課題：授業内容を整理する。(1時間)
4	妊娠期における看護 (4) ハイリスク妊娠	妊娠の異常とその要因、およびハイリスク妊婦の看護について学ぶ。 小テスト① (妊娠期)	事前課題：教科書1 (第7章I B~F) を読む。(1時間) 事後課題：授業内容を整理する。小テスト①で出題された問題を確認する。(1時間)
5	正常分娩の経過	1. 分娩の要素と機序 2. 分娩の進行と産婦の身体的変化 3. 分娩が胎児に及ぼす影響 4. 産婦と家族の心理・社会的変化 5. 出生2時間までの新生児の生理	事前課題：教科書1を読んでくる (第4章A・B, p.269-271) 事後課題：分娩経過について整理する (前後、各1時間)
6	分娩期のアセスメントと看護	1. 産婦と胎児の健康状態のアセスメントと看護 2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントと看護 3. 安全・安楽な分娩への援助 4. 出生2時間までの新生児のアセスメントと看護 5. 母子関係形成に向けての援助	事前課題：教科書1を読んでくる (第4章C) 事後課題：産婦と胎児の健康状況、産婦家族へのアセスメントについて整理する (前後、各1時間)
7	ハイリスク分娩の看護	1. 分娩の異常と看護 2. 産科処置・産科手術と看護 3. 胎児・新生児の異常と看護	事前課題：教科書1を読んでくる (第7章II) 事後課題：分娩時異常時の看護について整理する (前後、各1時間)
8	産褥期における看護 (1) 産褥期の身体・心理・社会的変化	小テスト② (分娩期) 産褥期の身体・心理・社会的変化について学ぶ。	事前課題：教科書1 (第6章A) を読む。(1時間) 事後課題：授業内容を整理する。小テスト②で出題された問題を確認する。(1時間)
9	産褥期における看護 (2) 産褥期の身体状態のアセスメントと援助	必要な情報とアセスメントの視点について学ぶ。 アセスメントに基づく援助について学ぶ。	事前課題：教科書1 (第6章B, C①) を読む。(1時間) 事後課題：授業内容を整理する。(1時間)
10	産褥期における看護 (3) 親になる過程のアセスメントと援助	必要な情報とアセスメントの視点について学ぶ。 アセスメントに基づく援助について学ぶ。	事前課題：教科書1 (第6章C②③④, D) を読む。(1時間) 事後課題：授業内容を整理する。(1時間)
11	産褥期における看護 (4) 正常経過からの逸脱と援助	正常経過からの逸脱と予防的援助について学ぶ。 小テスト③ (産褥期)	事前課題：教科書1 (第7章IV, V) を読む。(1時間) 事後課題：授業内容を整理する。小テスト③で出題された問題を確認する。(1時間)
12	新生児期における看護 (1) 新生児の生理的特徴	新生児の生理的特徴について学ぶ。	事前課題：教科書1 (第5章A) を読む。(1時間) 事後課題：授業内容を整理する。(1時間)
13	新生児期における看護 (2) 新生児の子宮外生活適応のアセスメントと援助	必要な情報とアセスメントの視点について学ぶ。 子宮外生活を促す援助について学ぶ。	事前課題：教科書1 (第5章B, C) を読む。(1時間) 事後課題：授業内容を整理する。(1時間)
14	新生児期における看護 (3) 新生児の健康問題と看護	新生児の正常からの逸脱と看護の視点について学ぶ。 小テスト④ (新生児期)	事前課題：教科書1 (第7章III) を読む。(1時間) 事後課題：授業内容を整理する。小テスト④で出題された問題を確認する。(1時間)
15	帝王切開術と看護	1. 帝王切開の適応と方法について学ぶ 2. 帝王切開時の看護について学ぶ (身体的、心理的变化のアセスメントと)	事前課題：教科書1を読んでくる (第7章II I, K) 事後課題：帝王切開術前後の看護について整理し、小テストを受ける

		看護	(前後、各1時間)	
関連科目	人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院
	2	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.10 産科	井上 裕美 他	メディックメディア
	2	ルヴァ・ルービン母性論	新道 幸恵 他訳	医学書院
	3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾 京子 他	メディカ出版
評価方法 (基準)	評価割合：試験 80%、提出物・小テスト 20%			
学生への メッセージ	この科目では主に、マタニティサイクルにおける看護について学習します。妊婦、産婦、褥婦、新生児とその家族に適切な看護を行うためには、適切にアセスメントできることが必要です。アセスメントに必要な根拠に基づく知識と、アセスメントの視点について学習します。本科目で学ぶ内容は身近な現象として想像することができます。「生命の始まりはいつか」「子どもを産めばすぐに親になれるのか」など、色んな問いを持ちながら楽しく真摯に学んでください。			
担当者の 研究室等	西頭知子（研究室14）、飯田恵子（共同研究室5）、永田阿子（共同研究室5）			
備考				

科目名	母性看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Maternal Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西頭 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2053a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 周産期の看護過程に必要な科学的思考と母性看護技術について、講義と演習を通して学ぶ。</p> <p>【目的】 周産期にある女性が心身共に健康な状態を維持・促進するために必要な看護を、科学的思考を用いて見出し、実践する方法を学ぶ。</p>
到達目標	<p>1. マタニティサイクル期における母子を対象とした看護過程の方法について理解し、必要な看護について考えることができる。</p> <p>2. マタニティサイクル期の母子が異常に移行した際に必要な看護について考えることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業方法は講義、演習です。</p> <p>課題の内容、評価方法についての詳細は授業内で説明します。</p>
科目学習の効果 (資格)	母性看護学実習の履修要件です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	科目オリエンテーション 周産期の看護過程 アセスメントの視点について	科目オリエンテーション 母性看護学における看護過程展開の特徴について学ぶ。	事前課題：シラバスを読む。「母性看護学援助論Ⅰ」の第2・3回の内容を復習する。(1時間) 事後課題：授業内容を整理する。(30分)
2	妊娠期の看護過程	妊娠期の妊婦・胎児の健康状態に関するアセスメントの視点を学ぶ。	事前課題：事例の情報から、妊娠・分娩期の経過に影響する因子の有無について確認する。(1時間) 事後課題：授業内容を整理する。(30分)
3	産褥期・新生児期の看護過程 (1) 全身状態の回復、退行性変化	産褥期の身体状態のアセスメントの視点を、事例展開を通して学ぶ。	事前課題：事例の情報から、産褥期の全身および退行性変化の経過に影響する因子の有無について確認する。(1時間) 事後課題：事例のアセスメントを完成させる。(1時間)
4	産褥期・新生児期の看護過程 (2) 進行性変化、褥婦の心理・社会的特性	産褥期の身体状態のアセスメントの視点を、事例展開を通して学ぶ。 親になる過程のアセスメントの視点を学ぶ。	事前課題：事例の情報から、産褥期の進行性変化の経過に影響する因子の有無および、心理・社会的特性に関する状況について確認する。(1時間) 事後課題：事例のアセスメントを完成させる。(1時間)
5	産褥期・新生児期の看護過程 (3) 褥婦の全体像 新生児の子宮外生活への適応	褥婦の全体像から課題を抽出する。 新生児の子宮外生活への適応状態をアセスメントする視点を、事例を通して学ぶ。	事前課題：①第2回～4回までに事例展開してきた内容から、褥婦の全体像を考える。②事例の情報から、新生児の子宮外生活の適応に影響する因子の有無について確認する。(1時間) 事後課題：①褥婦の看護課題に対する短期目標を設定し、初期計画を立案する。②新生児のアセスメントを完成させる。(1時間)
6	産褥期・新生児期の看護過程 (4) グループワーク	個人で展開してきた看護過程の展開を持ち寄って、グループで話し合い、完成させる。	事前課題：第2～5回の授業で展開した産褥・新生児期の看護過程の内容を確認する。(1時間) 事後課題：グループワークを進める。(1時間)
7	産褥期・新生児期の看護過程 (5) グループワーク	第6回と同様。	事前課題：グループワークを進める。(1時間) 事後課題：担当教員に提出し、コメントをもらう。(1時間)
8	産褥期・新生児期の看護過程 (6) グループワーク	第6回と同様。	事前課題：グループワークを進める。(1時間) 事後課題：グループワークを進める。(1時間)
9	産褥期・新生児期の看護過程 (7) 看護過程の発表	グループで仕上げた看護過程の展開を発表する。	事前課題：グループで完成させた課題を発表資料として期日までに提出する。(1時間) 事後課題：変更・修正を加えて最終提出する。(1時間)
10	母性看護技術演習1-① 一妊婦・褥婦の看護を学ぶ	目標：妊婦健診の根拠と方法を理解し、安全・安楽を考慮した計測方法ができる。子宮復古観察時の内容・手順を理解し、正確に観察・アセスメントできる。授乳時の援助方法を理解し、対象に応じた授乳の介助ができる。内容：妊婦の計測 (レオポルドの測定法、子宮底と腹囲の測定、児心音の聴取)、褥婦の観察 (子宮復古)、授乳援助 (乳房の観察、抱き方、排気) について学ぶ。 方法：演習 (演習1-①・②は2コマ連続)	事前課題：演習資料・指定動画を確認してくる。 事後課題：演習内容の課題を完成させ、指定日までに提出する。 参考) 母性看護学各論 (妊娠期：第3章 p102-105, 117-121, 産褥期：第6章 p337-343, p357-363 (各1時間))
11	母性看護技術演習1-② 一妊婦・褥婦の看護を学ぶ	演習1-①と同内容	演習1-①と同内容
12	母性看護技術演習2-① 一産婦・新生児の看護を学ぶ	目標：根拠と方法を理解して新生児の観察、アセスメント、沐浴の実施、寝床環境の整備、分娩期の観察、アセスメントの方法がわかる。 内容：新生児の観察と沐浴、寝床環境の整備、分娩期の看護を学ぶ。 方法：演習 方法：演習 (演習2-①・②は2コマ連	事前課題：分娩期、新生児の観察、沐浴、寝床環境について配付の事前学習資料に記入する。指定した新生児観察と沐浴、寝床環境の整備の動画を視聴し、手技を覚える。(1時間) 事後課題：配布の事後レポートを作成し、指定日時に提出する。(1時間)

			続)																	
	13	母性看護技術演習 2-② -産婦・新生児の看護を学ぶ	演習 2-①と同内容	演習 2-①と同内容																
	14	正常を逸脱した事例の看護 -帝王切開術後の看護の方法を知る	目標:帝王切開術後の母子に生じる変化について、その機序や及ぼす影響を理解し、看護について学ぶ。内容:帝王切開の適応や術式を振り返り、手術によって生じる身体機能の変化や母体に与える影響を学ぶ。 方法:講義	事前課題:帝王切開術について母性看護学援助論 I の資料および母性看護学各論(第7章 I-⑤、K-①)を一読してくる。周手術期に関する教科書を受講時に持参できるよう準備する。 事後課題:配布する課題に取り組む。(各1時間)																
	15	正常を逸脱した事例の看護 -帝王切開術後の看護の方法を考える	目標:術後の心身の変化に伴い生じやすい看護問題を見出し、看護計画の立案・修正ができる。 内容:一般的な帝王切開術後の観察点やアセスメントの視点(方法や基準値、分析に必要な根拠)を整理し、計画として完成させる。 方法:演習(プレゼンテーション/グループワーク)	事前課題:課題に取り組む。看護計画立案・修正に使用する周手術期の資料・文献を収集し、演習時に持参できるよう準備する。 事後課題:課題を完成させ、指定日時までに提出する。(各1時間)																
関連科目	特に、人体の構造と機能、家族関係論、基礎看護技術、母性看護学概論、母性看護学援助論 I 等の内容との関連が強い科目です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 母性看護学各論</td> <td>森 恵美 他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 母性看護学概論</td> <td>森 恵美 他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院	2	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院																	
2	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病気がみえる vol.10 産科</td> <td></td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新訂版 写真でわかる母性看護技術 アドバンス [Web 動画付]</td> <td>平澤 美恵子 他</td> <td>インターメディカ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	病気がみえる vol.10 産科		メディックメディア	2	新訂版 写真でわかる母性看護技術 アドバンス [Web 動画付]	平澤 美恵子 他	インターメディカ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	病気がみえる vol.10 産科		メディックメディア																	
2	新訂版 写真でわかる母性看護技術 アドバンス [Web 動画付]	平澤 美恵子 他	インターメディカ																	
3																				
評価方法 (基準)	評価割合:試験 50%、提出物 50%																			
学生への メッセージ	事例の看護過程の展開を通して、ウェルネスの視点から対象の健康状態を維持あるいは向上させるために必要な支援について考えます。グループワークでは、一人ひとりがグループメンバーとしての役割を意識して取り組まれることを期待します。																			
担当者の 研究室等	西頭知子(研究室 14)、永田阿子・飯田恵子(共同研究室 5)																			
備考																				

科目名	精神看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	眞野 祥子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2055a0		

授業概要・目的
精神看護学の対象は、精神疾患を持つ人に限らず、あらゆる発達段階にある人々を含んでいる。本科目では、心の健康を保持・増進するために必要となる基本的な知識を学び、精神医療に関連する基本的な概念を理解する。具体的には、精神看護学と精神保健の基本、現代社会におけるストレスと健康、精神医療・保健・福祉の歴史と法律、精神疾患を持つ人の実態、リエゾン精神看護について学習する。また、将来、看護職に就く者として自身の心の健康を保持・増進するための知識についても学習する。
本科目は、精神科病棟で勤務経験がある教員が、経験を踏まえて精神看護学に関する実践的な教育を行う。

到達目標
心の構造と機能について説明できる。
心の健康・不健康について説明できる。
現代社会の変化によって、私たちの心の健康にどのような影響があるか説明できる。
自分自身の心の健康を保つための知識を身につけ、実践することができる。
災害時などの状況において危機状況とその対応・予防について説明できる。
精神保健の概念について説明できる。
精神科看護師の役割について説明できる。

授業方法と留意点
下記の授業計画に沿って講義を行う。精神看護学を身近に感じられるように、学生自身の経験や知識、健康に関するトピックスを活用し、メンタルヘルスの現状や問題点を概観し、心の健康・不健康について自分の言葉で考察できるようになることを目指す。また、精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、体験談や事例を活用して興味・関心を引き出し、イメージの促進を促していく。
授業の最後にその日の授業テーマに基づく課題の解答を求め（ワークシート/小テスト）、理解を深めていくとともに、次週の授業の冒頭でそ

科目学習の効果 (資格)
看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	精神看護学の基本	精神看護学の位置づけ、精神看護の対象となる人・生活の場について理解する。	事前：教科書①「序章-I～IV (P. 2～26)」 「第4章 (P. 121～148)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
2	心とは何か	精神力動的な考え方にもとづいて、心の構造と働きを理解する。	事前：教科書①「第1章 I、II (P. 27～70)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
3	心の健康とは何か (ストレスと健康、看護師のメンタルヘルス)	ストレスの概念、対処行動、危機介入、PTSD、バーンアウトとその対処、看護職者の感情体験について理解する	事前：教科書①「第5章 (P. 149～170)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
4	ライフサイクルと危機	エリクソンの生涯発達理論、フロイトの精神的発達論について理解する。	事前：教科書①「第2章 I～V (P. 71～98)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
5	精神保健医療福祉の歴史の変遷	欧米、日本の精神保健医療福祉の歴史と変遷について理解する。	事前：教科書①「第7章 I、II (P. 225～252)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
6	精神看護における法と人権擁護	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 (精神保健福祉法) について理解する。	事前：教科書①「第7章 III (P. 252～273)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
7	精神障害を持って生きる人の生活	精神障害者が置かれている社会的立場、偏見、社会生活を維持する上での困難について理解する。	事前：教科書②「第1章 I～IV (P. 2～20)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
8	精神障害者の現状と精神保健医療福祉施策の動向	自立と社会復帰、地域生活支援、認定・専門看護師制度、触法精神医療など、精神障害者の保護・医療・福祉の現状について理解する	事前：教科書②「第8章 I～III (P. 351～422)」 「第9章 I、II (423～459)」を読んで来てください (2時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、疾病・治療論Ⅵ、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験 (80%)、課題 (ワークシート、小テスト) 20%を総合して判定する。			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。分からないところ、不明瞭なところがあればいつでも質問をしてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19 (眞野)			
備考	学生の理解度に応じてシラバスを変更することがある。			

科目名	母性看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	井田 歩美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3054a0		

授業概要・目的	<p>概要 妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実際を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実際および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。</p> <p>目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の母子の身体的・心理的・社会的特性を理解し、妊娠における適応過程を明らかにできる。 2. 周産期の母子とその家族に対して、健康維持・増進に向けて看護過程を展開できる。 3. 母子保健医療の特性を理解し、母子とその家族に果たす看護の役割と連携について考えられる。 4. 母性看護における自己の看護観を育むことができる。 5. 看護学生として倫理的配慮のある言動がとれる。 																																																																		
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則1グループ5名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。 2. 実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標をもとに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。 3. 2日目より臨地実習に入る。最終日は学内でテーマ、ケースカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。 4. 実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験資格取得のための必修科目です。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>母性看護学実習要綱を参照のこと</td> <td>左記同</td> <td>左記同</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	母性看護学実習要綱を参照のこと	左記同	左記同	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	母性看護学実習要綱を参照のこと	左記同	左記同																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学概論</td> <td>森恵美他著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学各論</td> <td>森恵美他著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学概論	森恵美他著	医学書院	2	系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学各論	森恵美他著	医学書院	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学概論	森恵美他著	医学書院																																																																
2	系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学各論	森恵美他著	医学書院																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病気が見える vol.10 産科</td> <td>井上裕美他監修</td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図</td> <td>佐世正勝他編集</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>根拠と事故防止からみた母性看護技術</td> <td>石村由利子編集</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	病気が見える vol.10 産科	井上裕美他監修	メディックメディア	2	ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図	佐世正勝他編集	医学書院	3	根拠と事故防止からみた母性看護技術	石村由利子編集	医学書院																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	病気が見える vol.10 産科	井上裕美他監修	メディックメディア																																																																
2	ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図	佐世正勝他編集	医学書院																																																																
3	根拠と事故防止からみた母性看護技術	石村由利子編集	医学書院																																																																
評価方法 (基準)	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を母性看護学実習要綱の評価基準に沿って評価を行う。																																																																		
学生へのメッセージ	妊産褥婦、新生児および家族を通して、ウェルネスの思考に基づいた看護ケアの実践から学びましょう。また、新しい生命の誕生に立ち会い、そのパワーに触れてみてください。母親や父親 (パートナー)、新生児からも学べることが多い実習になるでしょう。																																																																		
担当者の研究室等	井田 (研究室 12)、泉川 (研究室 15)、但馬 (研究室 20)、西頭 (研究室 14)、名草 (研究室 13)、飯田、永田 (共同研究室 5)																																																																		
備考	実習場所 市立ひらかた病院、大阪府済生会野江病院、関西医科大学附属病院、関西医科大学総合医療センター、京都田辺中央病院、JCHO 大阪病院、八尾市立病院																																																																		

科目名	精神看護学援助論 I	科目名 (英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	眞野 祥子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2056a0		

授業概要・目的
 精神看護を実践するために必要となる基本的な知識・技術を学ぶ。精神看護では、患者-看護師の対人関係が病気回復において重要となる。そこで患者-看護師関係に関する理論を理解したうえで、患者-看護師関係を展開していくためのスキルトレーニング法であるプロセスレコードを用いた演習で自己洞察を深め、患者-看護師関係における自己の活用能力向上を目指す。
 精神疾患を持つ患者理解の基礎となる幻覚・妄想、躁、うつ状態などの精神症状の捉え方について学び、患者の精神症状をアセスメントし、看護介入が行えるようになることを目指す。また、精神科で行われている治療とその看護について学ぶ。
 本科目は、精神科病棟で勤務経験がある教員が、経験を踏まえて精神看護学に関する実践的な教育を行う。

到達目標
 援助的人間関係に関する理論を理解する。
 援助的人間関係に関する技術を身につける。
 幻覚・妄想、躁、うつ状態、不安状態、強迫状態等の精神症状のとらえ方を理解する。
 精神科で行われている治療とその治療を受ける患者の看護について理解する。
 精神科病棟で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解する。

授業方法と留意点
 下記の授業計画に沿って講義/演習を行う。精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、事例や精神科看護師の体験談等を活用し、興味・関心を引き出し、イメージの促進を図る。

科目学習の効果 (資格)
 看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	精神症状のアセスメント	幻覚妄想状態と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-B (P.71~76)」「第7章-II-A, B (P.270~289)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
2	精神症状のアセスメント	意欲低下、引きこもり状態と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-C, D (P.76~87)」「第7章-II-C, D (P.289~300)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
3	精神症状のアセスメント	拒絶と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-B, D (P.71~76, 81~87)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
4	精神症状のアセスメント	不安状態、強迫状態と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-E, F (P.87~97)」「第7章-III-C, D (P.324~333)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
5	精神症状のアセスメント	躁、うつ状態、希死念慮と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-C, D (P.76~87)」「第7章-II-C, D (P.289~300)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
6	精神症状のアセスメント	操作的状態と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護第3章-II-N (P.134~137)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
7	援助的人間関係 (理論編 1)	患者-看護師関係の意義と特徴	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第5章 (P.189~220)」を読んで来てください(2時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
8	援助的人間関係 (理論編 2)	対人関係論、プロセスレコード	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第5章 (P.189~220)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
9	援助的人間関係 (実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習	事後：教科書を参照しながら、授業内容を整理しておいてください(1時間)。
10	援助的人間関係 (実践編)	プロセスレコードを記載する	事後：教科書を参照しながら、授業内容を整理しておいてください(1時間)。
11	プロセスレコードの分析と評価	プロセスレコードの振り返り、エゴグラム	事後：教科書を参照しながら、授業内容を整理しておいてください(1時間)。
12	精神科治療と看護 (1)	薬物療法と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第4章-I~II (P.147~166)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
13	精神科治療と看護 (2)	精神療法、SST、心理教育、作業療法と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第4章-III, IV (P.167~188)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください。(1時間)
14	精神科救急に関する看護	精神科救急の現場で実践されている看護援助の具体、精神科における看護師の役割・機能	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第7章 (P.253~269)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を復習をしておいてください(1時間)。
15	退院調整と地域生活支援	精神障害者の退院促進と地域で生活していくための支援活動、地域における精神科看護師の役割・機能	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第8章 (P.351~422)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を復習をしておいてください(1時間)。

関連科目 精神看護学概論、精神看護学援助論II、疾病・治療論VI、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	専門医がやさしく語るはじめての精神医学 改訂第2版	渡辺雅幸	中山書店
	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験 (80%)、課題 (ワークシート、演習時の課題) 20%を総合して判定する。			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。 課題提出は、必ず締め切り日までに提出してください。 分からないところ、不明瞭なところがあれば、学内メールにいつでも連絡をください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19 (眞野)、研究室18 (山本智)、共同研究室2 (吉永)			
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがあります。 授業内容によっては2コマ続きで授業を行うため、1日1回はTeams (Teams が使用できない場合はポータル) を確認するようお願いします。 授業に関する連絡事項は、全て Teams (Teams が使用できない場合はポータル) を経由して周知していきます。			

科目名	精神看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 智津子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2057a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、精神疾患と治療等の基本的な知識・技術をふまえたうえで、精神疾患を有する対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。それらの基礎知識を活用しながらペーパーペーシェントによる看護過程の展開を行い、対象をアセスメントする技術と必要な看護援助方法を理解する。</p> <p>また地域で生活する精神障害者への支援体制について学ぶ。</p> <p>さらにゲストスピーカー（当事者）の語りにより、当事者の思い等を理解したうえで看護援助方法を考える。</p> <p>本科目は、精神科病棟で勤務経験がある教員が、経験を踏まえて精神看護学に関する実践的な教育を行う。</p>
到達目標	<p>各精神疾患の症状、治療、看護援助方法について理解できる。</p> <p>ペーパーペーシェントを通して、対象にとって必要な看護援助方法が理解できる。</p> <p>地域における精神保健福祉活動が理解できる。</p>
授業方法と留意点	<p>基本的には授業計画にそってスライドを用いながら講義を行う。一方的な講義にならないよう学生が発言する機会を設け、また精神疾患・精神症状や精神障害者への理解を深められるように視聴覚教材を活用する。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>看護師国家試験受験資格のための必修科目である。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	疾患による看護の特徴 (1)	統合失調症 (者) の理解と看護	<p>事前:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。</p> <p>事後:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。</p>
2	疾患による看護の特徴 (2)	気分障害 (者) の理解と看護	<p>事前:「第7章Ⅱ-C・D (P289~300)」を読んでください (1時間)。</p> <p>事後:「第7章Ⅱ-C・D (P289~300)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。</p>
3	疾患による看護の特徴 (3)	神経症性障害 (者) の理解と看護	<p>事前:「第7章Ⅲ-C (P324~329)」を読んでください (1時間)。</p> <p>事後:「第7章Ⅲ-C (P324~329)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。</p>
4	疾患による看護の特徴 (4)	パーソナリティ障害・摂食障害 (者) の理解と看護	<p>事前:「第3章Ⅱ-N (P134~137)」「第7章Ⅲ-D (P329~333)」を読んでください (1時間)。</p> <p>事後:「第3章Ⅱ-N (P134~137)」「第7章Ⅲ-D (P329~333)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。</p>
5	疾患による看護の特徴 (5)	アルコール依存および薬物依存 (者) の理解と看護	<p>事前:「第3章Ⅱ-L (P121~127)」「第7章Ⅱ-E (P300~306)」を読んでください (1時間)。</p> <p>事後:「第3章Ⅱ-L (P121~127)」「第7章Ⅱ-E (P300~306)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。</p>
6	疾患による看護の特徴 (6)	身体合併症をもつ対象の看護	<p>事前:「第7章Ⅳ (P333~350)」を読んでください (1時間)。</p> <p>事後:「第7章Ⅳ (P333~350)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。</p>
7	地域精神保健福祉活動の現状、他職種との連携	精神障害者の地域生活支援	<p>事前:「第8章 (P351~421)」を読んでください (1時間)。</p> <p>事後:「第8章 (P351~421)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。</p>
8	精神障害がセルフケアへ及ぼす影響のアセスメント	オレム・アンダーウッド理論と活用法	<p>事前:「第6章 (P221~252)」を読んでください (1時間)。</p> <p>事後:「第6章 (P221~252)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。</p>
9	事例演習 (1)	情報収集と整理①	<p>事前:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。</p> <p>事後:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。</p>
10	事例演習 (2)	情報収集と整理②	<p>事前:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。</p> <p>事後:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。</p>
11	事例演習 (3)	アセスメント①	<p>事前:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。</p> <p>事後:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。</p>
12	事例演習 (4)	アセスメント②	<p>事前:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。</p> <p>事後:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。</p>
13	事例演習 (5)	問題点の整理	<p>事前:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。</p> <p>事後:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。</p>

	14	事例演習 (6)	看護計画立案 評価・修正	事前:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。 事後:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
	15	ゲストスピーカー (当事者) の理解	ゲストスピーカー (当事者) の語り	事前:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。 事後:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精神看護学②精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生 (編集)	メヂカルフレンド社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	合否は定期試験 (80%)、ワークシートおよび演習時の課題 (20%) を総合して評価する。			
学生へのメッセージ	積極的に授業に参加してください。			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室18 (山本智)、研究室19 (眞野)、共同研究室2 (吉永)			
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。			

科目名	在宅看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2059a0		

授業概要・目的
在宅看護の変遷を踏まえて、社会の変化と諸制度、人々の多様な価値観の変化、QOLの重視、セルフケア、自己決定の尊重という観点から在宅看護の目的を理解する。同時に、地域で生活しながら療養する人々とその家族・生活環境を理解し、療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基本的知識・技術・倫理観を学ぶ。在宅看護における社会資源及びチームケア・職種間の連携の在り方について理解する。

- 到達目標**
1. 在宅看護の目的と特徴を説明できる。
 2. 在宅看護の歴史の変遷を説明できる。
 3. 在宅看護の対象者について説明できる。
 4. 在宅療養の支援と看護者の役割について説明できる。
 5. 在宅看護を支える法、制度とその活用について説明できる。
 6. 在宅看護におけるリスクマネジメントについて説明できる。
 7. 在宅看護における倫理について説明できる。

授業方法と留意点
授業計画に沿って講義中心に行う。教科書を必ず参照すること。在宅看護の方法としての訪問看護や他職種・他機関との連携、在宅ケアマネジメント方法などイメージが困難な学習には、動画や事例を用いて学習を進める。講義終了後は、講義資料やノート整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、ネット等を用いてもよいので、自分なりに調べ、また不明な点は質問するなど、主体的に学習に取り組むこと。事前・事後学習については、授業内で別途指示することがある。

科目学習の効果 (資格)
看護師の資格取得に必須の単位である。患者の入院から退院・退院後の生活に向けて継続した看護に必要な基礎的知識を獲得をする領域でもある。在宅看護は、療養者の生活の場で展開される。したがって、医療・保健・福祉分野との連携に必要な知識・技術・倫理観について幅広く学ぶ機会である。臨床看護師としてだけでなく、地域社会における役割と認識を深め、社会の変化やニーズに即した専門職のあり方を指向する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	在宅看護の概念と歴史の経緯	地域における在宅看護(訪問看護)とは何か、その目的と特徴を学ぶ。また訪問看護の歴史を学ぶ。	事前: テキストの第1章を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
2	在宅看護の対象者	在宅看護の対象者の特徴を、住まいや家族、地域の視点から理解する。家族関係を視覚化するエコマップについてワークを行う。	事前: テキストの第4章を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
3	在宅療養の支援と看護者の役割	在宅看護の提供方法である 継続看護、訪問看護等の支援方法について学ぶ。	事前: テキストの第2章を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
4	在宅看護に関連する法と制度	在宅看護を支える法的基盤、介護保険等を含めた法と制度について学ぶ。講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの第2章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
5	訪問看護サービスの提供	訪問看護サービスを提供するための訪問看護ステーションを主とした施設、訪問看護の機能について重点的に学ぶ。	事前: テキストの第3章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
6	在宅看護における社会資源の活用と多職種連携	在宅看護におけるさまざまな社会資源の活用と多職種との連携、地域のネットワーク作りについて学ぶ。	事前: テキスト第2章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
7	在宅看護における看護の展開方法とリスクマネジメント	在宅看護における看護を展開する上で必要な視点と、リスクマネジメントを学ぶ。	事前: テキスト第3章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
8	在宅看護における倫理と権利保障	在宅看護学における倫理を、訪問看護の倫理と、個人情報保護、虐待なども含めて多様な視点で学ぶ。	事前: テキスト第3章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

関連科目 家族看護学、公衆衛生看護学 専門科目の概論のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 地域・在宅看護論	河野あゆみ編	メヂカルフレンド社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	《シリーズ ケアをひらく》在宅無制限 訪問看護師がみた生と死	村上靖彦	医学書院
2				
3				

評価方法 (基準) 小テスト・レポート類、課題達成度、授業での参加度、プレゼンテーションが20%、定期試験80%で評価する。授業態度が悪い場合、20%を上限に減点することがある。

学生へのメッセージ 現在、我が国は少子化社会そして超高齢社会にあり、看護職の働く場は病院看護から在宅看護へ拡大されています。コロナ禍で在宅看護のニーズはますます増大している状況です。病院看護と違い、療養者の「生活の場」で行う看護支援は、幅広い知識と創造力を更に求められます。短い時間で幅広い学習をすることになります。日々の学習(事前・事後学習)を大事にしましょう。講義中の質問は大歓迎です。

	なお、指示した事前・事後学習を含め、自己学習には30時間以上をあてること。
担当者の 研究室等	7号館 3階 第9研究室 田中結華
備考	<p>毎回の授業ごとに、レポートを課す。また、随時小テストや課題を提示する。テキストの指示された部分はあらかじめ読み、不明な部分に下線を引くなどして準備をすること。授業を受けて、不明な部分やわかりにくい部分は、積極的に質問すること。また、学生同士で意見交換も行うこと。文献、資料等は授業でも紹介する。</p> <p>質問方法は最初の授業でオリエンテーションする。メールや連絡は、必ず大学アカウントから送ること。プライベートアカウントには対応しません。</p>

科目名	在宅看護学援助論 I	科目名 (英文)	Home Care Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2060a0		

授業概要・目的	在宅看護実践は、療養者の自宅に赴き「生活の場」で展開される。在宅療養者・家族の、健康、生活機能、およびQOLの維持・向上のための支援方法について学ぶ。具体的には、在宅看護に必要な面接技術、さまざまな発達段階や健康障害（神経難病、COPD、脳血管障害後遺症、精神疾患、終末期ケアなど）を持つ人への在宅療養支援について、事例を通じて理解する。 また、在宅療養者に必要な日常生活援助技術、医療処置に伴う援助技術を理解する。
到達目標	1. 在宅看護に必要な面接技術について理解できる。 2. 在宅療養者に必要な日常生活援助技術について理解できる。 3. 在宅療養者に必要な医療処置技術を理解できる。 4. さまざまな発達段階や健康障害における在宅療養支援について理解できる
授業方法と留意点	講義と演習、グループワーク等により授業を行う。テキストおよび配付資料、視聴覚教材を用いて理解を深める。基礎看護技術、および各看護で学ぶ看護技術を基盤として、在宅療養の場でのように実践するかを深く考えて頂きたい。事例検討では、高度実践を専門的に行っている看護師を招いて学ぶ。授業へは主体的に取り組み、積極的に参加すること。 やむなくオンライン授業となる場合は、授業方法や日程は初日のオリエンテーションで周知します。
科目学習の効果 (資格)	在宅看護学実習に必要な技術、事例を学び、在宅看護学援助論Ⅱでの学習に関連づける。また、入院患者の退院後の生活に向けて支援する際に必要な知識・技能を習得することにつながる。看護師国家試験受験のために、単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション 在宅看護の場で必要な面接技術 (1)	在宅看護におけるコミュニケーションの特徴、面接技術、および訪問時のマナー・態度について学ぶ。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
2	在宅看護の場で必要な面接技術 (2)	在宅看護に必要な面接技術について演習課題に取り組む。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
3	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (1)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
4	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (2)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
5	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (3)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
6	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (4)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
7	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理 (褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (1)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
8	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理 (褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (2)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
9	神経難病をもつ在宅療養者の看護	神経難病をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅人工呼吸器による呼吸療法についても合わせて学ぶ。 ゲストスピーカーとして、神経難病在宅医療を専門とする訪問看護ステーションの大杉花先生 (拓海会訪問看護ステーション) による講義と討議を行う。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
10	COPDをもつ在宅療養者の看護	COPDをもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅酸素療法、呼吸器リハビリテーションについても合わせて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)
11	在宅用人工呼吸器等の在宅用医療機器を用いた看護を学ぶ	在宅用人工呼吸器、酸素濃縮器、カフェアシストなどの医療機器の取扱い、および医療機器業者との連携について学び、医療依存度の高い在宅療養者に必要な看護について学ぶ	<事前学習>予備知識予習を行う(1時間) <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)
12	認知症をもつ在宅療養者の看護	認知症をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>

				事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)																
	13	精神疾患をもつ在宅療養者の看護	精神疾患をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題> 事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)																
	14	終末期にある在宅療養者の看護	終末期にある在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、疼痛管理、看取りについても合わせて学ぶ。ゲストスピーカーとして、専門看護師船越政江先生(わたぼうし訪問看護ステーション)による講義と討議を行う。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題> 事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)																
	15	まとめ	まとめ 本授業科目での学びについてまとめる。	<事前学習>ノート、資料を整理しておくこと。(30分) <事後課題> 授業全体を復習し、筆記試験に備えること。(1時間以上)																
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅱ、在宅看護学実習、地域看護学、家族看護学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系看護学全書地域・在宅看護論</td> <td>河野あゆみ編</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域・在宅看護論(2):在宅療養を支える技術 第2版</td> <td>臺有桂他編</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系看護学全書地域・在宅看護論	河野あゆみ編	メヂカルフレンド社	2	地域・在宅看護論(2):在宅療養を支える技術 第2版	臺有桂他編	メディカ出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新体系看護学全書地域・在宅看護論	河野あゆみ編	メヂカルフレンド社																	
2	地域・在宅看護論(2):在宅療養を支える技術 第2版	臺有桂他編	メディカ出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>見てできる臨床ケア図鑑在宅看護ビジュアルナッシング</td> <td>東京訪問看護ステーション協議会</td> <td>学研メディカル</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「シリーズ ケアをひらく」在宅無限大 訪問看護師がみた生と死</td> <td>村上靖彦</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	見てできる臨床ケア図鑑在宅看護ビジュアルナッシング	東京訪問看護ステーション協議会	学研メディカル	2	「シリーズ ケアをひらく」在宅無限大 訪問看護師がみた生と死	村上靖彦	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	見てできる臨床ケア図鑑在宅看護ビジュアルナッシング	東京訪問看護ステーション協議会	学研メディカル																	
2	「シリーズ ケアをひらく」在宅無限大 訪問看護師がみた生と死	村上靖彦	医学書院																	
3																				
評価方法(基準)	<p>講義・演習への参加態度50%(小テスト、ミニレポート、グループワーク、レポート、発表等も含める)</p> <p>筆記試験50%(但し、筆記試験の得点は60%以上取得を単位取得の必須条件とする)。なお、授業態度不良の場合は20%を上限に減点する場合がある。</p> <p>やむなく遠隔授業になった場合は、参加態度(内容は上記参照)で評価する。授業の視聴記録等がなく提出された成果物は評価の対象外となる。</p>																			
学生へのメッセージ	<p>本授業では、在宅看護学概論を踏まえて、在宅援助方法のさまざまな技術を学びます。原理原則は基礎看護技術と変わりませんが、療養者それぞれの生活があるように援助も百人百様の方法で援助を提供しなければなりません。看護のフィールドも変化・拡大しつつあります。頭を柔軟に学習に取り組んでください。</p> <p>なお、指示した事前・事後学習を含め、自己学習には15時間以上をあてること。</p>																			
担当者の研究室等	田中 結華 7号館 3階 第9研究室 富永 真己 7号館 3階 第7研究室 山本 十三代 7号館 3階 第5研究室 足立 安正 7号館 3階 第22研究室 安田 香 7号館 3階 共同研究室1																			
備考																				

科目名	在宅看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Home Care Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華, 安田 香, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2061a0		

授業概要・目的	<p>在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰの既習知識を活用し、様々な発達段階、健康上の問題を抱えながら、地域で生活する療養者・家族を1単位とした看護過程の展開について学ぶ。</p> <p>講義でCOPDを発症している事例で看護展開をデモンストレーションする。グループ学習では、3事例(脳梗塞後遺症のある事例、ALSを発症し人工呼吸を装着している事例、肝臓がんの終末期の事例)のうち1事例を看護展開していく。また、チームアプローチの一手段としてサービス担当者会議をロールプレイングして多職種連携の重要性を学ぶ。</p> <p>主担の教員は、保健師として慢性期病棟に5年、外来、訪問看護室に8年勤務した経験から、在宅看護実践の展開方法について、また、継続看護、多職種連携の中の訪問看護師の果たす役割について示していきます。</p> <p>目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 様々な発達段階、健康上の問題を抱えながら、地域で生活する療養者・家族を1単位とした看護過程の展開について学ぶ 在宅看護実践の特徴と在宅で実施する援助技術が安全、安楽にできるための方法論、在宅看護の役割について学ぶ。 系統的チームアプローチの実践について学び、多職種連携の重要性を学ぶ。
---------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 在宅における看護過程の展開を理解できる <ol style="list-style-type: none"> 事例に基づいて、情報収集の視点の必要性を理解できる 対象を生活者として捉え、アセスメントする必要性を理解できる 療養者、家族介護者に無理のない計画内容で立案できる 計画内容の実践シミュレーションを計画できる(援助計画) シミュレーションに沿った援助の実践と評価ができる 看護計画の実践、評価から、適宜、修正することの必要性を理解できる 既習の学習で修得した日常生活援助技術を、在宅という生活環境の中で
------	---

授業方法と留意点	<p>この授業は、演習科目です。以下のことを留意して受講してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前学習、課題を通して講義内容の理解ができるようにしてください。課題については、moodleに提出する方法をとり、moodleを用いてフィードバックしていきます。初回の授業時に課題ファイルを渡しますので授業時には必ず持参してください。 家族看護学で学んだジェノグラム、エコマップ、家族看護理論については理解しておくこと。 グループワークが多くなります。グループで出てきた意見と教員のコメントをよく聞いて学びを深めていく授業展開になる
----------	--

科目学習の効果 (資格)	在宅看護学実習及び他の看護学領域実習に必要な「知識・技術・態度」を身につけることができる。看護師国家試験受験のために単位取得が必要である。
--------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義:2コマ続き 家族を集合体とした看護過程の展開	事例紹介(COPDの療養者) 事例に基づいて①情報収集 ②アセスメント・問題の明確化③看護計画④実践⑤評価のプロセスの一連の流れ示す	事前:看護過程の構成要素について復習をしておくこと(30分) 事後:本日の事例展開について見直しをしておく(30分) グループ学習での事例については、提示した課題をすること(3時間)
2	家族を集合体とした看護過程の展開	事例紹介(COPDの療養者) 事例に基づいて①情報収集 ②アセスメント・問題の明確化③看護計画④実践⑤評価のプロセスの一連の流れ示す 次回から検討する事例と担当教員について発表する。	事前:看護過程の構成要素について復習をしておくこと(30分) 事後:本日の事例展開について見直しをしておく(30分) グループ学習での事例については、提示した課題をすること(3時間)
3	演習: 情報の整理、全体像の把握、問題点の明確化	脳梗塞事例: ALS事例: 肝臓がん事例: 教員別に分かれてグループ学習を進めていく。 個人学習を基に、情報の整理、全体像の把握、問題点を明確にする。 担当教員の相談。アドバイスを得ながら進める。	事後:グループワークの内容の整理を行う(30分) 提示した課題をすること(3時間)
4	演習: 情報の整理、全体像の把握、問題点の明確化続き	脳梗塞事例: ALS事例: 肝臓がん事例: 教員別に分かれてグループ学習を進めていく。 個人学習を基に、情報の整理、全体像の把握、問題点を明確にする。 担当教員の相談。アドバイスを得ながら進める。	事後:グループワークの内容の整理を行う(30分) 提示した課題をすること(3時間)
5	演習:2コマ続き 看護計画の立案、具体的援助計画の立案	個人学習を基に、看護計画の立案、具体的援助計画の立案を行う。	事後:グループワークの内容の整理を行う(30分) 提示した課題をすること(3時間)
6	演習: 看護計画の立案、具体的援助計画の立案	個人学習を基に、看護計画の立案、具体的援助計画の立案を行う。	中間発表に向けて、グループ学生同士のディスカッションをしておくこと(30分)
7	演習: 具体的な援助内容の決定と計画の修正	全体像、問題点、看護計画、具体的な援助内容(必要物品、手順、評価方法)について発表し、意見交換する。実演する援助内容について実演に向けて準備する。	事後:実演に向けて、グループ内でディスカッションおよびシミュレーションをしておく(2時間) 援助計画については、頭に入れておく グループの援助計画を担当教員に提出
8	演習:2コマ続き 援助技術の改善と訪問看護の実際	前半、後半グループに分かれる。援助計画に沿った援助を実演し、創意工夫された、療養者にとって最良の援助について	事前:グループで準備する物品の確認をグループ内で行う(30分) 事後:実演後の看護技術の評価をグループ学生間で

			検討する(50分)。 訪問看護場面を想定し、バイタルサイン測定から援助、訪問終了の一連の流れを実演する(40分)。	行う(1時間)
9	援助技術の改善と訪問看護の実際		前半、後半グループに分かれる。援助計画に沿った援助を実演し、創意工夫された、療養者にとって最良の援助について検討する(50分)。 訪問看護場面を想定し、バイタルサイン測定から援助、訪問終了の一連の流れを実演する(40分)。	事前:グループで準備する物品の確認をグループ内で行う(30分) 事後:実演後の看護技術の評価をグループ学生間で行う(1時間)
10	演習: 実演内容と評価の準備		実演の評価を行う。 資料をパワーポイントで作成する。	事後:グループ発表へ向けてグループ学生間でディスカッションしておく(1時間) 指示された期日に発表資料を担当教員に1部提出 他のグループの発表資料に目を通し質問できるようにしておく(1時間)
11	演習: 実演内容と評価		担当教員ごとのグループ内で意見を交換する	事後:1回~11回までの看護過程の展開の一連の流れについて整理する(1時間) ジェノグラム・エコマップについて復習しておく(1時間) 提示した課題を行う(1時間)
12	演習: チームアプローチの実際		同事例に関わる社会資源をエコマップに起こし、それぞれの支援内容について検討する。	事前在宅看護学概論で作成した「在宅ケアマネジメント」を復習しておく(30分) 事後:本日の内容を整理する(1時間)
13	演習:2コマ続き サービス担当者会議の準備		社会資源の関係職種になり切り、教員が提示した問題について、思いや対応についてとサービス担当者会議に期待することをレポートする。	事前:サービス担当者会議について復習する(30分) 事後:授業中作成のレポートは授業終了後提出
14	演習: サービス担当者会議の実際		関係職種になり切り、サービス担当者会議を実演する。問題解決につながるようすすめる(30分)。 サービス担当者会議終了後、演じた職種としての感想と訪問看護師の役割についてレポートする(60分)。	事後:授業中作成のレポートは授業終了後提出 提示した在宅看護実践のまとめの要点について、1回~14回で学んだ事と教科書等を参考にまとめる(2時間)
15	在宅看護学演習のまとめ 事例を用いた看護過程の展開と演習から学んだこと-意見交換-	在宅看護援助技術 地域で生活を支えるということ 家族、多職種との関わり方についてのまとめ		事前:在宅看護実践に対して自分なりの意見を持って参加する。 事後:指示された期日に最終レポート課題に沿って作成し、今までの課題を綴じた個人ファイルとともに提出する(4時間)

関連科目 家族看護学、公衆衛生看護学、在宅看護概論、在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学実習、他領域の看護学、専門基礎科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	インターメディカ
	2	ナーシング・グラフィカ「在宅看護論② 在宅療養を支える技術」	臺有桂	MCメディカ出版
	3	継続看護マネジメント	長江弘子	医歯薬出版

評価方法(基準) 授業ごとの課題提出50%、演習への参加姿勢(ピア評価)20%、演習を終えての課題レポート30%の配分で評価を行う

学生へのメッセージ グループ学習は、個人の事前・事後学習を通しての参加意識が学習成果に影響します。グループで取り決めた到達目標、自己役割を果たし在宅看護の展開方法や必要な医療処置やセルフケア力が発揮されるような支援方法について学習しましょう。

担当者の研究室等 山本十三代 7号館 3階 第5研究室
田中結華 7号館 3階 第9研究室
安田香 7号館 3階 共同研究室1

備考 演習内容によっては、2コマ続きがあります。時間割の確認を怠らないことと全出席ができるように体調管理・生活管理をしてください。

科目名	在宅看護学実習	科目名 (英文)	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3062a0		

授業概要・目的	<p><授業概要> 健康障害を持ちながら在宅で療養する人々と家族を理解する。在宅看護の特性と在宅ならではの援助技術、在宅ケアシステムにおける社会資源の活用・関係職種間の連携や協働の実験を体験し、これらを通し在宅看護実践に求められる能力を養う。</p> <p><実習目的> 地域の中で療養する人々やその家族の生活実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。</p>																																																																		
到達目標	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護の役割と方法を述べることができる。 2. 訪問看護ステーションの機能と活動の概要について述べるができる。 3. 在宅療養者とその家族を生活者としてとらえ、健康課題を解決するための援助方法を述べるができる。 4. 地域の社会資源とその活用方法、および関連する職種との連携の実際を述べるができる。 5. 主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。 																																																																		
授業方法と留意点	<p>実習方法 訪問看護ステーションでの実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学臨地実習要綱をよく読み理解した上で、在宅実習要綱で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。 2. 実習オリエンテーションには、必ず出席する。 3. 実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。 4. 実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実際を見学/体験をする。 5. 実習期間中の教員からの指導は時間を設定し行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	看護師の資格取得に必須の科目である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実習要項を参照する。</td> <td>詳細は、実習オリエンテーションで説明する。</td> <td>事前学習課題はオリエンテーションで指示した内容を行う。事後課題として実習記録を毎日記録し、翌日に提出する。実習最終日は指定した締切時間までに提出する。</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	実習要項を参照する。	詳細は、実習オリエンテーションで説明する。	事前学習課題はオリエンテーションで指示した内容を行う。事後課題として実習記録を毎日記録し、翌日に提出する。実習最終日は指定した締切時間までに提出する。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	実習要項を参照する。	詳細は、実習オリエンテーションで説明する。	事前学習課題はオリエンテーションで指示した内容を行う。事後課題として実習記録を毎日記録し、翌日に提出する。実習最終日は指定した締切時間までに提出する。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学援助論Ⅱを基盤にする。なお、在宅看護学はあらゆる発達段階、健康段階にある人が対象者となり得るため、基礎看護学をはじめ、他の専門科目すべてが関連する。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2, 3年次に用いた教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2, 3年次に用いた教科書			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	2, 3年次に用いた教科書																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	実習目標の達成度を、実習要綱に示すルーブリック評価基準を用いて評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	2週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割について丁寧に考えてみてください。																																																																		
担当者の研究室等	田中 結華 7号館 3階 第9研究室 富永 真己 7号館 3階 第7研究室 山本十三代 7号館 3階 第5研究室 足立 安正 7号館 3階 第22研究室 安田 香 7号館 3階 共同研究室1																																																																		
備考	体調管理に留意すること。																																																																		

科目名	公衆衛生看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Public Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP5△, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2063a0		

授業概要・目的	地域で生活するあらゆる年代のあらゆる健康レベルの人々を対象とする公衆衛生看護について、その歴史的な変遷と成り立ちについて学ぶ。また社会環境の変化に影響を受け発展した、公衆衛生看護の基本となる概念と理論、ヘルスケアシステムと地域保健サービスの仕組みについて講義を通じて学び、地域看護のあり方を考える基礎的な内容を理解する。さらに、ヘルスプロモーションの理念とそれに関わる保健・医療・福祉制度の概要とともに保健師等の地域で活躍する看護職の活動について学び、公衆衛生看護における対象と活動分野について理解を深める。保健師として10年以上の豊富な実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護学の実例を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	1. 公衆衛生看護の歴史的な変遷と社会環境の変化による影響を踏まえ、その基本的な概念とヘルスプロモーションの理念について理解できる。 2. 地域で暮らす人々の健康問題を理解するとともに、プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションの理念に基づき展開される活動について説明できる。 3. 公衆衛生看護活動に関わる法制度と地域保健医療福祉システムを理解し、その目的と活動の基本的なプロセスについて説明できる。 4. 地域住民の健康と生活を支援するポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチをはじめ、保健師の活動
授業方法と留意点	対面での授業計画に沿った講義中心の内容です。教科書は今後他の授業や実習、国家試験の準備などにも使用するため必ず購入して下さい。教科書を用いて、毎回、予習・復習をするとともに、授業の際に用意してください。授業後は、Moodle による課題を実施します。必ず、実施し、提出して下さい (最終回の授業後は課題はなし)。昨今の社会の時事やニュース、視聴覚教材などを利用し、事例なども紹介しながら、学生の発言を促しながら、授業を進行します。発言に関しては、「授業の参加度」という点で評価に含めますので積極的に発言してください
科目学習の効果 (資格)	保健・医療・福祉制度の概要とともに地域における看護職の活動を理解することで、今後、さらなる活躍が期待される地域包括ケアシステムの看護職の役割について理解を深め、考察することができる。 看護師・助産師国家試験においても出題される分野であり、試験対策として知識を習得する必要がある。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生看護学オリエンテーション、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動	公衆衛生看護学オリエンテーション (カリキュラム上の位置づけと保健師免許、国家試験について)、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動の場と対象、日本の健康政策について	事前: 保健福祉行政論及び家族看護学についてテキストを読んで (テキスト P3~13, 86~100) と同時に、関係する資料を調べ読み予習する (2時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。
2	公衆衛生看護の歴史の変遷	公衆衛生看護の歴史の変遷 (諸外国の公衆衛生看護、日本特有の公衆衛生看護活動体制と法、保健所と保健師の活動体制、新たな保健師活動への指針)	事前: テキスト P22~43, 61~71 を読んでけると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。
3	疾病予防、国内のヘルスプロモーションと公衆衛生看護	ヘルスプロモーションと公衆衛生看護 (プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションと「健康日本21」、日本におけるヘルスプロモーションの取り組みと成果)	事前: テキスト P14~37, 86~100, 200~208 を読んでけると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。
4	ヘルスプロモーションの理論と方法	ヘルスプロモーションの展開 (ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ、国の政策と保健事業)	事前: テキスト P14~37, 86~100, 105~107, 188~192, 200~208, 259~283 を読んでけると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。
5	保健行動と保健活動の理論と方法	保健行動と保健活動の理論とモデルと実際の取り組み (成人保健活動より)、保健指導と健康教育概論	事前: テキスト P63-85, 200~208, 259~283 を読んでけると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。
6	公衆衛生看護活動 - 1	公衆衛生看護活動 - 1 保健指導と家庭訪問、健康相談、健康診査の概要	事前: テキスト P168~208 を読んでけると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。
7	公衆衛生看護活動 - 2	公衆衛生看護活動 - 2 対象別の公衆衛生看護活動 (人々の発達段階に応じた看護活動、母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動)	事前: テキスト P234~246, 264~284 を読んでけると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。
8	公衆衛生看護活動方法 - 3	公衆衛生看護活動 - 3 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動 (精神保健・感染症概論)	事前: テキスト P345~353, 367~386 を読んでけると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。
9	公衆衛生看護活動方法 - 4	公衆衛生看護活動 - 4 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動 (結核・難病概論)	事前: テキスト P308~314, 387~401 を読んでけると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。
10	公衆衛生看護活動 - 5	公衆衛生看護活動 - 5 グループ支援・組織化・地区組織活動	事前: テキスト P209~218 を読んでけると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。
11	公衆衛生看護活動 - 6	公衆衛生看護活動 - 6 地域診断の概要 (地域診断の定義、地域診断の意義と目的、地域診断の理論とモデル、地域診断の方法)、地区踏査	事前: テキスト P103~122 を読んでけると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。
12	公衆衛生看護活動 - 7	公衆衛生看護活動 - 7 地域診断の事例、公衆衛生看護と医療経済、保健事業の計画策定と施策化、予算の仕組み、評価	事前: テキスト P44~50, P136~149 を読んでけると同時に、関係する資料を調べ予習する (2時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2時間)。Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。
13	産業保健 1	産業保健 1 (産業保健・産業看護の理念)	事前: テキスト P462~485 を読んでけると同時に、

			と我が国の実態)	関係する資料を調べ予習する (2 時間)。 事後：授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。 Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。																
	14	産業保健 2・学校保健	産業保健 2・学校保健 (学校保健と養護教諭の役割・活動の実際)	事前：テキスト P447～461 を読んでけると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。 事後：授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。 Moodle 上の課題に取り組み、Moodle にて提出する。																
	15	これからの保健師活動	保健師を取り巻く状況とこれからの公衆衛生看護活動	事前：テキスト P514～543 を読んでけると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。 事後：授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。																
関連科目	公衆衛生学、医療経済論、保健医療福祉行政論、家族看護学、その他各領域の看護学概論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公衆衛生看護学.jp 改訂第 5 版</td> <td>荒賀直子, 後閑容子</td> <td>インターメディカル</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国民衛生の動向 2021/2022</td> <td></td> <td>厚生労働統計協会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公衆衛生看護学.jp 改訂第 5 版	荒賀直子, 後閑容子	インターメディカル	2	国民衛生の動向 2021/2022		厚生労働統計協会	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	公衆衛生看護学.jp 改訂第 5 版	荒賀直子, 後閑容子	インターメディカル																	
2	国民衛生の動向 2021/2022		厚生労働統計協会																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	期末試験 85% (筆記試験の得点は 60%以上の取得をもって単位取得の必須条件とする)、授業後の課題の提出と参加度 15%、の合計 100%とで評価します。なお、授業態度不良の場合は減点する場合があります。																			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は公衆衛生看護の実務者である保健師として 10 年以上の豊富な実務経験を有する教員が担当し、授業ではこれらの経験を踏まえ実践的な教育を取り入れ行います。授業では、教科書 (公衆衛生看護学.jp 改訂第 5 版) の内容を中心に講義しますので、必ず購入し、予習・復習とともに毎回の授業の際に用意してください。 ・また保健福祉行政論及び家族看護学の科目で学んだ内容を復習した上で臨んでください。 ・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼 																			
担当者の研究室等	富永真己 7号館 3階研究室 7																			
備考	追加の文献や資料などは授業中に紹介します。																			

科目名	看護研究 I	科目名 (英文)	Nursing Research I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN3069a0		

授業概要・目的	授業では、卒業研究を行うにあたり、研究とは何か、関心のあるテーマをどのように絞り込むのか、研究目的をどのように立てるのか、データは何をどのように収集するのか、集めたデータをどのように分析・解釈するのか、研究倫理とは何かなど、研究計画の立案に向けて研究の基本的事項を講義形式で身につける。
到達目標	研究の意義、目的、方法、プロセスなどを理解し、研究のイメージが具体的に描けるようになる。研究計画書が書けるようになる。研究倫理の意味と重要性を理解し、研究不正の重大性を認識できるようになる。
授業方法と留意点	講義(前半10コマ)とゼミ(後半5コマ)を組み合わせで行う。
科目学習の効果(資格)	研究の具体的プロセスと各段階で何をすればよいかわかるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			・予習をすること(教科書の該当箇所 p1-10, p37-41) (30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
1	研究とは何か	研究の概要と研究テーマ	
2	研究テーマを決める	概念図を描く	・予習をすること(教科書の該当箇所 p12-18) (30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
3	研究の倫理	研究の倫理の歴史と科学的姿勢	・予習をすること(教科書の該当箇所 p31-36) (30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
4	文献の検索方法	主な文献検索ソフトの使い方と演習	・予習をすること(教科書の該当箇所 p44-5) (30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
5	量的研究(1)	研究論文の構成と内容	・予習をすること(教科書の該当箇所 p130-132 を読む) (30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
6	量的研究(2)	文献の読み方、論文の書き方	・予習をすること(教科書の該当箇所 p52-59, p133-138) (30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
7	量的研究(3)	質問票のつくり方	・予習をすること(教科書の該当箇所 p72-78) (30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
8	質的研究(1)	研究論文の構成と内容	・予習をすること(教科書の該当箇所 p84-90, p130-13) (30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
9	質的研究(2)	インタビューガイドとデータ分析	・予習をすること(教科書の該当箇所 p90-102) (30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
10	研究計画書の書き方	概略と演習	・予習をすること(教科書の該当箇所 p19-30) (30分) ・わからない点をまとめておくこと (30分)
11	領域別ゼミ形式授業1	各領域による	各領域による
12	領域別ゼミ形式授業2	各領域による	各領域による
13	領域別ゼミ形式授業3	各領域による	各領域による
14	領域別ゼミ形式授業4	各領域による	各領域による
15	領域別ゼミ形式授業5	各領域による	各領域による

関連科目	疫学、統計の基礎
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	楽しくなる看護研究	上野栄一他	メヂカルフレンド社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題および/または小テスト(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。 出席は、学生便覧にある摂南大学看護学部履修規定に従う (正当な理由がなく出席常でない者は、単位を与えないことがある。)
----------	---

学生へのメッセージ	・授業では、最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階24、各領域
----------	-------------

備考	提出された課題内容について授業で解説する。
----	-----------------------

科目名	周産期医学	科目名 (英文)	Perinatal Medicine
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	井田 歩美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3073a0		

授業概要・目的	最新の周産期医療現場で必須の知識を修得し、異常に対する診断および治療法を理解する。 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。演習では新生児蘇生を学ぶ。 本科目は、医師として臨床での実務経験を持つ教員および現役の医師が担当します。
到達目標	1. 周産期医療で必須の知識を修得する。 2. 異常に対する診断および治療法を理解する。 3. 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。 4. 演習では縫合術と新生児蘇生 (NCP R) を習得する。
授業方法と留意点	産科：集中講義の形での授業になるため、知識や技能の修得や定着のために時間を割くことが難しい。事前の学習が必須であるため、かならず事前課題の確認を行うこと。 新生児科：テキストおよび配布するプリント等により授業を行います。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験に合格するとともに、実際の現場で異常を察知し対応できるための知識ならびに手技・手法を身につける。 ※2 コマは新生児蘇生法 NCP R (B コース) 講習会に該当し、テスト合格により、修了認定証は取得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	周産期医学とは	産婦人科から見た周産期についての概略と歴史、母子手帳の変遷と妊婦の健診について	事前課題：自分の出生の聞き取り (1時間) 事後：講義の復習 (1時間)
2	妊娠による母体の変化と異常 (1)	妊娠による母体の変化と異常 (初期：悪阻、切迫流産、流産、異所性妊娠、胎状奇胎) について 実技：縫合練習	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
3	妊娠による母体の変化と異常 (2)	妊娠による母体の変化と異常 (中期：切迫早産、前期破水、妊娠高血圧症候群、後期：子宮内胎児発育制限、血液型不適合、感染症) について 実技：縫合練習	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
4	分娩の生理と異常 (1)	分娩の生理と異常 (分娩の三要素とそれらの異常、対処方法...胎位異常、微弱陣痛、遷延分娩、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、肩甲難産) について	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
5	分娩の生理と異常 (2)	分娩の生理と異常 (産科救急：分娩時出血、妊娠合併症、アナフィラキシー、意識消失) について	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
6	周産期を取り巻く状況について	産科合併症や社会的な問題に助産師が対処してゆくために必要な知識と問題点について	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
7	産褥期の異常	産褥期の異常 (子宮内反症、子宮破裂、羊水塞栓、産科的異常出血) 実技：縫合実習) について	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
8	妊娠合併症	妊娠合併症 (妊娠糖尿病、甲状腺機能異常、浮腫、マイナートラブル) について	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
9	合併症妊娠	合併症妊娠 (感染症：HIV、HTLV、GBS、クラミジア、麻疹、ムンプス、リンゴ病、心疾患、腎疾患、免疫疾患) について	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
10	周産期の話題	周産期の話題とこれからの助産師のありかた	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
11	新生児の異常兆候	新生児の異常兆候について	事前課題：なし 事後課題：講義の復習
12	新生児の疾患 (1)	呼吸器疾患、分娩外傷、感染症などについて	事前課題：なし 事後課題：講義の復習
13	新生児の疾患 (2) ハイリスク新生児とその対応	循環器疾患、消化器疾患、血液疾患などについて、ハイリスク新生児とその対応 (低出生体重児・早産児を含む) について	事前課題：なし 事後課題：講義の復習
14	新生児蘇生 NCP R (B コース) (1)	プレテスト、新生児蘇生法とは、新生児蘇生法に必要な基礎知識、新生児蘇生法の対象、NCP R のアルゴリズム	事前課題：教科書 2 の該当部分 (p. 16~121) を読み、予習する。(2時間) 事後課題：講義の復習
15	新生児蘇生 NCP R (B コース) (2)	演習：新生児蘇生法の実際 (STEP0~7)、ポストテスト	事前課題：教科書 2 の該当部分 (p. 16~121) を読み、予習する。(2時間) 事後：ポストテストに向けての復習

関連科目	助産学概論、母性看護学援助論 I、母性看護学概論、母性看護学援助論 II
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol. 10 産科 第4版	医療情報科学研究所	メディックメディア
2	日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト 2020 改訂版	細野 茂春	メジカルビュー社	
3	新生児学入門第5版	仁志田 博司	医学書院	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	産科：事前課題の提出（10%）、授業への参加（10%）、および試験（80%） 新生児科：講義内で行う小テスト等、および演習への参加意欲などにより評価します。			
学生への メッセージ	産科：集中講義と演習になりますので、密度の高いものにするために事前の準備や知識の整理が必要です。事前課題に取り組む中、あるいは、今までの実習などを通して抱いた疑問をしっかりとって講義に参加してください。 新生児科：正しい知識に基づいた、自ら考える医療を実践するために、新生児時期の特徴的な疾患と病態を理解し学習しましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室、井田 歩美（研究室12）			
備考				

科目名	助産学概論	科目名 (英文)	Introduction to Midwifery
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	井田 歩美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3074a0		

授業概要・目的	助産と助産師教育の歴史および母子保健の変遷を学び、助産の概念と意義、助産師の役割と専門性を学ぶ。また、助産ケアの基盤となる考え方や倫理に関する知識を学び、国際的な共通水準をもつ助産師業務や活動のあり方を学ぶ。 本科目は、助産師として臨床での実務経験を持つ教員が担当します。
到達目標	1. 助産の概念と助産学を構成する理論を理解する。 2. 助産の文化と助産師の歴史および助産師教育の変遷と卒後教育を理解する。 3. 助産に関連した法律、わが国と諸外国の母子保健の動向と諸制度について理解する。 4. 助産に関連した倫理問題について理解する。 5. 助産学における研究について理解する。 6. 1～5より助産師の専門性について考える。
授業方法と留意点	講義とグループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に進めます。積極的に意欲をもって、取り組んでください。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得のための必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産の概念	助産の定義と意義、対象を理解するための理論、リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダー、性差医療について	事前学習：教科書1第1章 (p.2～35) を読み、予習 (1時間) 事後学習：本時の内容を復習 (1時間)
2	助産学を構成する理論	助産実践を支える理論と助産学における対象理解のための理論について	事前学習：教科書1第3章 (p.62～75) を読み、予習 (30分) 事後学習：本時の内容を復習 (1時間)
3	助産師の歴史と文化	わが国の古代から現在までの助産の変遷、諸外国の助産の変遷と文化における助産 (妊娠・出産・育児) について	事前課題：教科書1第6章 (医学書院) を予習 (1時間) 事後学習：本時の内容を復習 (30分)
4	助産と法律	助産師に関連する法律 (保助看法、医療法、刑法) について、具体的に事例を用いて理解する。	事前課題：看護に関する関係法規について予習 (1時間) 事後学習：本時の内容を復習 (30分)
5	助産師の歴史と文化	助産師の歴史と文化について、グループごとにプレゼンテーションし、討議する。	事前学習：グループ発表の準備、発表資料の提出、他グループの資料を読み、意見、疑問を考える。(2時間) 事後学習：学びのレポート (A4 1枚) の作成 (1時間)
6	助産師と教育	助産師教育の変遷と卒後教育について ※各自が調べてきた内容をプレゼンテーションし、討議する。	事前課題：教科書1第7章 (医学書院) を参考に「助産師教育について調べ、課題は何かを考えてくる (2時間) 事後学習：本時の内容を復習 (30分)
7	わが国の母子保健 (1)	わが国の母子保健の歴史および現状、動向と諸制度について	事前学習：教科書1第5章 (p.116～149) を読み、予習 (1時間) 事後学習：本時の内容を復習 (1時間)
8	わが国の母子保健 (2)	わが国の母子保健の歴史および現状、動向と諸制度について	事前学習：教科書1第5章 (p.116～149) を読み、予習 (1時間) 事後学習：本時の内容を復習 (1時間)
9	諸外国の母子保健	諸外国の母子保健の歴史および現状、動向と諸制度について	事前学習：配布資料を読み、予習 (30分) 事後学習：本時の内容を復習 (1時間)
10	助産師と倫理	倫理的な助産実践を支えるための諸規定と意思決定支援	事前学習：教科書1第4章 (p.98～114)、教科書2第1章D (p.40～50)、第3章E (p.113～125)、第4章 (p.136～155) を読み、予習 (1時間) 事後学習：本時の内容を復習 (1時間)
11	助産に関連した倫理的課題 (1)	人工妊娠中絶、減数手術について	事前学習：母性看護学概論で学んだことを想起し、予習 (1時間) 事後学習：本時の内容を復習 (1時間)
12	助産に関連した倫理的課題 (2)	生殖補助医療、出生前診断、着床前診断について	事前学習：母性看護学概論で学んだことを想起し、予習 (1時間) 事後学習：本時の内容を復習 (1時間)
13	助産に関連した倫理的課題 (3)	11、12の内容について、グループディスカッションし、発表する。	事前学習：母性看護学概論で学んだことを想起し、予習 (1時間) 事後学習：学びのレポート (A4 1枚程度) の作成 (1時間)
14	助産と研究 (1)	助産学におけるエビデンスに基づく実践の重要性について	事前学習：教科書1第3章 (p.62～85) を読み、予習 (1時間) 事後学習：本時の内容を復習 (1時間)
15	助産と研究 (2)	領域教員の取り組んでいる研究テーマの発表を聞き、助産学における研究の実態を理解する。	事前学習：資料を読み、意見、疑問を考える。(1時間) 事後学習：学びのレポート (A4 1枚程度) の作成 (1時間)

関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習、疾病・治療論Ⅴ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座1 基礎助産学 [1]「助産学概論」	我部山キヨ子他	医学書院
	2	助産学講座2 基礎助産学 [2]「母子の基礎科学」	我部山キヨ子他	医学書院
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座9 「地域母子保健・国際母子保健」	我部山キヨ子他	医学書院
	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験：50% グループディスカッション・発表：30% 課題：20%			
学生への メッセージ	助産師課程科目選考試験を受験するための先修科目です。また、助産師を目指すそうとする学習の第一歩となる科目です。 正しい知識を習得することはもちろんですが、「助産とは」「助産師とは」について、じっくり考える機会になるよう、興味関心をもち積極的に取り組んでいきましょう。受験は考えていないが助産学を学んでみたい方の履修も歓迎です。			
担当者の 研究室等 備考	井田 歩美 (研究室 12)、但馬 まり子 (研究室 20)			

科目名	学校保健	科目名 (英文)	School Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	吉田 順子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3082a0		

授業概要・目的	学校保健では、子どもが自己実現を図り、生涯に割って健康・安全で活力ある生活ができるように主体的な健康づくりをめざす。そのためには、学校教育のみならず地域・家庭及び社会が連携協力しながら推進していかなければならない。学校で行われている健康の保持増進に関する基本的事項を理解するとともに学校保健の理念、健康管理、健康教育を履修する。地域社会と看護の発展に貢献する意思をもち、看護職として自己研鑽の姿勢を身につける。
到達目標	学校保健の構造とその領域及び内容を理解する。学校教育における児童・生徒の発育発達や健康課題を理解し健康管理や健康教育に関心を持ち、学校保健活動において看護の専門性に基づいた知識、技術、科学的な理論を生かした養護教諭の専門性について主体的に考えることができる。
授業方法と留意点	教科書を使用する。 事前事後の学習は必要です。
科目学習の効果 (資格)	養護教諭 2 種免許

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと学校保健の概念	学校保健の構造と内容	学校保健とは何か シラバスを事前に読んでおくこと。
2	子どもの発育発達	身体の発育発達、心の発達について、その概要を学ぶ	身体の発育発達、心の発達についてまとめる。
3	健康診断 子どもの健康実態と慢性疾患	学校における健康診断は学校保健の中核をなすものであり教育活動の一環であることを学ぶ。子どもの今日的健康課題を取り巻く社会環境がもたらす要因も含めて考える	学校での健康診断の項目について調べておくこと。現代の子供に多い病気と健康障害、学校での対策を調べておくこと。
4	感染症とその予防 救急処置 心の健康問題とその対応	学校における感染症・傷病について基本を学ぶ。 心の健康問題を理解し、学校全体、地域の専門機関との連携を学ぶ	子どもがかかりやすい感染症はどのようなものか調べておくこと。 心の健康問題についてまとめる。
5	性の教育 保健室	学齢期の性行動の実態と性教育の必要性について学ぶ。 保健室の機能を生かした学校保健における保健室経営の位置づけを学ぶ。	性教育と人権について調べる。
6	学校安全・危機管理 学校環境衛生	学齢期における事故や災害を理解し、学校における安全について学ぶ。 学校環境衛生基準と検査項目について理解する。 確認テストを行う	学校保健安全法の学校環境衛生基準を読んでおくこと。
7	保健教育 学校保健計画と学校保健組織活動	保健教育について理解し、保健学習は学習指導要領に示されていることを学ぶ。	近年の学習指導要領の動向について調べておくこと。
8	特別支援教育 学内・学外における連携 まとめ	特別支援教育の現状と課題について理解する。 カウンセラー、ソーシャルワーカー、その他の機関の役割と連携について学ぶ。	特別支援教育について調べておく。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新 学校保健	岡本陽子他	ふくろう出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	試験 (40%) グループワーク・討論・発表 (20%) と課題レポート (40%) で評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	産業保健	科目名 (英文)	Occupational Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期後半	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3083a0		

授業概要・目的	様々な産業分野で働く人々の健康にかかわる学問である産業保健について、歴史と関連法規と制度、活動について学ぶ。同時に、昨今の産業保健における課題について、事例などを通じて考察し、理解を深める。また、国内における労働衛生管理体制、労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS) 等の体制・制度と、人々の健康の保持・増進と疾病予防、産業保健スタッフの一員である看護職の役割と支援方法について理解する。さらに具体的な活動方法論について、事例を用いたグループワークによる演習を取り入れながら学ぶ。産業保健師として10年以上の豊富な実務経験をもつ教員が担当し、産業保健活動の実例を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	1. 産業保健の基本理念と制度、労働と健康との関わりについて理解できる。 2. 働く人々の労働と健康について支援する看護職の活動について理解できる。 3. 国内の産業保健活動における課題について十分に理解し、授業を通じて課題について考察できる。
授業方法と留意点	この授業は対面形式で教科書および配付資料を用いた講義および、グループワークもテーマによって取り入れた演習形式を取り入れた授業方法を予定している。教科書および配付資料は必ず毎回準備すること。授業後はMoodleでのミニ課題を必ず、実施すること (第8回はミニ課題はなし)。昨今の社会の時事やニュース、例なども紹介しながら、授業を進行するため、それらに日々関心をもってふれるようにすること。
科目学習の効果 (資格)	今後、さらなる活躍が期待される職域の看護職の役割について理解を深め、考察することができる。 保健師・看護師・助産師国家試験においても出題される分野であり、試験対策として知識を習得する必要がある。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規と制度1	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規について既習内容を含め学ぶ。	教科書 p448-452 を読んで、看護関係法規と関係する法律についてこれまで学んだ授業の内容と重なる部分について確認する。(事前事後各1時間) 授業後はのMoodleでのミニ課題を実施する。
2	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規と制度2	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規について既習内容を含め学ぶ。	教科書 p453-457 を読んで、確認し、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間) 授業後はのMoodleでのミニ課題を実施する。
3	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わり、国内の産業保健活動における課題1	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わりについて、国内の産業保健活動の実際を学び、課題について考察する。	教科書 p458-460 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間) 授業後はのMoodleでのミニ課題を実施する。
4	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わり、国内の産業保健活動における課題2	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わりについて、国内の産業保健活動の実際を学び、課題について考察する。	教科書 p461-463 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間) 授業後はのMoodleでのミニ課題を実施する。
5	産業保健に関する各種体制・制度と、組織と産業保健スタッフの役割と取り組み1	産業保健に関する各種体制・制度とともに、組織の産業保健活動に関わる産業保健スタッフの役割と取り組みについて学ぶ。	教科書 p465-467 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間) 授業後はのMoodleでのミニ課題を実施する。
6	産業保健に関する各種体制・制度と、組織と産業保健スタッフの役割と取り組み2	産業保健に関する各種体制・制度とともに、組織の産業保健活動に関わる産業保健スタッフの役割と取り組みについて学ぶ。	教科書 p448-468 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間) 授業後はのMoodleでのミニ課題を実施する。
7	看護職の役割と支援方法、具体的な活動1	看護職の役割と支援方法、具体的な産業保健活動について学ぶ。さらに実例を紹介し、事例を用いたグループワークによる演習を通じて理解を深め、課題を考察する。	教科書 p448-468 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間) 授業後はのMoodleでのミニ課題を実施する。
8	看護職の役割と支援方法、具体的な活動2とまとめ	看護職の役割と支援方法、具体的な産業保健活動について、事例を用いたグループワークによる演習を通じて理解を深め、課題を考察する。また全体の学びを振り返り、理解を深める。	前回の授業の復習をすると同時に、教科書 p448-468 を読んで、国内の産業保健活動における課題について考察してくる。(事前事後各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	公衆衛生学、医療経済論、保健医療福祉行政論、その他各領域の看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	公衆衛生看護学.jp 第5版 データ更新版	荒賀直子、後閑容子 (編)
2	2			
3	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	労働衛生のしおり 令和3年度版	中央労働災害防止協会
2	2	産業看護学	河野啓子	日本看護協会出版会
3	3	公衆衛生看護学Ⅱ 学校保健・産業保健	荒木田美香子他	医歯薬出版株式会社

評価方法	期末試験 80 点、授業後の課題と授業への参加姿勢 20 点、合計 100 点として評価する。
------	---

(基準)	遅刻・欠席、授業態度不良の場合は減点する。
学生へのメッセージ	産業保健師として10年以上の豊富な実務経験をもつ教員が担当し、産業保健活動の実例を紹介しながら授業を進行します。授業では、テキストや資料を使用しますので、毎回必ず持参してください。また社会で日々起こっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれインターネット情報だけに偏らない・頼らない習慣を持つようにして下さい。
担当者の研究室等	富永真己 7号館3階研究室7
備考	本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業では座席を指定とすることがあります。追加の文献や資料などは授業中に紹介します。

科目名	保健統計学	科目名 (英文)	Health Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期後半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3084a0		

授業概要・目的	授業では、集団の健康状態や疾病の分布、およびその関連要因を明らかにするために用いられる健康指標や統計手法の基本的事項について体系的に学ぶとともに、行政統計の概要と実際について学ぶ。
到達目標	t 検定、 χ^2 乗検定などの基本的な統計とその基礎事項について体系的に理解でき、その意味がわかる。 厚生統計についての理解が深まる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	基本的な統計の意味を理解し、統計を適切に利用することができる。 厚生統計についての理解が深まり、結果の適切な解釈と利用ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	統計の基本	データの種類と確率分布	(事前) 教科書 p12-22, p41-47 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
2	推定	母集団の平均値と割合の推定	(事前) 教科書 p68-72 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
3	検定 (1)	パラメトリック検定 (比例尺度・間隔尺度)	(事前) 教科書 p72-90 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
4	検定 (2)	ノンパラメトリック検定 (順序尺度)	(事前) 教科書 p94-98 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
5	検定 (3)	ノンパラメトリック検定 (名義尺度)	(事前) 教科書 p102-106 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
6	相関と回帰	相関係数、散布図、回帰式	(事前) 教科書 p53-65 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
7	厚生統計の概要	国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査など	(事前) 教科書 p148-182 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
8	厚生統計の実際	厚生統計の実際について学ぶ	(事前) 前回授業の配布資料と教科書 p148-182 で予習すること (30分) (事後) 授業内容を配布資料で復習すること (30分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	統計の基礎
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ていねいな保健統計学	白戸亮吉他	羊土社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厚生統計テキストブック第7版	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
2				
3				

評価方法 (基準)	課題および/または小テスト(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。 出席は、学生便覧にある摂南大学看護学部履修規定に従う (正当な理由がなく出席常でない者は、単位を与えないことがある。)
-----------	---

学生へのメッセージ	2年生で学んだ「統計の基礎」の授業内容の理解が前提で授業を進めるので、しっかり復習しておくこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階24
----------	---------

備考	提出された課題内容について授業で解説する。
----	-----------------------

科目名	公衆衛生看護学活動論 I	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Activity I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	足立 安正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3085a0		

授業概要・目的	対象理解や看護実践に繋がる専門的知識を身につけるために、公衆衛生看護活動の基礎となる対象別・発達別公衆衛生看護活動の概要と方法について学ぶ。また、地域における公衆衛生看護管理について、看護管理の基本である組織運営管理、人事管理、予算管理、情報管理、地域ケアの質の管理、リスク管理について学ぶ。特に、健康危機管理に関して、健康危機管理体制と保健師の機能と役割、健康危機管理の種類に応じた活動に関して、その実例と共に学ぶ。 保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	(1) 母子・成人・高齢者・精神・障害児者・難病・感染症保健活動の基本理念と対象のニーズについて理解することができる。 (2) 母子・成人・高齢者・精神・障害児者・難病・感染症保健活動の法制度や政策・施策について理解することができる。 (3) 母子・成人・高齢者・精神・障害児者・難病・感染症保健活動の実践について理解することができる。 (4) 地域の人々の特性・ニーズに基づく新規事業立ち上げの過程を説明できる。 (5) 地方自治体における予算のしくみと獲得方法が説明できる。 (6) 個人、家族に
授業方法と留意点	この授業は遠隔授業の形態で、教科書および配付資料を用いた講義やディスカッションにより進行する。 教科書および配付資料は必ず毎回準備すること。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のためには本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	保健師の支援技術 1 家庭訪問	オリエンテーション 家庭訪問の目的と対象、技術 家庭訪問の進め方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
2	保健師の支援技術 2 健康診査	健康診査の目的と対象、契機 健康診査の企画と方法	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
3	保健師の支援技術 3 健康相談	保健師が実施する健康相談 健康相談の進め方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
4	母子保健活動	母子保健の現状と政策・施策 母子保健活動における保健師の活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
5	成人保健活動 1	成人保健の現状と政策・施策 成人保健活動における保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
6	成人保健活動 2	健康づくりのための保健活動 生活習慣病予防のための保健事業 成人保健活動の実践	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
7	高齢者保健活動	高齢者保健の現状と政策・施策 高齢者保健活動における保健師の活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
8	障害者保健活動	障害者(児)保健の現状と政策・施策 障害者(児)保健活動の実践と保健師の活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
9	精神保健活動	精神保健の現状と政策・施策 精神障害者の生活特性と保健師活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
10	難病保健活動	難病保健の現状と政策・施策 難病保健活動と保健師の活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
11	感染症保健活動 歯科保健活動	感染症保険の現状と政策・施策 感染症に関わる保健師の活動 歯科保健の現状と政策・施策	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
12	公衆衛生看護管理 1	公衆衛生看護管理の基本 公衆衛生看護管理の実践と特徴 組織運営管理、人事管理、予算管理	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
13	公衆衛生看護管理 2	公衆衛生看護管理の実践と特徴 情報管理、地域ケアの質の管理、リスク管理	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
14	健康危機管理 1	健康危機管理の体制整備と平常時の活動 災害発生時の保健活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
15	健康危機管理 2	健康危機としての児童虐待 地域における児童虐待対策と保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)

関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、保健医療福祉行政論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.jp 第5版	荒賀 直子, 後閑 容子	インターメディカル
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	国民衛生の動向 2021/2022	厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会
	2	新版 保健師業務要覧 第4版 2022年版	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代	日本看護協会出版
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 90%と毎回の提出物 10%で評価する。 遅刻・欠席、授業態度不良の場合は減点する。			
学生への メッセージ	この科目では、公衆衛生看護に関する政策や各種制度を学びます。社会の動きとも連動しますので、新聞やニュースをみるなど社会に関心を向けると、授業内容の理解が深まります。			
担当者の 研究室等	富永真己 7号館3階 7研究室 足立安正 7号館3階 22研究室			
備考				

科目名	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Activity II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3086a0		

授業概要・目的	対象理解や看護実践に繋がる専門的知識を身につけるとともに、広く多角的に情報を収集し、科学的根拠に基いた問題解決能力を身につけるために、公衆衛生看護活動の基本となる個人・家族・集団・組織・地域を対象とした活動方法と、各場面における保健師の活動内容および支援技術について学ぶ。 保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を踏まえ、支援技術の実際を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	(1) 主要な公衆衛生看護実践技術(家庭訪問、健康相談、保健指導、健康教育等)の方法を説明することができる。 (2) 発達段階別の公衆衛生看護対象(母子・成人・高齢者)における保健活動を理解し、その支援方法の実際について説明できる。
授業方法と留意点	教科書および配付資料を用いた講義と演習およびグループディスカッションによって行う。 教科書および配付資料は必ず毎回持参すること。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	新生児訪問指導 1	講義・演習 オリエンテーション 家庭訪問と保健師の役割 家庭訪問による支援の実際	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
2	新生児訪問指導 2	講義・演習 新生児訪問の実際 事例のアセスメントと訪問計画の立案	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
3	特定健診制度 1	講義 特定健康診査と特定保健指導について	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
4	特定健診制度 2	講義・演習 特定保健指導のすすめ方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
5	乳幼児健康診査 1	講義 乳幼児の成長・発達と保健指導	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
6	乳幼児健康診査 2	講義 健診の意義、問診項目と把握すべき情報、診察と保健指導のポイント	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
7	保健師の活動の実際	行政における保健師の働き方や公衆衛生看護活動の実際	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
8	健康相談	健康相談の意味と保健師が実施する健康相談 健康相談が実施される場と進め方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
9	グループ支援・組織化	グループ支援の特徴と意義、技術 グループ支援に共通する理論 地域組織活動の考え方と種類、支援	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
10	健康教育 1	講義・演習 健康教育と保健師の役割 健康教育による支援の実際	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
11	健康教育 2	演習 演習オリエンテーション 健康教育の計画立案 1	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
12	健康教育 3	演習 健康教育の計画立案 2	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
13	健康教育 4	演習 健康教育の計画立案 3	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
14	健康教育 5	演習 健康教育の発表準備	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
15	健康教育 6	演習 健康教育の実施と評価	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)

関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、保健医療福祉行政論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.jp 第5版 データ更新版	荒賀 直子, 後閑 容子 (編)	インターメディカル
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 保健師業務要覧	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代 (編)	日本看護協会出版
	2	国民衛生の動向 2021/2022	厚生労働統計協会 (編)	厚生労働統計協会

	3		
評価方法 (基準)	各課題提出物 80%、小テスト 20% 授業態度不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。		
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は公衆衛生看護の実務者である保健師として 10 年以上の豊富な実務経験を有する教員が担当し、授業ではそれらの経験を踏まえ実践的な教育を取り入れ行います。授業では、テキストや資料は必ず毎回持参してください。 ・公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論 I、公衆衛生学、保健福祉行政論及び家族看護学、の科目で学んだ内容を復習した上で臨んでください。 ・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼らない習慣を持つようして下さい。 		
担当者の 研究室等	富永：7 号館 3 階 7 研究室 足立：7 号館 3 階 22 研究室		
備考			

科目名	公衆衛生看護学演習 I	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Method and Practice I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	足立 安正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3087a0		

授業概要・目的	科学的根拠に基いた問題解決能力を身につけるとともに、それに裏打ちされた安全・安楽な看護を提供するための実践能力を身につけるために、公衆衛生看護活動の対象となる個人・家族・集団に対する保健師活動について、公衆衛生看護の展開に必要な知識と技術を演習により学ぶ。保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を踏まえ、支援技術の実際を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	(1) 対象者の生活様式、行動様式、経済状況、習慣、価値観など生活や文化に配慮した支援ができる。 (2) 対象者のプライバシーに配慮し、個人情報の収集・管理を適切に行うことができる。 (3) 対象者がもつ問題解決能力に自らが気づくように支援ができる。 (4) 対象者の考えを尊重した支援計画の立案および指導を実施することができる。 (5) 個別支援の場において、アセスメントの確認、支援の実施、結果の把握と評価ができる。 (6) 体験した演習の結果を、目的に沿って記録できる。 (7) 演習の結果に
授業方法と留意点	教科書および配付資料を用いた講義と演習およびグループディスカッションによって行う。 教科書および配付資料は必ず毎回持参すること。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	新生児訪問指導技術 1	演習 演習オリエンテーション 新生児の観察と身体計測 1	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
2	新生児訪問指導技術 2	演習 新生児の観察と身体計測 2	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
3	新生児訪問指導技術 3	演習 新生児の観察と身体計測 3	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
4	新生児訪問指導技術 4	演習 新生児訪問指導のロールプレイ 訪問記録と評価	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
5	特定保健指導 1	講義 健康診査の結果の見方	特定健康診査および特定保健指導の制度に関する こと、メタボリックシンドロームに関する基礎知識 (病態や診断、食生活と運動の指導内容など)につ いて事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。 (事前・事後で各 30 分)
6	特定保健指導 2	講義・演習 特定保健指導の実施に向けたアセス メントの実際	特定健康診査および特定保健指導の制度に関する こと、メタボリックシンドロームに関する基礎知識 (病態や診断、食生活と運動の指導内容など)につ いて事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。 (事前・事後で各 30 分)
7	特定保健指導 3	演習 保健指導のロールプレイ	特定健康診査および特定保健指導の制度に関する こと、メタボリックシンドロームに関する基礎知識 (病態や診断、食生活と運動の指導内容など)につ いて事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。 (事前・事後で各 30 分)
8	乳幼児健康診査 1	講義 演習オリエンテーション 乳幼児健診の実際(4 か月児健診)	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
9	乳幼児健康診査 2	演習 4 か月児健診における問診	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
10	乳幼児健康診査 3	講義 乳幼児健診の実際(1 歳 6 か月児健診)	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
11	乳幼児健康診査 4	演習 1 歳 6 か月児健診における問診	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
12	乳幼児健康診査 5	講義 乳幼児健診の実際(3 歳児健診)	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
13	乳幼児健康診査 6	演習 3 歳児健診における問診	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
14	感染症・難病訪問指導 1	講義・演習 演習オリエンテーション 家庭訪問(難病/結核)計画の立案	筋萎縮性側索硬化症と脊髄小脳変性症、多系統萎縮 症、パーキンソン病に関する基礎知識(疫学や病態、 症状、治療、予後など)結核に関する基礎知識(疫学 や発生病理、診断、治療、管理など)を事前に学習 し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後 で各 30 分)
15	感染症・難病訪問指導 2	演習 家庭訪問(難病/結核)計画の立案	筋萎縮性側索硬化症と脊髄小脳変性症、多系統萎縮 症、パーキンソン病に関する基礎知識(疫学や病態、

			事例検討	症状、治療、予後など)結核に関する基礎知識(疫学や発生病理、診断、治療、管理など)を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各30分)																
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、保健医療福祉行政論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公衆衛生看護学.jp 第5版</td> <td>荒賀 直子, 後閑 容子</td> <td>インターメディカル</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公衆衛生看護学.jp 第5版	荒賀 直子, 後閑 容子	インターメディカル	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	公衆衛生看護学.jp 第5版	荒賀 直子, 後閑 容子	インターメディカル																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国民衛生の動向 2021/2022</td> <td>厚生労働統計協会</td> <td>一般財団法人 厚生労働統計協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新版 保健師業務要覧 第4版 2022年版</td> <td>井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代</td> <td>日本看護協会出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国民衛生の動向 2021/2022	厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会	2	新版 保健師業務要覧 第4版 2022年版	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代	日本看護協会出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国民衛生の動向 2021/2022	厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会																	
2	新版 保健師業務要覧 第4版 2022年版	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代	日本看護協会出版																	
3																				
評価方法 (基準)	各演習の課題提出物80%、実技試験20% 授業態度不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。																			
学生への メッセージ	保健師の支援技術を演習形式で学んでいきます。集中講義で行いますので体調管理に気を付け、毎回出席できるようにしましょう。																			
担当者の 研究室等	富永真己 7号館3階 7研究室 足立安正 7号館3階 22研究室																			
備考																				

科目名	英語IV	科目名 (英文)	English IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉野 久和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN3326c1		

授業概要・目的	<p>Never Let Me Go 講読 — 〈医療〉と〈愛〉の英文読解</p> <p>看護人 (‘carer’) が語り手の小説を原文で読み、物事の善悪から、看護の意義、携わる人間 (性)、移植をめぐる人/物のオリジナリティなどを自ら問い、考える。</p>																																																																		
到達目標	<p>原文の英語を字義通りに理解、あるいは「翻訳」(interpret) する基礎的な読解力の醸成と、自分の視点や感覚、あるいは「解釈」(interpret) を言語化できる発信力の向上を目指す。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>各回、受講生による発表を基本とする。 テキストは英語で全 282 ページ。毎回、約 20-30 ページの予習が必要。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>chapter 1</td><td>該当箇所の精読</td></tr> <tr><td>2</td><td>受講生の発表</td><td>chapters 2, 3</td><td>該当箇所の精読</td></tr> <tr><td>3</td><td>受講生の発表</td><td>chapters 4, 5</td><td>該当箇所の精読</td></tr> <tr><td>4</td><td>受講生の発表</td><td>chapters 6, 7</td><td>該当箇所の精読</td></tr> <tr><td>5</td><td>受講生の発表</td><td>chapters 8, 9</td><td>該当箇所の精読</td></tr> <tr><td>6</td><td>受講生の発表</td><td>chapters 10, 11</td><td>該当箇所の精読</td></tr> <tr><td>7</td><td>受講生の発表</td><td>chapters 12, 13</td><td>該当箇所の精読</td></tr> <tr><td>8</td><td>映画版との比較 (1)</td><td>chapters 1-13</td><td>映像視聴</td></tr> <tr><td>9</td><td>受講生の発表</td><td>chapters 14, 15</td><td>該当箇所の精読</td></tr> <tr><td>10</td><td>受講生の発表</td><td>chapters 16, 17</td><td>該当箇所の精読</td></tr> <tr><td>11</td><td>受講生の発表</td><td>chapters 18, 19</td><td>該当箇所の精読</td></tr> <tr><td>12</td><td>受講生の発表</td><td>chapters 20, 21</td><td>該当箇所の精読</td></tr> <tr><td>13</td><td>受講生の発表</td><td>chapters 22, 23</td><td>該当箇所の精読</td></tr> <tr><td>14</td><td>映画版との比較 (2)</td><td>chapters 14-23</td><td>映像視聴</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>レポート共有</td><td>レポート執筆</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	chapter 1	該当箇所の精読	2	受講生の発表	chapters 2, 3	該当箇所の精読	3	受講生の発表	chapters 4, 5	該当箇所の精読	4	受講生の発表	chapters 6, 7	該当箇所の精読	5	受講生の発表	chapters 8, 9	該当箇所の精読	6	受講生の発表	chapters 10, 11	該当箇所の精読	7	受講生の発表	chapters 12, 13	該当箇所の精読	8	映画版との比較 (1)	chapters 1-13	映像視聴	9	受講生の発表	chapters 14, 15	該当箇所の精読	10	受講生の発表	chapters 16, 17	該当箇所の精読	11	受講生の発表	chapters 18, 19	該当箇所の精読	12	受講生の発表	chapters 20, 21	該当箇所の精読	13	受講生の発表	chapters 22, 23	該当箇所の精読	14	映画版との比較 (2)	chapters 14-23	映像視聴	15	まとめ	レポート共有	レポート執筆
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	chapter 1	該当箇所の精読																																																																
2	受講生の発表	chapters 2, 3	該当箇所の精読																																																																
3	受講生の発表	chapters 4, 5	該当箇所の精読																																																																
4	受講生の発表	chapters 6, 7	該当箇所の精読																																																																
5	受講生の発表	chapters 8, 9	該当箇所の精読																																																																
6	受講生の発表	chapters 10, 11	該当箇所の精読																																																																
7	受講生の発表	chapters 12, 13	該当箇所の精読																																																																
8	映画版との比較 (1)	chapters 1-13	映像視聴																																																																
9	受講生の発表	chapters 14, 15	該当箇所の精読																																																																
10	受講生の発表	chapters 16, 17	該当箇所の精読																																																																
11	受講生の発表	chapters 18, 19	該当箇所の精読																																																																
12	受講生の発表	chapters 20, 21	該当箇所の精読																																																																
13	受講生の発表	chapters 22, 23	該当箇所の精読																																																																
14	映画版との比較 (2)	chapters 14-23	映像視聴																																																																
15	まとめ	レポート共有	レポート執筆																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Never Let Me Go</td><td>Kazuo Ishiguro</td><td>faber & faber</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Never Let Me Go	Kazuo Ishiguro	faber & faber	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Never Let Me Go	Kazuo Ishiguro	faber & faber																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>[1] 発表 60 点 [2] レポート 40 点</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	Moodle のコースに登録すること																																																																		

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	辻 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU2306a1		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 物語や説話、絵巻などの古典文学に描かれた、生老病死の諸相を読みます。作品の文化的背景についての講義・作品読解・映像資料など関連作品鑑賞を行います。自身の専門とする学びや、これからの生き方に反映させながら、受講してください。</p> <p>【授業目的】 ・中世のひとびとが、生命や身体をどのように捉えていたかを知る。 ・経験を振り返り、自分を自分たらしめる物語を想う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の生命観・身体観について、具体的に説明できる。 ・自身の生命観・身体観を言語化し、他者に対して表現できる。 ・自分を支える物語を見つけることができる。 		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 ・講義形式の授業です。 ・PowerPointにより講義を行います。 ・教科書はありません。適宜、資料を配布します。 ・第2回以降、毎回、ミニレポートを課します。毎回の授業後に提出してください。 ・ミニレポートに対しては、翌回の授業でフィードバックとして全体講評を行います。</p> <p>【留意点】 ・質問は、授業の前後か、メールで受け付けます。</p>		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	「生」を読む —ガイドランス—	授業の説明 講義 【事前学習】 シラバスをよく読む (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	2	「子ども」を読む (1) —こどもとは誰か—	講義 ミニレポート 【事前学習】 子どもに関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	3	「子ども」を読む (2) —語られる成長—	講義 ミニレポート 【事前学習】 子どもに関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	4	「妊娠」を読む —密教と胎児—	講義 ミニレポート 【事前学習】 妊娠に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	5	「出産」を読む —出産の文化史—	講義 ミニレポート 【事前学習】 出産に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	6	「育児」を読む —母乳の文化史—	講義 ミニレポート 【事前学習】 母乳育児に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	7	「性」を読む —日本の性愛—	講義 ミニレポート 【事前学習】 性愛に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	8	「身体」を読む —身体は誰のもの—	講義 ミニレポート 【事前学習】 身体に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	9	「老い」を読む —老いの文化史—	講義 ミニレポート 【事前学習】 老いに関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	10	「病」を読む —描かれる病—	講義 ミニレポート 【事前学習】 病に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	11	「死」を読む —死は誰のもの—	講義 ミニレポート 【事前学習】 死に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	12	「死体」を読む —描かれる死体—	講義 ミニレポート 【事前学習】 死体に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	13	「死後」を読む	講義 【事前学習】

		—死後の世界—	ミニレポート	死後の世界について知っている情報をリストアップする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	14	「魂」を読む —描かれる幽霊—	講義 ミニレポート	【事前学習】 幽霊について知っている情報をリストアップする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	15	再び、「生」を読む —詩歌の世界—	講義 ミニレポート	【事前学習】 思い出深い出来事を、言葉で他者に伝えられるようにする (60分) 【事後学習】 自分の基礎となっている物語を振り返る (60分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>・毎回のミニレポートの提出状況と内容により評価します。定期試験や期末レポートはありません。</p> <p>・全14回(第2回～15回)のミニレポートのうち、6回以上未提出であれば、合格できません。ただし、提出の回数を満たしていても、内容が不十分であれば、合格に達しないことがあります。</p> <p>・ミニレポートの評価基準は、以下の5つです。</p> <p>①授業(講義資料)の理解度</p> <p>②与えられた問いに答えているか</p> <p>③分量は十分か</p> <p>④その回の条件をクリアしているか(タイトルを付ける、ミニワークに取り組む等)</p> <p>⑤自分</p>			
学生への メッセージ	<p>高等学校の「古文」が苦手だった人も歓迎します。</p> <p>古典文法や古文単語を覚えていなくても全く問題ありません。</p> <p>一緒に、古典世界を楽しく学びましょう。</p>			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>メールでのお問い合わせの際は、以下を厳守してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の学生であることを明記 ・大学のアカウントから送信(標的型攻撃メールとの区別が付かないため、プライベートアドレスから送信されたメールは開封しません) ・曜日時限・授業名・授業回数・学生番号・氏名を明記 ・件名(件名がないと迷惑メールに振り分けられてしまいます) ・これらの情報がそろっていないメールには、対応できない場合があります <p>すぐに返信できない場合がありますので、余裕をもってお問い合わせください。</p> <p>メールアドレスは、毎</p>			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	立本 千寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU2307a1		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 生命を有する数多くの生物の中でも、人間は「心」を有する生き物である。心理学の基礎的な理論を理解することは、自らが生きることへの貢献があるだけでなく、対人援助においても有益である。 本授業では、これまでの知見を通して心理学の世界を概観し、理論と実践の融合によって人間に貢献する心理学についての基本的な理解を深めることを目的とする。</p>
到達目標	<p>①心理学の基礎的な知見を理解すること。 ②人間の発達と心理学の関連性について理解すること。 ③対人援助としての臨床心理学の貢献性について理解すること。</p>
授業方法と留意点	COVID-19 感染状況によって、授業方法が対面・オンラインのいずれになるか想定できないため、情報に気をつけて、柔軟に対応し、受講すること。
科目学習の効果 (資格)	本授業の学びを通して、自己理解・他者理解の模索の入り口を知り、多様な人間理解に繋がるのが期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要・目的・到達目標・授業方法と留意点について説明する。	これまでの自分自身の心について、改めて考え直してみてください。
2	知覚・認知と心理学	心理学の基礎的な理論として、知覚・認知に焦点を当て、概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
3	学習と心理学	心理学の基礎的な理論として、学習に焦点を当て、概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
4	発達と心理学 I	乳幼児期から学童期前期までの発達について、心理学的に概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
5	発達と心理学 II	学童期後期から青年期までの発達について、心理学的に概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
6	発達と心理学 III	成人期から老年期までの発達と、人間発達の全体像から、発達の原点において重要なことについて、心理学的に概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
7	心と多様性	多様性のある人間と心の関連性について、発達障害などの例を上げ、概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
8	心の健康とは何か	「生理・心理・社会モデル」などを取り上げ、人間の心の健康に心理学がどのように貢献するかについて概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
9	「聴くこと」とは何か	私たちの日常生活や対人援助において、「聴くこと」がどのような意義があるのかについて、心理学的に概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
10	心理療法について	臨床心理学的なアプローチにおける様々な療法 (音楽療法・認知行動療法・遊戯療法 他) について概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
11	心理学研究法について	量的研究・質的研究の心理学の研究法の基礎について概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
12	心理学の社会への貢献性 I	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、人間発達の初期のそだちに焦点を当て、概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
13	心理学の社会への貢献性 II	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、多様な障害に焦点を当て、概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
14	事例検討	架空事例などを取り上げ、実際の対人援助にどのように心理学を用いることができるのか概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
15	まとめ	これまで学んだことの要点を振り返り、総合的なまとめを行う。	全講義で学んだことを、自分の日常や専門にどのように繋げていくことができるかを考えてみてください。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	臨床心理学概論	下山晴彦・石丸徑一郎	ミネルヴァ書房
2	発達障害の子の気持ちのコントロール	辻井正次・明詠光宜・飯田愛・小倉正義	合同出版
3	母子関係の理論	J・Bowlby (著)・黒田実朗他 (訳)	岩崎学術出版社

評価方法 (基準)	<p>【授業内課題】 40% 【授業内小テスト】 30% 【レポート課題】 30%</p>
-----------	---

学生への 「心理学」ときいて、皆さんはどのようなイメージを持っていますか？

メッセージ	私は、大学時代、心理学とは異なる専門を専攻していましたが、ある方の授業をきいて、ある方々に出会って、臨床心理学に強く惹かれ、志しました。 皆さんが、心理学の世界に少しでも興味を持ち、それぞれの専門の中に活かしていただけるような授業を目指したいと思います。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU2308a1		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中の人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探究してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学的思考がどのようなものであるかを理解すること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解すること。
授業方法と留意点	講義形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とはどのような学問か?	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
2	人類学の誕生 (1): 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
3	人類学の誕生 (2): 進化主義人類学	前回の続き。E・タイラー、L・H・モーガン、J・フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
4	機能主義人類学 (1): マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、B・マリノフスキーとA・ラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
5	機能主義人類学 (2): 有機的全体としての社会	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
6	アメリカ文化人類学の誕生 (1):	フランツ・ボアズの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
7	アメリカ文化人類学の誕生 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
8	アメリカ文化人類学の展開 (1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
9	アメリカ文化人類学の展開 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
10	構造主義 (1): モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースの『贈与論』とC・レヴィ=ストロースの構造主義について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
11	構造主義 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
12	構造主義 (3)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
13	解釈人類学 (1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
14	解釈人類学 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。

関連科目	学芸員課程			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>評価方法： 評価の配分はレポートなどの課題提出を 100 %とする。</p> <p>評価の基準： 人類的思考がどのようなものを理解したうえで書いているかどうかを基準とする。ネットや参考書などで調べた知識は（授業内容と無関係であった場合）必ずしも評価の対象とならない。</p>			
学生への メッセージ	<p>教科書・参考書は特にありません。関連図書については授業の中で適宜紹介します。</p> <p>情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。事前学習より事後学習が大切です。ノートを読み返し、理解できているかを確認すること。</p> <p>この授業に限らず一般論として、分かったつもりになっていても、試験などでいざ書こうとしたら、実はわかっていなかったという事態はしばしば起こります。そこで、この授業ではノートに半分から1ページほど（10 から 20 行程度）で、前の週の要約を作ってみることをお勧めしています。もし要点をうまくまとめ</p>			
担当者の 研究室等	1 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	参加人数および参加者の関心・希望に応じて、授業内容が多少変更される場合があります。			

科目名	教育学	科目名 (英文)	Pedagogy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU2309a1		

授業概要・目的
あなたは「教育」とは「よい」ものかと思うだろうか。思っているとしたら、それはなぜだろう。思っていないとしたら、それはなぜだろう。あるいは、「自分は教育を受けることで本当に「よく」なったのだろうか」と問うてみたことはあるだろうか。その際、「よい」とはどのように判断されるのだろうか。本科目は、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについて丁寧に考え直してみようとするものである。その際に参考になるのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史であり、これらを整理し体系化しようとする学問としての「教育学」の知見である。そしてまた、「教育学」が果たしてきた、また果たすべき役割についても考え直してみることにする。これらを通して、各々が「教育」について考えを深め、人々の生活や人々が生きる社会の中での「教育」を捉え返すことができるようにしたい。

到達目標
教育をめぐる思想や教育の歴史について基礎的な知識を身につける。
自分の直接的な体験から跳躍して、「教育」について問い、考える方法を身につける。
現代の教育課題について、教育に関する基礎知識をもとに論理的・分析的に記述、説明できる。

授業方法と留意点
プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進め、毎回、Teamsのチャネルを通して講義資料を配布する。また、文献・テキストの事前学習に基づくグループワークも実践する予定である。グループワークでは事前学習が授業出席のための必須条件となるほか、事前学習成果（予習ノート）をレポートとして評価する。対面でグループワークを実施できない場合は、レポート（予習ノート）提出をもってグループワークに代える。

科目学習の効果（資格）

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	事前学習とグループワークの方法について	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。(30分)
2	教育学を学ぶ意味1	実践的教育学の関心領域と危うさ	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
3	教育学を学ぶ意味2	教育科学の意義と限界	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
4	教育学を学ぶ意味3	教育学を学ぶ理由	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
5	グループワーク1	教育開発	指定文献について、様式に従って予習ノートを作成・提出する。(180分)
6	教育学の成立1	教育の「定義」をめぐって、「教育」の視線の次元	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
7	教育学の成立2	教育による人間と社会の改造、学校の誕生	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
8	教育学の成立3	学校の普及・拡大とその背景	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
9	教育学の成立4	学校の普及・拡大の背景	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
10	グループワーク2	学歴社会の捉え方	指定文献について、様式に従って予習ノートを作成・提出する。(180分)
11	教育の成功と失敗1	教育の不確実性、学習可能性と教育可能性の距離	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
12	教育の成功と失敗2	教育可能性に向けた技術の発展	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
13	教育の成功と失敗3	教育可能性に向けた技術の発展、教育学の潮流	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
14	教育の目的再考1	教育のポストモダンと教育目的の迷走	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
15	教育の目的再考2	教育目的論再構築の可能性	教育と社会の新たな関係に関する指定文献について、様式に従ってレポートを作成・提出する。(180分)

関連科目 他の教養科目等で学習した内容と関連づけて考えてみましょう。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ヒューマニティーズ 教育学	広田照幸	岩波書店
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	御苑に近き学び舎に—京都・番組小学校の誕生	荒木源	京都新聞出版センター
2	教育社会学	原清治・山内乾史編	ミネルヴァ書房
3	社会のなかの教育	志水宏吉編	岩波書店

評価方法（基準） 定期試験 50%、レポート 50%（グループワークにおけるピアレビューを含む）で総合的に評価する。定期試験を受験しなかった場合は評価不能（評価なし）とする。

学生へのメッセージ 受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。

担当者の研究室等 寝屋川キャンパス7号館3階(朝日研究室)

備考 ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にすること。

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01310a1		

授業概要・目的	情報科学の進展は目覚ましく、看護分野においても情報機器や AI などを用いて新しい価値を作り出すことが求められている。本科目では、看護専門職者として必要なデータ分析の基礎的な技術や、厚生統計の基礎について学ぶ。様々なソフトウェアやアプリを操作・体験し、看護実践への活用について他領域の学生とのディスカッションにより検討し、開発の実現に向けたプレゼンテーションを行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> データの収集と基本的な分析を、データの種類と分析の目的に応じ、適切に行うことができる。 厚生統計の概要を知り、統計情報を正しく理解できる。 課題の解決に向けて、収集した情報を整理・統合し、自らの考えとともに説明することができる。 情報機器やソフトウェア、アプリなどを活用した看護実践について、自身の経験と既存の資料をもとに実現可能性を検討し、その結果を説明することができる。 情報機器等を用いた看護実践の展開について、自身の考えをまとめることができる。 領域の異なる職種の間を尊重しながら
授業方法と留意点	演習とグループワークにより授業を行う。自身で必要な資料を収集し、理解を深める必要がある。授業へは主体的に取り組み、演習およびグループワークに積極的に参加することを期待する。各回の【事前学習】は30分以上、【事後学習】は30分以上とする。なお、第9～15回は2日間に分けてオンライン形式の集中講義を大阪工業大学との共同演習として行う。
科目学習の効果 (資格)	データの扱いや厚生統計の基本知識、および看護と IT の連携を考え、看護の可能性を広い視野で捉えることができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 授業全体 大阪工業大学との共同演習 グループなどの組合せ 	事前:情報リテラシーⅠで学んだエクセルの扱いについて復習しておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
2	記述統計1	連続変数の分析	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
3	記述統計2	カテゴリー変数の分析	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
4	統計演習1	講義・演習 データから集団・全体の特徴を捉える。エクセルを用いたデータ分析の実際「データの分布」	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
5	統計演習2	講義・演習 データから集団・全体の特徴を捉える。エクセルを用いたデータ分析の実際「データの分布」	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
6	共同演習準備1	資料・動画の作成	事前:前回までの復習をしておくこと 事後:授業で提示した課題に取り組むこと
7	共同演習準備2-1	撮影と編集1	事前:前回までの復習をしておくこと 事後:授業で提示した課題に取り組むこと
8	共同演習準備2-2	撮影と編集2	事前:前回までの復習をしておくこと 事後:授業で提示した課題に取り組むこと
9	共同演習1-1	大阪工業大学から、様々な ICT 技術の紹介やプレゼンテーションを受ける。	事前:情報科学について関心のあるテーマを調べる。事後:体験した情報機器の看護への活用について考え、必要な情報を収集する。
10	共同演習1-2	大阪工業大学の学生に対して、看護教育の実際についてプレゼンテーションを行う。	事前:看護教育の実際について、プレゼンテーションの準備をする。事後:体験した情報機器の看護への活用について考え、必要な情報を収集する。
11	共同演習1-3	対象事例と考えられる看護問題を説明し、ICTを活用した解決方法についてディスカッションを行う	事前:ディスカッションのために収集した資料を整理する。 事後:本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる
12	共同演習1-4	グループディスカッションを通じて得た情報を整理し、看護における問題と ICT の活用を明確化・文書化する。また、グループの目標を立て、達成するための役割分担を行う	事前:ディスカッションのために収集した資料を整理する。 事後:本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる
13	共同演習2-1	グループディスカッションにより決定した情報機器の概要を発表資料としてまとめ、作成する。	事前:ディスカッションのために収集した資料を整理する。 事後:本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる
14	共同演習2-2	各グループで考えた看護への ICT の利活用に関して、相互に発表、聴講、ディスカッションを行う。	事前:ディスカッションのために収集した資料を整理する。 事後:本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる
15	共同演習2-3	各グループで考えた看護への ICT の利活用に関して、相互に発表、聴講、ディスカッションを行う。	事前:ディスカッションのために収集した資料を整理する。 事後:本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる

関連科目 情報リテラシーⅠ、統計の基礎、保健統計学、公衆衛生学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題提出または小テストで40%、グループ発表と資料提出で60%を評価する。			
学生への メッセージ	看護専門職者にとって数値データの扱いと厚生統計の理解は欠かせません。またこれからは他分野の人との協働もますます重要になってきます。わからないことは自分で勉強したり、質問したりして、積極的に取り組むことを期待します。			
担当者の 研究室等	小堀：7号館3階 24 研究室 足立：7号館3階 22 研究室			
備考	提出された統計課題については授業で解説します。			

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Constitutional Law
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS02317a1		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎的知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	この授業を通して学生は、「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得し、社会の中の憲法にかかわる諸問題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、必要に応じてレジュメや資料を配布します。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートなどにまとめるよう努力しましょう。各授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニ・レポート作成の機会を設けます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果 (資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに 現代日本の法制度の概要について	講義 日本法全体における憲法の位置づけ	事前：日本国憲法全文を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	「憲法」とは 日本における「憲法」の成立と歩み	講義 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	「日本国憲法」の基本構造・基本原理	講義 日本国憲法の基本原理および基本構造(統治の基礎と人権の基礎)を確認する。第1条から、日本国憲法における「天皇」制と国民主権について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	統治の基礎(1) 国会	講義 日本の統治機構の基本を学ぶ。特に国会の役割、さらに三権分立の意義を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	統治の基礎(2) 裁判所	講義 裁判・裁判所の基礎を学ぶ 裁判所の組織、司法権の独立、裁判員制度	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	人権総論 憲法で保障される人権とは	講義 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	自由権① 信教の自由	講義 重要判例を通して信教の自由・政教分離の原則の意義を考える。また信教の自由をめぐる欧米の歴史も概観する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	自由権② 表現の自由 (その他の自由権)	講義 「表現活動」をめぐる判例や近年の動向を通して、表現の自由の重要性を検討する	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	自由権③ 刑事手続上の権利	講義 適正手続の保障、公判手続における権利などについて学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	社会権 生存権・労働者の権利	講義 まず社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	法の下平等①	講義 憲法上の「平等」とは？「憲法」で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	法の下平等②	講義 14条・24条をめぐる近年の重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題(夫婦別姓、同性婚の問題など)を憲法を通して考える	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)

	13	新しい人権 自己決定権	講義 新しい人権、特に「自己決定権」について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	14	平和主義	講義 戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	15	憲法改正の諸問題 まとめと復習	講義 憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所を読んでおく。（1時間） 事後：これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。（3時間）
関連科目	法学入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スタディ憲法	曾我部真裕 他	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法（第7版）	芦部信喜	岩波書店
	2	憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）	長谷部恭男、他	有斐閣
	3			
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）20%と、定期試験（筆記試験）80%によって、総合的に評価します。 詳細は、授業開始の際に説明します。			
学生への メッセージ	「憲法」をめぐる議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。気軽に質問してください。			
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）			
備考	各授業の最後に実施する課題については、次の授業で解説します。 参考文献は、授業の中で、随時紹介します。 授業時間外での質問等については、授業前後、もしくはメールで対応します。連絡先などは授業内でお知らせします。			

科目名	生物と環境	科目名 (英文)	Life and Environment
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 優
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NNA2320a1		

授業概要・目的	我々人類を含む生物と環境を取り巻く状況は、悪化の一途をたどっている。経済優先の人間活動による温室効果ガスの排出は地球温暖化を引き起こし、それに伴い環境破壊や水不足、食糧危機等の様々な社会問題が世界各地で顕在化している。そんな中、2030年を期限とした世界共通の目標—いわゆるSDGs—が2015年に国連（国際連合）で採択され、現在世界の約190の国と地域で、この目標達成に向けた活動が加速している。本講義では、このSDGsにある「17の目標」の学習を通じて、ヒトを含む生物と環境の関わりについて理解を深めることを目的とする。
到達目標	・生物（ヒトも含む）と環境とのかかわりを理解し、自ら説明することができる。 ・人間活動に起因する世界の環境問題を理解し、自ら説明することができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義形式。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	SDGs とは何か	内容：SDGs とは何か 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
2	目標1. 貧困をなくそう (No Poverty) 目標2. 飢餓をゼロに (Zero Hunger)	内容：SDGs 目標1及び目標2について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
3	目標3. 人々に保健と福祉を (Good Health and Well-Being)	内容：SDGs 目標3について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
4	目標4. 質の高い教育をみんなに (Quality Education)	内容：SDGs 目標4について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
5	目標5. ジェンダー平等を実現しよう (Gender Equality)	内容：SDGs 目標5について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
6	目標6. 安全な水とトイレを世界中に (Clean Water and Sanitation)	内容：SDGs 目標6について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
7	目標7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに (Affordable and Clean Energy)	内容：SDGs 目標7について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
8	目標8. 働きがいも経済成長も (Decent Work and Economic Growth)	内容：SDGs 目標8について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
9	目標9. 産業と技術革新の基礎をつくろう (Industry, Innovation and Infrastructure)	内容：SDGs 目標9について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
10	目標10. 人や国の不平等をなくそう (Reduced Inequalities)	内容：SDGs 目標10について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
11	目標11. 住み続けられるまちづくりを (Sustainable Cities and Communities)	内容：SDGs 目標11について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
12	目標12. つくる責任 つかう責任 (Responsible Consumption and Production)	内容：SDGs 目標12について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
13	目標13. 気候変動に具体的な対策を (Climate Action)	内容：SDGs 目標13について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
14	目標14. 海の豊かさを守ろう (Life Below Water) 目標15. 陸の豊かさを守ろう (Life on Land)	内容：SDGs 目標14及び目標15について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。
15	目標16. 平和と公正をすべての人に (Peace, Justice and Strong Institutions) 目標17. パートナーシップで目標を達成しよう (Partnership)	内容：SDGs 目標16について 方法：講義形式	事前：新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する（30分）。 事後：講義終了後に小レポートに取り組む（30分）。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一番わかりやすい!SDGsのざっくり知識	国際時事アナリスト編	河出書房新社
	2	SDGs時代の社会貢献活動	前林 清和・中村 浩也(編集)	昭和堂
	3	データでわかる 2030年地球のすがた	夫馬賢治	日経BP 日本経済新聞出版本部
評価方法 (基準)	各回終了後の小レポート(3点×15回=45点)と全15回終了後の期末レポート(55点)の合計点が60点以上(100点満点)で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等 備考	枚方キャンパス1号館2階 伊藤講師室(薬学部)			

科目名	地学	科目名 (英文)	Earth and Space Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 慶祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NNA3321a1		

授業概要・目的	地学の大きな柱である固体地球、岩石鉱物、地質・地史、大気・海洋、天文の諸分野に関して、実際のデータや写真など、具体的な資料を用いて、我々の住む地球や我々を取り巻く宇宙に関する知見を深め、我々が経験する自然現象がいろいろな法則や原理によって説明できることを学ぶ。扱う範囲は広いが、単に広く浅い知識を習得するのではなく、自らの手で資料を検討することによって少し深い知見も得られるよう進める。また今まに行われている研究についても紹介する。
到達目標	本授業を通して、様々な観点から我々の住む地球や宇宙に関する知見を深め、我々を取り巻く環境の変化が、いろいろな法則や原理によって説明できることを理解することができる。
授業方法と留意点	講義形式で、教科書を中心に進めるので、教科書は必ず持参すること。事前事後学習は毎回1時間以上行い、しっかり予習して授業に臨むとともに、特に毎回授業の最初に行う小テストに備えて復習を行うこと。小テストは、採点して次の回に返却し、答え合わせをします。
科目学習の効果 (資格)	高等学校で地学を履修していない人が、地学の基礎学力を持つようになることによって、教員免許状を取得する一助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球の概観・内部構造	地球の大きさや形、重力、地磁気、地球の内部構造について講義する。	授業後に小テストを行う。以後毎回小テストを行うので、毎週1時間以上程度、予習・復習を行うこと。
2	プレートテクトニクス	大陸移動説、海洋底拡大説、プレートテクトニクス、ブルームテクトニクスについて講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
3	地震・地殻変動	地震の発生、地震の分布、地震・火山活動に伴う地殻変動、長期的な変化について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
4	火山と火成活動	火山活動、火山噴出物、火成岩の成り方とその種類、造岩鉱物の性質、マグマの発生と分化について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
5	地表の変化と地層	風化・侵食、地形・地層の形成、堆積物と堆積層、地質調査と地質図、変成作用と変成岩について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
6	地球の歴史	示準化石・放射性元素の崩壊、地球史、造山運動について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
7	日本列島の歴史	プレートテクトニクスと日本列島、日本列島形成の歴史について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
8	大気圏の構造	大気・大気圏の構造、オゾン層、気象観測、天気図、大気中の水分、地球の熱収支について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
9	大気の運動	大気に働く力、地衡風・傾度風、大気の大循環、世界の気候帯、台風、偏西風波動、温帯低気圧について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
10	日本でみられる季節の気象	日本における各季節の気候の特徴、日本付近の気団について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
11	海水の性質とその運動	海洋の構造、波、環流と西岸強化、潮汐、エルニーニョについて講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
12	太陽系の天体	太陽系の形成、太陽系の構造、惑星、彗星・流星・隕石、太陽の構造、太陽活動とその影響について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
13	恒星・惑星の運動	天球の座標、地球の自転、地球の公転、均時差、惑星の視運動と位置関係、ケプラーの法則について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
14	恒星の性質と進化	恒星の明るさ、恒星までの距離、恒星の表面温度、HR図と恒星の進化、食連星について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
15	恒星・銀河系・宇宙	星団と星間雲、銀河、宇宙の構造、ビッグバンについて講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。

関連科目	地学実験
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地学	磯崎行雄	啓林館
2	新地学図表	浜島書店編集部	浜島書店	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回小テストまたはレポート課題を課し、それらと期末試験の成績によって評価する。小テストまたはレポート課題 (30%)、期末試験 (70%) の割合である。
-----------	---

	<p>なお原則として提出率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 提出は、小テストの場合は授業中に、レポートの場合は WebFolder で行ってください。</p>
学生へのメッセージ	<p>高校で地学を履修していなかった受講生にも理解できるように授業を進めたいと考えています。事前事後学習は毎回 1 時間以上行い、しっかり予習・復習を行ってください。</p>
担当者の研究室等	
備考	<p>連絡先: taniguti@kyokyo-u.ac.jp オンライン授業を行う場合は、 Zoom のミーティング ID: 660 388 7704、パスコード: 3bLc4a です。</p>

科目名	地学実験	科目名 (英文)	Experiments in Earth Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門 正博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NNA3322a1		

授業概要・目的	地学実験では、地球物理学・天文学・地質鉱物学における基本的事項について修得する。地質鉱物学分野では、直接生の岩石や堆積物、化石などに触れることによって地球の歴史や各自の生活の基盤になっている大地の生い立ちを考察できるようになることを目的とする。また、天文学分野では、天文に関する知識を実地の観測結果と結びつけて考察できるようにし、観測者である自分の空間位置を太陽系と恒星の世界の中で把握できるようにすることを目的とする。
到達目標	観測・実験を通して、我々の住むこの地球と宇宙についての理解がどのように進められたのかが認識できる。 観測・実験に必要な機器の操作ができるようになる。
授業方法と留意点	地質鉱物学分野では、実物の標本を手にして観察したり、実際に歩いてみるなど体験的に地質学の方法論や考え方を学ぶ内容となっている。天文学分野では、実際に天体望遠鏡を用いて天体の観測を行い、基本的な操作や記録の方法について知るとともに得られたデータのコンピュータ解析も行なう。気象分野では、大気の特徴を観測・実験などを通して調べ、大規模な気象との関連について天気図上で考察できるようにする。教科書は使わず、資料プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	地球ならびに惑星科学についての幅広い教養を身につけることが出来るほか、環境科学の分野にも寄与する内容である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球の大きさを測る	歩測を使い学内の特定ルートを歩き、GPSを用いて緯度確認を行い、計算によって地球の大きさを測る。	地球についてその大きさや特徴を事前に理解しておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
2	地形図の読み方と水系図の作成	1/25000地形図を使い、水系図と地形断面図を作成する。 地形図から私たちの身近な大地の特徴を理解する。特に地形断面をつくり、その断面の特徴から地形形成の歴史を推察する。また、水系図を描き、その大地の特徴ならびに流れる水の特徴について考える。	典型的な地形(断層、カルデラ、扇状地、段丘、構造盆地、...)についてその特徴などを理解しておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
3	岩石の肉眼鑑定	主要な岩石(火成岩と堆積岩)の肉眼での鑑定を行う。高等学校教科書等で一般に扱われる14種類の岩石を取り上げて、それらがどのようにつくられたのかを理解する。	火成岩と堆積岩について事前にどのようなものであるかを理解しておく。また実際に観察を通して身近な岩石の特徴を理解して、一つでも多くの岩石が分かるようにしておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
4	身近な岩石や地層について学ぶ	身近に見られる岩石の観察を通し、私たちが生活する大地の生い立ちについて考察する。	事前に身近な岩石の採取を指示する。どこにある岩石でも良い。それらについて様々な観点から観察し、その岩石を採取した大地の生い立ちについて考えておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
5	鉱物薄片の作製	前回の実験授業で学習した岩石について、顕微鏡で観察するための鉱物薄片を作製する。	岩石の生成過程について事前に学習するとともに、鉱物薄片を作製する方法について調べる(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
6	岩石薄片の観察	偏光顕微鏡を用いて、自作した岩石薄片を観察し、顕微鏡スケッチを実施する。観察方法ならびに偏光顕微鏡についてその基本を学ぶ。観察を通して構成鉱物の違いならびに組織の特徴について理解する。	偏光板の特徴や偏光顕微鏡の仕組みについて調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
7	微化石(珪藻化石)の観察	身近な堆積物の中から珪藻化石(遺骸)を探し出し、採取地点における古環境復元を行う。生物顕微鏡を用いた実験ならびに観察である。	大型化石や微化石についてどのようなものがあるかを事前に調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
8	天体観測の基礎	天体情報は、光をはじめとする電磁波によって得られる。天体からの微弱な光を集め観測する天体望遠鏡の仕組みと観測機器の基本を理解し、基本操作を学ぶ。	「光」の特徴や「レンズ」の特徴・種類について調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
9	月と惑星(観測の実際)	太陽や月、金星などの明るい惑星を対象にして、望遠鏡で観測をおこなう。実際に、天体を視野内に導入してみる。	望遠鏡の操作マニュアルを確認しておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
10	太陽	太陽黒点を主にして太陽表面の状態を観測データから明らかにする。恒星の代表としての太陽を知る。	太陽の基本的な諸量、特徴についてあらかじめ調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
11	天体データ解析ソフト「マカリ」	距離のわかっている銀河のスペクトルデータからハッブルの法則を確認し、宇宙の膨張速度であるハッブル定数を決定する。	スペクトル、ドップラー効果について調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
12	プラネタリウムと解説	大阪市立科学館のプラネタリウムを訪問し、天文現象の解説の実際を経験する。また、様々な展示に触れ、星座盤などの作成を実習する。	当日のプラネタリウムプログラム内容について調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
13	気象要素と天気図	温度、湿度、気圧、風などの測定結果から、天気図を作成する。	天気記号や気象用語について調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
14	天気図とひまわり画像	作成した天気図から実際の雲などの配置を予想する。また、大気の大循環について理解する。	天気図とひまわり画像をもとに天気の変化をまとめる(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
15	まとめ	地学実験を通して、グループでの総合的	発表用の事前学習を行う(150分)。

			発表の時間とする.	
関連科目	地理学ならびに地球惑星に関する科目.			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>すべての回の実験に出席することを前提に、以下の割合で評価をおこなう。</p> <p>各回の実験レポート・・・60%</p> <p>事前・事後の課題・・・30%</p> <p>最終回の発表・・・10%</p>			
学生への メッセージ	<p>日頃より理科や科学に関する内容に興味・関心をもち、新聞、ニュース、科学雑誌等に取り上げられる事柄に目をくばるように心がけることが大切である。</p> <p>地学を受講していることが望ましい。</p>			
担当者の 研究室等				
備考	<p>連絡等がある場合は授業時間内に応対する。また、メールにても受け付ける。</p> <p>講義資料配布や課題提出も、Teams 上で行えるようにする。</p>			

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リオン タウンゼンド
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN2325c1		

授業概要・目的	英語 I, II で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 ・「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 ・「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	<p>演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて</p>
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation and Introduction	Explanation of the class, syllabus, rules & grading Introduction of students	Preview unit 1
2	Unit 1	Textbook pages 4-10 Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Review unit 1 Preview unit 2 Homework
3	Unit 2	Textbook pages 11-19 Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, presentation skills, speaking practice.	Review unit 2 Homework
4	Units 1 & 2 review Dialogue test	Review of units 1 & 2 Dialogue test	Preview unit 3 Homework
5	Unit 3	Textbook pages 20-27 Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Review unit 3 Preview unit 4 Homework
6	Unit 4	Textbook pages 28-35 Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, presentation skills, speaking practice.	Review unit 4 Revise vocabulary
7	Units 3 & 4 review Vocabulary test	Review of units 3 & 4 Vocabulary test	Presentation preparation
8	Presentation 1	Student Presentations	Preview unit 5
9	Unit 5	Textbook pages 36-43 Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Review unit 5 Preview unit 6 Homework
10	Unit 6	Textbook pages 44-51 Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, presentation skills, speaking practice.	Review unit 6 Homework
11	Units 5 & 6 review Dialogue test	Review of units 5 & 6 Dialogue test	Preview unit 7 Homework
12	Unit 7	Textbook pages 52-59 Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Review unit 7 Preview unit 8 Homework
13	Unit 8	Textbook pages 60-67 Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, presentation skills, speaking practice.	Review unit 8 Revise vocabulary
14	Units 7 & 8 review Vocabulary test	Review of units 7 & 8 Vocabulary test	Presentation preparation
15	Presentation 2	Student Presentations	Course review

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for Nursing</td> <td>Ros Wright & Bethany Cagnol with Maria Spada Symonds</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for Nursing	Ros Wright & Bethany Cagnol with Maria Spada Symonds	Pearson	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	English for Nursing	Ros Wright & Bethany Cagnol with Maria Spada Symonds	Pearson													
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	TOEIC テストスコア 20% 授業への参加、貢献 80%			
学生への メッセージ	1. Please use English with your classmates to improve your speaking ability. 2. The TOEIC test is 20% of your final score. Please don't forget to take it. 3. Please be respectful of others and be prepared to work with others in class.			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN2325c1		

授業概要・目的	英語Ⅰ、Ⅱで学んだ4技能の基礎力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「読解力」としては、英文を速読するためにリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 ・「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 ・「会話、ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 事前:前の授業で学んだ範囲を復習する(15分以上) 事後:授業で学んだ範囲を復習する(30分以上)
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Syllabus Introduction	講義・演習	事前:なし 事後:PCの使用方法を確認し、実際にリスニングを行うこと。
2	Airport	事前自己学習・講義・演習	事前:Airportのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
3	Train Station	事前自己学習・講義・演習	事前:Train Stationのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
4	Department Store	事前自己学習・講義・演習	事前:Department Storeのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
5	Restaurant	事前自己学習・講義・演習	事前:Restaurantのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
6	Hotel	事前自己学習・講義・演習	事前:Hotelのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
7	Hospital	事前自己学習・講義・演習	事前:Hospitalのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
8	Bank	事前自己学習・講義・演習	事前:Bankのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
9	Workplace	事前自己学習・講義・演習	事前:Workplaceのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
10	Fitness Club	事前自己学習・講義・演習	事前:Fitness Clubのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
11	Sightseeing	事前自己学習・講義・演習	事前:Sightseeingのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
12	International Conference	事前自己学習・講義・演習	事前:International Conferenceのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
13	Computer Society	事前自己学習・講義・演習	事前:Computer Societyのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
14	Employment	事前自己学習・講義・演習	事前:Employmentのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
15	Job Training	事前自己学習・講義・演習	事前:Job Trainingのリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	Takayuki Ishii, Masahiko Iwata, Osamu Yamaguchi, Yuko Matsumura, Joe Ciunci	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	期末テスト(30%) レポートを含む提出物(50%) TOEIC(20%)
----------	---

学生へのメッセージ	指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。 This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ
----	---

そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に教室にて対応する。

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉野 久和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN2325c1		

授業概要・目的	<p>Never Let Me Go 講読 (part 1) : — 〈医療〉と〈愛〉の英文読解</p> <p>看護人 (‘carer’) が語り手の小説を原文で読み、物事の善悪から、看護の意義、携わる人間 (性)、移植をめぐる人/物のオリジナリティなどを問い直し、考える。</p>																																																																		
到達目標	<p>原文の英語を字義通りに理解、あるいは「翻訳」(interpret) する基礎的な読解力の醸成と、自分の視点や感覚、あるいは「解釈」(interpret) を言語化できる発信力の向上を目指す。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>第2回～第5回、第8回～第11回は受講生による発表。 授業で読む分量は、(英語で) 109 ページまで。毎回、10 ページ程度の予習が必要。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>chapter 1</td> <td>該当箇所の精読 (90分)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>口頭発表</td> <td>chapter 2</td> <td>該当箇所の精読 (90分)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>口頭発表</td> <td>chapter 3</td> <td>該当箇所の精読 (90分)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>口頭発表</td> <td>chapter 4</td> <td>該当箇所の精読 (90分)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>口頭発表</td> <td>chapter 5</td> <td>該当箇所の精読 (90分)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>中間テスト</td> <td>chapters 1-5</td> <td>該当箇所の精読 (90分)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>アカデミック・ライティング [1]</td> <td>空白, 補助線, 色塗り</td> <td>該当箇所の精読 (60分)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>口頭発表</td> <td>chapter 6</td> <td>該当箇所の精読 (90分)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>口頭発表</td> <td>chapter 7</td> <td>該当箇所の精読 (90分)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>口頭発表</td> <td>chapter 8</td> <td>該当箇所の精読 (90分)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>口頭発表</td> <td>chapter 9</td> <td>該当箇所の精読 (90分)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>映画との比較 (1)</td> <td>chapters 1-9</td> <td>レポートの準備 (90分)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>アカデミック・ライティング [2]</td> <td>方向, 夢, 夏目漱石</td> <td>該当箇所の精読 (60分)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>映画との比較 (2)</td> <td>chapters 10-23</td> <td>レポートの準備 (90分)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>アカデミック・ライティング [3]</td> <td>レポート共有</td> <td>レポート執筆 (150分)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	chapter 1	該当箇所の精読 (90分)	2	口頭発表	chapter 2	該当箇所の精読 (90分)	3	口頭発表	chapter 3	該当箇所の精読 (90分)	4	口頭発表	chapter 4	該当箇所の精読 (90分)	5	口頭発表	chapter 5	該当箇所の精読 (90分)	6	中間テスト	chapters 1-5	該当箇所の精読 (90分)	7	アカデミック・ライティング [1]	空白, 補助線, 色塗り	該当箇所の精読 (60分)	8	口頭発表	chapter 6	該当箇所の精読 (90分)	9	口頭発表	chapter 7	該当箇所の精読 (90分)	10	口頭発表	chapter 8	該当箇所の精読 (90分)	11	口頭発表	chapter 9	該当箇所の精読 (90分)	12	映画との比較 (1)	chapters 1-9	レポートの準備 (90分)	13	アカデミック・ライティング [2]	方向, 夢, 夏目漱石	該当箇所の精読 (60分)	14	映画との比較 (2)	chapters 10-23	レポートの準備 (90分)	15	アカデミック・ライティング [3]	レポート共有	レポート執筆 (150分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	chapter 1	該当箇所の精読 (90分)																																																																
2	口頭発表	chapter 2	該当箇所の精読 (90分)																																																																
3	口頭発表	chapter 3	該当箇所の精読 (90分)																																																																
4	口頭発表	chapter 4	該当箇所の精読 (90分)																																																																
5	口頭発表	chapter 5	該当箇所の精読 (90分)																																																																
6	中間テスト	chapters 1-5	該当箇所の精読 (90分)																																																																
7	アカデミック・ライティング [1]	空白, 補助線, 色塗り	該当箇所の精読 (60分)																																																																
8	口頭発表	chapter 6	該当箇所の精読 (90分)																																																																
9	口頭発表	chapter 7	該当箇所の精読 (90分)																																																																
10	口頭発表	chapter 8	該当箇所の精読 (90分)																																																																
11	口頭発表	chapter 9	該当箇所の精読 (90分)																																																																
12	映画との比較 (1)	chapters 1-9	レポートの準備 (90分)																																																																
13	アカデミック・ライティング [2]	方向, 夢, 夏目漱石	該当箇所の精読 (60分)																																																																
14	映画との比較 (2)	chapters 10-23	レポートの準備 (90分)																																																																
15	アカデミック・ライティング [3]	レポート共有	レポート執筆 (150分)																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Never Let Me Go</td> <td>Kazuo Ishiguro</td> <td>faber & faber</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Never Let Me Go	Kazuo Ishiguro	faber & faber	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Never Let Me Go	Kazuo Ishiguro	faber & faber																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>[1] 発表 30点 [2] 中間テスト 30点 [3] 期末レポート 20点 [4] TOEIC (学科共通) 20点</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	Moodle のコースに登録すること																																																																		

科目名	臨床医療演習	科目名 (英文)	Clinical Healthcare Practice
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松本 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2338a1		

授業概要・目的	<p>〔授業概要〕 看護の対象となる人々への看護実践する上で必要となる専門的知識について学習する。また、対象の観察やコミュニケーションを通して、対象を理解するための情報収集を行う。対象者のニーズについて、情報から科学的根拠に基づいてアセスメントし看護技術を提供する。さらに、医療チームの一員としての倫理観やチームワーク等の臨床実践に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>〔目的〕 看護の対象およびその家族のニーズについて、健康レベルや生活背景を踏まえ、科学的根拠に基づいてアセスメントし、アセスメントをもとにした模擬患者への看護実践ができる。模擬患者への看護実践や患者役の体験を通して、患者とのコミュニケーション・臨床判断・看護技術などの実践上の自身の課題に気付くことができる。また、演習を通じて、看護職者としての倫理観、保健医療チームの一員として意欲的に他者と協働関係を築くための基礎的能力を養う。</p>
到達目標	<p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象のニーズを把握するために必要な対象の観察、対象とのコミュニケーションができる。 2. 対象のニーズについて、収集した情報から科学的根拠に基づきアセスメントし、看護実践ができる。 3. 対象のニーズを充足するために必要な知識及び看護技術について習得する。 4. 多職種それぞれの役割を理解し、知識・技術を活かし合えるよう、看護の役割を説明できる。 5. 生活文化に対応したエンド・オブ・ライフ・ケアについて理解できる。 6. 臨終期にある対象とその家族に求められる援助やグリーフケアを理解
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って進める。授業方法は、学内演習を中心とする。
科目学習の効果 (資格)	3年次以降の臨床実習で実際に活用できる能力を習得する科目であり、看護師国家試験内容にも関連している。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	エンド・オブ・ライフとは	【講義・演習】 エンド・オブ・ライフの概念について学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
2	エンド・オブ・ライフに関連する文化の理解①	【演習】 エンド・オブ・ライフに関連する社会的背景や文化について国内外の現状を学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
3	エンド・オブ・ライフに関連する文化の理解②	【演習】 エンド・オブ・ライフに関連する社会的背景や文化について国内外の現状を検討し、GWで共有します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
4	臨終時の看護①	【講義・演習】 臨終期にある対象とその家族に求められる援助やグリーフケアを学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
5	臨終時の看護②	【演習】 看取り時の際の対象者や家族へのかかわり、対話について学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
6	エンゼルケア	【講義】 ゲストスピーカーによるエンゼルケアの実践について学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
7	死生観	【演習】 「生き生きを支える」ための意思決定への支援をGWで検討し、自己の死生観を振り返ります。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
8	専門的知識の活用①	【講義・演習】 ・摂食・嚥下障害、栄養管理の基本的考え方について学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
9	専門的知識の活用②	【講義・演習】 ・事例患者に生じている摂食・嚥下障害及び栄養障害を理解し、必要な治療・ケアについて学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
10	専門的知識の活用③	【講義・演習】 ・収集した情報から根拠に基づきアセスメントして、事例患者のニーズを把握し、優先すべき問題を明確にします。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
11	退院後を見据えた目標設定	【演習】 ・退院後の生活に向けた患者のニーズ、生活上の問題を明確にします。 ・退院に向けての医療チームの関わりについて学習します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
12	ケア立案①	【演習】 ・事例患者のニーズを満たすために、必要な計画についてグループで話しあい、根拠に基づく具体的な計画を立案します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
13	ケア立案②	【演習】 ・立案した計画を、グループごとに発表し、質疑応答をふまえて、計画を修正します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
14	援助の実施①	【演習】 ・模擬患者とコミュニケーションを図り	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分)

			ながら、援助を実施します。 ・実践および患者体験により、実践上の課題について振り返り、改善策を検討します。	事後課題：課題の提出(30分)
	15	援助の実施②	【演習】 ・各グループの実践内容、振り返り、改善策についてグループごとに発表し、学びを共有します。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(30分) 事後課題：課題の提出(30分)
関連科目	これまで履修した専門基礎科目と専門科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 経過別成人看護学 4 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア	田村恵子	メヂカルフレンド社
	2	パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護 I 急性期・周術期<第2版>	井上智子	照林社
	3			
評価方法(基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。演習課題(レポートや記録等)の達成状況：80点、および演習態度(積極性や取り組みへの姿勢等)20点により総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	本授業では、各教員の病院での実践経験を踏まえて授業内容を教授します。1・2年次に学修した内容をもとに、授業を実施します。既修科目の内容について、復習をしておいてください。授業のスケジュールは、初回に具体的に別途説明します。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業中、もしくは授業終了後にフィードバックします。			
担当者の研究室等	第1回～第7回：7号館 3階 松本葉子 研究室 (28) 第8回～第15回：7号館 3階 稲垣範子 研究室 (25)			
備考				

科目名	先端医療演習	科目名 (英文)	Community Healthcare Practice
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	竹下 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2339a1		

授業概要・目的	医療の高度化・複雑化及び医療の質や安全性の向上に伴い、多職種によるチーム医療が様々な臨床で実践されている。その中で、看護学と工学の新たな科学的知見に基づく考えや技術の導入が求められている。本科目では、人間工学、建築環境工学、情報科学の基礎知識を学修し、看護学と工学の融合について考える。
到達目標	1) 人間工学の定義、目的を説明できる 2) 建築環境工学の定義、目的を説明できる 3) 情報科学の定義、目的を説明できる 4) 看護学における工学の役割が理解できる 5) これからの看護学と工学の融合について考察できる
授業方法と留意点	講義と施設の見学を通して、人間工学、建築環境工学、機械工学の基礎を理解しやすいように解説する。施設の見学後はグループワークを行い、学生間で学びの共有ができるよう発表の時間を設ける。講義、施設見学、グループワークの一連の学習により、看護における工学の役割について理解する。授業日程は、別途スケジュールを提示します。授業内で課した課題に対しては、教員からの助言や提案等を授業内あるいは授業後にフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	本科目は、看護学と工学の融合した学問の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護学における工学の理解	看護学における工学とは	事前学習：配布資料を読んでおく (30分) 事後学習：授業で考察したことを記録しておく (30分)
2	人間工学の基礎 (1)	人間工学の定義	事前学習：人間工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
3	人間工学の基礎 (2)	臨床における人間工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている人間工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
4	建築環境工学の基礎 (1)	建築環境工学の定義	事前学習：建築環境工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
5	建築環境工学の基礎 (2)	臨床における建築環境工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている建築環境工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
6	機械工学の基礎 (1)	機械工学の定義	事前学習：機械工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
7	機械工学の基礎 (2)	臨床における機械工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている機械工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (30分)
8	工学の実際 (1)	工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
9	工学の実際 (2)	工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
10	工学の実際 (3)	工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
11	工学の実際 (4)	工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (30分) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (30分)
12	看護学における工学の理解 (1)	これまでの学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合について考察する	事前学習：発表資料作成のための情報・資料収集 (30分) 事後学習：発表資料作成 (30分)
13	看護学における工学の理解 (2)	これまでの学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合について考察する	事前学習：発表資料作成のための情報・資料収集 (30分) 事後学習：発表資料作成 (30分)
14	看護学と工学のこれから (1)	看護学と工学のこれからについて考察した内容を発表する	事前学習：発表資料作成 (30分) 事後学習：発表資料を仕上げ提出する (30分)
15	看護学と工学のこれから (2)	看護学と工学のこれからについて考察した内容を発表する	事前学習：発表資料作成 (30分) 事後学習：発表資料を仕上げ提出する (30分)

関連科目	これまで履修した専門科目のすべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護理工学	真田弘美・森武俊 編	東京大学出版会

	2			
	3			
評価方法 (基準)	施設見学への参加、課題への取り組み（ディスカッション、質問）、課題レポートや発表資料の提出内容により 100%総合的に評価する。したがって、課題は指定された期日までに忘れず提出をしてください。			
学生への メッセージ	担当される先生方は、人間工学、温熱環境工学、情報生命科学におけるエキスパートで、この科目は看護学と工学の融合という新しい学問領域になります。施設見学と講義を通して、担当の先生方から学んだことを基に、学生間でのディスカッションを行い、みなさんからの斬新なアイデアが創出されることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館3階 竹下（研究室30）			
備考				

科目名	統計の基礎	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NMA1331a1		

授業概要・目的	疾病とそのリスク要因の関連や因果関係を明らかにするにあたっては統計学が用いられる。授業では、看護・保健分野でよく使われる統計について、その基本を理解し、統計的な考え方ができるようにする。
到達目標	統計の基本を正しく理解し、正しく使えるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	(事前) 教科書 p12-16 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
2	分布をあらわす	度数分布、ヒストグラム	(事前) 教科書 p29-34 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
3	代表値と散布度 (1)	平均値、分散、標準偏差	(事前) 教科書 p18-22 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
4	代表値と散布度 (2)	中央値、4分位、最頻値	(事前) 教科書 p16-22 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
5	代表値と散布度 (3)	エクセル演習	(事前) 教科書 p16-28 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
6	正規分布と標準化 (1)	正規分布と標準偏差	(事前) 教科書 p41-45, 96 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
7	正規分布と標準化 (2)	演習問題	(事前) 教科書 p41-45, 96 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
8	推定 (1)	母集団と標本集団、標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	(事前) 教科書 p68-72 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
9	推定 (2)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	(事前) 教科書 p68-72 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
10	推定 (3)	演習問題	(事前) 教科書 p68-72, 76 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
11	検定 (1)	Z 検定 (1 集団、連続変数)	(事前) 教科書 p68-75, 77 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
12	検定 (2)	t 検定 (1 集団)	(事前) 教科書 p80-87 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
13	検定 (3)	二項分布と Z 検定 (1 集団、割合)	(事前) 教科書 p68-75 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
14	検定 (4)	χ^2 乗検定 (1 集団)	(事前) 教科書 p101-106 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
15	検定 (5) と統計のまとめ	χ^2 乗検定 (2 集団) と統計のまとめ	(事前) 教科書 p101-106、および授業資料と教科書で復習する (30分)

関連科目	保健統計学、公衆衛生学、統計の基礎
------	-------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ていねいな保健統計学	白戸亮吉他	羊土社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	課題および/または小テスト(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。 出席は、学生便覧にある摂南大学看護学部履修規定に従う (正当な理由がなく出席でない者は、単位を与えないことがある。)
-----------	--

学生へのメッセージ	・授業資料と教科書をよく勉強すること。 ・わからない点を次回授業までに必ず解決しておくこと。そのために質問をすること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階24
----------	---------

備考	提出された課題や小テストについて授業で解説する。
----	--------------------------

科目名	患者安全	科目名 (英文)	Patient Safety
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	森谷 利香
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NCA2336a1		

授業概要・目的	<p>〔授業概要〕</p> <p>医療の進歩に伴う医療技術の高度化や複雑化、在院日数の短縮化と在宅療養へ移行する患者の増大、そして患者のニーズの多様化などを背景に看護職者の役割の期待は高まっている。同時に医療事故が社会問題化し、医療技術の最終提供者となることの多い看護職者がこれに関与することもある。質の高い看護実践は安全な医療のもとに成り立つ。本科目では、我が国における医療安全の現状を概観し、医療事故防止に関する基本的な知識を身につける。また、看護職者としての責務と役割、およびリスクの予知と回避について学習するとともに、エラー事例の分析を通してその要因を検討し、医療事故防止について考察する。さらに一部、演習を行い、自己を深く知るとともにチームによる医療事故防止について学習する。</p> <p>なお、各教員の実務経験に基づいて授業内容を教授する。</p>
	<p>〔授業目的〕</p> <p>医療安全に関する基本的な知識を習得するとともに、質の高い看護実践のために医療事故防止の安全管理の在り方について説明することができる。</p>

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の意味と重要性について理解できる。 2. 事故発生のメカニズム、ヒューマン・エラーについて理解できる。 3. 医療事故の動向と医療安全への取り組みについて理解できる。 4. 医療・看護場面での危険予知と対策について説明できる。 5. 医療・看護場面でのリスクと事故防止について説明できる。 6. エラーの要因と分析方法について説明できる。 7. グループワークを通して、自己を知り、また互いの違いを理解、尊重し、チームによる医療事故防止について説明できる。
------	---

授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に沿って進める。講義では、医療安全に関する基本的知識の教授を基本としながら、実際に起きた事例を引用し、また視覚教材の活用を通して学習内容のイメージ化を促進する。またグループワークを組み合わせることで、知識の定着を図り、主体的に学習に臨めるように授業を展開する。同時に、チームでの事故防止について知見を深め、互いの立場や役割を理解、尊重する姿勢を身に着ける。課題のフィードバックは必要に応じて授業の中、もしくはポータル等を用いて行う。定期試験に関するフィードバックは再試験対象者のうち学生する学</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	本科目の内容は看護師国家試験の出題範囲に含まれます。
--------------	----------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1回 医療安全・患者安全の意味と重要性 ・医療安全を学ぶ意味 ・医療安全の対象 ・医療安全に関する基礎知識	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。
2	2回 医療事故の動向と医療安全への取り組み ・医療事故の動向 ・国と職能団体の取り組み ・医療事故の報告制度	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。	
3	3~4回 医療・看護場面での危険予知と対策 1) ・KYT トレーニング	グループワーク	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)	
4	5回 医療・看護場面での危険予知と対策 2) ・KYT トレーニング	プレゼンテーション・まとめ	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)	
5	6回 事故発生のメカニズム、ヒューマンエラーの発生 ・ヒューマンエラーとは ・エラーを発生しやすい環境	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。	
6	7回 医療・看護場面でのリスクと事故防止 ・看護業務と事故発生要因 ・インシデント・アクシデント	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。	
7	8~9回 エラーの要因検討と対策 1) ・RCA 分析	グループワーク	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)	
8	10回 エラーの要因検討と対策 2) ・RCA 分析	プレゼンテーション・まとめ	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)	
9	11~15回 チームによる医療事故防止 1) 事例検討	グループワーク・プレゼンテーション	【事前学習】講義の内容を復習し、事例に関する自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)	
10				
11				

	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目	看護学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(2)：医療安全 第4版	松下 由美子	メディカ出版
	2	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド：医療安全学習にそのまま使える これだけは知っておきたい	相馬 孝博	メディカ出版
	3			
評価方法 (基準)	本科目では2/3以上の出席を成績評価の対象とする。定期試験(50%)、およびその他の成果物(50%)の内容から総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本科目は今後の実習や実践において医療者に必要な安全に関する基本的な学習内容です。スケジュールは変則ですので、配布する資料やポータルサイトの連絡に注意してください。			
担当者の 研究室等	森谷：7号館3階(研究室29) 神谷：7号館3階(研究室2)			
備考				

科目名	患者コミュニケーション	科目名 (英文)	Communication for Patients
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	山本 智津子
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NCA2337a1		

授業概要・目的	<p>チーム医療の場面における、患者と医療者のコミュニケーションの基本的概念を習得する。将来、医療現場で働くものとして、患者・家族、医療者によりよい関係を築くためのコミュニケーション技法について学ぶ。また、医療者として患者が求めているケアを提供するには、患者が何を望んでいるのか、どう考えているのかを正確に理解する必要がある。よって、医療を受ける患者の理解 (特に心理的プロセス) についても学習する。</p> <p>本科目は病院での勤務経験がある教員が、経験を踏まえてコミュニケーションに関する実践的な教育を行う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 患者・医療者間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 医療を受ける患者を理解し (特に心理プロセス)、コミュニケーション上の配慮を述べることができる。 患者・医療者のコミュニケーション (会話) に必要な技法について述べることができる。 上記の技法について模擬的な場面を設定し、体験的に学習し、発表、リフレクションができる。
授業方法と留意点	講義と小グループでのディスカッション (SGD) を通して学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	キャリア形成科目として、今後のチーム医療学習、および様々な現場でのコミュニケーション場面での実践につながる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ワーク1：医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴 (1) クラス別 SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者・医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント：立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材：テキスト、配布物	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 (10分) 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成 (50分)
3	ワーク1：医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴 (2) クラス別 SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者・医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント：立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材：テキスト、配布物	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 (10分) 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成 (50分)
4	ワーク1：医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴 (3) クラス別 SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者・医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント：立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材：テキスト、配布物	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 (10分) 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成 (50分)
5	ワーク1：医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴 (4) クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 (10分) 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出 (50分)
6	医療を受ける患者の心理プロセス	合同講義を行う。 医療を受ける患者がどのような心理プロセスを経験するののかについて、事例を交えた講義で学ぶ。 教材：テキスト、配布物	事前課題：課題に必要な内容を予習しておくこと (30分) 事後課題：個人ワークシート記録 (30分)
7	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する (1) クラス別 SGD	ワーク：①心理プロセスを理解する事例を検討し、②グループごとにロールプレイを行い、患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 (10分) 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成 (50分)
8	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する (2) クラス別 SGD	ワーク：①心理プロセスを理解する事例を検討し、②グループごとにロールプレイを行い、患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 (10分) 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成 (50分)
9	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する (3) クラス別 SGD	ワーク：①心理プロセスを理解する事例を検討し、②グループごとにロールプレイを行い、患者の心理プロセスを体験的に	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 (10分) 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成 (50分)

			に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	分)
	10	ワーク2:患者の心理プロセスを体験的に理解する(4)クラス別SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題:前回の個人ワークシート記録を確認(10分) 事後課題:授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出(50分)
	11	患者コミュニケーションの基本的技法	合同講義を行う。患者コミュニケーションの基本的技法、体験的に学ぶポイントと、設定作りについて解説する。	事前課題:課題に必要な内容を予習しておくこと(30分) 事後課題:個人ワークシート記録(30分)
	12	ワーク3:患者・医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ(1)クラス別SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題:前回の個人ワークシート記録を確認(10分) 事後課題:個人ワークシート記録、評価物の作成(50分)
	13	ワーク3:患者・医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ(2)クラス別SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題:前回の個人ワークシート記録を確認(10分) 事後課題:個人ワークシート記録、評価物の作成(50分)
	14	ワーク3:患者・医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ(3)クラス別SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題:前回の個人ワークシート記録を確認(10分) 事後課題:個人ワークシート記録、評価物の作成(50分)
	15	ワーク3:患者・医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ(4)クラス別SGD	ワークの成果を各グループから発表する。 学びのまとめを行う。	事前課題:前回の個人ワークシート記録を確認(10分) 事後課題:授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出(50分)
関連科目	看護対人関係論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	がん医療におけるコミュニケーション・スキル[DVD付]-悪い知らせをどう伝えるか	内富 庸介 藤森 麻衣子	医学書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	個人ワーク、各回レポート課題、最終レポートの内容及び提出状況で60点以上で合格。 なお、修学状況(受講態度等)が不良の場合、20点を限度に減点することがある。			
学生へのメッセージ	将来、医療に携わる者として、患者・医療者間のコミュニケーションについて学ぶとともに、チーム医療について互いに考えを深める機会にしましょう。 課題提出は必ず期限を守ってください。			
担当者の研究室等	山本智:7号館3階(看護学部研究室18) 亀田:7号館3階(看護学部研究室23) 名草:7号館3階(看護学部研究室5) 永田:7号館3階(看護学研共同研究室5) 安田:7号館3階(看護学部共同研究室1) 田中雅幸:1号館1階(田中准教授室) 三田村:6号館3階(医療薬学研究室1)			
備考	課題(グループ発表資料等)については完成後に発表し、全学生が互いにフィードバックしあい、教員が総括する。			

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名 (英文)	Sports Science II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀧 千波
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NPH1342a1		

授業概要・目的	運動およびスポーツは健康づくりにおいて欠かせない要素である。本科目では、スポーツ科学Ⅰで学修した技術や知識をさらに深め、生涯スポーツへ継続できる能力育成を目的とする。さらに運動療法を安全かつ効果的に進めることの重要性、疾病予防・介護予防における運動・スポーツの役割やメカニズムについて疫学・基礎・実践研究の観点から学修する。 健康に関する課題解決的な学びや、様々な背景を持つ人々の多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②生涯スポーツへ継続できる ③運動・スポーツの役割や、それらが生体へ及ぼすメカニズムについて理解できる ④多様な背景をもつ人々に対する運動・スポーツの実践方法を身につける
授業方法と留意点	授業は、本学スポーツ施設において実技形式で行う（雨天の場合は、講義形式で行う場合もある）。 第1回目の授業は、ガイダンスの他、本科目における新型コロナウイルス感染症対策に関する注意事項も説明するので、必ず出席すること。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる 汎用的技能：コミュニケーション・スキル、問題解決力 態度：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観 創造的思考力：課題解決能力を修得できる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意を行う	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める (事後学習時間 30分)
2	チームビルディング	チームビルディング 自分自身の体力を維持・向上させるために必要なスポーツ (次週から開始する「スポーツ①」) に関するディスカッション	事前：運動・スポーツの役割および重要性について理解する 事後：スポーツ①の背景、ルールを調べる (事前事後学習時間 30分)
3	スポーツ①	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ①の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習 (事前事後学習時間 30分)
4	スポーツ①	スポーツ①をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
5	スポーツ①	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ①をロールプレイ形式で実施	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
6	スポーツ①のまとめ	スポーツ①の成果について、グループワークで振り返る。 グループ代えを行い、スポーツ② (体脂肪量減少を目的としたスポーツ) の計画	事前：スポーツ①実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ。スポーツ①実践内容をスポーツ②に活かす工夫を考える。 (事前事後学習時間 30分)
7	スポーツ②	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ②の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習 (事前事後学習時間 30分)
8	スポーツ②	スポーツ②をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
9	スポーツ②	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ②をロールプレイ形式で実施	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
10	スポーツ②のまとめ	スポーツ②の成果について、グループワークで振り返る。 グループ代えを行い、スポーツ③ ((1) 高齢者の体力および認知機能低下遅延 or (2) リラクゼーションを目的としたスポーツ) の計画。	事前：スポーツ②実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ。スポーツ①②実践内容をスポーツ③に活かす工夫を考える。 (事前事後学習時間 30分)
11	スポーツ③	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ③の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習 (事前事後学習時間 30分)
12	スポーツ③	スポーツ③をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
13	スポーツ③のまとめ	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ③をロールプレイ形式で実施	事前：スポーツ③実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ (事前事後学習時間 30分)
14	スポーツ③のまとめ	スポーツ③の成果について、グループワ	事前：スポーツ③実践のまとめ

			ークで振り返る	事後：グループワークのまとめ (事前事後学習時間 30分)	
	15	スポーツ④ 総まとめ	ニューススポーツ体験と総まとめ	事前：スポーツ④の背景、ルールを調べる 事後：スポーツ④の内容、本授業全般についてまとめ (事前事後学習時間 30分)	
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	なし			
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	なし			
	2				
	3				
評価方法 (基準)	対面授業：平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。				
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室(072-839-9187)へ問い合わせてください。				
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階				
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと				

科目名	人体の構造と機能 I	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1001a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 看護実践の土台となる人体の構造と機能について説明できる。 人体の恒常性とその維持について、構造と機能の面から説明できる。 人体の構造と機能について、臨床で活用可能な知識として説明できる。 各器官系の時間的経過における変化を説明できる。
授業方法と留意点	授業方法は講義を中心として、問題等を用いた演習形式学習や小テストを実施する。普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	細胞と組織 体を構成するしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 人体を構成する4種類の主な元素と数種類の微量元素を挙げるができる。 元素の原子記号を表記できる。 核の構造と核膜、染色体、染色質(クロマチン)の機能を説明できる。 細胞膜の構造と機能(膜を介した物質の移動)を述べるができる。 細胞内小器官の名称と機能を説明できる。 体細胞の分裂と生殖細胞の分裂(減数分裂)について説明できる。 4種の主要な組織(上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)について、その特徴を述べることができる。 各組織が存在する人体の部位を 	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
3	血液 物質を運搬するしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 血漿と血清の違いを説明できる。 血球と血漿の成分を挙げるができる。 血球の名称と機能を説明できる。 造血に関わるサイトカインを挙げるができる。 	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
4	血液 物質を運搬するしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 止血のメカニズムを説明できる。 ABO式、Rh式の血液型について説明できる。 	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
5	免疫系 異物を認識、記憶して排除するしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 獲得免疫系と自然免疫系について、それぞれ説明できる。 免疫反応を起こす細胞の特徴と機能について説明できる。 抗体の構造と機能について説明できる。 	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
6	免疫系 異物を認識、記憶して排除するしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 感染症に対する免疫系の細胞の反応について説明できる。 アレルギーについて説明できる。特に、IgEが関与するアレルギー(アナフィラキシー)について詳細に説明できる。 代表的な自己免疫疾患を三つ挙げ、その発症機序を説明できる。 	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
7	循環器系 体のすみずみまで血液を送るしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 心臓の位置と各部位の名称を挙げるができる。 血液が体内を循環する経路を、心臓を中心に述べることができる。 肺循環と体循環の特徴を説明できる。 心臓を栄養する血管を挙げるができる。 	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。

			<ul style="list-style-type: none"> ・心臓の刺激伝導系の名称を説明できる。 ・心周期と心音、心電図の関係を述べることができる 	
8	循環器系 体のすみずみまで血液を送るしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・心拍数と1回拍出量を調節する因子を挙げることができる。 ・動脈と静脈の血管の構造と機能を説明できる。 ・主要な動脈と静脈の名称を述べることができる。 ・主要な動脈と静脈の名称を述べることができる。 ・脳、門脈、胎児の循環系について説明できる。 	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
9	循環器系 体のすみずみまで血液を送るしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・血圧と脈拍の定義を述べるができる。 ・血圧を調整する因子を挙げることができる。 ・体表面から脈拍に触れる部位と触れる血管名を挙げることができる。 ・リンパの静脈への流入経路が左右非対称である点を説明できる。 	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
10	呼吸器系 酸素を取り入れて二酸化炭素を排出するしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・鼻や口から入る空気が肺に至るまでに通過する呼吸器官を挙げることができる。 ・呼吸器系の加温・加湿・清浄化(感染防御)機構を述べることができる。 ・胸腔における胸膜と肺の位置関係が説明できる。 ・肺胞の構造を述べるができる。 ・吸息に関する筋と神経を説明できる。 	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
11	呼吸器系 酸素を取り入れて二酸化炭素を排出するしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・スパイロメーターで測定する肺気量分画の意味を説明できる。 ・肺活量、%肺活量、1秒間努力呼気容量、1秒率の臨床応用について述べるができる。 ・外呼吸、内呼吸を説明できる。 	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
12	泌尿器系 尿をつくるしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・ネフロンを構造を述べることができる。 ・糸球体の濾過と尿細管の再吸収、分泌により尿が生成される過程を述べることができる。 ・尿に含まれる物質を挙げることができる。 ・無尿、乏尿、多尿を定義することができる。 	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
13	泌尿器系 尿をつくるしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・アルドステロンが腎臓に及ぼす影響について説明できる。 ・排尿の機構を述べることができる。 ・尿道の構造について男性と女性の差(長さ括約筋)を説明できる。 	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
14	内分泌系 内部の環境を整えるしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・ホルモンの定義と作用するしくみを説明できる。 ・どのようなフィードバック機構がホルモン分泌にみられるかを、例を挙げて説明できる。 ・下垂体から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。 ・松果体から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。 ・甲状腺から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。 	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
15	内分泌系 内部の環境を整えるしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・上皮小体から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。 ・副腎皮質と副腎髄質から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。 ・ステロイド生合成の概略を説明できる。 ・卵巣と精巣から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。 ・消化管から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。 	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
関連科目	人体の構造と機能Ⅱ、Ⅲ			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学	林正健二 編	株式会社メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (70%) および、小テスト (30%) で評価し、100 点満点中 60 点以上で合格とする。再受験科目となる学生は、定期試験 (100%) で評価し、100 点満点中 60 点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。 授業担当者の吉田侑矢は、薬局薬剤師としても従事しており、その経験から免疫系や内分泌系について、基礎的な内容が臨床でどのように活かされるのかを考える実践的な教育を行う。			
担当者の 研究室等	久家貴寿 1号館4階 生体分子分析学研究室 山口太郎 1号館6階 薬理学研究室 吉田侑矢 1号館3階 病態医学研究室			
備考	講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。			

科目名	人体の構造と機能Ⅱ	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1002a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 看護実践の土台となる人体の構造と機能について説明できる。 人体の恒常性とその維持について、構造と機能の面から説明できる。 人体の構造と機能について、臨床で活用可能な知識として説明できる。 各器官系の時間的経過における変化を説明できる。
授業方法と留意点	授業方法は、講義を中心として問題等を用いた演習形式の学習や小テストを実施します。普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	骨格系 体を支えるしくみ②	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> 脊柱を構成する椎骨の名称を挙げることができる。 椎間板の働きを説明できる。 上肢と下肢の骨の名称を挙げることができる。 骨盤の形の性差を述べることができる。 3種類の関節の名称を挙げることができる。 屈曲、伸展、外転、内転、回内、回外の言葉を説明できる。 	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
3	筋系 体を動かすしくみ①	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> 3種類の筋組織の特徴、存在する臓器名を述べることができる。 骨格筋の収縮に関連して、活動電位、等張性収縮、等尺性収縮を説明することができる。 	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
4	筋系 体を動かすしくみ②	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> 神経筋接合部とアセチルコリンの作用を説明できる。 体表面に近い主要な筋の名称を、顔面、頸部、胸部、腹部、背部、上肢、下肢について述べるることができる。 	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
5	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ①	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> 中枢神経系と末梢神経系を説明できる。 ニューロンの基本的な構造を述べることができる。 ニューロンの活動電位が生じ、他の神経細胞へ伝導される過程を説明できる。 神経伝達物質について述べるができる。 体性感覚受容器の種類を挙げることができる。 	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
6	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ②	以下を目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> 大脳、間脳、脳幹、小脳を区別し、各々の機能を述べることができる。 脊髄の機能と構造を述べることができる。 髄膜の構造を述べることができる。 脳脊髄液の産生とその機能を説明できる。 脊髄伝導路について説明できる。 	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
7	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ③	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> 12の脳神経の名称を挙げ、その働きを述べることができる。 交感神経と副交感神経の構造と機能を説明できる。 レム睡眠、ノンレム睡眠について述べるができる。 サーカディアンリズムを説明できる。 	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。

	8	皮膚と膜 体や臓器を守るしくみ	以下を目標とします。 ・漿膜のある部位を挙げ、その構造と機能を説明できる。 ・粘膜と皮膚が連続している部位を挙げることができる。 ・滑膜や滑液包のある部位を挙げ、その役割を説明できる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	9	皮膚と膜	以下を目標とします。 ・表皮・真皮・皮下組織の構造を説明できる。 ・毛・爪・脂腺・汗腺が皮膚の機能にどのように関与しているかを説明できる。 ・体温の調節機構を述べることができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	10	感覚系 外部から情報を取り入れるしくみ①	以下を目標とします。 ・眼球の構造を述べることができる。 ・杆体と錐体の機能的な違いを説明できる。 ・屈折、正視、近視、遠視、老視、盲点、眼圧を説明できる。 ・対光反射のしくみを述べることができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	11	感覚系 外部から情報を取り入れるしくみ②	以下を目標とします。 ・外耳、中耳、内耳の構造と機能を述べることができる。 ・静的および動的平衡覚を説明できる。 ・嗅覚と味覚の受容器を説明できる。 ・皮膚感覚の受容器を挙げることができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	12	生殖器系 子孫を残すしくみ	以下を目標とします。 ・卵巣の機能を述べることができる。 ・卵管、子宮、膣と膀胱、直腸との位置関係を説明できる。 ・卵胞、黄体、卵子発生を説明できる。 ・排卵の時期を述べることができる。 ・月経周期に伴う子宮内膜の変化、下垂体前葉ホルモンおよび卵巣ホルモンの変化を述べることができる。 ・排卵の機序、受精と受精卵の着床を説明できる。 ・妊娠による母体の変化を述べることができる。 ・分娩の開始から終了までを3期に分けて説明できる。 ・精子の産生後、射精されるまでの経路を述べることができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	13	消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ①	以下を目標とします。 ・食欲の調節機構(抑制因子と増進因子)を説明できる。 ・唾液の成分と機能を説明できる。 ・歯の構造を述べ、乳歯と永久歯の名称を挙げることができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	14	消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ②	以下を目標とします。 ・嚥下の機構を述べることができる。 ・胃、小腸、大腸の構造名を挙げることができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	15	消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ③	以下を目標とします。 ・消化管や付属腺から分泌される消化酵素の名称と、各々が作用する物質を説明することができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。

関連科目

人体の構造と機能 I、III

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学	林正健二 編	株式会社メディカ出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
(基準)

定期試験 (70%) および小テスト (30%) で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。再受験科目となる学生は、定期試験 (100%) で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。

学生への
メッセージ

授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。
授業担当者の吉田侑矢は、薬局薬剤師としても従事しており、その経験から骨格系や筋系について、基礎的な内容が臨床でどのように活かされる

	のかを考える実践的な教育を行う。
担当者の 研究室等	久家貴寿 1号館4階 生体分子分析学研究室 山口太郎 1号館6階 薬理学研究室 吉田侑矢 1号館3階 病態医科学研究室
備考	講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。

科目名	人体の構造と機能Ⅲ	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	尾中 勇祐
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1003a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」に生じる異常に関して、基礎的な知識を身につけます。 人体の構造と機能ⅠとⅡでは、正常な状態における人体の構造と機能について学びましたが、人体の構造と機能Ⅲでは、異常が起きた時に現れる症状や徴候について、そのそのメカニズムや検査のポイント等について学びます。 臨床で生きる知識を身につけることを目的として授業を行いますので、しっかりと予習復習を行い、授業についてきてください。
到達目標	・臨床でよく遭遇し、かつ重要な症状・徴候について、その原因の理解・分類ができる。 ・それらの症状・徴候の病態生理を理解できる。 ・それらの症状・徴候の問診、検査のポイントが理解できる。 ・それらの症状・徴候の処置、治療の原則が理解できる。
授業方法と留意点	対面授業による講義を行います。オンデマンド動画を予習教材として使用することもあります。 講義後は、Moodleにて演習問題を提示しますので、繰り返し問題を解き、知識の定着を図ってください。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	体液の異常	以下を目標とします。 ・人体の構造と機能において正常から逸脱する場合のさまざまな症状・徴候のメカニズムに共通する現象を説明できる。 ・人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の分類ができる。 ・人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の対応や対処の原則について説明できる。 ・体液の分布と組成を説明できる。 ・水バランスと血漿浸透圧の調節との関係を説明できる。 ・ナトリウム・カリウム代謝とその異常を分類し説明できる。 ・カルシウム・リンの代謝とその異常を説明できる。 ・酸塩基平衡の調	予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。
2	血行障害、炎症と修復	以下を目標とします。 ・血行障害とは何かを説明できる。 ・血行障害の原因を分類できる。 ・血栓症と塞栓症の違いを説明できる。 ・梗塞とは何かを説明できる。 ・側副循環 (副行循環) とは何か、例を挙げて説明できる。 ・炎症とは何かを説明できる。 ・炎症の原因を分類できる。 ・炎症と修復に関わる細胞と体液性因子について説明できる。 ・炎症と修復の経過を病理学的について説明できる。	予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。
3	免疫および免疫疾患、感染	以下を目標とします。 ・免疫の役割とは何かを説明できる。 ・免疫の働きと調節を説明できる。 ・免疫とその障害である免疫疾患を分類できる。 ・免疫疾患の成り立ちを説明できる。 ・現在行われている免疫疾患の治療の原則について説明できる。 ・感染の成立とその修復機転について説明できる。 ・感染の原因となる微生物について説明できる。 ・交叉感染を防ぐための基本 (標準予防策を含む) が説明できる。 ・感染症の治療一般 (抗菌薬を含む) について説明できる。	予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。
4	変性・壊死・萎縮・老化、腫瘍と過形成	以下を目標とします。 ・変性とは何かを説明できる。 ・壊死とは何かを説明できる。 ・凝固壊死と融解壊死の病態の違いを説明できる。 ・アポトーシスとは何かを説明できる。 ・萎縮とは何かを説明でき、具体例を挙げられる。 ・老化とは何かを説明できる。 ・老化に伴う主要臓器の変化について説明できる。 ・がん細胞と正常細胞の違いを説明できる。 ・良性腫瘍と悪性腫瘍、癌腫と肉腫とは	予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。

		<ul style="list-style-type: none"> 何かを説明できる。 ・がんの自然史と進展形式について説明できる。 ・TNM分類とは何か説明できる。 ・がん治療の種 	
5	先天異常、代謝異常	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・先天異常とは何かを説明できる。 ・先天異常の原因を分類できる。 ・DNAと遺伝子と染色体の関係を説明できる。 ・染色体異常と遺伝性疾患を区別できる。 ・遺伝形式を説明できる。 ・遺伝医療の流れを説明できる。 ・先天異常の看護のポイントが説明できる。 ・健常者の血糖調節機序の説明ができる。 ・糖尿病における血糖上昇の理由を説明できる。 ・高血糖でアシドーシスになる理由を説明できる。 ・高血糖時のいろいろな症状の発生機序を説明できる。 ・低血糖の発生機序を説明で 	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>
6	徴候と疾患の関係、序論—身体の不調はどう現れるか、咳嗽・喀痰・咯血、呼吸困難、胸痛、不整脈	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の原因を理解し、その分類ができる。 ・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の病態生理が理解できる。 ・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の問診・検査のポイントがわかる。 ・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の対応や対処の原則が理解できる。 ・咳嗽・喀痰の定義・概念について述べるができる。 ・咳嗽・喀痰の病因とメカニズムについて述べるができる。 ・咳嗽・喀痰を引き起こす代表的な疾患を述べるができる。 ・咳嗽・喀痰の分類を述べるができる。 	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>
7	チアノーゼ、ショック、腹痛、肥満、やせ	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・チアノーゼとは何か説明できる。 ・チアノーゼの分類ができる。 ・チアノーゼを観察する部位がわかる。 ・ショックとは何かを説明できる。 ・ショックの原因を分類できる。 ・ショックの段階を説明できる。 ・ショック時の観察ポイントを説明できる。 ・ショックへの対応の流れと治療の原則が説明できる。 腹痛の分類と発生機序を説明できる。 ・体性痛と内臓痛とを鑑別できる。 ・急性腹症について説明できる。 ・腹膜刺激症状を説明できる。 ・腹痛をきたす病態で緊急に外科的手術 	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>
8	食欲不振、嚥下障害、嘔気・嘔吐、吐血・下血、便秘、下痢	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・食欲不振とは何かを説明できる。 ・食欲を調節するしくみを説明できる。 ・食欲不振の原因を分類し、説明できる。 ・食欲不振時の観察ポイントを説明できる。 ・嚥下の各期の名称を挙げ、その説明ができる。 ・嚥下障害とは何かを説明できる。 ・嚥下障害に伴うリスクを説明できる。 ・嚥下の各期に起こりうる障害について観察項目とアセスメントを説明できる。 ・嚥下の各期の障害に対する基礎・摂食訓練を説明できる。 ・嘔気・嘔吐とは何かを説明できる。 ・嘔気・嘔吐の原因と機序を説 	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>
9	腹部膨満、腹水、黄疸、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・腹部膨満の原因を五つ挙げることができる。 ・腹部膨満の原因となる疾患は何かを述べるができる。 ・腹部膨満を訴える患者の病歴聴取のポイントを説明できる。 ・身体診察から鼓腸、腹水、肥満を鑑別診断できる。 	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・腹水貯留の原因となる疾患を説明できる。 ・腹水の性状による分類について説明できる。 ・フィジカルアセスメントでの腹水貯留所見について説明できる。 ・腹水貯留の病態生理が説明できる。 ・ビリルビン代謝について説明できる。 ・黄疸の原因と分類について説明できる。 	
10	皮膚掻痒、レイノー症状、意識障害、頭痛、痙攣とてんかん	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・皮膚の掻痒の原因を分類できる。 ・掻痒を伴う主な内科疾患を説明できる。 ・掻痒の原因を診断するための主な検査を列挙できる。 ・皮膚掻痒の治療の原則を説明できる。 ・レイノー症状とは何かを説明できる。 ・レイノー症状の原因を分類できる。 ・レイノー症状の治療の原則を説明できる。 ・意識障害とは何かを説明できる。 ・意識障害の原因を分類できる。 ・意識障害の頭蓋内病変と頭蓋外病変の違いを説明できる。 ・意識障害の評価法を説明でき、意識状態を判定できる。 ・意識障 	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>	
11	運動麻痺、運動失調、歩行障害、嘔声、めまい	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・運動麻痺の種類（筋性麻痺、末梢神経性麻痺、下位運動・上位運動ニューロン性麻痺）を説明できる。 ・片麻痺、交叉性片麻痺、対麻痺の発生機序を説明できる。 ・痙性麻痺と弛緩性麻痺の違いを説明できる。 ・痙縮と固縮の違いを説明できる。 ・運動皮質、運動前野、補足運動野の機能を簡単に説明できる。 ・徒手筋力テスト（MMT）を簡単に説明できる。 ・失行と運動失調の区別を説明できる。 ・パーキンソン病の振戦と小脳性振戦の違いを説明できる。 ・指鼻指試験を実施できる。 ・測定障 	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>	
12	視力障害、難聴、耳鳴、味覚障害、嗅覚障害、しびれ	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・視力障害とは何かを説明できる。 ・視力障害の原因を分類できる。 ・視力障害の発症機序を説明できる。 ・視力障害時の観察ポイントを説明できる。 ・視力障害の治療の原則が説明できる。 ・難聴とは何かを説明できる。 ・難聴を障害部位別に分類できる。 ・程度により難聴を区分できる。 ・難聴を起こす主な原因疾患を説明できる。 ・主な聴力検査について説明できる。 ・耳鳴とは何かを説明できる。 ・耳鳴の分類ができる。 ・耳鳴を起こす主な疾患を述べることができる。 ・主 	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>	
13	腰痛、関節症状、発熱・低体温、浮腫、脱水	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・腰痛とは何か説明できる。 ・腰痛の原因となる腰椎疾患、腰椎以外の疾患をそれぞれ説明できる。 ・腰痛の主な診断方法について説明ができる。 ・腰痛の主な治療方法の説明ができる。 ・関節痛とは何かを説明できる。 ・関節痛をきたす疾患を列挙できる。 ・関節痛の観察ポイントを説明できる。 ・関節痛の治療の原則が説明できる。 ・発熱とは何かを説明できる。 ・発熱の原因を分類できる。 ・発熱の段階を説明できる。 ・発熱時の観察ポイントを説明できる。 ・発熱への対応の流れ 	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。</p>	
14	排尿異常、尿量異常、尿所見異常、睡眠障害、倦怠感	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・頻尿の定義を説明できる。 	<p>予習：教科書を読む（30分）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、</p>	

			<ul style="list-style-type: none"> ・排尿痛を三つに分類して説明できる。 ・排出困難（排尿困難）の症状を三つ以上説明できる。 ・尿失禁を原因により六つに分類できる。 ・無尿の定義を説明できる。 ・乏尿の定義と乏尿をきたす三つ機序を説明できる。 ・多尿を生じる疾患を説明できる。 ・尿が混濁する原因を二つ説明できる。 ・尿タンパクが検出される疾患を三つに大別して説明できる。 ・尿糖陽性が意味することを説明できる。 ・血尿の原因を三つに区別して説明できる。 ・睡眠の種類につ 	演習問題に取り組む（1時間）。
15	まとめ	問題演習等を通して本科目範囲の理解を深める。		予習：作成した講義ノートを振り返る（1時間）。 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを作成し、演習問題に取り組む（30時間）。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『ナースング・グラフィカ 疾病の成り立ち① 病態生理学』	山内豊明	株式会社メディカ出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『ナースング・サブリエイメージできる病態生理学』	ナースング・サブリエイ編集委員会	株式会社メディカ出版
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験(80%)およびMoodle上の演習問題(20%)の成績を合わせて総括評価とする。
--------------	---

学生への メッセージ	人体の構造と機能 I、II の知識をベースとして、人体に現れる異常についての講義を行います。 ただ覚えるだけでなく、症状であれば、メカニズムから理解する等、流れを意識することで、知識の定着が早まります。 また、授業中や予習・復習中に出てきた疑問は、必ず解消しながら学習を進めてください。 質問大歓迎です。質問は、授業後に尾中を捕まえる、尾中講師室まで行く、専用フォームに投稿する等の手段で積極的にお願いします。
---------------	--

担当者の 研究室等	1号館6階 薬理学研究室
--------------	--------------

備考	
----	--

科目名	代謝栄養学	科目名 (英文)	Biochemical Nutriology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	竹内 健治
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1005a0		

授業概要・目的	糖質、脂質、タンパク質 (アミノ酸)、ビタミン、ミネラルの五大栄養素を中心に、その構造、性質、役割など生化学的な特徴を理解する。また、摂取した食物の消化、吸収の機序を知り、どのように体内で代謝され生体のエネルギーや構成成分になるのかについて、体内で起こる種々の化学反応とその反応を触媒している酵素の役割を中心に理解する。さらに、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書の内容に沿って、プロジェクター、プリントなどを用いて講義する。
科目学習の効果 (資格)	生物系科目全般の基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	糖質の代謝	糖質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	糖質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
3	栄養素各論「脂質」	栄養素としての脂質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「脂質」の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
4	脂質の代謝	脂質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	脂質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
5	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」	栄養素としてのアミノ酸とタンパク質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
6	アミノ酸とタンパク質の代謝 エネルギー代謝の統合と制御	タンパク質の消化、吸収と、アミノ酸の代謝を理解する。 代謝のバランスが崩れたときに、どのようなことが起こるかを理解する。	アミノ酸とタンパク質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
7	体の中での酵素の役割 代謝異常と疾患	私たちの体温は37℃、pHは中性である。このような緩やかな状況で栄養を代謝できるのは体内に酵素があるおかげである。 遺伝情報に誤りがあると、それが原因で代謝異常がおこることを理解する	酵素の役割の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
8	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」 遺伝情報	ヌクレオチドと核酸の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。 遺伝情報がどのように保存され、どのように次世代へ伝わるのかを理解する。	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」と遺伝情報の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	生物・化学の基礎など生物系科目全般
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学	宮澤恵二	メディカ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テストと課題 (25%)、定期試験 (75%) で評価する。
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	代謝栄養学の観点からみると、健康とは、食物の消化・吸収から代謝、および老廃物の排出という人体の活動が正常に営まれることであり、疾病はこの正常な営みが崩れた場合に起こる。代謝栄養学の知識は、他領域の分野を学習するための基礎であり、それらの習得に役立つことは間違いない。講義時間が少ないため、覚えるだけの部分は授業時間以外の学習で補ってもらおう。講義内容についての質問はいつでも受け付けますので、気軽にたずねて下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館5階生物系薬学分野生化学
----------	-----------------

備考	小テストはMoodleを使用する。
----	-------------------

科目名	病理学総論	科目名 (英文)	Pathology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	尾崎 清和
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1006a0		

授業概要・目的	病理学とは、病気の原因とその成り立ちを知る学問です。看護師の知識として必要な多くの病気に関して、その原因や成り立ちを学ぶことにより、病気の本質を知ることが目的とします。
到達目標	病気に伴い体の中でどのような変化がおきているのかを理解できる。 主要な病気に関しては、その原因と成り立ちについて説明できる。
授業方法と留意点	対面を基本として、場合により遠隔授業をおこないます。 毎回、前回の授業内容の小テストを実施します。
科目学習の効果 (資格)	病気を正しく認識することにより、より適切な看護を行うことが出来る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	免疫 感染症	細菌やウイルス感染による障害とそれに対抗する防御機構	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	循環障害 代謝障害	循環障害や代謝障害による細胞や臓器の変化	・該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	老化 先天異常	老化や先天異常による細胞や臓器の変化	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	腫瘍	腫瘍とはなにか。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	循環器系の疾患	心臓や血管の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	血液・造血器系の疾患	血液やリンパ系の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	呼吸器系の疾患	肺の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	消化器系の疾患	胃や腸管の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	肝臓膵臓の疾患	肝臓、胆嚢、膵臓 (外分泌) の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	泌尿器系の疾患 生殖器系の疾患	腎臓、卵巣、子宮、前立腺の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	内分泌系の疾患	副腎、甲状腺、膵臓 (内分泌) の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	脳・神経系の疾患	脳、脊髄の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	骨関節系の疾患 筋肉系の疾患	骨、関節、筋肉の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	感覚器系の疾患 皮膚の疾患	目、鼻、耳、皮膚の主な病気の原因となりたち	・該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病理学 疾患の成り立ちと回復の促進 1	大橋 健一	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 期末テスト 50%、毎回の小テスト 50%で評価します。

学生へのメッセージ 病気は正常から逸脱した状態です。人体の正常な解剖と生理を理解したうえで、この講義を受講することにより、病理の理解が一層深まります。

担当者の研究室等 薬学部 病理学研究室 6号館3階

備考

科目名	感染と防御	科目名 (英文)	Microbiology and Immunology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 潔
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1007a0		

授業概要・目的	それぞれの感染症に特定のウイルスや微生物が関与することを理解するため、代表的な病原体の種類や特徴とそれらが引き起こす症状について学ぶ。また、病原体に対する生体防御機構と予防法や治療法の基礎知識を学ぶことにより、科学的な根拠に基づいて感染症の予防と治療に従事する専門職としての能力を身につける。さらに、分子生物学的・遺伝学的観点から感染と防御について概説することにより、最先端の感染症医療に対応できる能力を身につける。
到達目標	1. 代表的な病原微生物の生物学的特徴、感染経路、代表的な治療法および予防法などについて説明できる。 2. 微生物の検出、取扱い、滅菌と消毒について概説できる。 3. 免疫学の発展と免疫系について説明できる。 4. 感染症の患者や家族などに対して適切な態度で接することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容を中心に PowerPoint を用いて解説する。必要に応じて課題を出すので、正誤にかかわらず自らの考えを記すこと。PowerPoint の内容をまとめた PDF 資料を配布するので、講義前に教科書の該当領域と合わせて熟読し、概要を理解すること。また、講義中に重要と思われる内容をマークしたり、必要に応じて書き込みすること。講義後、再度、教科書と資料の内容を確認し、重要な内容をノートにまとめること。ほとんどの講義について、学習内容を確認するための基礎的な小テスト問題を Moodle 内に設定する。小テストには
科目学習の効果 (資格)	目に見えない病原体の存在とそれらの特性を理解することで、一般市民の健康と生命を守るために必要な衛生学的知識を修得できる。また、感染防御と感染症治療の基礎を理解することで、感染症患者の治療や院内感染防止に役立つ知識を身につけることができる。感染症が誰にでも起こりうる病気であることを理解することで、感染症の患者やその家族に対する偏見を無くし、献身的に医療に従事する態度を醸成する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション (講義の概要について) 感染症とは何か? 病原体とは何か? 免疫とは何か? 感染症の歴史	対面授業により実施する。講義の方法、資料、注意事項、評価方法について説明する。 様々な病原体によって引き起こされる感染症と、免疫の概念について解説する。	事前学習: 教科書 p. 1-p. 10 を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
2	感染・感染症の機構と種類	対面授業により実施する。 感染はどうやって起こるのか、感染症の種類について、教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習: 教科書 p. 12-p. 43 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
3	病原体の概要と分類 1: 細菌	対面授業により実施する。 病原体 (細菌) の特徴と分類、および疾患との関連について、真菌との相違を含めて教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習: 教科書 p. 130-155, p. 310-318 を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
4	病原体の概要と分類 2: 真菌、ウイルス、原虫、蠕虫 免疫の概念	対面授業により実施する。 病原体 (ウイルス・真菌・原虫・寄生虫・プリオン) の特徴と分類、および疾患との関連について、教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習: 教科書 p. 242-254, p. 310-318, p. 335-338, p. 360-369 を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
5	免疫の概念	対面授業により実施する。 免疫反応に関与する細胞や分子の種類と、それらの働きについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 46-p. 70 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
6	免疫系のネットワーク	対面授業により実施する。 自然免疫と獲得免疫の特徴、および細胞性免疫反応と液性免疫反応の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p. 46-p. 70, p. 77-82 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
7	免疫による感染防御と免疫に基づく疾患	対面授業により実施する。 ワクチン、正常な免疫系が関与する疾患、免疫系の過剰反応や異常によって起こる疾患の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p. 71-76, p. 83-p. 91 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
8	微生物の特徴・微生物検査法	対面授業により実施する。 病原微生物の存在や特性を知る方法について解説する。	事前学習: 教科書 p. 71-76, p. 156-p. 162, p. 255-p. 257 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
9	感染症の予防	対面授業により実施する。	事前学習: 教科書 p. 92-p. 127 の該当部分を熟読す

			感染症予防の考え方、予防接種、感染予防対策について解説する。	る(1時間)。 事後学習:配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる(1時間)。																
10	滅菌と消毒・化学療法		対面授業により実施する。 病原微生物を除去する方法(滅菌と消毒)、化学療法の概念、歴史と代表的な抗菌薬・抗ウイルス薬、および薬剤耐性について解説する。	事前学習:教科書 p.96-p.107、p.163-p.175、p.258-261 とプリントの該当部分を熟読する(1時間)。 事後学習:配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる(1時間)。																
11	代表的な細菌感染症-1		対面授業により実施する。 グラム陽性菌による感染症の例として、ブドウ球菌感染症、ボツリヌス症、結核などについて解説する。	事前学習:教科書 p.140-p.155、p.176-p.240 とプリントの該当部分を熟読する(1時間)。 事後学習:配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる(1時間)。																
12	代表的な細菌感染症-2		対面授業により実施する。 グラム陰性菌やその他の細菌による感染症の例として、ペスト、コレラ、大腸菌感染症などについて解説する。	事前学習:教科書 p.140-p.155、p.176-p.240 とプリントの該当部分を熟読する(1時間)。 事後学習:配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる(1時間)。																
13	代表的なウイルス感染症-1		対面授業により実施する。 ウイルス感染症の例として、ヘルペスやインフルエンザを中心に解説する。	事前学習:教科書 p.242-p.307 とプリントの該当部分を熟読する(1時間)。 事後学習:配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる(1時間)。																
14	代表的なウイルス感染症-2		対面授業により実施する。 ウイルス感染症の例として、B型肝炎、後天性免疫不全症候群(AIDS)を中心に解説する。	事前学習:教科書 p.242-p.307 とプリントの該当部分を熟読する(1時間)。 事後学習:配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる(1時間)。																
15	真菌および原虫・蠕虫の特徴と代表的な真菌感染症、寄生虫感染症		対面授業により実施する。 真菌の病原性と代表的な真菌感染症および原虫感染症の例として、マラリアなどについて解説する。	事前学習:教科書 p.310-p.333 および p.336-p.369 とプリントの該当部分を熟読する(1時間)。 事後学習:配布した講義資料を確認しながら教科書の上記ページを熟読し、必要な場合は Moodle 内に設定した小テストについて、合格点を取れるまで繰り返し取り組む。また、重要な内容についてノートにまとめる(1時間)。																
関連科目	生命科学概論、生物・化学の基礎、公衆衛生学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>わかる、身につく病原体・感染・免疫</td> <td>藤本秀士</td> <td>南山堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	わかる、身につく病原体・感染・免疫	藤本秀士	南山堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	わかる、身につく病原体・感染・免疫	藤本秀士	南山堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学</td> <td>増澤俊幸</td> <td>羊土社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>微生物学・感染看護学</td> <td>岡田忍、小池和子、白澤浩 編</td> <td>医歯薬出版株式会社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>系統看護学講座:微生物学:疾病のなりたちと回復の促進[4] (第13版)</td> <td>南嶋洋一</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学	増澤俊幸	羊土社	2	微生物学・感染看護学	岡田忍、小池和子、白澤浩 編	医歯薬出版株式会社	3	系統看護学講座:微生物学:疾病のなりたちと回復の促進[4] (第13版)	南嶋洋一	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学	増澤俊幸	羊土社																	
2	微生物学・感染看護学	岡田忍、小池和子、白澤浩 編	医歯薬出版株式会社																	
3	系統看護学講座:微生物学:疾病のなりたちと回復の促進[4] (第13版)	南嶋洋一	医学書院																	
評価方法(基準)	観察記録(不定期に実施する小テストおよび提出物への取り組み:教員による観察、20%)、定期試験(80%)で評価する(100点満点中60点以上で合格)。																			
学生へのメッセージ	ヒトは多種多様な生物との関わり合いの中で生きている。目に見えないほど小さな生物の中には、ヒトにとって有益なものもあれば、有害なものもある。正常な免疫系は我々の身体を種々の病原体から守る役割を果たしているが、免疫系の異常によって病気が引き起こされる場合もある。ヒトと微生物の関係と免疫の仕組みを理解し、科学的な見地に基づいて感染防御に必要なことは何かを考えられる医療従事者になることを期待する。疑問に思ったことがあれば、レポート用紙等書きとめ、解決して行く姿勢が重要である。																			
担当者の研究室等	伊藤 潔 (1号館5階 生物系薬学分野(生化学))																			
備考	感染症や免疫系、および微生物について学ぶためには、生物学の基礎的知識が不可欠であり、高校レベルの生物学の知識を有することが必要になります。高校で生物学を履修していない者は、本講義を履修する前に高校の生物学の教科書や教材を参考に自己学習することを勧めます。感染症と防御機構としての免疫は非常に奥が深い分野です。講義では、その一部を解説しますので、各自でさらに深く学習されることを期待します。極めて多くの内容を含むのですべてを覚えるのは大変ですが、各回の講義終了後には少なくとも1つの新しい知識を吸収するという																			

科目名	薬理学総論	科目名 (英文)	Pharmacology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1008a0		

授業概要・目的	薬物療法における看護師の役割として、(1) 誤薬の防止、(2) 治療効果の確認、(3) 有害作用の予防と早期発見、(4) 服薬に対する患者指導、(5) 患者・家族に対する治療の説明、などがある。これらを適切に実行するためには、薬物が生体に及ぼす種々の作用及びその作用機序について詳細に学ぶ必要がある。薬理学総論では、薬物の作用を、分子、細胞、臓器、個体レベルで学習し、上記の役割を実践していく上で必要な薬物の基礎知識を修得する。また、薬物の投薬方法と投薬後の注意点、副作用とその対策、医薬品の取り扱い上の留意点等を総合的に理解し、臨床での実践へ向けた薬物療法の基盤を確かなものとする。																																																																		
到達目標	(1) 薬物療法における看護師の役割について概説できる。 (2) 以下の薬理学の基礎知識について説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> 薬物が作用するしくみについて 薬物を投与した際の体内挙動 (吸収、分布、代謝、排泄) について 薬物相互作用について例を挙げて説明できる。 薬物の危険性について 薬に関連した法律について (3) 以下の薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> 自律神経に作用する薬物 心臓・血管系に作用する薬物 血液・造血器に作用する薬物 呼吸器系に作用する薬物 																																																																		
授業方法と留意点	授業方法は講義を中心として、問題等を用いた演習形式や小テストを実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬理学を学ぶにあたって薬理学の基礎 (1)</td> <td>薬理学とはなにか、薬による病気の治療、看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学習する。薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>薬理学の基礎 (2)</td> <td>薬が作用するしくみ (受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター) について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>薬理学の基礎 (3)</td> <td>薬の体内挙動 (投与経路、吸収、分布、代謝、排泄) について学習する。内容: 薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自律神経に作用する薬物</td> <td>交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物</td> <td>抗高血圧薬・狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>血液・造血器に作用する薬物</td> <td>止血薬、抗血栓薬、貧血治療薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>呼吸器系に作用する薬物</td> <td>気管支喘息治療薬、鎮咳薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>消化器系に作用する薬物</td> <td>消化性潰瘍治療薬、制吐薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>腎・泌尿器系に作用する薬物</td> <td>利尿薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>感染症治療に用いられる薬物</td> <td>抗菌薬、抗ウイルス薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>炎症や痛みに対する薬物</td> <td>抗炎症薬、鎮痛薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>がん治療に用いられる薬物</td> <td>抗がん薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>外科手術に用いられる薬物</td> <td>全身麻酔薬、筋弛緩薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>中枢神経系に作用する薬物</td> <td>抗不安薬、抗精神病薬、不眠症治療薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>感覚器疾患治療に用いられる薬物</td> <td>緑内障治療薬、めまい治療薬について学習する。</td> <td>授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	薬理学を学ぶにあたって薬理学の基礎 (1)	薬理学とはなにか、薬による病気の治療、看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学習する。薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	2	薬理学の基礎 (2)	薬が作用するしくみ (受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター) について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	3	薬理学の基礎 (3)	薬の体内挙動 (投与経路、吸収、分布、代謝、排泄) について学習する。内容: 薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	4	自律神経に作用する薬物	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	5	心臓・血管系に作用する薬物	抗高血圧薬・狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	6	血液・造血器に作用する薬物	止血薬、抗血栓薬、貧血治療薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	7	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	8	消化器系に作用する薬物	消化性潰瘍治療薬、制吐薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	9	腎・泌尿器系に作用する薬物	利尿薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	10	感染症治療に用いられる薬物	抗菌薬、抗ウイルス薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	11	炎症や痛みに対する薬物	抗炎症薬、鎮痛薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	12	がん治療に用いられる薬物	抗がん薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	13	外科手術に用いられる薬物	全身麻酔薬、筋弛緩薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	14	中枢神経系に作用する薬物	抗不安薬、抗精神病薬、不眠症治療薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。	15	感覚器疾患治療に用いられる薬物	緑内障治療薬、めまい治療薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	薬理学を学ぶにあたって薬理学の基礎 (1)	薬理学とはなにか、薬による病気の治療、看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学習する。薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
2	薬理学の基礎 (2)	薬が作用するしくみ (受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター) について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
3	薬理学の基礎 (3)	薬の体内挙動 (投与経路、吸収、分布、代謝、排泄) について学習する。内容: 薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
4	自律神経に作用する薬物	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
5	心臓・血管系に作用する薬物	抗高血圧薬・狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
6	血液・造血器に作用する薬物	止血薬、抗血栓薬、貧血治療薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
7	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
8	消化器系に作用する薬物	消化性潰瘍治療薬、制吐薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
9	腎・泌尿器系に作用する薬物	利尿薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
10	感染症治療に用いられる薬物	抗菌薬、抗ウイルス薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
11	炎症や痛みに対する薬物	抗炎症薬、鎮痛薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
12	がん治療に用いられる薬物	抗がん薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
13	外科手術に用いられる薬物	全身麻酔薬、筋弛緩薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
14	中枢神経系に作用する薬物	抗不安薬、抗精神病薬、不眠症治療薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
15	感覚器疾患治療に用いられる薬物	緑内障治療薬、めまい治療薬について学習する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。																																																																
関連科目	人体の構造と機能、薬物治療学																																																																		

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	NICE 薬理学	荻田喜代一ほか	南江堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (80%)、小テスト及び課題 (20%) で評価し、100 点満点中 60 点以上で合格とする。 再受験科目となる学生は、定期試験 (100%) で評価し、100 点満点中 60 点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。			
担当者の 研究室等	1 号館 6 階 薬理学研究室			
備考	講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。			

科目名	疾病・治療論 I	科目名 (英文)	Clinical Medicine I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森谷 利香
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1012a0		

授業概要・目的	看護の場において、病気が生じる原因と病態、および治療法を理解することは重要です。循環器（心血管）系と呼吸器系の構造と機能を理解し、各科日常診療の基本となる一般的な循環器疾患の予防、病因、病態 生理、症候、診断と初期対応を中心とした治療を学びます。
到達目標	本科目では、主に呼吸器および循環器疾患に関する理解を深め、これらの疾患を持つ患者さんへの医学診断と対処法、治療法を学び、将来の的確で質の高い看護の実践に役立てます。
授業方法と留意点	対面授業
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	呼吸器 1 呼吸器総論、解剖・生理・検査・症候	①スパイロメトリーについて説明できる。 ②肺胞におけるガス交換、血液の酸塩基平衡、動脈血ガスの検査結果を説明できる。 ③咳嗽、喘鳴などの症候と異常呼吸音（ラ音）を説明できる。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
3	心電図・不整脈	①主な徐脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）の原因、症候、心電図の特徴、治療を説明できる。 ②主な上室性頻脈性不整脈（洞性頻脈、上室性期外収縮、心房細動、心房粗動、発作性上室性頻拍症）の原因、症候、心電図の特徴、治療を説明できる。 ③主な心室性頻脈性不整脈（心室性期外収縮、心室頻拍、多源性心室頻拍、心室細動）の原因、症候、心電図の特徴、治療を説明できる。 ④不整脈の薬物療法、非薬物療法（カテーテルアブレーション、電気的除細動、ペースメーカー植え込み、植え込み型除細動器）を概説できる。 ⑤	授業前に教科書の検査（心電図）と不整脈の部分を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習（1 時間）。
4	呼吸器 2 呼吸不全・換気異常	①呼吸不全について説明できる。 ②閉塞性換気障害・拘束性換気障害をきたす肺疾患について列挙できる。 ③過換気症候群を概説できる。 ④睡眠時無呼吸症候群を概説できる。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
5	心不全	①心不全の定義と原因、病態生理を説明できる。 ②左心不全と右心不全の徴候、病態、診断と治療を説明できる。 ③急性心不全と慢性心不全の診断と薬物療法、非薬物療法を説明できる。 ④高齢者における心不全の特徴を説明できる。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
6	呼吸器 3 呼吸器感染症	①かぜ症候群、インフルエンザについて説明できる。 ②肺炎の主な病原体を列挙し、病態を説明できる。 ③肺結核症、肺真菌症、非結核性（非定型）抗酸菌症を概説できる。 ④誤嚥性肺炎の発生機序とその予防法を説明できる。 ⑤気管支拡張症と慢性気道感染症について説明できる。 ⑥COVID-19 について理解する。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
7	心臓弁膜症・心内膜炎	①主な弁膜症（僧帽弁疾患、大動脈弁疾患）の病因、病態生理、症候と診断を説明し、治療を説明できる。 ②感染性心内膜炎の病態、症候、診断、治療を説明できる。	授業前に教科書の心臓弁膜症・心内膜炎の部分を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習（1 時間）。
8	呼吸器 4 免疫・アレルギー性肺疾患 慢性閉塞性肺疾患	①気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患を説明できる。 ②サルコイドーシスについて説明でき	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。

			る。 ③ANCA 関連肺疾患について概説できる。	
9	虚血性心疾患（冠動脈疾患） -1		①安定労作性狭心症の病態、症候、診断、治療を説明できる。 ②冠攣縮性狭心症の病態、症候、診断、治療を説明できる。 ③急性冠症候群（不安定狭心症、非 ST 上昇型心筋梗塞及び ST 上昇型心筋梗塞）の病態、症候、診断、治療を説明できる。 ④虚血性心疾患の発症予防、再発予防を説明できる。	授業前に教科書の虚血性心疾患の部分を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習（1 時間）。
10	呼吸器 5 間質性肺炎疾患・胸膜疾患		①間質性肺炎を説明できる。 ②胸膜炎、膿胸について説明できる。 ③自然気胸、プラ、プレブについて説明できる。④じん肺症、石綿肺、中皮腫を概説できる。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
11	虚血性心疾患（冠動脈疾患） -2		①陳旧性心筋梗塞の病態、症候、診断、治療を説明できる。 ②虚血性心疾患の薬物治療、非薬物療法（血行再建術（経皮的冠動脈形成術、ステント留置術、冠動脈バイパス 術）、心臓リハビリテーションを説明できる。 ③虚血性心疾患の 12 誘導心電図の特徴を説明できる。	授業前に教科書の虚血性心疾患の部分を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習（1 時間）。
12	呼吸器 6 肺腫瘍		①肺癌の分類、治療について概説できる。 ②転移性肺腫瘍の診断と治療を説明できる。 ③縦隔腫瘍について概説できる。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
13	心筋疾患・心膜疾患・心臓腫瘍		①心肥大の病態生理、リモデリング機序を説明できる。 ②特発性心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症、拘束型心筋症）と二次性心筋疾患の定義・概念と病態生理を説明できる。 ③急性心筋炎の病態、症候、診断、治療症候を説明できる。 ④急性心膜炎、収縮性心膜炎の病態、症候、診断、治療を説明できる。 ⑤心タンポナーデの病態、症候、診断、治療を説明できる。 ⑥主な心臓腫瘍（粘液腫など）の病態、症候、診断、治療を説明できる。	授業前に教科書の心筋疾患・心膜疾患・心臓腫瘍の部分を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
14	呼吸器 7 肺循環障害		①肺性心の病因、診断と治療を説明できる。 ②急性呼吸窮迫症候群（ARDS）の病因、症候と治療を説明できる。 ③肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症について説明できる。 ④肺高血圧症を概説できる。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
15	血圧異常と血管疾患		①本態性高血圧症の疫学、診断、合併症、予後、治療を説明できる。 ②二次性高血圧症の病因（内分泌性、腎血管性、薬剤性）、症候、診断、治療を説明できる。 ③各種降圧薬の作用機序、適応、禁忌、副作用を説明できる。 ④高血圧緊急症の病態と対応を説明できる。 ⑤高齢者の高血圧の特徴と治療の注意点を説明できる。 ⑥低血圧の原因疾患、病態生理、症候、診断、予後、治療を説明できる。 ⑦動脈硬化の危険因子、病態、非侵襲的検査法を説明できる。 ⑧急性大動脈解離の病態、症候、診断、治療を説明できる。 ⑨大動脈	授業前に教科書の血圧異常と血管（大動脈・末梢動脈・静脈）疾患の部分を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習（1 時間）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気がみえる vol.4 呼吸器		メディックメディア
2	病気がみえる vol.2 循環器		メディックメディア
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験(100%)にて評価
学生への メッセージ	看護学を学習するうえで必要な基本的知識を習得しますので、しっかり学習しましょう。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	社会福祉論	科目名 (英文)	Social Welfare
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1091a0		

授業概要・目的
 本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとの暮らしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個々人の生き方など、多角的な視点から考えていきます。
 本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけではなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。

到達目標
 ①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること
 ②日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること
 ③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること

授業方法と留意点
 学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
2	社会福祉の歴史	諸外国および日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
3	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
4	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
5	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからのことについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
6	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
7	地域福祉②	地域が抱える課題とその解決法を模索するワークについて、グループで共有を行います	事前学習：個人ワークに取り組むこと (3時間) 事後学習：ワークの成果物について振り返りを行うこと (3時間)
8	日常生活支援の担い手としての大学生の可能性と講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度についてあらためて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：講義の振り返りを行うこと (2時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目
 なし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 各回のレポート50%、期末レポート50%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等
 寝屋川キャンパス7号館3階 上野山研究室

科目名	看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2025a0		

授業概要・目的	看護の概念や看護理論、看護の歴史、看護の対象（人間、環境、健康、生活）、保健医療を提供するためのシステム、看護の機能と業務、看護活動等について理解し、看護学を学ぶうえでの基盤を形成する。 また、看護職者の倫理感や関連する法について理解し、看護学の学習の基盤となる知識や態度の修得を目指す。 科目責任者は、総合病院の手術室および救急・ICU 病棟、外来等、看護師として約 10 年間勤務した経験を活かし、より実践的な看護活動や対象理解のための基盤となる知識や看護者として不可欠な態度についての教育を行う。
到達目標	1. 看護の定義と主要な看護理論および看護モデルについて説明できる。 2. 看護の歴史とその変遷について説明できる。 3. 看護の対象である人間と健康、環境、生活について述べ、それらの関連について説明できる。 4. 看護の機能・役割について説明できる。 5. 看護者の責務と倫理的態度について説明できる。 6. 専門職としての看護について自己の考えを述べることができる。
授業方法と留意点	授業は教科書及び配布資料を中心として授業を進め、視覚教材やパワーポイント等を用いる。事前・事後課題、ピア評価等を適宜取り入れ、看護の基本となる知識の習得を目指す。看護、また看護職者としての態度・倫理感を培い、看護について自分の言葉で表現できるように、講義後のレポートや課題を提示する。
科目学習の効果 (資格)	看護職者として根幹となる基礎的な知識と態度を学び、今後の学習の基盤を身につけます。また、全ての看護学実習科目及びその他専門科目を学ぶ上で、この科目での学びが大きな意味をもちます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護とは、ナイチンゲールの看護哲学	<ul style="list-style-type: none"> 「看護」とは ・ケアとケアリング ・ナイチンゲールの看護哲学 ・本学の看護学教育 	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
2	現代の看護の定義と看護モデル	<ul style="list-style-type: none"> ・看護理論とは ・理論の範囲 ・看護モデルの発達と系譜 	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
3	主要な看護モデルと理論①	<ul style="list-style-type: none"> ・ニード論による看護理論 ・相互作用理論による看護理論 ・システム理論による看護理論 	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
4	主要な看護モデルと理論②	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアリングによる看護理論 ・文化ケア理論 	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
5	看護の歴史①	<ul style="list-style-type: none"> ・ナイチンゲールの業績と近代看護への影響 	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
6	看護の歴史②	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米と日本の歴史的な看護の変遷 ・社会の変化と看護概念の変遷 	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
7	生活者としての人間①	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の対象としての「人間」とは ・成長・発達/発達課題 ・看護の対象としての「環境」とは 	事前課題：人と環境について自己の考えをまとめておく。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
8	看護の対象 (人間と環境①)	「人間」と「環境」についてディスカッションとグループワークを行う。	事前課題：人と環境について自己の考えをまとめ、発表準備を行う。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
9	看護の対象 (人間と環境②)	「人間」と「環境」の相互作用についてグループで発表し、学びを共有する。	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
10	生活者としての人間②	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の概念と看護の目標 ・人々の健康の状態 	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
11	看護の機能と役割・法律的側面	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の機能と業務 ・看護の法的基盤と責務 	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
12	看護マネジメント・病院看護管理と医療安全	<ul style="list-style-type: none"> ・看護業務の能力的機能分化 ・看護のマネジメント、病院看護管理 ・安全な医療への取り組み 	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
13	看護の役割と機能、専門職の連携と協働、カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療の中での看護の役割 ・保健医療システムと看護 ・専門職としての看護 	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
14	看護倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護者の倫理とは ・看護者の責務と倫理的態度 ・臨床における倫理的問題 	事前課題：教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)

	15	実践科学としての看護 看護における臨地実習の意義	・実践科学としての看護 ・臨地実習とは何か、その意義と看護学生 のあり方	こと。(1時間) 事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
関連科目	全ての看護学関連教科			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ:基礎看護学(1):看護学概論	志自岐 康子 編集	メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ケアの本質、生きることの意味	ミルトン・メイヤロフ	ゆみる出版
	2	看護の基本となるもの	ヴァージニア・ヘンダーソン	日本看護協会出版会
	3	看護覚え書:看護であること・看護でないこと	F. ナイチンゲール	現代社
評価方法 (基準)	筆記試験(50%)、小テスト(20%)授業内の課題jまたはレポート、授業態度(25%)、ピア評価(5%) 原則、全講義を出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況、学修の状況等により評価方法を変更することがある。			
学生への メッセージ	看護を学ぶ初めての講義です。 看護職とはどのようなものかを知り、看護のとは何か、対象となる人や環境について考えることで、今後の学習の基盤となります。看護職者は、その関わり方一つがひとの人生・生命に影響を与えます。倫理感や社会人としての基礎的な能力、対人関係能力、専門家としての知識と技術が常に問われる専門職であるということを考え、自己の考えを深めてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、研究室3(山居)			
備考	提出した課題またはレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。 感染状況や学修の状況等により、シラバスに記載している講義内容を変更する場合があります。 参考資料として、医療安全 ナーシンググラフィカ メディカ出版 ISBN-10: 4840453853 も参考になります。興味のある学生は参考資料として読んでみてください。			

科目名	看護対人関係論	科目名 (英文)	Human Relationship in Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2026a0		

授業概要・目的	看護の場における対人関係に関する基本的な概念・技法の理解と修得を目指す。看護師は患者の心身の状態をアセスメントしながら、一人ひとりに合ったコミュニケーションをとる技術の修得が不可欠である。そのような患者-看護師間のコミュニケーションの特徴を学び、「聴くこと」「話すこと」を中心に、具体的な看護場面や事例課題を通して対人関係の基礎的な知識を修得する。また、実習マナー、チーム医療での人間関係のあり方について、リフレクティブな学習方法を通して学ぶ。科目責任者は、総合病院および個人病院等、看護師として約10年間勤務した経験から、より実践的な看護場面におけるコミュニケーションや対人関係技術についての教育を行う。
到達目標	1. 患者・看護師間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 2. コミュニケーションに必要な基本的技法について説明できる。 3. 自分自身のコミュニケーションについて振り返り、今後の課題を述べるができる。 4. 看護場面をイメージし、適切なコミュニケーションの技法や言葉、態度について、自身の考えを述べるができる。 5. カンファレンスにおける役割、ポイントを説明することができる。
授業方法と留意点	看護者として必要不可欠なコミュニケーション技法について講義を行う。具体的な看護場面をイメージできるよう、写真等の視覚教材、パワーポイント等を使用する。「知っている」ことと「できる」ことは同じではない。「できる」ようになるよう、積極的に学習に取り組み、自身のコミュニケーションを振り返る態度が必要である。そして、この授業で学んださまざまなコミュニケーションの技術を、日常生活の中で練習することが欠かせない。
科目学習の効果 (資格)	患者中心の看護実践にむけて、看護の対象者と適切に人間関係を構築できるよう、基盤となる技術を身につけます。また、全ての看護学実習科目及びその他専門科目を学ぶ上で、この科目での学びが重要となります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	看護の場における対人関係とは	授業ガイダンスを行うとともに、看護の場における対人関係について概要を学ぶ。また、対人関係を振り返り学習すること、意識的なコミュニケーションの重要性について学ぶ。講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。
2	患者-看護師関係のコミュニケーションの特徴、「聴くこと」と「話すこと」	患者と看護師の間で築かれる人間関係とそのコミュニケーションの特徴について事例を用いながら学ぶ。また、「聴くこと」「話すこと」について演習し、考えを深める。講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
3	相手のメッセージ(気持ち)を受けとめる(1)	会話は話のキャッチボールを行うものであり、相手が受け取っていないければ何も伝わらない。相手の気持ちを受けとめる会話による「受容」と「傾聴」について学ぶ。講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
4	相手のメッセージ(気持ち)を受けとめる(2)	「受容」と「傾聴」について、日常生活の中での自身と他者との会話を回顧的に分析する。相手の気持ちを受けとめる会話について学ぶ。講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
5	患者との会話を練習しよう(1)	模擬患者設定を使って、患者の気持ちを受けとめる話し方、聞き方について考える。講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
6	患者との会話を練習しよう(2)	会話を通して、患者のことばに耳を傾け、その気持ちを受けとめる関わりが、「共感」につながり、看護の重要なスキルであることを体験的に理解する。講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
7	現場での学び、チーム医療の人間関係、カンファレンス	現場で学ぶこと、実習に必要なマナーについて学ぶ。また、チーム医療で互いに尊重し合いながら率直にコミュニケーションする人間関係の理論を学ぶ。講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
8	まとめ	看護の場における対人関係についての今までの学びをまとめて振り返り、達成できたことや今後の課題について自身の言葉でまとめる。授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	

	9																			
	10																			
	11																			
	12																			
	13																			
	14																			
	15																			
関連科目	看護学概論、全ての看護学の科目と関連します。特に、各看護学実習で現場で学ぶ際に基本となる科目です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>仲間とみかく看護のコミュニケーション・センス</td> <td>大森武子/大下静子/矢口みどり</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	仲間とみかく看護のコミュニケーション・センス	大森武子/大下静子/矢口みどり	医歯薬出版	2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	仲間とみかく看護のコミュニケーション・センス	大森武子/大下静子/矢口みどり	医歯薬出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護コミュニケーション：基礎から学ぶスキルとトレーニング</td> <td>篠崎恵美子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護コミュニケーション：基礎から学ぶスキルとトレーニング	篠崎恵美子	医学書院	2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	看護コミュニケーション：基礎から学ぶスキルとトレーニング	篠崎恵美子	医学書院																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	筆記試験 (40%) ピア評価 (20%)、授業の参加度と課題及びレポート (40%) により総合評価する。 原則全ての授業に出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。																			
学生への メッセージ	看護は対象者を身体的・精神的・社会的な側面から理解し、よりよい人間関係を築くことから始まります。看護実践において、対人関係能力はその基本的能力のひとつであり、必要不可欠なものです。何気ないコミュニケーションから、相手の思いに気付く視点をもつことが看護の基本です。また、会話や状況など客観的な事実と、その時感じたこと・考えたことを分けて捉え、分析することも重要です。この授業を通して、今後の実習や学習の基本的な能力を身につけてゆきましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室2 (山居)、研究室1 (佐久間)																			
備考	提出した課題およびレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。																			

科目名	老年看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Gerontological Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6◎, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2041a0		

授業概要・目的	老年看護の理念とライフサイクルにおける老年期の主要概念を理解した上で、高齢者とその家族に、健康とQOLを高めるための看護を学ぶ。具体的には、統計データを通して高齢化の現状を学び、加齢による身体・心理・社会的変化と生活に及ぼす要因について理解し、質の高い健康生活のあり方を学ぶ。さらに高齢者とその家族をとりまく社会制度について学習する。
到達目標	老年看護の概要が理解できる。 超高齢社会について、疫学的側面から理解できる。 高齢者の身体・心理・社会的変化について理解できる。 高齢者をとりまく制度・施策について理解できる。 様々な場での高齢者看護の特徴を理解できる。 老年看護におけるエンドオブライフケア・倫理的課題について理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画に沿って授業します。指定した教科書を中心に講義を進めます。必要に応じて講義資料を提示します。普段から広い視野で学習する習慣を身につけましょう。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験の科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	老年看護の概念	老年看護とは 老年看護学の理念と目標、概念、活用できる理論について学びます。	事前課題事後課題 テキストをp2-20、p70-82を事前に予習して、概要をとらえておいてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理し、まとめてください。(1時間)
	2	高齢者を取り巻く社会の理解	統計データから高齢者を取り巻く社会状況に関して学習します。	高齢社会白書などの統計データを事前に準備・学習し、自分の担当分をまとめてください。(1時間) 事後課題 グループでまとめたものを事前の資料と合わせて整理をしてください。(30分)
	3	加齢現象の理解(1) 身体的変化	老年期にある人の身体的変化について学習します	事前課題 教科書p94-118を読み、加齢現象について予習をしてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。(1時間)
	4	加齢現象の理解(2) 心理・社会的変化	老年期にある人の認知機能、心理・社会的変化について学習します。	事前課題 教科書p89-91、297-299を読み、加齢現象について予習をしてください。(30分) 事後課題 配布するプリントに加齢現象を整理してください。(1時間)
	5	高齢者とその家族の理解	高齢者と家族を取り巻く社会情勢、介護する家族の特徴とそれに応じたケアについて学習します。	事前課題 教科書p378-382を読み、高齢者の家族について予習をしてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。(30分)
	6	高齢者を取り巻く関連法:医療制度・介護保険制度他	高齢者の保健・医療・福祉対策について、関係する制度・施策について学習します。	事前課題 教科書p36-53を読み、医療制度、介護保険制度について予習をしてください。(30分) 事後課題 配布するプリントをもとに整理してください。(1時間)
	7	高齢者への看護活動:病院・高齢者施設・地域	高齢者看護を实践する場として、病院・高齢者施設・地域における高齢者看護の特徴について学びます。	事前課題 教科書318-344を読み、様々な場で高齢者の看護について予習をしてください。(30分) 事後課題 配布するプリントにそれぞれの場の看護を整理してください。(1時間)
	8	高齢者へのエンドオブライフ・ケア 老年看護における倫理的課題	高齢者の死に関する状況の特徴とそのケアについて学習します。また、高齢者の意思決定、高齢者虐待など倫理的課題について学習します	事前課題 教科書p348-357、54-66を読み、倫理的課題等について予習をしてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。(30分)
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				
関連科目	看護学概論、公衆衛生学、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、 看護関係法規			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座：老年看護学	北川公子	医学書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学概論	正木治恵、真田弘美	南江堂
	2	最新老年看護学	水谷信子、水野敏子	日本看護協会出版会
	3	高齢者の健康と障害	堀内ふき	メディカ出版
評価方法 (基準)	定期試験 9 割とレポート 1 割で評価します。			
学生への メッセージ	予習、復習をおこなってください			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 研究室 6			
備考				

科目名	海外医療セミナー	科目名 (英文)	International Health Care Seminar
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	池田 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6◎		
科目ナンバリング	NDN2067a0		

授業概要・目的	オンラインで海外の臨床現場を遠隔で訪れ、そこで行われている看護の実践について学ぶ。オンラインで現地とつなぎ、病院（施設）見学・講義等により、看護・保健・医療をめぐる事情について学習する。日本とは異なる社会環境の中で実践されている臨床現場・講義での学習を通して、日本の看護とそのあり方についても一度振り返り、看護と社会の関わり、看護のあるべき姿とその将来について考える機会とする。			
到達目標	1. 日本と海外の看護・保健・医療の違いについて正しく理解する。 2. 日本と海外の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる医療者としての態度を身に付けることができる。 3. 日本の看護とそのあり方についても一度振り返り、看護と社会の関わり、看護のあるべき姿とその将来について述べるができる。			
授業方法と留意点	遠隔（オンライン）で海外とつなぎます。			
科目学習の効果（資格）	渡航前に現地の保健医療事情について学習する。遠隔で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設等を見学および現地のスタッフや看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	海外医療セミナー	渡航前に現地の保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設等を見学および現地のスタッフや大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。	（セミナー前）現地の保健医療事情について学習 （セミナー後）日本とは異なる社会環境の中で実践されている臨床現場・講義での学習を通して、日本の看護とそのあり方についても一度振り返り、看護と社会の関わり、看護のあるべき姿とその将来についてプレゼンテーションを行う。
	2			-
	3			-
	4	-	-	-
	5	-	-	-
	6	-	-	-
	7	-	-	-
	8	-	-	-
	9	-	-	-
	10	-	-	-
	11	-	-	-
	12	-	-	-
	13	-	-	-
	14	-	-	-
	15	-	-	-
関連科目	国際看護学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	事前学習（20%）、海外オンライン研修での課題（30%）、報告会（20%）、最終レポート（30%）			
学生へのメッセージ	事前学習課題を行い、現地での体験を学びにつなげられるようにすること。 海外オンライン研修では自己の考えを表現し、研修内容を深まりのあるものができるよう自ら働きかけること。 報告会ではディスカッションにより、他者との意見交換を行い、自己の学びを意味づけること。			
担当者の研究室等	7号館3階研究室16（池田研究室）			
備考				

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1301a1		

授業概要・目的
「他の人のためとやってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいると知っ
ていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって異なり、そこに優劣はないと
したら、他人にアドバイスしたり批判することは余計なこと、失礼なことだろうか?」
このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある(人によっては常に考えている)ことなのでは
ないかと思います。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、人
種差別、ジェンダー等)に関してどのような倫理学、哲学、宗教上の主張がなされてきたかを学びます。また、それらと対照することで自分自身
のコンセンサス(常識)を自覚し、再検討することが目的です。

到達目標
1. 授業で扱う現代社会の諸テーマ(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道徳の関係、非利己性、寄付の義
務等)について『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房)
の議論を参考に、専門的な視点を身に付ける。
2. 上記の諸問題に関して自分なりの考えをまとめる。

授業方法と留意点
Teams を使用して、講義原稿と課題読書を配布します(毎回、ある程度の読書量があります)。授業ごとに Google Form を利用して、それらのテ
キストに関する小問題に答えてもらいます。
【※※ コロナウイルスの影響で対面授業が不可能である場合は、対面授業が行われるべき日時に、Teams の動画配信機能を利用しリアルタイム
で授業を行います。また、その際の動画と音声は録画し、Teams 経由でオンデマンドでも配信します。※※】

科目学習の
効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・倫理とは何か ・哲学との関係性	予習: なし 復習: なし
2	道徳とはどういうことか	・道徳は定義できるのか ・道徳の最小概念 ・回復の見込みのない乳児をどのように 扱うべきか	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題(哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い)がある場合は、それを読み、選択 問題形式の課題を解いて提出すること
3	文化的相対主義	・異なる文化はいかにして道徳規範を持 つのか ・文化的相対主義を本気で受け止めると どうなるか ・文化的相対主義から何を学ぶことがで きるか	2に同じ
4	倫理における主観主義	・倫理学に証明はあるのか ・同性愛の問題	2に同じ
5	道徳は宗教に基づくか	・道徳と宗教の関係 ・道徳は神の命令か ・キリスト教と中絶の問題	2に同じ
6	心理学的利己主義	・非利己性は可能か ・「どんなことも結局自分のためでしか ない」という主張は本当か	2に同じ
7	倫理的利己主義	・飢餓救済に寄付する義務はあるのか ・「何が人のためになるかは難しい」「自 分のためになることだけをやるべきで ある」という主張は本当か	2に同じ
8	功利主義者のアプローチ	・安楽死の問題 ・動物の権利の問題	2に同じ
9	功利主義をめぐる議論	・幸福の問題 ・結果がすべてか	2に同じ
10	絶対的道徳規則はあるのか	・普遍的な道徳は可能か	2に同じ
11	カントと人格の尊重	・「人間の尊厳」という考え ・刑罰の理論における応報と功利性	2に同じ
12	社会契約の思想	・ホプズの主張 ・囚人のジレンマ ・市民的不服従についての問題	2に同じ
13	フェミニズムと気づかひの 倫理	・女と男は倫理についての考えが違うか	2に同じ
14	徳の倫理	・徳の倫理と正しい行動の倫理 ・様々な徳	2に同じ
15	満足のいく道徳説とはいか なるものか	・思い上がりのない道徳 ・道徳共同体 ・正義と公正	2に同じ

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズム まで	ジェームズ・レイチェルズ著、古 牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房
2				

	3		
評価方法 (基準)	授業毎の課題（インターネット経由で提出）：75%（Google Form によって提出してもらった各授業回の課題×14 回分（第 2 回-第 15 回分）。第 1 回目は授業資料、課題共にありません） 期末試験（インターネット経由で提出）：25%		
学生への メッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってついてきてください。 答えがないと言われる現代社会を生きる上で、簡単に消費されず、長い間参考になるであろう知見を得ることができたと思ってもらえれば幸いです。		
担当者の 研究室等	非常勤講師控室		
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。非常勤講師室等における対応可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。		

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1302a1		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出会うことになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人間は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において登場する問題と考え方のいくつかを学びます。
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 毎回授業終わりにコメントを提出してもらい（方法は初回授業で指示する）、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果 (資格)	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える (30分)
2	なぜ「哲学」をするのか？	古代懐疑主義の哲学を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
3	「知る」とは何か？	プラトン『パイドン』を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
4	「何のために」という見方はなぜ重要なのか？	アリストテレスの目的論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
5	「絶対に疑えないもの」は何か？	デカルト『省察』を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
6	物事を「経験」としてはどういうことか？	ロックの経験論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
7	世界は本当に「存在」するのか？	バークリとヒュームの観念論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
8	「理性」はどこまで考えられるのか？	カントの理性批判を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
9	「自由」とは何か？	近代哲学における自由概念の変遷を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
10	積極的に「悪」を成すことはできるか？	シェリング『人間的自由の本質』を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
11	どうすれば「人間の生きる世界」を観察することができるのか？	フッサールの生活世界を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
12	「死」とはどのようなことか？	ハイデガーの時間論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
13	なぜ「個人」は尊重されるべきなのか？	サルトルの実存主義を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
14	「他者」とはどういうものか？	レヴィナス『全体性と無限』を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考える	予習・復習：講義ノートを見直す (計1時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生活世界の構造</td> <td>アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン</td> <td>ちくま学芸文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて</td> <td>富田恭彦</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	生活世界の構造	アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン	ちくま学芸文庫	2	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	生活世界の構造	アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン	ちくま学芸文庫													
	2	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書													
3																	

評価方法 (基準)	学期末のレポート80%、毎回の授業内課題(コメント)20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性(生きている間にできること)が広がります。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室または非常勤講師控室にて対応する。

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤塚 京子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	NHU1303a1		

授業概要・目的	医療・ケアの専門職としてその社会的な責務を果たすためには、ケアの実践において人々の人権を尊重することが求められる。また、科学技術の急速な進歩に伴う医療現場における多くの倫理的な課題についての理解が必要である。本科目では、現代の医療が直面する倫理的諸問題の歴史的・社会的背景を、具体的事例を交えながら考察し、生命倫理と患者主体の医療の中で看護職の果たす役割について学習する。
到達目標	現代の医療は、生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、臓器移植・脳死、ターミナルケア等多くの倫理的問題を抱えている。このような倫理的問題の本質とさまざまな側面を、具体的事例を通して学ぶことで、自ら問題を抽出し、より良いケアを考える力を身につけることができる。
授業方法と留意点	『テキストブック 生命倫理 (第2版)』(霜田求編、法律文化社)を教科書とし、教員が作成した資料を配布する。講義中心。詳細については、初回の授業で説明する。
科目学習の効果 (資格)	看護職に就くものとして備えるべき高い倫理観の醸成に資し、看護の専門科目を学ぶ上での基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、生命倫理の基本構造について	講義：生命倫理の成立過程、米国における「バイオエシックス」、生命倫理の射程、方法や理論について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
2	臨床倫理と医療におけるコミュニケーションについて	講義：臨床倫理とはなにか、事例検討の形態、医療におけるコミュニケーションなどについて説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
3	ケアとケアの倫理について	講義：ケアとはなにか、医療におけるケア、ケアの倫理について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
4	生殖補助医療について	講義：生殖補助医療技術やその倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
5	人工妊娠中絶と出生前診断、着床前診断について	講義：人工妊娠中絶、出生前診断、着床前診断について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
6	子どもの医療について	講義：子どもをめぐる医療や自己決定に関する倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
7	高齢者医療と認知症について	講義：高齢者医療の特色や超高齢社会における生命倫理について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
8	終末期医療と尊厳死について	講義：終末期医療や尊厳死をめぐる倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
9	安楽死と医師による自殺幫助について	講義：安楽死と医師による自殺幫助について、日本と海外の動向を交えながら説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
10	脳死と臓器移植について	講義：脳死と臓器移植の歴史や現状、倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
11	遺伝子医療について	講義：遺伝子医療の現状やその倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
12	再生医療について	講義：再生医療の現状やその倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
13	生命操作について	講義：生命操作の中でもゲノム編集技術に関する倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
14	研究倫理について	講義：研究倫理の歴史的背景や医学研究に関する指針について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。
15	医療と人権について	講義：医療と人権について、健康の権利、公害について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分程度)。講義後は学んだ内容を確認・整理しながら、コメントシートを記入する (20分程度)。

関連科目 看護専門科目すべてに関連する。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストブック 生命倫理 (第2版)	霜田 求 編	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護のための生命倫理 [改訂3版]	小林亜津子	ナカニシヤ出版
2				
3				

評価方法 (基準) 授業での毎回のコメントシート (30%)、期末レポート (70%) により評価する。全体で 60% 以上獲得で合格。

学生へのメッセージ	医療・ケアの現場で起きている、あるいはこれから起きる可能性がある諸問題について学びます。病気や障害を抱える人に接するうえで大事にしなければならない、専門職としての考え方・視点とともに、様々な立場の当事者の視点や社会の関わりについても理解していく一助となればと思います。
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室。担当教員の在室時間が僅かなため、授業に関する質問等は毎授業で配布するコメントシートやメールで受け付ける。
備考	

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1304a1		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。

授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で進める。
----------	------------------

科目学習の効果 (資格)	中学社会・高校地理歴史教員免許
--------------	-----------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	小中高の地理と大学の地誌学	講義ノートを復習しておくこと (事後学習 3時間)
2	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	冷涼地域の農業	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
3	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
4	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の牧畜	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
5	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
6	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
7	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
8	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
9	熱帯気候と住民生活 (2)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
10	熱帯気候と住民生活 (3)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
11	熱帯気候と住民生活 (4)	発展途上国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
12	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	季節河川と地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
13	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	乾燥地帯で生きる人々 (1)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
14	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々 (2)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 3時間)

関連科目	人文地理学, 自然地理学
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門：気候・地形・動植物と人間生活	水野一晴	筑摩書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	期末試験 70%, 授業内課題 30% 授業内課題は、各回の授業内容に関する穴埋め問題等である。
-----------	---

学生へのメッセージ	高校で地理 (A・B) を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。また、簡単な質問等は授業内課題の余白部分に記入してください。翌週の授業内で回答します。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館1階 (非常勤講師控室)。
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北西 諒介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1305a1		

授業概要・目的	この授業では、地理学を「社会で起こる様々な事象に対し、地域という視点から説明を加える学問」として捉え、具体例を交えながら、地域を把握するための様々な方法を紹介しします。
到達目標	地図を使った思考方法や地理学的なもの見方に親しむこと。加えて、地域に対する知的関心を高め、地域を理解するための基本的な実践が可能になること。
授業方法と留意点	授業は講義形式で、PowerPoint のスライドを中心に進め、適宜プリントなども配布します。授業では地図をよく使うため、中学や高校の授業で使用した地図帳や、地図が見られる端末 (スマートフォン等) を持参してください。また、毎回授業後に各回の内容に合わせた簡単な課題を出します。それとともに授業の感想や質問も集めますので、次回の授業の冒頭でフィードバックを行います。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業の概要	授業の進め方および地理学の視座と手法について概説します。	これまでに学習した「地理」や「地理学」に関する事柄について振り返る (事前学習 1 時間) 授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
2	データと主題図	主題図の読図を通じた地域把握の方法を紹介しします。	色々な種類の地図を見て、その表現や内容の特徴について考える (事前学習 1 時間) 授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
3	都市構造と都市社会	都市に対する地理学の基本的視座を紹介しします。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
4	集落形態と村落社会	農村に対する地理学の基本的視座を紹介しします。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
5	郊外の発展と地域社会	郊外の開発や地域コミュニティに関する地理学の研究領域を紹介しします。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
6	農産物の生産と消費	農産物の生産地の形成要因と近年の動向について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
7	工場集積と労働力	工場集積地の形成要因とそれを支える労働力について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
8	商業集積と消費者行動	商店街について、内部の構造や外部との繋がりという観点から取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
9	都市計画と法規制	行政によるまちづくりや規制が地域に及ぼす影響について取り扱います。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
10	施設配置と需要・供給	地理学におけるジェンダーや身体などの問題を取り扱います。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
11	社会問題と空間	社会問題の偏った分布とスケールについて取り扱います。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
12	文化と景観の関係	都市や集落内部の空間構造や世界観について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
13	観光地の形成	観光地に対するイメージや観光行動について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
14	景観の歴史	現在の景観に残る歴史的な痕跡について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
15	授業のまとめ	授業の総括として、1つの地域の地誌的記述を試みます。	これまでの授業の内容を振り返る (事前学習 1 時間) 授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)

関連科目	地誌学、自然地理学
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地理学基礎シリーズ1 地理学概論 [第2版]	上野和彦・椿真智子・中村康子編	朝倉書店

	2	人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴェア書房
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業で出す小課題：60%、期末レポート課題：40%			
学生への メッセージ	高校までの「地理」の科目の知識は必ずしも必要としません。地図を読むのが苦手な学生の受講も歓迎します。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	授業に関する問い合わせはメールで対応します。(メールアドレスは初回授業時にお知らせします)			

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NSO1310a1		

授業概要・目的	<p>みなさんはボランティア活動についてどのようなイメージをもっておられるでしょうか。学校で授業の一環として地域の清掃を行ったり募金活動をしったりするのはボランティア活動と言えるでしょうか。チャリティー番組にタレントが報酬を得て出演するのもボランティア活動でしょうか。</p> <p>商業的なイベントで多額の報酬を受け取る人がいる一方で、専門的な知識や経験、資格や免許を有する人々には〈やりがい〉〈思い出づくり〉〈社会貢献〉といった名のもとに無償のボランティアが求められることに批判の声があります。これとは逆に、NPO（非営利団体）の職員が報酬を受け取っていることやNPOに寄付したものがそのまま困っている人たちへの支援にまわされず経費として使用されることについて批判する人たちもいます。こうした問題について、みなさんはいまどのような理解をしているのでしょうか。</p> <p>ひとことでボランティア活動と言っても、地域の清掃や通学路の見守りといった身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動の基本を学修します。</p>
---------	--

到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる</p>
------	--

授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	<p>事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態しておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習する</p>
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
3	なぜボランティアが必要なのか？	ボランティアの必要性について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
4	支え合いによって成り立つ社会——市民社会論	支え合いによって成り立つ社会、市民社会について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
5	NPO、NGO	NPO、NGO とは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はどのようなものなのか学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこ

			<p>これまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
6	社会制度とボランティア活動	社会制度が NPO、NGO の活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
7	グループワーク（1）——国内外の NGO 団体について調査	5人前後のグループに分かれ、国内外の NGO 団体について調査します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
8	グループワーク（2）——国内外の NGO 団体について発表の準備	前回に引き続き、各グループで担当するテーマについて発表の準備をします。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
9	グループワーク（3）——国内外の NGO 団体について発表	グループで調査した内容にしたがって、国内外の NGO 団体がどのような活動を行っているのか紹介します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
10	災害とボランティア	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
12	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復</p>

				習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	14	文化ボランティア、その他のボランティア	文化ボランティア、およびその他のボランティアについて学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ボローニャ紀行	井上ひさし	文春文庫
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)15%、グループワーク20%、期末レポート65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 昌宏
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01311a1		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 経済学は、近代以降の科学や産業の発展と共に進歩してきた学問分野です。社会の豊かさの追求やその過程で直面する各種の課題（経済発展、貧困や格差の解消問題、社会保障の給付と負担の問題、環境問題など）の解決を求めていく上で、経済学の考え方やそれに基づく政策は重要な役割を果たします。本講義では、身近なトピックスから経済学的視点に基づく問題意識を持ってもらった上で、教科書に則してミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学習して理解してもらい、獲得した知識をどのように現実問題の解決に活用するかを育て、最後に我々が直面する各種課題、特に医療分野での課題にどのように応用できるかを考えてもらいます。</p> <p>【講義の目標】 一般教養としての経済学の基礎知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて身の回りの社会経済の仕組みや時事問題を理解して、問題の原因や解決策を自らで考えられることができる知識とスキルを獲得することを目標とします。また、経済学の医療制度の分野への応用としての診療報酬の決め方、逆選択が起こりがちな医療保険や増大し続ける医療費の問題などを扱う、専門科目である医療経済論への橋渡しをすることも目標の一つとします。</p>		
	到達目標	経済学は、消費者および生産者のよりミクロな（小さな）個別の行動に着目して分析するミクロ経済学と財市場や貨幣市場や労働市場やGDPなどのよりマクロな（大きな）観点から分析するマクロ経済学に大別されます。本講義では、これらのミクロとマクロの両面の視点で経済学的に経済主体の行動原理や社会の仕組みを理論に基づいて解説しますので、受講生は、環境問題、経済格差問題、不況問題など、身の回りの諸問題の原因と解決策を考えるにあたって必要な経済学の基本知識を習得し、経済学の医療分野への応用としての診療報酬の決め方、逆選択が	
授業方法と留意点	教科書に基づき、また pdf ファイルで配布する資料などを用いて、パワーポイントのスライドや板書を活用して講義を行います。 各回の講義の事前学習として、各回の学習方法・自己学習課題の欄に示した教科書の指定箇所を一通り読んでください。（予習として30分） この際、理解できない箇所をノートに箇条書きしておくなり、付箋（ポストイット）に書き込んで該当箇所に貼り付けておくといでしょう。 講義の補助として、Moodle を利用して、各種資料、教材、講義のポイントをまとめたノートなどを提供します。		
科目学習の効果（資格）			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	はじめに：講義の概要と講義の進め方	15回の講義で何を学ぶかを概説します。また、経済学的な考え方を例を用いて説明します。
	2	経済学の課題と日本経済の現状の理解	教科書の第1部（pp. 2-56）を解説します。
	3	所得制約のもとで効用最大化を図る消費者行動の理論の理解	教科書の第2部第4章（pp. 58-74）を解説します。
	4	技術制約のもとで費用最小化を図る生産者行動の理論の理解	教科書の第2部第5章（pp. 75-92）を解説します。
	5	市場（しじょう）の分類と完全競争のもとでの市場均衡と調整過程の理論の理解	教科書の第2部第6章（pp. 93-110）を解説します。
	6	不完全競争市場では価格と数量はどのように決定されるかの理論の理解	教科書の第2部第7章（pp. 111-134）を解説します。
	7	マーケットメカニズム（市場機構）の優れた点とその限界としての市場の失敗の理解	教科書の第2部第8章（pp. 135-149）を解説します。
	8	比較優位の原理に基づく国際貿易と国際資本移動の理論の理解	教科書の第2部第9章（pp. 150-171）を解説します。
	9	不確実性や不完全情報のもとでの消費者行動や所得分配の不平等に関する理論の理解	教科書の第2部第10章（pp. 172-193）を解説します。
	10	GDPをはじめとする国民所得の諸概念と均衡所得の決定理論の理解	教科書の第3部第11章（pp. 196-209）と第3部第12章（pp. 210-221）を解説します。
	11	財市場と貨幣市場の理論であるIS-LM分析の理解	教科書の第3部第13章（pp. 222-237）を解説します。
	12	貨幣賃金上昇率と失業率との関係を示すフィリップ曲線、合理的期待仮説、為替レートの決定理論の大まかな理解	教科書の第3部第14章（pp. 238-256）、第15章（pp. 257-277）を解説します。
			事前・事後学習課題
			事前に教科書の第1部を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の第1部を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
			事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
			事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
			事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
			事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
			事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
			事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
			事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
			事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。

	13	景気循環ならびに経済成長の理論の理解とマクロ経済学の諸理論の背後にある個々人の合理的行動を分析するマクロ経済学のミクロ的基礎の大まかな理解	教科書の第3部第16章 (pp. 278-292)、第17章 (pp. 293-314) を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	14	経済学の新しい課題と直面している諸問題の解決に向けての取組の理解	教科書の第4部 (pp. 316-374) を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	15	まとめ:何を学んできたかの振り返り	教科書全体を対象に、これまでの14回の講義で説明してきたことの要点を説明します。	教科書全体を通じて、理解が難しかった概念や理論を書き出してから講義に臨んでください。
関連科目	医療経済論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経済学・入門	塩澤修平	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	第1回から第14回までの毎回の講義で課す課題に対するレポートが56%、定期試験が44%。			
学生への メッセージ	経済学は、消費者および生産者のよりミクロな(小さな)個別の行動に着目して分析するミクロ経済学と財市場や貨幣市場や労働市場やGDPなどのよりマクロな(大きな)観点から分析するマクロ経済学に大別されます。これらのミクロとマクロからの視点で経済学的に経済主体の行動原理や社会の仕組みを理論に基づいて理解していると、環境問題、経済格差問題、不況問題など、身の回りの諸問題の原因と解決策を考えるのに役立つだけでなく、診療報酬の決定や医療保険へ加入するかどうかの決定問題や増大する医療費問題など、看護学部の学生の皆さんの			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	教科書に基づき、またpdfファイルで配布する資料などを用いて、パワーポイントのスライドや板書を活用して講義を行います。各回の講義の事前学習として、各回の学習方法・自己学習課題の欄に示した教科書の指定箇所を一通り読んでください。(予習として30分)この際、理解できない箇所をノートに箇条書きにしておくなり、付箋(ポストイット)に書き込んで該当箇所に貼り付けておくといでしょう。講義の補助として、Moodleを利用して、各種資料、教材、講義のポイントをまとめたノートなどを提供します。			

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01312a1		

授業概要・目的	政治の主要な領域としては、①予算の決定・執行という配分に関わる領域と、②法の制定・施行という立法に関わる領域の二つがあります。これら二つの領域は、紀元前の政治学者アリストテレスの正義の区分に由来するものです。アリストテレスは、配分的正義・矯正的正義という二つの正義を実現するために政治活動は行われなければならないと考えました。 現代の日本の政治でも、配分的正義を実現するために予算の決定・執行を行い、矯正的正義を実現するために法の制定・執行を行っていることに変わりはありません。主権者である私たちは、デモクラシーに参加すべき市民の一人として、また法の下での平等のもとに一票を与えられた有権者の一人として、こうした正義を実現してより良い日本を創造するために政治に関与し続けねばなりません。 しかし主権者である私たちが一市民・一有権者として正しい政治的選択を行うためには、日本の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、政治学原論、日本の政治体制論、日本政治史にあたる内容を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、日本の政治の仕組み・歴史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手に対応するために、日本の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション—政治とは何か?	イントロダクションとして、本講義の内容と政治—国家の必要性について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
2	政治と権力①政治の条件とは何か?	身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
3	政治と権力②正当な権力とは何か?	マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
4	日本の政治システム①民主主義 (デモクラシー)	日本の政治が現在採用している民主主義 (デモクラシー) について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
5	日本の政治システム②選挙制度と国会	日本の選挙制度や国会について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
6	日本の政治システム③内閣	日本の内閣と今世紀の行政改革について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
7	戦前の日本の政治システム	戦前の日本の政治システムについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第七回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
8	戦後の日本政治①GHQ占領下の日本政治	戦後のGHQ占領下である1940年代後半の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第八回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
9	戦後の日本政治②サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約、55年体制の成立	日本独立期である1950年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第九回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
10	戦後の日本政治③日米安保闘争、高度経済成長、沖縄返還	安保闘争から高度経済成長へと入っていく1960年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
11	戦後の日本政治④自民党の派閥の興隆	自民党の中で田中派支配が行われていた1970年代、80年代の日本政治について	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十一回) を読み、マスメディアのニュースから政治の

			て授業します。	知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。																
	12	戦後の日本政治⑤政治改革と55年体制の終焉	日本で政治改革が吹き荒れた1980年代末から1990年代前半にかけての日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所(第十二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(30分)。																
	13	戦後の日本政治⑥自民党を中心とした連立政権の展開	自民党が連立政権を組むようになった1990年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所(第十三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(30分)。																
	14	戦後の日本政治⑦小泉劇場	新自由主義の傾向が強くなった2000年代前半の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所(第十四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(30分)。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(30分)。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。																
関連科目	中学・高校の公民、日本史など。大学の政治学原論、日本政治史など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治学</td> <td>久米郁男・川出良枝ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>18歳から考える日本の政治</td> <td>五十嵐仁</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社																	
2																				
3																				
評価方法(基準)	定期試験(約70%)と小テスト(約30%)で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%程度とします。																			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス11号館10階 和田研究室																			
備考																				

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01313a1		

授業概要・目的	本授業は、皆さんの「日常生活」および「医療従事者」として、法がどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、講義と関連する事件・ニュースの新聞記事を授業開始前までに Moodle に提出する。 授業後に質問コメントを Moodle に提出する。
科目学習の効果 (資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、医療従事者としての社会生活、そして日常生活に必ず役立ちます！

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法ってなんだろう？	講義の目的、進め方、成績評価／私たちの生活と法	評価の時期・方法・基準の項も参照のこと
2	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(1)	基本的人権、自己決定権、プライバシー、宗教の自由	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
3	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(2)	平等権、表現の自由、生存権、参政権	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理、難民	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
7	家族と法 (1) －結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、養子縁組	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
8	家族と法 (2) －親子関係小テスト	生殖補助医療、親権、後見制度、扶養、相続	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
9	日常生活のアクシデント－交通事故	交通事故、自動車、自転車	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
10	日常生活のアクシデント－医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
11	日常生活のアクシデント－製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
12	罪と罰－犯罪(1)	医療過誤と刑法 大阪地方検察庁検察官講義(予定)	
13	罪と罰－犯罪(2)	脳死・臓器移植と刑法、インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
14	労働・社会保障と法	労働契約、解雇・失業、子育て・介護	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
15	総括・テスト	今までの総括を実施する。	

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学概論－身近な暮らしと法	國友順市、畑雅弘(編著)	嵯峨野書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	1. テスト (総括的評価) 50% 2. 毎回新聞記事、質問コメントを記入し Moodle に期限までに提出する。 50% 3. 再受験者は、1. テストのみで評価します。
-----------	---

学生へのメッセージ	法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。 医療従事者として知らないではすまされない基礎知識があります。
-----------	--

	本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
担当者の研究室等	Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp
備考	<p>原則対面授業だが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、遠隔授業（教材・課題提供型授業）にて実施する場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義前の予習（教科書を読む。1時間×15回） 2. 復習（講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回） 3. 自己学習（講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する）

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 瑛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01313a1		

授業概要・目的	本授業は、皆さんの「日常生活」および「医療従事者」として、法がどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、講義と関連する事件・ニュースの新聞記事を授業開始前までに Moodle に提出する。 授業後に質問コメントを Moodle に提出する。
科目学習の効果 (資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、医療従事者としての社会生活、そして日常生活に必ず役立ちます！

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法ってなんだろう？	講義の目的、進め方、成績評価／私たちの生活と法	評価の時期・方法・基準の項も参照のこと
2	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(1)	基本的人権、自己決定権、プライバシー、宗教の自由	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
3	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(2)	平等権、表現の自由、生存権、参政権	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理、難民	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
7	家族と法 (1) －結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、養子縁組	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
8	家族と法 (2) －親子関係小テスト	生殖補助医療、親権、後見制度、扶養、相続	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
9	日常生活のアクシデント－交通事故	交通事故、自動車、自転車	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
10	日常生活のアクシデント－医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
11	日常生活のアクシデント－製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
12	罪と罰－犯罪(1)	医療過誤と刑法 大阪地方検察庁検察官講義 (予定)	
13	罪と罰－犯罪(2)	脳死・臓器移植と刑法、インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
14	労働・社会保障と法	労働契約、解雇・失業、子育て・介護	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
15	総括・テスト	今までの総括を実施する。	

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学概論－身近な暮らしと法	國友順市、畑雅弘(編著)	嵯峨野書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	1. テスト (総括的評価) 50% 2. 毎回新聞記事、質問コメントを記入し Moodle に期限までに提出する。 50% 3. 再受験者は、1. テストのみで評価します。
-----------	---

学生へのメッセージ	法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。 医療従事者として知らないではすまされない基礎知識があります。
-----------	--

	本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
担当者の研究室等	Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp
備考	<p>原則対面授業だが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、遠隔授業（教材・課題提供型授業）にて実施する場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義前の予習（教科書を読む。1時間×15回） 2. 復習（講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回） 3. 自己学習（講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する）

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Business administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小沢 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01314a1		

授業概要・目的	<p>経営学の基本について、全体を網羅して講義を行います。講義で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。</p> <p>この講義では、現代の企業や会社組織における運営のあり方について真剣に議論していく中で、経営学の基本的なことを学びます。</p> <p>身の回りのものを眺めるだけで、本講義で説明する理論と深く関係する事例が見つかるはず。経営学を深く学ぶということは、様々な学問分野の基礎を学ぶ事にもつながります。それは、これからの皆さんの人生をより豊かなものとする第一歩になるでしょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 現代企業に関する個々の理論にみえる考え方の全体像を把握した上で、現実には生じる物事を考える姿勢を身に付ける 実際に組織構造やビジネス・システムを構築する際の基本となる「概念的な」道具立てを知る 複数の考え方を駆使して、自分たちの置かれた状況を多面的に読み解く 専門用語に目を奪われることなく、「もの見方」を習得する
授業方法と留意点	この講義は、基本的に教科書と、私の用意する教材を基に講義を進めていきます。また座学だけでなく、実在する企業のケースを元に、組織の仕組みに関する巧拙や組織マネジメントのあり方などについて、議論を行います。よって学習課題への返答を求めるなど、参加を重視します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	はじめに	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく	事後：講義内容を復習する
2	企業経営の全体像	企業経営を中心に講義します	事前：教科書の第1章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
3	経営学の全体像	経営学の特徴や、経済学との違いについて講義します	事前：教科書の第2章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
4	企業と社会	株式会社制度などについて講義します 場合によっては、企業の社会的責任にテーマを変える時もあります (その折は、事前にお知らせします)	事前：教科書の第3章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
5	企業とインプット	金融資本や労働に関する市場について、学びます	事前：教科書の第4章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
6	企業とアウトプット	製品やサービスの市場について、考えます	事前：教科書の第5章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
7	競争戦略のマネジメント 1	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の第6章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
8	競争戦略のマネジメント 2	違いを作る3つの基本戦略と、仕組みの競争について、講義します	事前：教科書の第7章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
9	マーケティング	製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます	事前：事前の配布資料を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
10	多角化戦略のマネジメント	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の第8章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
11	国際化のマネジメント	企業が国境を越える理由について、講義します	事前：教科書の第9章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
12	マクロ組織のマネジメント	企業が活動できる仕組みを学びます	事前：教科書の第10章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
13	ミクロ組織のマネジメント	インセンティブ・システムやリーダーシップについて学びます	事前：教科書の第11章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
14	キャリアデザイン	キャリアについて考えます	事前：教科書の第12章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
15	病院組織のマネジメント	経営学の広がりについて講義します	事前：教科書の第14章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経営学 (第3版)	加護野 忠男・吉村 典久 (編著)	碩学舎
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	市場再活性化のメカニズム	小沢 貴史	千倉書房
2	新 経営戦略論 (第3版)	寺本 義也・大森 信 (編著)	学文社	
3	新 経営戦略論	寺本 義也・岩崎 尚人 (編集)	学文社	

評価方法 (基準)	<p>この講義では、レポートを2回、課します。レポートは、指定する期日 (講義の中でお知らせします) までに提出してください。期日を遅れて提出した場合は、減点の対象となります。</p> <p>2回のレポートと、出席および教材へのアクセス状況を加味して、総合的に評価します。レポートの評価項目は、次の通りです。</p> <p>「重要な要因や問題の識別」 「論理一貫性」、「客観性」</p>
-----------	---

	「分析内容の完結性」 「適切な概念やモデルの適用」
学生への メッセージ	受講される皆さんは、組織論や戦略論、マーケティング論などを問わず、さまざまな分野の本を余力のあるうちに読んでおいてください。たとえば社会学や心理学、経済学、歴史学、哲学などです。自分の関心のある分野で結構です。無理なく読んでいただき、その本の考え方を吸収してください。
担当者の 研究室等	担当者は、非常勤講師です。
備考	

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01315a1		

授業概要・目的
女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。

到達目標
女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
後期初回授業は Teams にてオンデマンド配信とします。授業時間までに内容（動画リンクと資料）をアップしますので、視聴し、期日までに課題フォームへの入力をお願いいたします。

各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。

科目学習の効果（資格）
様々な角度からの議論を紹介していきたいと思えます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと思えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション／女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習（1時間）
2	メディアの中の男女のイメージ（1）	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習（1時間）・意識的にメディアを視聴し次回に備える（1時間）。
3	メディアの中の男女のイメージ（2）	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習（1時間）・意識的にメディアを視聴する（1時間）
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー（1）	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー（2）	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー（3）	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐる、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
11	労働と社会（1）	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習（1時間）・事例を探すレポート（1時間） 次回テーマについての予習（1時間）
12	労働と社会（2）	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性（男性）か、について考える。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習（1時間）・次回テーマについての予習（1時間）
15	今日的課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習（2時間）

関連科目
社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 (30%)、最終レポート (70%) により総合評価する。			
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起きているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考	状況によりオンライン (オンデマンド) 授業となります。その場合、授業時間までに内容 (動画リンクと資料) をアップしますので、視聴し、期日までに課題フォームへの入力をお願いいたします。			

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀 利江
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01316a1		

授業概要・目的	観光は、「平和へのパスポート」と言われ、国際的、文化的な交流を促進するとともに、人々の健康で豊かな生活や地域経済の活性化に貢献しています。本授業では、観光学の基礎知識を修得し、異文化や観光地に対する理解を深め、獲得した知識を社会に役立てることを目的とします。近年の旅行市場の動向や地域観光の現状と課題を踏まえ、アフターコロナ時代を見据えた、持続可能な観光について考えます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 観光の役割と現代観光の特徴について説明することができる。 観光に関する文献や資料を理解する力を身につける。 観光資源の現状と課題を調査し、課題の解決に向けて自ら意見を述べるることができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義を中心に授業を進めます。 教科書は用いません。毎回、プリントを配布します。 授業終了時に、毎回、リアクションペーパーを提出してもらいます。発問への答えやアンケートを求める場合があり、それらは全員で共有し、授業内で発表してもらうこともあります。
科目学習の効果 (資格)	観光に関わる基礎知識を修得します。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 観光と観光学	授業の進め方や課題の調査レポートについて確認する。 観光の概念や定義、観光資源等、観光に関する基礎用語を学ぶ。	事後学習 (2時間)
2	観光史 I	古代から近代までの、主に欧州の歴史を学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
3	観光史 II	古代から近代までの、主に江戸時代の旅を学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
4	観光政策	戦後、日本のマストツーリズムが進展した要因を確認する。 日本の観光政策の流れを理解する。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
5	旅行市場	世界と日本の旅行市場の全体像を掴み、現状を理解する。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
6	観光産業と観光統計	観光産業の定義や観光統計の概要を学ぶ。 旅行業と運輸業の特性を理解する。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
7	宿泊業	宿泊業の特性を学び、多様化する宿泊施設について理解する。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
8	温泉と温泉地	温泉の効能や、観光地として発展した温泉地の現状と課題を理解する。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
9	事例研究 I	リゾート開発の流れを踏まえ、事例として星野リゾートの経営戦略について考える。	事前学習 (2時間)・事後学習 (2時間)
10	事例研究 II	レジャー産業の動向を学び、事例として TDR (東京ディズニーリゾート) と USJ (ユニバーサル・スタジオ・ジャパン) の事業戦略について考える。	事前学習 (2時間)・事後学習 (2時間)
11	文化遺産	世界遺産や文化庁認定の日本遺産、文化財の観光活用について学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
12	地域発ニューツーリズム	観光地域づくりと地域資源を活かした多種多様なニューツーリズムを学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間) 課題レポートの作成 (5時間)
13	博覧会と観光	博覧会の歴史を紐解き、観光の発展に博覧会が果たした役割を理解する。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
14	MICEとIR	MICE (マイス) 誘致に関わる IR (統合型リゾート) の動きについて考える。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
15	持続可能な観光に向けて	これまでの授業を振り返り、まとめにかえて、持続可能な観光について考える。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 観光学	竹内正人・竹内利江・山田浩之	ミネルヴァ書房
2	観光学ガイドブック	大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治	ナカニシヤ出版	
3	観光学の基礎	溝尾義隆	原書房	

評価方法 (基準)	定期試験 50% レポート 30% 毎回の提出物 20%
-----------	------------------------------------

学生へのメッセージ
観光は日常生活から解放され、精神的にも肉体的にもリフレッシュできる側面があります。日頃から様々な観光地や温泉地の情報を収集し、その魅力や課題について考えてみてください。

担当者の

研究室等	
備考	非常勤講師室（相談可能時間：月曜日 12 時 30 分～13 時 10 分） horitoshie2022@gmail.com

科目名	生物・化学の基礎	科目名 (英文)	Biology and Chemistry
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石丸 侑希
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NNA1318a1		

授業概要・目的	生物・化学は、看護師を目指す学生が専門科目を学ぶ上で基礎となる学問である。しかしながら、高校での履修科目のみでは不十分な点も多く、更には、高校時代に生物、化学を選択しなかった、あるいは生物、化学のみを選択した学生もいる。したがって、本科目では、専門科目の履修に必要な生物、化学に関する基礎力を修得することを目的とする。
到達目標	医療・健康に関する領域はもちろん、自然界で生じる現象について基礎的な範囲で科学的に説明できる。 将来、共に仕事をする医師や薬剤師などの医療スタッフとの共通知識基盤としての生物、化学の基礎知識を習得し、その知識に基づいた思考力を身につける。
授業方法と留意点	授業は講義と演習により行います。 事前学習用の動画を Teams に配信する場合がありますので、その際は授業開始までに必ず視聴してください。 授業中に学習内容の理解度を測るための確認試験を行います。確認試験は Teams を介して Forms で提供する予定ですのでアクセス可能なデバイス (パソコン、タブレット、スマホなど) を必ず持参してください。
科目学習の効果 (資格)	生物・化学は、職業人の教養として必要であり、また、専門家を目指す上での基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	化学結合	イオン結合からなるイオン結晶の性質、共有結合からなる分子構造と性質について学ぶ。	同上
3	物質と化学反応式	物質と質量の関係、溶液と濃度、化学変化を化学反応式を用いて表現することを学ぶ。	同上
4	酸と塩基、酸化還元反応	酸と塩基の定義と性質、強弱について学ぶ。酸化と還元反応の定義と反応、強弱について学ぶ。	同上
5	酵素反応と酸塩基平衡	化学反応が起こるしくみと酵素反応の特徴について学ぶ。化学平衡と体液の酸塩基平衡について学ぶ。	同上
6	生命体を構成する物質	生体を構成する成分 (タンパク質、糖質、脂質、核酸、ビタミンおよびミネラル) の特徴を理解するとともに、吸収と分解・排泄のメカニズムについて学ぶ。	教科書の該当範囲を読んで予習・復習を行う (1時間)
7	細胞の構造と生命誕生	細胞が生命としての最小単位であることを知り、細胞の基本構造とその多様性を認識するとともに、生命体の起源や多細胞生物の成り立ちを学ぶ。	同上
8	遺伝子の構造と機能	遺伝子を構成する成分について知るとともに、セントラルドグマに関連する分子的背景を理解する。	同上
9	生体とエネルギー	生体内で代謝活動を営む酵素の働きや性質を理解するとともに、生体エネルギーの産生を行う代謝系 (解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系) について学ぶ。	同上
10	細胞の分裂・情報伝達・がん化	細胞の増殖と分化のしくみと意義を理解するとともに、現代の三大疾病の一つである「がん」の基礎的知識を習得する。	同上
11	生命体の受精と成長	生命体の永続性の知識を深めるために、生命における生殖と発生、さらに成長と老化について習得する。	同上
12	多細胞生物の自己維持機構①	多細胞生物では個体の生命を維持するために細胞間情報伝達システムが不可欠であることを理解するとともに、生体維持機構と生体防御機構の基本的なしくみを学ぶ。	同上
13	多細胞生物の自己維持機構②	同上	同上
14	遺伝のしくみと遺伝病①	遺伝の生物学的な機構を理解するとともに、医療応用として、ヒトの遺伝性疾患の基礎的知識を習得する。	同上
15	遺伝のしくみと遺伝病②	同上	同上

関連科目	人体の構造と機能、代謝栄養学、感染と防御、薬理学総論、薬物治療学
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎生物学	南雲保 他	羊土社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生理学・生化学につながる ていねいな化学	白戸亮吉、小川由香里、鈴木研太	羊土社

	2			
	3			
評価方法 (基準)	確認試験及び定期試験により評価する（確認試験 30%、定期試験 70%）。100 点満点中 60 点以上で合格とする。 再受験者は定期試験（100%）で評価する（100 点満点中 60 点以上で合格）。			
学生への メッセージ	化学、生物共に苦手とする学生さんが多いと思います。 意欲的に学習できるようにサポートしていきますので、何事にも興味をもって取り組んでいただければと思います。 勉強する過程で疑問が生じたら、まずは自分で調べてみてください。それでも解決しない場合は遠慮なく相談しに来てください。 授業中に Teams を利用する予定ですのでアクセス可能なデバイス（パソコン、タブレット、スマホなど）を必ず持参してください。			
担当者の 研究室等	1 号館 3 階 薬物治療学研究室			
備考				

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐合 紀親
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NNA1319a1		

授業概要・目的	教養数学では、看護学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、看護学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義を中心に授業を進める。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。 事前・事後学習は毎回4時間以上かけること。 事前:テキストを事前に読んで準備する(1時間以上) 事後:授業で学んだ範囲を復習する、課題レポートに取り組む(3時間以上)
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・関数と極限	課題レポート
	2	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数 ・冪関数の微分	課題レポート
	3	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	4	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	5	微分の基本	・微分と変化率 ・速度と加速度	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則 ・指数関数と対数関数の導関数	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・指数関数、対数関数を含む関数のグラフ	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・不定積分の定義 ・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型微分方程式 ・1階線型微分方程式	課題レポート

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題レポートで30% 期末課題70%の合計によって判断する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。講義を聞くだけ、テキストを読むだけでは数学は身につけません。授業で学んだ内容は自分で手を動かして確かめるように心掛けましょう。分からないことがあれば、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	連絡先メールアドレスは初回授業でお伝えします。メールを送る際は、必ず氏名、学籍番号、所属、コース名を本文に分かるように書いてください。
備考	課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リオン タウンゼンド
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。

授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常
----------	---

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation and Introduction	Explanation of the class, syllabus, rules & grading Introduction of students & teacher	Active participation
	2	Unit 1 - People	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, conversation skills.	Active participation
	3	Unit 1 - People	Reading comprehension, writing, speaking practice, presentation skills.	Active participation Conversation Test 1
	4	Unit 2 - A Day in the Life	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, conversation skills.	Active participation
	5	Unit 2 - A Day in the Life	Reading comprehension, writing, speaking practice, presentation skills.	Active participation Graded Dialogue 1
	6	Unit 3 - Going Places	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, conversation skills.	Active participation
	7	Unit 3 - Going Places	Reading comprehension, writing, speaking practice, presentation skills.	Active participation
	8	Student Presentations Vocabulary Test	Student Presentations on a textbook topic Vocabulary Test	Active participation Student presentations Vocabulary Test
	9	Unit 4 - Food	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, conversation skills.	Active participation
	10	Unit 4 - Food	Reading comprehension, writing, speaking practice, presentation skills.	Active participation
	11	Unit 5 - Sports	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, conversation skills.	Active participation Conversation Test 2
	12	Unit 5 - Sports	Reading comprehension, writing, speaking practice, presentation skills.	Active participation
	13	Unit 6 - Destinations	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, conversation skills.	Active participation Graded Dialogue 2
	14	Unit 6 - Destinations	Reading comprehension, writing, speaking practice, presentation skills.	Active participation
15	Student Presentations Vocabulary Test Course Review	Student Presentations on a textbook topic Vocabulary Test	Active participation Student presentations Vocabulary Test	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World English 1 (Third Edition)	John Hughes & Martin Milner	National Geographic Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80%			
学生への メッセージ	1. Please use English with your classmates to improve your speaking ability. 2. The 全学英語共通課題 (English Central) test is 20% of your final score. Please don't forget to take it. 3. Please be respectful of others and be prepared to work with others in cla			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ヘドリック III ロイ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 事前: 前の授業で学んだ範囲を復習する (15 分以上) 事後: 授業で学んだ範囲を復習する (30 分以上)
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	テキストの使用法の説明。 リスニングとスピーキングの活動方法の説明。	事前: なし 事後: PC の使用方法を確認し、実際にリスニングを行うこと。
2	病室内の施設の名称 (テキスト Chapter 1)	テキストからのリスニング 病室内の施設の名称を覚え、使えるようにする。	事前: Unit 1 のリスニング予習 事後: 病室内の施設の名称を復習
3	バイタルサイン測定 (テキスト Chapter 2)	テキストからのリスニング バイタルサイン測定について、必要な応答ができるようにする。	事前: Unit 2 のリスニング予習 事後: どのような対応があるのかを復習
4	痛みの程度を聞く (テキスト Chapter 3)	テキストからのリスニング 痛みの程度について必要な応答ができるようにする。	事前: Unit 3 のリスニング予習 事後: どのように痛みの程度を聞くのかを復習。
5	症状の表現 (テキスト Chapter 4)	テキストからのリスニング 症状について、必要な事柄を英語で表現する。	事前: Unit 4 のリスニング予習 事後: 症状の表現について復習
6	体の動きの表現 (テキスト Chapter 5)	テキストからのリスニング 体の動きについて英語で表現する。	事前: Unit 5 のリスニング予習 事後: 身体部位の知識を深める。
7	検査についての表現 (テキスト Chapter 6)	テキストからのリスニング 検査の際に必要な手続きについて知る。さらにそれを英語で理解する。	事前: Unit 6 のリスニング予習 事後: 検査についての一般的な事柄を知る。
8	中間のまとめ (テキスト Chapter 7)	テキストからのリスニング 医療英語について知り、それを英語で表現する。	事前: Unit 7 のリスニング予習 事後: 学んだ英語表現ができるようにする。
9	日常の看護についての表現 (テキスト Chapter 8)	テキストからのリスニング 前回に続いて、日常の看護内容について知り、それを英語で表現をする。	事前: Unit 8 のリスニング予習 事後: 学んだ英語表現ができるのようになる。
10	与薬についての表現 (テキスト Chapter 9)	テキストからのリスニング、 与薬に関する英語表現を知り、それを英語で表現をする。	事前: Unit 9 のリスニング予習 事後: 与薬についての理解を深める。
11	排泄についての表現 (テキスト Chapter 10)	テキストからのリスニング 排泄に関する表現を知り、それを英語で表現をする。	事前: Unit 10 のリスニング予習 事後: 排泄についての理解を深める
12	慢性疾患についての表現 (テキスト Chapter 11)	テキストからのリスニング よく使われる慢性疾患の名称を知る。	事前: Unit 11 のリスニング予習 事後: 慢性疾患についての理解を深める。
13	急性、緊急医療についての表現 (テキスト Chapter 12)	テキストからのリスニング 急性、緊急医療についての表現を知る。	事前: Unit 12 のリスニング予習 事後: 急性、緊急医療について理解を深める。
14	急性、緊急医療についての表現 (テキスト Chapter 12)	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践
15	授業内容から医療関係 Reading のまとめ	ポイントを押さえながら、理解していることの教科書確認	事前: 授業で取り上げられた医療内容の復習 事後: 期末テストの準備

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Talking with Your Patients in English	Mitsuko Hirano, Christine D. Kuramoto, Ryota Ochiai	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 定期試験 30% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 50%		
学生への メッセージ	語学学習には、映画や音楽、テレビドラマやスポーツ中継など、興味のあるものを原語で楽しむことが効果的です。		
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要の説明	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 次回の授業内容の予習
2	Unit 1 The Sky Lodge: An Unusual Hotel	休暇に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
3	Unit 1 The Sky Lodge: An Unusual Hotel	休暇に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
4	Unit 2 Japanese High School Life	学校生活に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
5	Unit 2 Japanese High School Life	学校生活に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
6	Unit 3 Sloth Calendar	人生観に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
7	Unit 3 Sloth Calendar	人生観に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
8	Unit 4 The Skate Brothers	趣味に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
9	Unit 4 The Skate Brothers	趣味に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
10	Unit 5 Picnic Snack Ideas	食に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
11	Unit 5 Picnic Snack Ideas	食に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
12	Unit 6 Volcano Adventure	科学技術に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
13	Unit 6 Volcano Adventure	科学技術に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
14	Unit 7 Crazy Rides	乗物に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
15	Unit 7 Crazy Rides	乗物に関する表現 応用演習	Final (実力チェック) 60 分程度 ・ 全授業内容の復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Expanding Horizons	ブラウン/田邊	南雲堂
	2	英語の正しい発音の仕方 (基礎編)	岩村圭南	研究社
	3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (English Central) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80%
学生への メッセージ	入学おめでとう。これからの4年間、どんなことをやりたいですか。世の中が落ち着いたら、ひとりで外国を旅してくるのはどうでしょう。若い旅行者の集まる安宿が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語... いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュも臆せず使えるようになります。海外での一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分
担当者の 研究室等	1号館 2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ	科目名 (英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リオン タウンゼンド
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。

授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常
----------	---

科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等
-------------	------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation and Introduction	Explanation of the class, syllabus, rules & grading Introduction of students & teacher	Active participation
	2	Unit 7 - Communication	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, conversation skills.	Active participation
	3	Unit 7 - Communication	Reading comprehension, writing, speaking practice, presentation skills.	Active participation Conversation Test 1
	4	Unit 8 - Making Plans	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, conversation skills.	Active participation
	5	Unit 8 - Making Plans	Reading comprehension, writing, speaking practice, presentation skills.	Active participation Graded Dialogue 1
	6	Unit 9 - Types of Clothing	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, conversation skills.	Active participation
	7	Unit 9 - Types of Clothing	Reading comprehension, writing, speaking practice, presentation skills.	Active participation
	8	Student Presentations Vocabulary Test	Student Presentations on a textbook topic Vocabulary Test	Active participation Student presentations Vocabulary Test
	9	Unit 10 - Lifestyles	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, conversation skills.	Active participation
	10	Unit 10 - Lifestyles	Reading comprehension, writing, speaking practice, presentation skills.	Active participation
	11	Unit 11 - Achievements	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, conversation skills.	Active participation Conversation Test 2
	12	Unit 11 - Achievements	Reading comprehension, writing, speaking practice, presentation skills.	Active participation
	13	Unit 12 - Decisions	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, conversation skills.	Active participation Graded Dialogue 2
	14	Unit 12 - Decisions	Reading comprehension, writing, speaking practice, presentation skills.	Active participation
15	Student Presentations Vocabulary Test Course Review	Student presentations on a textbook topic Vocabulary Test	Active participation Student presentations Vocabulary Test	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World English 1 (Third Edition)	John Hughes & Martin Milner	National Geographic Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% TOEIC Bridge ...10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...70%			
学生への メッセージ	1. Please use English with your classmates to improve your speaking ability. 2. The 全学英語共通課題 (English Central & TOEIC Bridge) tests are 30% of your final score. Please don't forget to take them. 3. Please be respectful of others and be prepared to work			
担当者の 研究室等	1号館 2階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 事前:前の授業で学んだ範囲を復習する(15分以上) 事後:授業で学んだ範囲を復習する(30分以上)
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について ①教科書:Unit 1 Restaurant ②Handouts	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	事前:なし 事後:PCの使用方法を確認し、実際にリスニングを行うこと。
2	①教科書:Unit 2 Entertainment ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	事前:Unit 2のリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
3	①教科書:Unit 3 Business ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	事前:Unit 3のリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
4	①教科書:Unit 4 Office ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	事前:Unit 4のリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
5	①教科書:Unit 5 Telephone ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	事前:Unit 5のリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
6	①教科書:Unit 6 Letter & E-mail ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	事前:Unit 6のリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
7	①教科書:Unit 7 Health ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	事前:Unit 7のリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
8	①教科書:Unit 8 Bank & Post Office ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	事前:Unit 8のリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
9	①教科書:Unit 9 New Products ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	事前:Unit 9のリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
10	①教科書:Unit 10 Travel 1 ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	事前:Unit 10のリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
11	①教科書:Unit 11 Travel 2 ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	事前:Unit 11のリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
12	①教科書:Unit 12 Job Applications ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	事前:Unit 12のリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
13	①教科書:Unit 13 Shopping ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	事前:Unit 13のリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
14	①教科書:Unit 14 Education ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	事前:Unit 14のリスニング予習 事後:病室内の施設の名前を復習
15	Final Review	既習範囲の総復習 定期試験(後期末)の準備	事前:授業で取り上げられた医療内容の復習 事後:期末テストの準備

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	吉塚 弘, Michael Schaurte	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和辞典・和英辞典		
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 TOEIC Bridge	20% 10%
----------	--------------------------	------------

	定期試験 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	30% 40%
学生への メッセージ		
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。	

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 8 The Climate Heroes	社会問題に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	2	Unit 8 The Climate Heroes	社会問題に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	3	Unit 9 A Different Kind of Journey	旅に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	4	Unit 9 A Different Kind of Journey	旅に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	5	Unit 10 Chris, the Comic Book Writer	マンガに関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	6	Unit 10 Chris, the Comic Book Writer	マンガに関する表現 応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	7	Unit 11 Sharing Life with 1,000 Cats	ペットに関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	8	Unit 11 Sharing Life with 1,000 Cats	ペットに関する表現 応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	9	Unit 12 Living in 1927	歴史に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	10	Unit 12 Living in 1927	歴史に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	11	Unit 13 Our Clothes	衣服に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	12	Unit 13 Our Clothes	衣服に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	13	Unit 14 Food, Growing Cities	食料に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	14	Unit 14 Food, Growing Cities	食料に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習
	15	総まとめ	要点整理	Final (実力チェック) 60分程度 ・全授業内容の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Expanding Horizons	Browne/田邊	南雲堂
	2	英語の正しい発音の仕方(基礎編)	岩村圭南	研究社
	3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (English Central) ...20% TOEIC Bridge ...10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...70%
学生への メッセージ	後期の授業では、よりアウトプット (書く・話す) を意識した訓練を行っていきます。相手に伝えたい内容が少し複雑だったりすると、「自分の英語力では無理だ」と諦めていませんか。皆さんが持っている英語の知識 (単語・文法など) は、既に膨大な量です。それらをうまく組み合わせることで、複雑な内容でも簡単な表現で伝えることができますようになります。そのための様々な訓練を行っていきます。楽しみながら力をつけてください。
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	中国語	科目名 (英文)	Chinese
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	薬 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NCH1328e1		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、基本句型を使った日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を味わうことができる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な句型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	発音要領と基礎文法の解説、会話文の朗読練習を通じて、読む・聴く・話す・書くという四つの基礎能力を身につける。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音編 発音 (1) 声調・母音 発音 (2) 子音・軽声	・中国語の音節 ・声調 (アクセント) ・母音 (単母音、複母音) ・子音 ・軽声	p12～p19 の録音を聞いて、 発音を練習をすること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
2	発音 (3) 鼻母音・声調変化 発音 (4) 声調の組み合わせ・r 化音 名前の言い方 月日の表現	・母音 (鼻母音) ・声調変化 ・声調の組み合わせ ・r 化音 ・名前の言い方 ・月日の表現	p20～p30 の録音を聞いて、 発音とフレーズを練習をすること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
3	本編 第 1 課 中国のかたですか?	・動詞述語文 ・疑問文 ・指示代名詞 ・家族名称 ・会話 (中国のかたですか)	p 32～p 35 の録音を聞いて、 第 1 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (P94) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
4	第 2 課 あなたの家はどこにありますか?	・形容詞述語文 ・所有の「有」 ・動詞構文の基本語順 ・「的」の使い方 ・副詞「也」など ・会話 (あなたの家はどこにありますか)	p36～p 39 の録音を聞いて、 第 2 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p95) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
5	★単元テスト 1 第 3 課 今日はどこに行きますか?	・動詞「有」と「在」 ・連動文 ・助動詞「想」と「要」の用法 ・時間詞の位置 ・会話 (今日どこに行きますか)	p 40～p 43 の録音を聞いて、 第 3 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p96) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
6	第 4 課 娘は切符を買う必要がありますか?	・年齢の言い方 ・～と「和」 ・時刻の言い方 ・連体修飾語 ・会話 (娘は切符を買う必要がありますか)	p44～p47 の録音を聞いて、 第 4 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p97) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
7	第 5 課 お手伝いしましょうか?	・助動詞「会」と「能」の用法 ・文末の「了」 ・数量詞 ・介詞「給」 ・会話 (お手伝いしましょうか)	p50～p53 の録音を聞いて、 第 5 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p98) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
8	第 6 課 ちょっと見てもいいですか?	・助動詞「可以」 ・完了の「了」 ・助詞「一下」 ・時間量の言い方 ・会話 (ちょっと見てもいいですか)	p54～p 57 の録音を聞いて、 第 6 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p99) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
9	第 7 課 旅行で来たのですか?	・介詞「在」 ・時量 ・「是～的」構文 ・～するつもり「打算」 ・過去の経験を表す「過」 ・会話 (旅行で来たのですか)	p58～p61 の録音を聞いて、 第 7 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p100) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
10	★単元テスト 2 第 8 課 もちろん登ってみたいです。	・結果補語 ・疑問詞の不定用法 ・介詞「離」 ・方向補語 ・動詞の重ね型 ・会話 (もちろん登ってみたいです)	p62～p65 の録音を聞いて、 第 8 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p101) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
11	第 9 課 道に迷いましたか?	・進行形 ・介詞「从」 ・副詞の「就」 ・反復疑問 ・会話 (道に迷いましたか)	p68～p71 の録音を聞いて、 第 9 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p102) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。
12	第 10 課 まず販売機で食券を買います。	・「把」の構文 ・方位詞 ・存現文 ・二重目的語	p72～p 75 の録音を聞いて、 第 10 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p103) を解答すること (事前・事後をあわせて1時間の学習を行う)。

			・会話（まず販売機で食券を買います）	
	13	第11課 ビールを注文しました。	・持続の「着」 ・可能補語 ・使役文 ・比較文 ・会話（ビールを注文しました）	p76～p79の録音を聞いて、第11課の単語、例文、会話を覚え、練習問題（p104）を解答すること（事前・事後をあわせて1時間の学習を行う）。
	14	第12課 中国語がお上手ですね。	・様態補語 ・助動詞「應該」と「得」 ・離合詞 ・選択疑問文 ・会話（中国語がお上手ですね）	p80～p83の録音を聞いて、第12課の単語、例文、会話を覚え、練習問題（p105）を解答すること（事前・事後をあわせて1時間の学習を行う）。
	15	第1～12課の総合復習 ★単元テスト3	第1～12課の総合復習・文法まとめ、 質問解答	第1～12課授業内容の復習をすること（事前・事後をあわせて1時間の学習を行う）。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語のおもてなし（入門編）	相原茂（監修）、本間由香利・蘇紅著	郁文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：50% 単元テスト：50%			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室（1号館2階）			
備考	質問等は授業後、もしくは出講日の非常勤講師室にて対応する。			

科目名	韓国語	科目名 (英文)	Korean
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 漢拏
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NK01329e1		

授業概要・目的	この授業は、韓国語に初めて触れる受講生を対象とするものです。授業を通して、韓国語の文字であるハングルの構成、書き方やその発音を学び、韓国語の基礎を身につけます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 韓国語の文字の読み書きができるようになる。 簡単な自己紹介ができるようになる。
授業方法と留意点	<p><授業方法></p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を中心に、文字の構成、書き方、発音を学んでいく。 必要に応じてワークシートなどを用いて文字を覚えるための練習を行う。 <p><留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> 慣れない言語、文字体系を覚えるためには十分な時間の学習と努力が必要となります。授業での練習、事前事後の復習と課題にしっかり取り組むようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	韓国語の基礎を身につけることで、韓国社会やその文化への理解を深める。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ハングルの歴史と構成に関する説明 授業の進め方、評価など授業の運営についてのオリエンテーション 	特になし
2	文字を覚える 1 (I-1 母音字 1)	<ul style="list-style-type: none"> 8つの母音の書き方、読み方を学ぶ 当該母音が含まれる単語を用いて練習 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 I-1 課の復習 課題
3	文字を覚える 2 (I-2 子音字 1)	<ul style="list-style-type: none"> 4つの子音字の書き方、読み方、文字の構成を学ぶ 当該子音が含まれる単語を用いて練習 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 I-2 課の復習 課題
4	文字を覚える 3 (I-3 母音字 2)	<ul style="list-style-type: none"> 7つの母音の書き方、読み方を学ぶ 当該母音が含まれる単語を用いて練習 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 I-3 課の復習 課題
5	文字を覚える 4 (I-4 子音字 2)	<ul style="list-style-type: none"> 5つの子音字の書き方、読み方を学ぶ 5つの激音の書き方、読み方を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 I-4 課の復習 課題
6	文字を覚える 5 (I-5 パッチム)	<ul style="list-style-type: none"> パッチム (終声) の構造、発音を学ぶ パッチムのある単語を用いて練習 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 I-5 課の復習 課題
7	文字を覚える 6 (I-6 母音字 3)	<ul style="list-style-type: none"> 6つの母音の書き方、読み方を学ぶ 当該母音が含まれる単語を用いて練習 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 I-6 課の復習 課題
8	文字を覚える 7 (I-7 子音字 3)	<ul style="list-style-type: none"> 5つの濃音の書き方、読み方を学ぶ 平音、激音、濃音の練習 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 I-7 課の復習 課題
9	文字のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト これまで習った文字の組み合わせ方の総まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> これまで学んだ母音、子音の組み合わせ方、書き方、発音を復習
10	会話と文法 (導入)	<ul style="list-style-type: none"> 分かち書き 6つの発音規則 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 I-8 課の復習 教科書 p.30-32 の複写 (推奨)
11	会話と文法 (II-1 こんにちは。)	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧語尾「-です」「-ですか」 助詞「-は」の練習 	教科書 II-1 課の復習
12	会話と文法 (II-1 こんにちは。)	<ul style="list-style-type: none"> 本文 (p.34) の練習 各自の自己紹介の練習 	教科書 II-1 課の復習
13	会話と文法 (II-2 これは何ですか。)	<ul style="list-style-type: none"> 指示詞「この、その、あの」 助詞「-が」 助詞「-だけ」 	教科書 II-2 課の復習
14	会話と文法 (II-2 これは何ですか。)	<ul style="list-style-type: none"> 前回学んだ文法の復習 本文 (p.38) の練習 	教科書 II-2 課の復習
15	前期の総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 前期学んだ内容の総まとめ 期末評価に向けての質問 	教科書 I-1 から II-2 までの復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	チュクチュクキャラネ (ぐんぐん伸びる韓国語初級)	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業参加状況、課題、小テスト)50% 期末試験50%
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	授業の進み具合、受講生の理解度に応じて、授業内容や利用するツールが変更になる可能性があります。
----	---

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NJA1330a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書 p. 7～12 を復習する (一時間程度)
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書 p. 13～17 および配布プリントを復習する (一時間程度)
4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書 p. 1～18 を復習する (一時間程度)
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書 p. 19～22 を復習する (一時間程度)
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書 p. 23～26 および配布プリントを復習する (一時間程度)
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践 (要約文の作成)	教科書 p. 1～26 および配布プリントを復習する。返却された課題を見直す。(一時間程度)
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書 p. 27～31 および配布プリントを復習する (一時間程度)
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書 p. 32～37 および配布プリントを復習する (一時間程度)
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書 p. 38～39 および配布プリントを復習する (一時間程度)
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書 p. 32～39 を復習する (一時間程度)
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む (一時間程度)
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書 p. 32～39 を復習する。返却された課題を見直す。(一時間程度)
14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書 p. 1～39 を復習する (一時間程度)
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	教科書 p. 1～39 を復習する (一時間程度)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の研究室等	1号館2階（非常勤講師室）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。遠隔授業になった場合は、Gmail もしくは Teams にて対応。

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑥, DP8②		
科目ナンバリング	NMA1331a1		

授業概要・目的	大学生生活で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」についてテキストを用いた学習と確認テストにより知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前: 情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す (30 分) 事後: 事後課題の完成 (30 分)
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 文字、段落、セクションの書式設定	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
4	【Word】 表やリストの作成	デジタル時代の著作権 (2) 表の作成と修正・装飾 リストを作成・変更する 表内でのタブ設定	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
5	【Word】 グラフィック要素の挿入と書式設定 ドロー描画	ネット社会に潜む危険と対策 (1) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する SmartArt の挿入・書式設定 ドローツールによる描画	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
6	【Word】 文書作成の振り返り	文書作成テスト演習	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前: 発表練習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 ワークシートやブックの作成の管理	メールによるコミュニケーション ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 セルやセル範囲のデータ管理	Web によるコミュニケーション (1) セルの参照方式 セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 見せる表の作成	Web によるコミュニケーション (2) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	Web によるコミュニケーション (3) グラフを作成する グラフのパーツ グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	モバイル機器の活用と管理 関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)

	14	【Word & Excel】 連携課題演習	情報モラルとセキュリティの振り返り 表やグラフなどのオブジェクトを取り 込んだ文書作成	事前：授業テーマの予習(30分) 事後：事後課題の完成・提出(30分)
	15	【Word & Excel】 まとめと振り返り	情報モラルとセキュリティのまとめ 総合テスト演習	事前：今までの諸機能の復習(1時間)
関連科目	情報リテラシーII			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	<改訂4版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題(80%)、テスト課題(20%)を総合して評価する。			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等				
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチーム、または Teams チャットで質問してください。			

科目名	キャリアデザイン	科目名 (英文)	Career Design
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	西鶴 智香
ディプロマポリシー (DP)	DP6◎		
科目ナンバリング	NCA1334a1		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ●概要：「自分のキャリア」＝「仕事」だけを指すものではなく、「家族」「学習」「趣味」「余暇」を含む自分の人生そのもののこと、という概念のもと、自分の生涯キャリアをどう考えていくのか、をまとめていく時間です。看護師を目指すあなたは、どんな看護師を目指していくのか、そのためには自分に何が足りないか、どのような勉強、経験を積みばいいのか、を中心に、皆で議論し、考えていきます。自分とじっくり向き合う講義です。 ●職業・看護師は、どんな使命を持った職業なのか。今後、職務・職域拡大に向けてどのような変革をしようとしているかを知り、自分のキャリアデザインの参考にします。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ●到達目標：自分は、なぜ看護学部を選び、ここで何を学び、看護師になって何がやりたいのか、何を実現させたいのか。そのために、これから自分をどのように変革させればいいのか、等、ぼんやりでもいいので、自分の言葉で伝えられるようになることを目標とします。1年次なりの意見で構いません。精一杯、言語化してみましょう。 ●「大学生」である皆さんには、大人としての態度、意見を求めます。講義を通して、自立、自律した大人になることを目標にします。特に、提出物の期限を守り、「自己管理能力」を上げることを目標にします。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ●講師は、パワーポイントで作成したスライドを見せながら、配布するワークシートを使って、講義を進めます。 ●医療者には、「多様性理解」が求められます。講義を通して、新たな視点、考え方を知り、異なる意見を持つ他人を受容できる自分、を目指しましょう！ ●毎回の講義終了後に、課題レポート提出があります。必ず期限までに提出下さい。 ●課題は、講義中に時間を取りますので、その場で記述し、講義終了時に提出してもらいます。または、moodleにも掲示しますので、その課題を入力し、moodleにて
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ●看護師としての生涯キャリアを、ある程度学生時代にデザインできていることで、迷うことなく進路選択ができ、またしっかりと動機づけされた職業人生をスタートできます。 ●自分自身をしっかりと理解することで、周囲に惑わされず、自律し、自分の力で人生を切り拓いていくことができる力を養います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・「キャリアデザイン」概論	<ul style="list-style-type: none"> ・講義概要 ・講師自身のキャリア形成と、モデリング ・キャリアの考え方 ・社会の現状とキャリアデザインの重要性 講義、全体議論 45分、グループ討論 15分、レポート 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア」とは、「キャリアデザイン」とは何か。「働く」ということはどういうことなのか、社会はどういうふうにいるのか、 ・多様な価値観の受容、他人の評価を気にしない自分の確立、が早期に重要であること ・身近な社会人のキャリア選択を調べる。その「意思決定の理由」 事前 30分・事後 30分
2	職業・「看護師」について考える！	<ul style="list-style-type: none"> ・職業「看護師」について現状を分析し、課題と今後の職域拡大に向けての動きを知る。 ・特定看護師、専門看護師、認定看護師等の高度専門キャリアを知る ・看護師職の働き方、給与等、調査結果から生涯キャリアを調べる。 講義、全体議論 45分、グループ討論 15分、レポート 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・日本における「職業・看護師」の現在、今後の課題、看護師の職域拡大、求人状況等、「職業・看護師」について調べてみる ・新聞、ネットメディア、専門誌等 事前 30分・事後 30分
3	日本の医療制度を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が将来働く医療界の知識 ・国民皆保険制度のメリット、課題 ・高齢社会と国民医療費抑制、病院が抱える課題 ・看護師が出来ること 講義、全体議論 45分、グループ討論 15分、レポート 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が将来働く医療界の知識を得る ・国民皆保険制度のメリット、課題を知り、看護師としてどのように社会と関わることができるのか、可能性を探る ・国民への健康についての啓蒙活動は何ができるか 「日本の医療費、医療制度、予防医療について」 事前 30分・事後 30分
4	自分自身を知る① 「自己肯定感」と「自己効力」	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア自律に必要な力である2つ、を紹介します。 ・「自分を認めていくことが多様性理解につながる」「自分に自信がある、ないは何に起因されているのか」。 ・物の捉え方の練習、自身の成功体験の整理、自信のつけ方、についてディスカッション。 講義 45分、個人ワーク 10分、グループ討論 15分 全体議論 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性を理解できる包容力のある人になりましょう。そのために物の捉え方の練習をしていきます。 ・患者理解でも求められる「自己効力感」、を知り、自己理解を深めましょう。 ・自分が気づいていなかった自分、をしっかりと見つめてみます。 日頃からクセに出来る、自己肯定感の上げ方、自己効力について振り返ります。 事前 30分・事後 30分
5	自分自身を知る② 「職業人に求められる基礎力」	<ul style="list-style-type: none"> ・求められる「職業人が身に付けるべき基礎力」のうち、「20代で」身に付けたい基礎力に焦点を当てて解説。 ・自己分析、自分の価値観や行動パターンについて、自分のどんな考え方が根拠になっているのか整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「行動変容」することは難しい。それは自分も患者でも同じです。まずは自分が看護師という専門職として働く前に、働く人の基礎力を身に付けることが求められます。どのようにしてその力をつけていくのか、考えてみましょう。

			講義 30 分、個人ワーク 15 分、グループ討論 15 分、レポート 20 分	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己管理能力」が一番求められます。 ・講師から具体的なアドバイスもしていきます。 課題ワーク事前 30 分・事後 30 分
6	リーダーシップを考える	社会で求められるリーダーとは、どんな能力が必要なのか。 ・リーダーシップとは、グループだけに求められるものではなく、個人のキャリアデザインにも求められるものである、ということを理解すること。 ・リーダーに求められるスキルとは。皆で議論していきます。	講義、全体議論 40 分、グループ討論 20 分、レポート 20 分	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで自分が見てきたリーダーはどんなところが優れていたのか、まとめてみましょう。 「自分が今まで関わってきたリーダーが持っていたスキルとは・・・言葉で伝えられるようにまとめておく」 ・キャリアデザインにも必要なリーダーシップ、を理解すること 事前 30 分・事後 30 分
7	医療人のプロフェッショナルリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・医師、看護師の使命とは何か？プロとは、どのような行動を取るのか？ ・プロとは何か？ ・プロが取る行動「プロフェッショナルリズム」について ・自分はどんなプロを目指すのか 	講義、全体議論 30 分、個人ワーク 20 分、グループ討論 30 分	<ul style="list-style-type: none"> ・医師、看護師の職業使命を知り、どのような行動が求められているのかを理解します。 ・プロ意識を持った職業人は、凡人とどこが違うのか。 ・自分はどんなプロ看護師になりたいのか、考える時間にして下さい。 「プロとは何か、を自分の言葉で言えるように考えてきて下さい」事前 30 分、事後 30 分
8	まとめ～「自分はこんな人、こんな看護師になります！」	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分のキャリアは自己責任」時代。今後、自分の人生の節目ごとに、自分で生涯キャリアを設計、修正することの意義を理解する。 	講義、全体議論 30 分、グループ討論 50 分、	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師職の生涯キャリアを、先輩看護師の実態から調べてみる。 ・ステップアップ、専門看護師等、どのような道をたどっているのか、調べる。 ・自分の人生は自分で決められる。日頃から、自己決定のクセをつけましょう。 課題ワーク事前 30 分・事後 30 分
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

関連科目

特記なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	薬学生のためのキャリアデザインブック	西鶴 智香	薬事日報社
2			
3			

評価方法
(基準)

- ・講義終了後のレポートもしくは講義中に使用するワークシートを提出すること、を必須要件とする。
 - ・提出物は、70%以上の記載を義務とする。
- ※評価ポイント
- ・看護師に求められる書く力・・・レポートには、正しい日本語で、自分の考えを論理的に記入する。(論理的思考) (記述スキル) (ボリューム)
 - ・その内容は、自分の意見を持ち、様々な視点から観察し検討した内容で記入できているか、を評価します。(課題発見力) (創造性) (俯瞰力)

学生への
メッセージ

・また、講義を通じて知った情報から、どのような新たな視点
自分の人生プランを一から描けるのは、学生時代にだけできること。
この講義を通して、自分の人生をどうしたいか、どんな人間になりたいか、看護師になって実現したいことは何か、等を考え整理していくことで、「看護師としての、自分のキャリアビジョン」というものを、ぼんやりでも見つけていってほしいと思っています。

自立したカッコイイ大人、を目指しましょう！

担当者の
研究室等

非常勤講師
(株式会社キャリア・ポジション 代表取締役)

備考

講義、その他についての問い合わせは、メール対応も出来ますので気軽に相談して下さい。
メールアドレス chika@career-position.com

科目名	キャリア入門	科目名 (英文)	Introduction to Career
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NCA1335a1		

授業概要・目的	高校生から大学生への円滑な移行に向けて、摂南大学看護学部生として、学習意欲の向上、専門職としての意識の醸成、人格的な成長を培うことを目的とする。
到達目標	1) 大学で看護学を学ぶための基礎的な学習技術を得得する。〔スタディスキルアップ〕 2) 自身で学び考えるための基礎的能力を得得する。〔スタディスキルアップ〕 3) 看護学生としての自己管理能力を身につける。〔スチューデントスキルアップ〕 4) キャリア体験と動機づけによって看護の目標志向を育む。〔キャリアディベロップメントスキルアップ〕
授業方法と留意点	【授業方法】 講義を中心とし、グループワーク、発表なども取り入れて行います。 【留意点】 ・第1回目に授業全体のオリエンテーションを行います。 ・本授業を通して、自身のキャリアを考える機会にすること。 ・課題の提出を持ってこの科目の評価とするので、期限内に提出すること。 ・グループワークでは自らの意見を発言する機会を増やし、積極的に意見交換をすること。 注意) シラバスで示した授業内容は、順序が入れ替わる場合があります。授業日程は、第1回の授業オリエンテーションで提示した日程で行います。な
科目学習の効果 (資格)	専門職への意識を高め、目標に向かって主体的に学習を進めていくことができる。 看護職者としての成長のみならず、人間的にも成長することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	大学で学ぶということ、教務ガイダンス	摂南大学について理解を深め、看護学部生としての自覚を高める。 ・摂南大学生として卒業時に目指す姿、履修内容、方法および 学習を深める方法について学ぶ ・大学の規範、医療系学生としての倫理観について学ぶ。 ・教務委員会から、看護学部での履修の進め方について講義を受ける。	事前学習課題:FIRST YEAR STUDY GUIDE 2022 を読んでおく、履修申請要領を読んでおく (30分) 事後学習課題:履修申請要領をよく読み、自身の履修する科目、関心ある科目のシラバスを確認する。(60分)
2	学部アセスメント	・学部アセスメントを通して、大学4年間の自己の能力の出発点について確認する。	事前学習課題:FIRST YEAR STUDY GUIDE 2022 を読んでおく。(30分) 事後学習課題:今日学んだことを、確認する(60分)
3	大学での学びのマナー	看護学部生として、基本的な学修のマナーを、日本マナーサービス(株)寒川由美子氏を講師に迎えて学ぶ。	事前学習課題:看護学生として必要なマナーとはどのようなものかを考えて臨む。(30分) 事後学習課題:学びを活かし、直ぐにできることから取り組む。(60分)(60分)
4	充実した学生生活に向けて 国試ガイダンス	・学生委員会から、学生生活を送るためのさまざまなサポートについて説明する。 ・国家試験について理解し、4年間の学修の中で、どのように国家試験の準備を進めるかについて考えをもつ。	事前学習課題:FIRST YEAR STUDY GUIDE 2022 を読んでおく (30分) 事後学習課題:今日学んだことを、今後どのように役立てるかを考える(60分)
5	上級生との交流	上級生と少人数でトークタイムを持ち、学生生活についてアドバイスを得る。	事前学習課題:上級生に聞いてみたいことを数点準備する。(30分) 事前学習課題:アドバイスを具体的に生かす方法を考える。
6	看護学部生に必要な感染予防策	看護学部生に必要な感染予防策について、特に COVID-19 感染対策について理解する。 4年次保健師課程学生からアドバイスを得る。	事前事後学習課題:COVID-19 感染症拡大に関連した、事前に提示する課題について調べること。(30分) 事後課題:指示した課題を行い、成果物を提出すること。(60分)
7	チームビルディング (1) (薬学部生と合同授業)	・チーム医療について講義を受ける。 ・チームビルディング(チーム作り)を通して、協働作業に取り組み、チーム医療について考える。	事前学習課題:チーム医療について調べてくる。(30分) 事後学習課題:授業を通じて他者と協働作業することの意義や方法について考える。(60分)
8	チームビルディング (2) (薬学部生と合同授業)	・チームビルディング(チーム作り)を通して、協働作業に取り組み、チーム医療について考える。	事前学習課題:チーム医療について調べてくる。(30分) 事後学習課題:授業を通じて他者と協働作業することの意義や方法について考える。指定された成果物を提出する。(60分)
9	講義「患者から学ぶ医療職への期待」(1) (薬学部生と合同授業)	ゲストスピーカーを迎え、テーマについて学ぶ	事前学習課題:患者の人権について調べてくる。(30分) 事後学習課題:ゲストスピーカーから学んだこと、考えたことをまとめる。(60分)
10	講義「患者から学ぶ医療職への期待」(2) (薬学部生と合同授業)	前回の講義をうけて、テーマに関する学びをまとめる。	事前学習課題:患者の人権について調べてくる。(30分) 事後学習課題:ゲストスピーカーから学んだこと、考えたことをまとめる。課題を提出する。(60分)
11	薬学生と合同発表会 (1)	いままでの合同授業を通してチーム医療について学んだ内容を薬学生との混合グループで討議する。	事前学習課題:チーム医療について、疑問点や話し合いの点を準備する。(30分) 事後学習課題:討議した内容の発表準備をする。(60分)
12	薬学生と合同発表会 (2)	グループの発表内容をまとめ、発表す	事前学習課題:発表での自分の役割を考え、協力し

			る。	て準備する。他者の発表にも関心をもち聞く準備をする。(30分) 事後学習課題:グループでの課題の最終プロダクト(成果物)を作成し、提出する(60分)。
	13	私のキャリア (1)	保健師、助産師、看護専門看護師および認定看護師など看護のスペシャリスト、卒業生からの講義を受け、自身のキャリアについて考えを深める	事前学習課題:日本看護協会のHPから「キラリ!看護師のシゴト」を検索し、関心のあるスペシャリストの動画を視聴する。(30分) 事後学習課題:さらに知りたいことを深めることをまとめる(60分)
	14	私のキャリア (2)	保健師、助産師、看護専門看護師および認定看護師など看護のスペシャリスト、卒業生からの講義を受け、自身のキャリアについて考えを深める	事前学習課題:日本看護協会のHPから「キラリ!看護師のシゴト」を検索し、関心のあるスペシャリストの動画を視聴する。(30分) 事後学習課題:さらに知りたいことを深めることをまとめる(60分)
	15	自分自身の安全を守るための対策	看護学生に必要な感染予防策を理解する。特に感染症の予防接種について取り扱う。	事前事後学習課題:医療系学部生に必要な予防接種について調べる。(30分) 事後学習課題:自己の感染対策を実行する。(60分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE 2022		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク等の参加態度 20%、提出物 80%			
学生への メッセージ	自分の将来の目標を明確にし、それに向かって着実に前進できるよう、具体的な計画を立てましょう。			
担当者の 研究室等	田中結華 研究室 9 鎌田佳奈美 研究室 17 但馬まり子 研究室 20			
備考				

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀧 千波
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NPH1341a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 健康に関する課題解決的な学びや、様々な背景を持つ人々の多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	授業は、本学スポーツ施設において実技形式で行う（雨天の場合は、講義形式で行う場合もある）。 第1回目の授業は、ガイダンスの他、本科目における新型コロナウイルス感染症対策に関する注意事項も説明するので、必ず出席すること。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意を行う	運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30分)
2	軽運動	ストレッチ、軽度のエクササイズ	事前：ストレッチ等を行い授業の準備を行う 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
3	各コース別実技	コース分け、種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識の収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
4	コース別実技	種目におけるルール・マナーの説明 種目の導入につながる運動	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
5	コース別実技	体力の向上に必要な基礎運動 基礎技術を応用した運動	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
6	コース別実技	基礎技術練習、攻防練習（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
7	コース別実技	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
8	コース別実技	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
9	コース別実技	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
10	【講義】運動・スポーツが心身へ与える影響とそのメカニズム	講義（講義室）運動・スポーツが心身へ及ぼす影響について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。	事前：一般人における運動の必要性について調べる。 事後：授業で学んだ内容を、どのように臨床へ応用できるか考え、レポートする。 (事前事後学習時間 30分)
11	コース別実技	ルールの説明、基礎技術練習（グラウンドおよび体育館）	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
12	コース別実技	基礎技術練習、攻防練習（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
13	コース別実技	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
14	コース別実技	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
15	総括	後期授業の振り返りを行う	内容の振り返り、本授業の総まとめ (事後学習時間 30分)

関連科目	人体の構造と機能 I、II、III、IV
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	対面授業：平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。			
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室（072-839-9187）へ問い合わせてください。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用すること			

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	山居 輝美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NKY1349a1		

授業概要・目的	本科目の講義目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することである。授業では教養入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、及びコミュニケーション能力を身につけることを目指す。 SDGs 1～17
到達目標	① 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 ② ABDによる読書法を身につけている。 ③ チームワーク能力を身につけ、対話を通じて協働学習をすることができる。 ④ SDGs(Sustainable Development Goals)について基本的な知識を身につけている。 ⑤ 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 ⑥ コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得する。教養入門書を用いて、アクティブ・ブック・ダイアログ(ABD)読書術を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験する。本科目は、これまでの講義とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるため、諸君が積極的に参加することが大切である。本授業は原則として、対面授業として行われるが、新型コロナウイルス感染状況により、遠隔授業となる可能性も
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識が身につく、ABD 読書法等の協働学習により、文章の要約、プレゼンテーション、対話の基本が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月9日 (9:20~10:50)	チームビルディングの研修プログラム (農学部・看護学部・薬学部合同) 枚方キャンパスの学生相互のワークを通して大学の学びについて考える。	
2	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月9日 (11:00~12:30)	チームビルディングの研修プログラム	
3	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月9日 (13:20~15:00)	チームビルディングの研修プログラム	
4	「星の王子さま」① 4月16日 (9:20~10:50)	アイスブレイク、授業のガイダンス 「星の王子さま」の指定箇所について読み、要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「星の王子さま」についての調べ学習 (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べましょう。(2) 不明な語句などを調べましょう。(1)と(2)をノートに記録しましょう。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle)として実施されます。
5	「星の王子さま」① 4月16日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの説明と実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「星の王子さま」① 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読んでみましょう。自分が気になった箇所や、著者の考え方などを自分のノートにメモしましょう。
6	「星の王子さま」② 4月23日 (9:20~10:50)	「星の王子さま」の指定箇所について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「星の王子さま」② (1) 重要な箇所の書き出し。(2) 不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しましょう。
7	「星の王子さま」② 4月23日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「星の王子さま」② 授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。
8	「星の王子さま」③ 4月30日 (9:20~10:50)	「星の王子さま」の指定箇所について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「星の王子さま」③ (1) 重要な箇所の書き出し。(2) 不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しましょう。
9	「星の王子さま」③ 4月30日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「星の王子さま」③ 授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。
10	「未来の年表」① 5月7日 (9:20~10:50)	「未来の年表」の指定箇所 (人口減少カレンダー2033~2065 年前半) について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。	事前:「未来の年表」① (1) 重要な箇所の書き出し。(2) 不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しましょう。

			読む力、まとめる力、表現する力を養う。																	
	11	「未来の年表」① 5月7日 (11:00~12:30)	質問づくり(QFT)ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「未来の年表」① 授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。																
	12	「未来の年表」② 6月4日 (9:20~10:50)	「未来の年表」の指定箇所(人口減少カレンダー2033~2065年後半)について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「未来の年表」② (1)重要な箇所の書き出し。(2)不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しましょう。																
	13	「未来の年表」② 6月4日 (11:00~12:30)	質問づくり(QFT)ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「未来の年表」② 授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。																
	14	「SDGs(持続可能な開発目標)のゲームの実践」 6月11日 (9:20~10:50)	「SDGs(持続可能な開発目標)」 SDGsゲームの実践	事前:「SDGs」 (1)重要な箇所の書き出し。(2)不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しましょう。																
	15	SDGsにかかる最新事情 6月11日 (11:00~12:30)	サマリーシート作成、発表する。 また、発表後、グループ内で対話し、ふりかえりシート作成と提出	事後:「SDGs」 授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。																
関連科目	摂南大学で開講されている科目すべて。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来の年表</td> <td>河合雅司</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	星の王子さま	サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)	新潮文庫	2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	星の王子さま	サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)	新潮文庫																	
2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法(基準)	サマリーシート(10%)、ふりかえりシート(10%)、理解度確認テスト(前10%:事前学習の評価、後10%:ABD実施による読書内容の理解度評価)、グループワーク取り組み姿勢の評価(20%:グループワークでの討論を踏まえた共同作業・成果を含む)、期末テスト(40%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格する。																			
学生へのメッセージ	この科目は2018年から寝屋川キャンパスで開講されている科目で、全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。大学生としてふさわしい教養の基礎と主体的な学習方法が身につく、さらに学部学科を超えて友人を作ることが出来るでしょう。																			
担当者の研究室等	喜多 大三(農学部8号館2F 225) 松田 千登勢(看護学部7号館 研究室6) 大塚 正人(薬学部1号館5F) 山居 輝美(看護学部7号館 研究室3) 藤林 真美(農学部8号館3F 323) 加藤 裕介(農学部8号館3F 304) 戴 容泰思(農学部8号館2F 215) 藤井 毅(農学部8号館2F 204)																			
備考																				

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神谷 美紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2028a0		

授業概要・目的	看護を实践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学びます。患者の立場に立ち、基本となる援助を安全安楽に提供できるよう、根拠を踏まえた技術を修得します。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、吸引、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについての知識と技術を修得します。 科目責任者は、看護師・助産師として約20年の臨床経験があり、専従の医療安全管理者として4年間医療安全業務に携わっていました。 SDGs-3, 5, 17
---------	--

到達目標	診療に伴う看護技術について、その意義を理解し、手技1つ1つの根拠及び注意点を述べることができる。 検査・治療を受ける患者、家族の立場に立った関わりや倫理的側面、安全安楽について述べるができる。
------	---

授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習します。 理解を深めるため、適宜資料を配布し説明します。必ず事前・事後学習を行い学びを深めてください。 援助場面をイメージできるように、動画や写真等の視聴覚教材、パワーポイント等を使用します。技術の知識と実践のイメージを高めてください。 演習では、予め教員のデモンストレーション動画を視聴し、その後グループに分かれ技術演習を行います。グループ毎に教員が指導に付き、安全安楽に配慮した根拠に基づく技術について指導を行います。学生は看護師、患者の双方の立場から看護技術について考察し、患者の安全、安楽、倫理的配慮について学びを深めます。 総合トレーニングでは、事例患者への援助方法をグループメンバー間で検討し、実践方法や注意点、看護における優先順位を発表し、クラス全体で看護援助についての学びを深めます。 尚、感染拡大状況等により、各回の授業テーマや内容を一部変更することがあります。その場合は、あらかじめ受講者に連絡をします。
----------	---

科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護技術とはどのようなものかを理解します。関連法規を把握し理解を深めます。	【事前課題】 診療時の看護師の役割、看護倫理綱領を各自で復習し授業に出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行います。(30分)
2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	【事前課題】 教科書の薬物療法の項を読み出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行います。(30分)	
3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読み出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行います。(30分)	
4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。 対面授業(演習)。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書のスタンダードプリコーションの手技について視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)	
5	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。 対面授業(演習)。	【事前課題】 演習動画、演習動画、ナーシングスキルや教科書の注射器・注射針の接続、薬液の吸い上げの項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)	
6	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。 対面授業(演習)。	【事前課題】 演習動画、演習動画、ナーシングスキルや教科書の注射器・注射針の接続、薬液の吸い上げの項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)	
7	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	【事前課題】 教科書の検査時の看護師の役割の項を読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)	
8	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の輸液療法の項を読み、出席してください。(30分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)	

9	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の皮下注射の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】(1時間) 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
10	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の皮下注射の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】(1時間) 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
11	筋肉内注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉内注射を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の筋肉内注射の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
12	筋肉内注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉内注射を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の筋肉内注射の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
13	技術トレーニング①/ 実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 注射器と注射針の無菌的接続または薬物の吸い上げの手技を振り返ります。(1時間) 【事後課題】 配布資料及び教科書に沿って手技及び根拠について復習を行います。(1時間)
14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の採血の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
15	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の採血の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
16	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の輸液療法の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の輸液療法の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
18	栄養障害の看護（栄養）	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。 経管栄養法について理解する。	【事前課題】 教科書の経管栄養の項を読み出席してください。(30分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)
19	体温維持の看護および 温・冷電法	体温の異常についてのアセスメント方法や電法など体温の恒常性への援助方法について理解する。	【事前課題】 教科書の電法の項を読み出席してください。(30分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)
20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン浣腸、導尿法について理解する。	【事前課題】 教科書の導尿時の看護の項を読み出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)
21	導尿	膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の導尿の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
22	導尿	膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の導尿の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】

				教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
23	技術トレーニング2/実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。		【事前課題】皮下注射、筋肉内注射の手技を振り返ります。(1時間) 【事後課題】配布資料および教科書に沿って手技及び根拠について復習を行います。(1時間)
24	創傷の看護	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。		【事前課題】教科書の滅菌物の取扱い、創傷管理の項を視聴/読み、出席してください。(30分) 【事後課題】配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)
25	無菌操作(2)・創傷処置	滅菌物の取り扱い等を実施する。		【事前課題】演習動画、ナーシングスキルや教科書の滅菌物の取扱い、創傷管理の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】配布資料および教科書に沿って手技及び根拠について復習を行います。(1時間)
26	吸引・呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。		【事前課題】教科書の酸素療法の項を読んだ上で出席すること。(30分) 【事後課題】配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)
27	吸引・酸素療法	吸引器・酸素ボンベの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。		【事前課題】演習動画、ナーシングスキルや教科書の口鼻腔吸引・酸素療法の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
28	吸引・酸素療法	吸引器・酸素ボンベの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。		【事前課題】演習動画、ナーシングスキルや教科書の口鼻腔吸引・酸素療法の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
29	統合トレーニング(事例患者への援助)	入院中の事例患者に対する援助をグループで検討し実践発表を行う。		【事前課題】演習前に学習内容を別紙で配布しますので熟読してください。グループメンバーで分担し課題レポートの作成およびグループでの看護実践のプレゼン準備を行ってください。(1時間) 【事後課題】他グループの発表をとディスカッションにより、クラス全体で学びを深めます。(1時間)
30	統合トレーニング(事例患者への援助)	入院中の事例患者に対する援助をグループで検討し実践発表を行う。		【事前課題】演習前に学習内容を別紙で配布しますので熟読してください。グループメンバーで分担し課題レポートの作成およびグループでの看護実践のプレゼン準備を行ってください。(1時間) 【事後課題】他グループの発表をとディスカッションにより、クラス全体で学びを深めます。(1時間)

関連科目 看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、フィジカルアセスメント、患者安全、患者コミュニケーション

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」	深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社
	2	「新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」	深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「基礎看護技術Ⅰ 第18版」	茂野香おる	医学書院
	2	「基礎看護技術Ⅱ 第18版」	任和子	医学書院
	3			

評価方法(基準)	筆記試験、実技試験及びレポートと授業参加度や授業態度により評価をします。 筆記試験(50%)、技術到達度チェック(10%)、課題レポートの提出状況と内容(20%)、統合トレーニング(10%)、授業態度(10%)。 筆記試験、実技試験の受験資格は、原則的にすべての授業及び演習に出席していることとします。 尚、感染拡大状況などにより、評価方法を変更することがあります。
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術などが多く、患者への安全・安楽な技術を目指します。安全に技術を実施していくために、気を引き締め、事前事後学習を行い、学びを深めましょう。
担当者の研究室等	7号館3階 研究室2(神谷)、研究室1(佐久間)、研究室3(山居)、共同研究室1(北村)
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。

科目名	基礎看護技術 I	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2027a0		

授業概要・目的	<p>基礎看護技術 I では、全ての看護技術に共通する知識および技術を修得することを目的とし、「感染予防の看護技術」「療養環境を整える看護技術」「活動・運動と休息・睡眠を助ける看護技術」、科目の後半には、日常生活を整える援助技術「日常生活における対象者のニーズを整えるための看護技術」を学修する。</p> <p>本科目では、科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を培う。学修過程においては、ブレンディッド・ラーニングの形態を取り入れ学生自ら考え、学生が主導となって学修をすすめていく力を培うことを目指す。科目責任者および担当者は大学病院及び総合病院等で看護師としての実務経験を持ち、それらの経験も活用しながら日常生活の援助技術に関する実践的な教育を行う。</p>
到達目標	<p>1) 看護技術の基本的な考え方を学び、療養環境を整え、活動休息を助ける看護技術を修得する。</p> <p>2) 対象者のニーズを捉えながら衣生活への援助、食事・栄養摂取への援助、排泄援助、苦痛緩和の援助、身体清潔援助を実践する。</p> <p>3) 自らが考え実践した援助を振り返り、メンバー間での意見交換を行い、よりよい援助を考える。</p>
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT ツールを活用し、社会状況に応じて対面授業・オンライン授業を行う。講義では日常生活を整える援助の根拠を学び、演習では対象者に関わりながら実習室や自宅にて看護実践能力を養う。 授業では教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するための資料を適宜配布する。看護実践能力を育成するための動画など視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 演習では事前に配信された動画を視聴したのち参加することが必須となる。動画では、教員がデモンストレーションを行い、臨床場面を模した形での援助場面を実践する。クラスは 2 つに分け、教員は少人数グループを担当し、学生と共に検討・実践しながらより良い援助を目指す。また、看護師及び患者役の体験から援助技術に関するスモールグループディスカッションや発表等を主体的に行い、クラス全体での学びを深める。 <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者として身だしなみを整える。 演習のための準備は、指定された時間までに行い、片付けなどについては別途指示する。 演習で使用する物品は大切に扱い、片付けや整理整頓をする。 分からないことについては、自己判断せず教員に相談する。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎看護学実習 I、II の履修にかかわる科目 基礎看護技術 II の履修にかかわる科目 看護師国家試験受験資格にかかわる科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	コースオリエンテーション 看護技術とは 看護者の基本的態度	【講義】 看護技術の基盤となる考えについて学ぶ 看護者の基本的態度について理解する 実習室使用のルールについて知る	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する (1 時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
2	感染予防の看護技術 (1)	【講義】 感染予防 (スタンダードプリコーション) に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する (1 時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
3	感染予防の看護技術 (2)	【演習】 衛生的な手洗いを実践する PPE の着脱を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
4	療養環境を整える看護技術 (1)	【講義】 環境整備に必要な根拠を理解し、安全で安楽な生活環境について学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する (1 時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
5	療養環境を整える看護技術 (2)	【演習】 ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
6	療養環境を整える看護技術 (3)	【演習】 ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間)	

				【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
7	療養環境を整える看護技術(4)	【演習】 安全・安楽で自立を促すシーツ交換を実践する		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
8	環境を整える看護技術(5)	【演習】 安全・安楽で自立を促すシーツ交換を実践する		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
9	活動・運動と休息・睡眠を助ける看護技術(1)	【講義】 日常生活の基盤となる活動・運動と休息・睡眠について学ぶ 安全・安楽で自立を促す体位の整え、姿勢保持を学ぶ		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
10	活動・運動と休息・睡眠を助ける看護技術(2)	【講義】 安全・安楽で自立を促す体位変換について学ぶ 移動・移送に関する基本を学ぶ 苦痛緩和について学ぶ 自分の身体の動かし方について学ぶ		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
11	活動・運動と休息・睡眠を助ける看護技術(3)	【演習】 安全・安楽で自立を促す体位への整え方、体位変換を実践する		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
12	活動・運動と休息・睡眠を助ける看護技術(4)	【演習】 安全・安楽で自立を促す体位への整え方、体位変換を実践する		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
13	活動・運動と休息・睡眠を助ける看護技術(5)	【演習】 車いす・ストレッチャーでの移動・移送を実践する 歩行による移動の援助を実践する		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
14	活動・運動と休息・睡眠を助ける看護技術(6)	【演習】 車いす・ストレッチャーでの移動・移送を実践する 歩行による移動の援助を実践する		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
15	日常生活におけるニーズ・身体の清潔を保つ看護技術①	【講義】 身体の清潔のための基盤となる考えを学ぶ		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
16	日常生活におけるニ－	【講義】		【事前課題】

	ズ・身体の清潔を保つ看護技術②	安全・安楽で自立を促す全身清拭、部分清拭、衣生活・みだしなみの整えについて学ぶ	教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。 【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
17	日常生活におけるニーズ・身体の清潔を保つ看護技術③	【演習】 身体清潔の援助：安全・安楽で自立を促す足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
18	日常生活におけるニーズ・身体の清潔を保つ看護技術④	【演習】 身体清潔の援助：安全・安楽で自立を促す足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
19	日常生活におけるニーズ・身体の清潔を保つ看護技術⑤	【演習】 身体清潔の援助：安全・安楽で自立を促す洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
20	日常生活におけるニーズ・身体の清潔を保つ看護技術⑥	【演習】 身体清潔の援助：安全・安楽で自立を促す洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
21	日常生活におけるニーズ・身体の清潔を保つ看護技術⑦	【演習】 身体清潔の援助：安全・安楽で自立を促す全身清拭・寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
22	日常生活におけるニーズ・身体の清潔を保つ看護技術⑧	【演習】 身体清潔の援助：安全・安楽で自立を促す全身清拭・寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
23	日常生活におけるニーズ・身体の清潔を保つ看護技術⑨	【演習】 身体清潔の援助：安全・安楽で自立を促す口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
24	日常生活におけるニーズ・身体の清潔を保つ看護技術⑩	【演習】 身体清潔の援助：安全・安楽で自立を促す陰部洗浄を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
25	日常生活におけるニーズ・身体の清潔を保つ看護技術⑪	【演習】 身体清潔の援助：安全・安楽で自立を促す陰部洗浄を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)。

				<p>す課題についてレポートを作成すること(1時間)</p> <p>【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。</p>																
26	日常生活におけるニーズ・食事・栄養摂取を助ける援助(1)	【講義】 食事・栄養摂取のための基盤となる考えを学ぶ		<p>【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。</p> <p>【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。</p>																
27	日常生活におけるニーズ・食事・栄養摂取を助ける援助(2)	【演習】 安全・安楽で自立を促す食事の援助を行う		<p>【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)</p> <p>【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。</p>																
28	日常生活におけるニーズ・自然排泄を助ける援助(1)	【講義】 自然排泄を促すための基盤となる考えを学ぶ		<p>【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み出席する(1時間)。</p> <p>【事後課題】 授業時に示す課題・提出物を作成する。授業テーマ終了時にミニテストを受験し反復学習する(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。</p>																
29	日常生活におけるニーズ・自然排泄を助ける援助(2)	【演習】 安全・安楽で自立を促す床上排泄の援助を実践する		<p>【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)</p> <p>【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。</p>																
30	学びのまとめ	【演習】 学びの整理と総合技術トレーニングを実践する		<p>【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)</p> <p>【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。</p>																
関連科目	基礎看護技術Ⅱ フィジカルアセスメント 看護過程論 基礎看護学実習Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ</td> <td>深井喜代子</td> <td>メジカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ</td> <td>深井喜代子</td> <td>メジカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メジカルフレンド社	2	新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メジカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メジカルフレンド社																	
2	新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メジカルフレンド社																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>筆記テスト：ミニテスト(40%) 課題演習(40%) リフレクションカードの提出と内容(10%) 授業参加態度；身だしなみ・課題(10%) ※ミニテストおよび課題演習の受験資格は、原則関連する全ての授業及び演習に出席していることとする。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。</p>																			
学生への メッセージ	<p>基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返していき、知識と技術を確実に修得してゆきましょう。自己学習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル、ナーシングチャンネル等を活用すると効果的です。また、この授業を通して、看護師としてふさわしい行動や振る舞いを身に付けてください。</p>																			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室3(山居)、研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、共同研究室1(北村)																			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については事前に別途指示します。																			

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01452a1, L科: LL01354a1, D科・S科: IL01361a1, P科: YL01417a2, J科: JL01363a1, W科: WL01342a1, N科: NL01343a1		

授業概要・目的	<p>地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。</p> <p>SDGs—1, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 13, 14, 15, 17</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。 ・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。 			
授業方法と留意点	<p>グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めますので、グループのメンバーに迷惑がかられないよう責任のある行動をしてください。</p> <p>講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><4月9日(土) 1~3限> 第1回 「地域と私」への取り組み方; オリエンテーション 授業の進め方/ひとこと自己紹介 第2回 地域との関わり方 ~『調査されるという迷惑』を読む~ グループディスカッション/教室内での共有 第3回 地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p><4月23日(土) 1~3限> 第4回 インタビューにチャレンジ ~聴く、掘り下げる、まとめる~ グループづくり/グループ内での相互インタビュー/インタビューで聴いた内容をメモする 第5回 質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する/分析する 第6回 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&ディスカッション</p> <p><5月21日(土) 1, 2限> 第7回 地域に関するテーマを選定しよう 『地域』に関する文献の整理』についてのグループ内プレゼンテーション/グループで取り組むテーマの決定/グループワークの実施スケジュールの検討 第8回 グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話</p> <p><6月4日(土) 1, 2限> 第9回 グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域と防災」を例に考える/選定したテーマを「具体的な地域」から考える 第10回 グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える</p> <p><6月18日(土) 1, 2限> 第11回 グループワークの中間報告会 第12回 大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働的実践について概説/地域の担い手としての大学生の可能性/地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p><7月16日(土) 1~3限> 第13回 最終報告会① 第14回 最終報告会② 第15回 講義のふりかえり</p>			
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>学びレポート(個人ワーク) 30%</p> <p>「身近な地域の課題解決・魅力磨き」『地域』に関する文献の整理」成果物(個人ワーク) 20%</p> <p>学びのグループワークレポート 30%</p>			

	最終報告会でのプレゼンテーション 20% (ルーブリック評価) なお、60%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	7号館3階 上野山研究室
備考	

科目名	地域貢献実践演習	科目名(英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武, 植杉 大, 上野山 裕士, 小野 晃正, 橋本 はる美, 牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03457a1, L科: LL03366a1, D科・S科: TL03366a1, P科: YL03422a2, J科: JL03368a1, W科: WL0347a1, N科: NL03348a1		

授業概要・目的	この科目はソーシャル・イノベーション副専攻過程における実践科目です。4月・5月まではこれまでの講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを主体的に学ぶための準備を行います。6月(予定)からは連携先ご担当者様と密に連携しながら、課題の抽出、要因の理解、活動計画の立案を行い、課題解決・低減に向けて実践を行います。現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目標達成に向けた知識と技術の向上と責任ある行動を続けられる姿勢の確立を目的とします。																		
到達目標	SDGs 全般 ①これまで学んだ理論を実践に結びつけて、考察し行動することができる。 ②課題派遣から解決までのPDCAサイクルを回すことができる ③チームで活動することができる ④チーム内での役割を理解し協調的な行動ができる。 ⑤連携先の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																		
授業方法と留意点	4月・5月までは座学とディスカッションを行うため、講義内で課題が出ることもある。 また前期の途中より各連携先のフィールドに赴き、活動を行う。 ※COVID-19の感染拡大状況により活動に制限がかかることもある。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション/副専攻修了者のイメージ、受講方法 : 4月20日(水)6限 ※2回目以降の講義の日は初回の講義にて提示する。なお開講日は水曜日6限になる。 2. 連携先様によるプレゼンテーションと質疑応答(4回目までに自身が希望する先を提出) 3. S科 橋本先生 公開情報を表計算ソフトで分析する/回帰分析、相関分析、平均の比較などを行う 4. S科 牧野先生 定量調査のためのアンケートフォームの作り方を学ぶ/マッチング結果の提示) 5. W科 植杉先生 オンライン・データベースを活用した分析手法を学ぶ 6. プレゼンテーション連携先について調べたことを報告 7. 以降は 現地に赴き、実践を繰り返す。 ※概ね3週間に一回、全員で集合し途中経過の報告会を行う。日時に関しては担当教員の指示に従うこと。 ※12月末(日時未定)に成果報告会を行う																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題提出物 30% 活動の取り組み状況 50% 最終報告等 20%																		
学生へのメッセージ	副専攻で学修した成果を実践勝つとどうで発揮しつつ、更に成長できるように主体的に取り組んでくんでほしい。																		
担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター(水野)																		
備考																			

科目名	地域実習	科目名 (英文)	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎, 古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。																
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。																
授業方法と留意点	教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第1回授業で案内します。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	1 チーム10名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の1~6の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第1回授業は4月12日(火)6時間目です。この時に詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。 この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習に行くことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 【前期】 開講時間はいずれも6時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は2週間に1回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的な日には調整中ですので、第1回授業で案内します。 第1回「ガイダンス (授業概要の説明)」 第2回「寝屋川市の現状を考える(1)」 第3回「寝屋川市の現状を考える(2)」 第4回「寝屋川市まちあるき」(学外) 第5回「社会教育とは(1)」 第6回「社会教育とは(2)」 第7回「まちあるき報告会」 第8回「実習先挨拶」(学外) 第9回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第10回~第18回 「実習」(学外)(主に夏季休暇中に行います) 【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第19回「実習ふりかえり(1)」 第20回「実習ふりかえり(2)」 第21回「全体報告会」																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	提出物(20%)、活動への参画の程度(40%)、最終報告プレゼンテーション(20%)、最終レポート(20%)																
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみましよう!																
担当者の研究室等備考	朝田研究室 1号館7階																

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名(英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a1~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりを持ち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC(英語の場合)の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 			
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会~事前授業~現地派遣~事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2~3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 募集説明会:4月中旬(9月下旬~10月上旬) 事前授業10回:6月中下旬~7月下旬(11月~2月) 現地派遣:2週間程度 8月中旬~9月上旬(2月中下旬~3月下旬) 事後授業5回(成果報告会含む):9月~10月中旬(3月~4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2~3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまてはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>			
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)			
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。			
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター(旧：国際交流センター)まで			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一・村瀬 憲昭
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が直接関わることで、学生の社会人基礎力やプロジェクトの推進・運営などの人間力の向上を図る。プロジェクトを推進し、積極的に行動する経験を基本に就業力の向上を目指す。また、学生のレベルや必要に応じて担当教員が必要な情報の収集方法や、技術の習得方法について指導を行う。実践で習得するものは「段取り」といわれるもので、プロジェクトの中長期的な役割や仕事について、締め切りを設定し、そこから逆算して、いつ何をやるべきか、仕事の道筋を立てる知識と技術、仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算する。</p> <p>①調査:地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画:具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施:実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告:プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICTツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面式)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつこなすべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①優先順位を付け、作業手順決定する、②仕事の全体像を把握する、③仕事の準備と計画など。役割分担された内容について、各グループで責任を持って実施し、自分たちで評価・改善ができるようにする。グループをまとめる役割の人は、リーダーシップ能力、その他の人はサポート者の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体および団体: 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町、アクトバル宇治、寝屋川青年会議所</p> <p>SDGsゴール:9・11・17</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野教授研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一・村瀬 憲昭
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が直接関わることで、学生の社会人基礎力やプロジェクトの推進・運営などの人間力の向上を図る。プロジェクトを推進し、積極的に行動する経験を基本に就業力の向上を目指す。また、学生のレベルや必要に応じて担当教員が必要な情報の収集方法や、技術の習得方法について指導を行う。実践で習得するものは「段取り」といわれるもので、プロジェクトの中長期的な役割や仕事について、締め切りを設定し、そこから逆算して、いつ何をやるべきか、仕事の道筋を立てる知識と技術、仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算する。</p> <p>①調査:地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画:具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施:実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告:プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICTツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面式)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつこなすべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①優先順位を付け、作業手順決定する、②仕事の全体像を把握する、③仕事の準備と計画など。役割分担された内容について、各グループで責任を持って実施し、自分たちで評価・改善ができるようにする。グループをまとめる役割の人は、リーダーシップ能力、その他の人はサポート者の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体および団体: 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町、アクトバル宇治、寝屋川青年会議所</p> <p>SDGsゴール:9・11・17</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野教授研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「ベトナム中部貧困地区での古絵本を活用する学習支援（ベトナム絵本プロジェクト）」</p> <p>概要： ベトナム・フエ外国語大学日本語学科の教員や学生らと協働し、フエ市の貧困地区での学習支援活動に取り組む。学習支援の内容には、日本での古絵本集めとベトナムへの送付、日本語学科学生らの翻訳作業のサポート（特に内容や言葉の意味の解釈）などが含まれる。また、ベトナム語会話を習得する機会を設ける。</p> <p>目的： (1) 貧困地区にある小学校に向けた絵本教材（日本の古絵本のベトナム語翻訳版）を作成し、図書教材の充実を図る (2) 貧困家庭に育った小学校低学年児童に向けた絵本の読み語りを通じて学習習慣を身に着ける支援を行う。 (3) 貧困地区での学習支援モデルを学生主導で形成する。</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバーと学外の連携先（おもにフエ外国語大学の学生ら）との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身に着けるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は、「座学（基礎講座）」と「ベトナム語基礎会話」、「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」、「成果発信（討論、成果品の作成、発表）」から構成される。ベトナム人学生とのコミュニケーションは、基本的には日本語で行われるが、授業が進むにつれ英語やベトナム語を取り込む。「ベトナム語基礎会話」と「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」は、Zoomを用いてのリモート形式となり、日時についてはベトナム側とも相談して設定する。 海外の学生との交流となるため、礼節と敬意ある振る舞いはもちろんのこと、日越双方の文化・社会・自然などを学ぶ前向きな姿勢と好奇心が求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 基礎講座① オリエンテーション／事前学習：シラバスの理解 プロジェクトガイダンス プロジェクトの概要説明と自己紹介／事後学習：リアクションペーパー ベトナム語基礎会話① 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 日越学生交流① Zoomでのリモート交流会（自己紹介や活動紹介など）／事後学習：同上 基礎講座② 「執事のダンドリ手帳」からダンドリの基本を学ぶ／事後学習：同上 基礎講座③ 情報発信力を磨く／事後学習：同上 ベトナム語基礎会話② 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 日越学生交流② Zoomでのリモート交流会（ベトナム中部の暮らしや文化の紹介）／事後学習：同上 基礎講座④ 会議を回せ！ーファシリテーションについて考える①ー／事後学習：同上 基礎講座⑤ 会議を回せ！ーファシリテーションについて考える②ー／事後学習：同上 ベトナム語基礎会話③ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 日越学生交流③ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 基礎講座⑥ 活動内容をシェアしよう（中間報告会）／事後学習：同上 ベトナム語基礎会話④ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 日越学生交流④ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 古絵本集め① 学内や父兄への古絵本寄贈の呼びかけ 古絵本集め② 寄贈された古絵本の梱包と発送 基礎講座⑦ オーディエンスを引き付けろ！ーポスターセッションの教室ー／事後学習：同上 ポスターセッション（撰大祭期間中） ベトナム語基礎会話⑤ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 日越学生交流⑤ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 ベトナム語基礎会話⑥ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 日越学生交流⑥ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 日越学生交流⑦ Zoomでのリモート交流会（新たな課題の発掘と意見交換、ベトナム語会話）／事後学習：同上 基礎講座⑧ 活動を内省する／事後学習：同上 基礎講座⑨ プレゼンの教室／事後学習：同上 日越学生交流⑧ Zoomでのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 日越学生交流⑨ Zoomでのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 日越学生交流⑩ Zoomでのリモート交流会（活動の振り返りと総括、ベトナム語会話）／事後学習：同上 最終報告会 PBL科目報告会での発表 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム</td> <td>小倉貞夫</td> <td>中公新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）</td> <td>池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）</td> <td>情報センター出版局</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム	小倉貞夫	中公新書	2	旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）	池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）	情報センター出版局	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム	小倉貞夫	中公新書																
2	旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）	池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）	情報センター出版局																
3																			
評価方法（基準）	授業ごとのリアクションペーパー（60%）と中間発表および最終発表（各20%）で評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	(1) この取り組みは、学び（異文化理解、ベトナム語会話など）、実践活動（フエ市近郊の貧困地区での学習支援の一環）、価値創造（新たな取り組みの提案）などを含みます。大学での授業を通して実施可能な国際協力の事例づくりを目指します。 (2) 本学では提供されていないベトナム語会話の授業が含まれます。設定された授業日以外にもフエ外国語大学の学生らと交流し、そのレベルを上げることが出来ます。 (3) 受講する学生らの意向があれば、このシラバスに沿いながらも、授業内容を柔軟に変更します。																		
担当者の	枚方キャンパス8号館（農学部棟）・環境農学研究室（213号室）																		

研究室等	
備考	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「ベトナム中部貧困地区での古絵本を活用する学習支援（ベトナム絵本プロジェクト）」</p> <p>概要： ベトナム・フエ外国語大学日本語学科の教員や学生らと協働し、フエ市の貧困地区での学習支援活動に取り組む。学習支援の内容には、日本での古絵本集めとベトナムへの送付、日本語学科学生らの翻訳作業のサポート（特に内容や言葉の意味の解釈）などが含まれる。また、ベトナム語会話を習得する機会を設ける。</p> <p>目的： (1) 貧困地区にある小学校に向けた絵本教材（日本の古絵本のベトナム語翻訳版）を作成し、図書教材の充実を図る (2) 貧困家庭に育った小学校低学年児童に向けた絵本の読み語りを通じて学習習慣を身に着ける支援を行う。 (3) 貧困地区での学習支援モデルを学生主導で形成する。</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバーと学外の連携先（おもにフエ外国語大学の学生ら）との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身に着けるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は、「座学（基礎講座）」と「ベトナム語基礎会話」、「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」、「成果発信（討論、成果品の作成、発表）」から構成される。ベトナム人学生とのコミュニケーションは、基本的には日本語で行われるが、授業が進むにつれ英語やベトナム語を取り込む。「ベトナム語基礎会話」と「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」は、Zoomを用いてのリモート形式となり、日時についてはベトナム側とも相談して設定する。海外の学生との交流となるため、礼節と敬意ある振る舞いはもちろんのこと、日越双方の文化・社会・自然などを学ぶ前向きな姿勢と好奇心が求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 基礎講座① オリエンテーション／事前学習：シラバスの理解 プロジェクトガイダンス プロジェクトの概要説明と自己紹介／事後学習：リアクションペーパー ベトナム語基礎会話① 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 日越学生交流① Zoomでのリモート交流会（自己紹介や活動紹介など）／事後学習：同上 基礎講座② 「執事のダンドリ手帳」からダンドリの基本を学ぶ／事後学習：同上 基礎講座③ 情報発信力を磨く／事後学習：同上 ベトナム語基礎会話② 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 日越学生交流② Zoomでのリモート交流会（ベトナム中部の暮らしや文化の紹介）／事後学習：同上 基礎講座④ 会議を回せ！ーファシリテーションについて考える①ー／事後学習：同上 基礎講座⑤ 会議を回せ！ーファシリテーションについて考える②ー／事後学習：同上 ベトナム語基礎会話③ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 日越学生交流③ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 基礎講座⑥ 活動内容をシェアしよう（中間報告会）／事後学習：同上 ベトナム語基礎会話④ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 日越学生交流④ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 古絵本集め① 学内や父兄への古絵本寄贈の呼びかけ 古絵本集め② 寄贈された古絵本の梱包と発送 基礎講座⑦ オーディエンスを引き付けろ！ーポスターセッションの教室ー／事後学習：同上 ポスターセッション（撰大祭期間中） ベトナム語基礎会話⑤ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 日越学生交流⑤ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 ベトナム語基礎会話⑥ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 日越学生交流⑥ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 日越学生交流⑦ Zoomでのリモート交流会（新たな課題の発掘と意見交換、ベトナム語会話）／事後学習：同上 基礎講座⑧ 活動を内省する／事後学習：同上 基礎講座⑨ プレゼンの教室／事後学習：同上 日越学生交流⑧ Zoomでのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 日越学生交流⑨ Zoomでのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 日越学生交流⑩ Zoomでのリモート交流会（活動の振り返りと総括、ベトナム語会話）／事後学習：同上 最終報告会 PBL科目報告会での発表 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム</td> <td>小倉貞夫</td> <td>中公新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）</td> <td>池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）</td> <td>情報センター出版局</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム	小倉貞夫	中公新書	2	旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）	池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）	情報センター出版局	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム	小倉貞夫	中公新書																
2	旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）	池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）	情報センター出版局																
3																			
評価方法（基準）	授業ごとのリアクションペーパー（60%）と中間発表および最終発表（各20%）で評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	<p>(1) この取り組みは、学び（異文化理解、ベトナム語会話など）、実践活動（フエ市近郊の貧困地区での学習支援の一環）、価値創造（新たな取り組みの提案）などを含みます。大学での授業を通して実施可能な国際協力の事例づくりを目指します。</p> <p>(2) 本学では提供されていないベトナム語会話の授業が含まれます。設定された授業日以外にもフエ外国語大学の学生らと交流し、そのレベルを上げることが出来ます。</p> <p>(3) 受講する学生らの意向があれば、このシラバスに沿いながらも、授業内容を柔軟に変更します。</p>																		
担当者の	枚方キャンパス8号館（農学部棟）・環境農学研究室（213号室）																		

研究室等	
備考	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: AI◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（7月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）</p> <p>科学技術教養C1、C2</p> <p>教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田裕子准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（7月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）</p> <p>科学技術教養C1、C2</p> <p>教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田裕子准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科: S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>テーマ: 地域の担い手としての大学生の役割を考え、実践する</p> <p>概要: 和歌山県海草郡紀美野町および大阪府寝屋川市などの地域をフィールドに、ひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> <p>SDGs-3, 11, 17</p>																
到達目標	<p>①地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べることができる</p> <p>③地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と複数地域における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修(地域について学ぶ)→現地調査(地域について知る)→学内研修(地域について考える)→現地調査(地域のために活動する)→学内研修(活動を振り返り、評価する)というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます(進捗状況によって変更となる場合があります)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内研修: 活動地域の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等(週一回程度; 各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習(1時間程度)が求められます) ・地域での活動: 地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等(月一回程度; 学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習(2時間程度)が求められます) ・中間報告会、最終報告会: 他のプロジェクトと合同で実施(各一回) 																
関連科目	なし																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																
学生へのメッセージ	<p>生きづらさを抱える人びとの生活に寄り添い、それらを解消するための方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。</p> <p>都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか?</p>																
担当者の研究室等備考	7号館3階 上野山研究室																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>テーマ: 地域の担い手としての大学生の役割を考え、実践する</p> <p>概要: 和歌山県海草郡紀美野町および大阪府寝屋川市などの地域をフィールドに、ひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> <p>SDGs-3, 11, 17</p>																
到達目標	<p>①地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べることができる</p> <p>③地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と複数地域における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修(地域について学ぶ)→現地調査(地域について知る)→学内研修(地域について考える)→現地調査(地域のために活動する)→学内研修(活動を振り返り、評価する)というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます(進捗状況によって変更となる場合があります)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内研修: 活動地域の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等(週一回程度; 各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習(1時間程度)が求められます) ・地域での活動: 地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等(月一回程度; 学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習(2時間程度)が求められます) ・中間報告会、最終報告会: 他のプロジェクトと合同で実施(各一回) 																
関連科目	なし																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																
学生へのメッセージ	<p>生きづらさを抱える人びとの生活に寄り添い、それらを解消するための方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。</p> <p>都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか?</p>																
担当者の研究室等備考	7号館3階 上野山研究室																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	コンビニ、工場、飲食店など、日本で働く外国人が増えています。また日本で学ぶ留学生も増えています。外国人を受け入れ、共生するには、何が必要でしょうか？このプロジェクトでは、まずは、日本に住む外国人住民、外国人労働者、外国人研修生、留学生などと交流し、彼らの声に耳を傾けます。そして、「共生」するには何が必要なのかを考え、課題解決に向けて取り組みます。(プロジェクト参加にあたり、英語力などの語学力は不問です。)																
到達目標	①多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる現状と課題を理解し、課題を自分事としてとらえることができる。 ②多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる課題の解決に向けて、具体的な行動計画を立てたうえで、提案し、実施することができる。 ③異なる文化的背景を持つ多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。																
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関(寝屋川市国際交流協会)とも連携し、活動を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の現状と課題 ・やさしい日本語 ・在住外国人との交流、インタビュー活動 ・寝屋川市国際交流協会多文化共生フェスタへの参加 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の現状と課題、やさしい日本語：講義+演習形式 ・その他の内容：グループで話し合い、活動を行う <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバルシチズンシップ論(応用)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	各活動への貢献度60%、活動日誌・最終レポート40%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅱ◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:Ⅱ◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	コンビニ、工場、飲食店など、日本で働く外国人が増えています。また日本で学ぶ留学生も増えています。外国人を受け入れ、共生するには、何が必要でしょうか？このプロジェクトでは、まずは、日本に住む外国人住民、外国人労働者、外国人研修生、留学生などと交流し、彼らの声に耳を傾けます。そして、「共生」するには何が必要なのかを考え、課題解決に向けて取り組みます。(プロジェクト参加にあたり、英語力などの語学力は不問です。)																
到達目標	①多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる現状と課題を理解し、課題を自分事としてとらえることができる。 ②多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる課題の解決に向けて、具体的な行動計画を立てたうえで、提案し、実施することができる。 ③異なる文化的背景を持つ多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。																
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関(寝屋川市国際交流協会)とも連携し、活動を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の現状と課題 ・やさしい日本語 ・在住外国人との交流、インタビュー活動 ・寝屋川市国際交流協会多文化共生フェスタへの参加 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の現状と課題、やさしい日本語：講義+演習形式 ・その他の内容：グループで話し合い、活動を行う <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバルシチズンシップ論(応用)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	各活動への貢献度60%、活動日誌・最終レポート40%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>プロジェクト名:音楽イベントを創ろう!</p> <p>【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2022年度は、観客数50-60名程度の比較的小規模なコンサートについて、スタッフのご指導のもと、企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p>【目的】 アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p>																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。 2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 3. イベント後の処理を適切に行う。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業計画】</p> <p>4月 ご挨拶 5月 企画会議 6月 自主事業内容の決定および出演交渉 7月 中間報告会 寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼 8月 チラシのデザイン作業 9月 チラシの印刷・配付およびチケット作成 10月 ポスターセッション チケット発売開始 11月 打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者) 12月 最終報告会 準備および本番</p> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。 1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。 2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。 4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。 5. 他のイベント等に活用可能な一般的知識を得る。</p>																
関連科目	すべての科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	打ち合わせへの参加状況、プロジェクトへの貢献度、成果物などから総合的に判断する。																
学生へのメッセージ	みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。																
担当者の研究室等	7号館3階(吉田)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>プロジェクト名:音楽イベントを創ろう!</p> <p>【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2022年度は、観客数50-60名程度の比較的小規模なコンサートについて、スタッフのご指導のもと、企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p>【目的】 アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p>																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。 2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 3. イベント後の処理を適切に行う。 																
授業方法と留意点	<p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業計画】</p> <p>4月 ご挨拶 5月 企画会議 6月 自主事業内容の決定および出演交渉 7月 中間報告会 寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼 8月 チラシのデザイン作業 9月 チラシの印刷・配付およびチケット作成 10月 ポスターセッション チケット発売開始 11月 打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者) 12月 最終報告会 準備および本番</p> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。 2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。 4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。 5. 他のイベント等に活用可能な一般的な知識を得る。 																
関連科目	すべての科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	打ち合わせへの参加状況、プロジェクトへの貢献度、成果物などから総合的に判断する。																
学生へのメッセージ	みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。																
担当者の研究室等	7号館3階(吉田)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 長田 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	自治会等において、LINEによる情報共有が主流となりつつあるが、全員が活用できていない状況がある。本プロジェクトでは、学生が中心となってLINE等のSNS活用方法の説明会を開催し、地域コミュニティのデジタル化および世代間の交流を実現することを目指す。 SNSという新たなコミュニケーションの方法を活用することにより、コロナ禍における地域活動の閉塞状況を打開し、地域コミュニティの活性化につなげることが目的である。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	4月 オリエンテーション 5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6~7月 説明会準備 8~9月 説明会実施 10月 ポスターセッション 11月 最終報告会準備 12月 最終報告会 説明会では、SNSの使い方やセキュリティについてプレゼンテーションを行った上で、参加者との座談会形式でSNSの使い方に親しんでもらう。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 長田 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	自治会等において、LINEによる情報共有が主流となりつつあるが、全員が活用できていない状況がある。本プロジェクトでは、学生が中心となってLINE等のSNS活用方法の説明会を開催し、地域コミュニティのデジタル化および世代間の交流を実現することを目指す。 SNSという新たなコミュニケーションの方法を活用することにより、コロナ禍における地域活動の閉塞状況を打開し、地域コミュニティの活性化につなげることが目的である。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	4月 オリエンテーション 5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6~7月 説明会準備 8~9月 説明会実施 10月 ポスターセッション 11月 最終報告会準備 12月 最終報告会 説明会では、SNSの使い方やセキュリティについてプレゼンテーションを行った上で、参加者との座談会形式でSNSの使い方に親しんでもらう。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	成人看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	稲垣 美紀
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3039a0		

授業概要・目的	周手術期にある対象を全人的にとらえ、理論と実践を結びつけた看護活動を展開する能力を養う。急性期看護の臨床経験のある教員が、臨地実習指導者と協働して指導を行う。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助的關係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別の特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 術前・術中・術後の基本的な看護技術を原理・原則に基づき、安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることができる。 6. 自らの実践を振り返ることで自己の課題を見出し、自己研鑽し続けることの重要性が理解できる。 																		
授業方法と留意点	本実習は、2年後期の成人看護学援助論Ⅰ（急性）、3年前期の成人看護学援助論Ⅱ（急性）で学修を活かして、臨地で受け持ち患者に対して看護実践を行います。既習科目の資料や教科書を復習し、大切に保管してください。実習計画については、オリエンテーションで具体的に説明します。オリエンテーションをきいて、しっかりと事前学習を行って、実習に参加してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題																			
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ（急性）、成人看護学援助論Ⅱ（急性）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	ルーブリック評価表を用いて、評価を行います。評価表は、オリエンテーションで説明します。																		
学生へのメッセージ	失敗を恐れず、しっかりと報告・連絡・相談を行って、積極的に実習できることを期待しています。不明なことや不安なことがあれば、遠慮なく教員にたずねてください。																		
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	森谷 利香
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3040a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 臨地実習としての看護実践を通して以下について学習し、慢性疾患を持つ対象への看護に関する基礎的能力を身に着ける。 本科目は担当教員の実務経験に基づき実践的教育を行う。</p> <p>【目的】 慢性疾患の発病初期、急性増悪期、終末期といった様々な経過にある、主に成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実にに向けて対象が治療に伴う療養生活に主体的に取り組むことができるよう援助する看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p>																
到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特徴を踏まえて説明できる。 対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。 対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。 対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。 対象とその家族が直面している倫理的課題について理解し、意思決定の尊重と権利擁護のための行動がとれる。 自らの看護実践について、対象と家族のQOLの維持・向上にどのように貢献したのか、また、自己の看護者としての成長について振り返り、課題を明らかにできる。そして、課題の解決に向けて主体的な学習態度で取り組むことができる。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 実習グループは原則として1グループ5名編成とする。 実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。 実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。 原則として臨地に出向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。 カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。 実習中に指定された記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。 実習を通して、自己の課題を明確にする。 実習を通じた学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。 実習期間・病棟実習時間 期間...3週間 病棟実習時間...原則として9時～16時(うち1時間を休憩とする) 実習施設 独立行政法人 地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター 関西電力病院 住友病院 その他 課題に対するフィードバックは実習中の面談、および実習終了後に行います。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題																	
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ(慢性)、成人看護学援助論Ⅱ(慢性)、疾病・治療Ⅰ～Ⅲ等																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	この実習は慢性的な健康問題をもつ対象への看護の実際を学ぶ機会となります。まずは関連する科目の学習が重要です。それらを基盤として、実習で応用することで理解を深めるとともに技術を習得しましょう。																
担当者の研究室等	研究室29 森谷																
備考																	

科目名	看護研究Ⅱ	科目名(英文)	Nursing Research II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	NDN4070a0		

授業概要・目的	「看護研究Ⅰ」の学びをもとに、人や看護に対して関心や疑問をもち、それらを探究できるような研究的・倫理的態度と方法論を修得する。具体的には、各自が関心のあるテーマを絞り、担当教員のもとで、研究のプロセス(研究計画書の作成、研究への取り組み、論文作成、発表)を実施する。本研究にかかわる看護教員は全員が3年以上の臨床経験を有しており、臨床実践やその基礎となる課題をテーマに研究指導を行う。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人や看護に関する疑問を研究テーマにすることができる。 2. 研究計画書を作成できる。 3. 研究対象者に対し倫理的配慮ができる。 4. テーマに沿った研究への取り組みができる。 5. 研究成果を論文にすることができる。 6. 研究成果を発表できる。 																		
授業方法と留意点	担当教員のもとで研究をすすめること。具体的な方法やスケジュール、教室は担当教員によって異なるため、担当教員からの授業に関する連絡事項(teams、ポータル、掲示)を見落とさないように留意すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員の指示を受け研究をすすめる。 ・研究における倫理的配慮について、担当教員から指導を受ける。 ・研究計画書を作成する。 ・研究計画書に沿って研究を実施する。 ・人を対象とする研究の場合は必ず研究倫理審査を受ける。 ・倫理審査を受けるため、指導教員から指導を受けて申請書類作成する。 ・論文作成時の不正について担当教員より説明を受ける。 ・研究結果に基づいて忠実に論文を作成し、発表する。 <p style="text-align: center;">*事前事後課題としては、テーマに沿って文献検討、結果の分析、論文作成を事前事後で行い、その内容に対して指導を受ける。</p>																		
関連科目	看護研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	成果物およびプレゼンテーションなどルーブリック指標を用いて評価を行う																		
学生へのメッセージ	担当教員と連絡を取り合い、自ら積極的・計画的に研究をすすめて下さい。																		
担当者の研究室等	各担当教員研究室																		
備考	看護研究Ⅰの後半とⅡは、原則として同じ領域の教員が担当する。																		

科目名	統合看護学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN4072a0		

授業概要・目的	<p>【授業の概要】 自らが関心のある看護専門領域(対象領域；基礎看護学領域、成人看護学領域、老年看護学領域、小児看護学領域、母性看護学領域、精神看護学領域、在宅看護学領域、助産学領域)を選択し、臨地実習を行う。</p> <p>【実習目的】 自らが関心のある看護領域において自己の課題解決を目指し、これまでに学習した看護を統合して、対象者の健康課題を明らかにするとともに、保健・医療・福祉チームの一員として他職種と協働・連携し、必要な看護を考え提供するための能力を養う。また、その看護実践の基盤となる看護観と倫理観を育み、自己の課題の達成状況を評価し、さらなる看護実践能力と問題解決能力を高めるため、専門職業人として自己研鑽する能力を身につける。 実習を担当する全教員が看護職として3年以上の臨床および実践経験を有している。それらの経験を活かし、具体的で実践的な実習指導を行う。</p>																
到達目標	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践上の自己の課題を明確にし、その解決をめざして主体的に実習に取り組むことができる。 2. 既習の知識・技術・態度を統合して看護の対象者を全人的に捉え、健康課題を明らかにし、看護実践できる。 3. 看護の機能と役割を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他の医療専門職者との協働・連携の必要性を説明できる。 4. 実習を通して、自らの看護に対する考えを深め、看護観を説明できる。 5. 倫理的視点で看護実践を捉え、人間の尊厳と権利を尊重した行動がとれ、自らの倫理観を説明できる。 6. 生涯にわたり看護専門職者として成長し続けるために、自己の課題の達成状況および看護実践過程や方法を振り返ることを通して、主体的に自己研鑽に取り組む必要性を説明できる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 臨地での実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習1日目は、学内において領域別にオリエンテーション(内容・方法)を受ける。 2. 実習2日目より、領域別臨地実習をおこなう。事例に基づきアセスメント、計画立案や実施、評価を行い看護を振り返る。 4. 継続看護、チーム医療、看護倫理の視点から自らの看護を振り返り、グループで討議する。 3. 実習最終日は、学内において領域別に目標の達成の成果、学びを深める。 <p>【留意事項】 統合実習要綱を熟知し、授業に臨む。 本学で定めた感染予防対策を厳守すること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	担当教員の指示をうけること。																
関連科目	専門基礎科目・専門科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特に指定しない																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各領域で指定する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各領域で指定する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	各領域で指定する																
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業内容・態度・記録をルーブリック指標等を用いて評価する。																
学生へのメッセージ	これまでの学習内容を統合したまとめの実習です。自らの課題を克服できるよう目標を定め実習に臨んで下さい。																
担当者の研究室等備考	全ての担当教員																

科目名	助産学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Midwifery and Maternity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	11	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	井田 歩美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3081a0		

授業概要・目的	<p>(概要) 妊婦、産婦、褥婦及び新生児とその家族への助産過程の展開を通して、助産診断及び助産技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。また、実践を通して個別的な援助方法について学び、医療・保健チームの中での助産師の役割や機能を考察する。そして、受け持ち事例を通して、地域におけるケア継続の必要性について理解を深め、地域における助産師の役割を考え、助産師としての職業的アイデンティティの形成を図れる素地を養う。</p> <p>(目的) 周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、助産診断・技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。実習を通して助産のあり方を考え、職業的アイデンティティの形成を図る。</p> <p>実習指導担当の各教員は、総合病院で助産師として6～10年間勤務した経験から、助産診断及び助産技術に関する実践的な教育を行います。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦と新生児及びその家族に対して、助産過程を展開し、母子とその家族のニーズに応じた援助ができる。 2. 対象者の意思決定や価値観を尊重し、尊厳と人権を擁護する意識を持ち、行動できる。 3. 助産活動を通じて、助産師としての役割と責任について理解できる。 4. 助産実践の向上のため、常に主体的に学習する態度を養う。 																		
授業方法と留意点	病院および助産所にて助産に関わる実習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	※詳細は、助産学実習要綱参照																		
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、地域看護学、家族看護学、精神看護学援助論Ⅰ 周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ 助産技術学演習、助産管理論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	分娩介助技術、受け持ち事例の展開等の実習内容、実習態度、実習記録、出席状況を基にした実習目標の達成度を総合的に評価する。 詳細は、助産学実習要綱参照のこと。																		
学生へのメッセージ	教材は、関連科目の教科書、参考書を用いて学習する。実習時は必要時紹介します。 少人数制で長期の実習となります。健康管理を十分行ってください。 チームワークをもちながらも、個々に主体的・積極的な態度で臨んでください。																		
担当者の研究室等	井田(研究室12)、泉川(研究室15)、但馬(研究室20)、西頭(研究室14)、名草(研究室13)、飯田、永田(共同研究室5)																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 1) 病院：市立ひらかた、大阪府済生会野江病院、関西医科大学附属病院、近畿大学附属病院、京都田辺中央病院、JCHO 大和郡山病院、藤本病院、フラワベルクリニック、八尾市立病院 2) 助産所：はるか助産院、ゆう助産院、橋本助産院 2. 分娩介助実習では、分娩介助例数が10例に達するまで継続的に実習を行う。 																		

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2033a0		

授業概要・目的	<p>[実習目的]</p> <p>看護の対象となる人を総合的に理解し、対象者の日常生活の援助に焦点をあて、看護過程を段階的に展開できる基礎的能力を培う。また、看護職者に必要な態度を養う。</p> <p>[概要]</p> <p>病院で療養生活を送る対象者を受け持ち、既習の知識・看護技術を統合して、対象者が必要としている看護を実践する。</p> <p>具体的には、対象者と人間関係を形成し、情報収集を行い、全体像を把握する。情報収集の枠組みでは、ヘンダーソンの14の項目で情報収集を行い、情報の分析から看護問題を抽出する。対象者の日常生活の援助に焦点をあて、必要な援助を明確にしたうえで、看護計画を立案してケアを実施する。実施したケアについて考察を行う。また、日々立案した日常生活上のケアの計画について実践・振り返り・修正を行う。これらの実践過程を通して、看護職者として不可欠な自己の看護観、倫理感について考えを深め、ふさわしい態度を身に付ける。科目責任者および担当者は大学病院及び総合病院において看護師としての実務経験を持ち、それらの経験をふまえた実践的な指導を行う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者と人間関係を築きながら発達段階、健康状態、日常生活に焦点を当てて情報を収集することができる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 対象者とコミュニケーションを図り、対人関係を築くことができる。 (2) 対象者の発達段階、健康状態、日常生活等を把握するために必要な情報を、記録やフィジカルイグザミネーション、問診やインタビュー、看護の場面への参加を通して収集することができる。 2) 対象者について、気づいたことに着目して情報を集め、日常生活上のケアの計画を立案することができる。 3) 立案した日々のケアの計画を、教員、指導者の指導のもと、実施することができる。 4) 実施した日々のケアの計画について考察を行うことができる。 5) 収集した情報をヘンダーソンの14のノードの枠組みで整理・統合・分析し、対象者の状態を把握することができる。 6) 実習を通して得た学びを振り返り、看護に対する自らの考えを明らかにすることができる。 7) 主体的に実習に取り組む、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 対象者の尊厳と権利を尊重し、プライバシーの保護を行うことができる。 (2) 自ら学ぶ態度で情報を求め、注意事項を守り、積極的に実習することができる。 (3) 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行うことができる。 (4) グループのリーダーまたはメンバーとしての役割を果たし、協力しあうことができる。 (5) 看護師・担当教員からの助言を適切に受け止め、実習に生かすことができる。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習グループは、1グループ5～6名編成とし、担当教員および臨地実習指導者の指導を受ける。 2. 実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行う。 5. 実習にあたり、実習病院・病棟から、病棟の機能や看護職の役割について、オリエンテーションを受ける。 6. 原則として、入院中の患者を1名受持ち、対象者の全体像を把握し日々の中で必要な看護を立案し実践・評価する。 7. 病棟実習では毎日、学生主体のカンファレンスを行う。 8. カンファレンスでは、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。 9. 実習記録は、毎日必ず記録し、担当教員および臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 10. 各自の実習における学びを各グループで検討してまとめ、互いに発表を行って共有する。 11. 感染状況に応じて、ICTツールを活用した遠隔実習や学内実習も適宜取り入れる。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 実習前にオリエンテーションを受け、実習に必要な知識・技術の復習を行う。 2. 病院実習 1月～3月に、以下の内容で2週間の実習を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の紹介をうけ、人間関係を形成する。 2) 対象者の発達段階、健康状態、日常生活を把握するために必要な情報を、インタビューや記録、フィジカルイグザミネーション、および看護の場面への参加を通して収集する。 3) 収集した情報をヘンダーソンの14の項目に沿って整理・分析し、対象者の看護問題を抽出する。 4) 抽出した看護問題から患者に必要な日常生活援助を導き出す。 5) 得られた問題に対する日々の看護目標および実習目標を適切に設定する。 6) 日々の看護目標を達成するためのケアの計画を立案する。 7) 対象者が必要としている看護技術について気づき、対象者に応じた方法を検討する。 8) 立案した看護計画および日々のケアの計画を、教員・臨地実習指導者の指導の下で実施する。 9) 看護計画および実施したケアについて、指導教員の指導のもと、評価・修正する。 10) 最終的に実習全体を通じた学びを振り返り、看護に対する自らの考えを述べる。 11) 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術を復習して実習の準備をする。 12) 実習を行う上で必要な情報を積極的に求め、グループメンバーと共有し連携する。 13) 臨地実習指導者・指導教員からの助言を適切にうけとめ、積極的に実習に生かす。 14) 実施内容については臨地実習指導者・指導教員の指導を得てから行う。 15) 観察・実施内容については、臨地実習指導者・指導教員に適切に報告を行う。 16) 対象者の権利を尊重し、プライバシーの保護を行う。 17) 看護職に必要な態度について看護職者の倫理綱領などに照らし合わせて自己の考えをまとめる。 <p>※原則上記を予定しているが、感染状況により実習内容および授業方法を変更することもある。</p>																
関連科目	看護学概論、看護対人関係論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント、看護過程論 人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、薬物治療学など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録、実習態度)を総合して評価する。 記録は最終的に提出された記録内容の評価だけではなく、日々の記録の記載状況等も評価の対象とする。 原則、実習期間は全日休まず実習に参加していることとする。 ※原則上記を予定しているが、感染状況により評価方法が変更となることもある。</p>			
学生への メッセージ	<p>初めて患者さんを受け持つ病院実習です。看護者として疾患をもつ対象者への関わりを通して、病態をふくめた個性やその思い、必要な支援は何かについて考え、看護を実践できるようになりましょう。この実習で学んだこと、感じたことは、専門職者として大切な基盤の部分になると思います。</p>			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、研究室3(山居)、共同研究室1(北村、他)			
備考	[実習場所] 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属病院、関西電力病院			

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2045a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 施設で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者とその家族の理解を深めるとともに、個性に応じた日常生活の実際を知る。また、保健・医療・福祉チームの中での連携および看護の役割について学ぶ。</p> <p>【目的】 施設で生活する高齢者・家族の身体・心理・社会的特徴を理解し、高齢者の生活を支える方法について考える力を養う。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体・心理および社会的変化や生活背景・価値観を踏まえ、高齢者の生活状況を理解できる。 2. 高齢者の個別性に応じた日常生活援助が実施できる。 3. 介護保険施設の特徴を踏まえ、看護師の役割について理解できる。 4. 看護学生として、適切な態度で実習を行い、今後の自己の課題を明確にすることができる。 																		
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を掲示します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前の計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、介護老人保健施設、高齢者の特徴を事前に学習する。 <p>【実習計画】</p> <p>1日目 学内 VR認知症体験 2日目 実習施設 (フロア) 3日目 実習施設 (フロア) 4日目 実習施設 (デイケア、デイサービス) 5日目 学内 グループワーク・発表・個人面談</p> <p>*状況によって日程、内容が変更になります。</p> <p>【事後の計画】 認知症高齢者等についての学習を追加する</p>																		
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価表を用いて評価します。																		
学生へのメッセージ	すでに学んだ老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰで学んだ内容の確認をしてください。																		
担当者の研究室等	松田 (7号館3階 研究室6) 小川 (7号館3階 研究室10) 村瀬 (7号館3階 研究室4) 田中 (7号館3階 共同研究室2)																		
備考																			

科目名	老年看護学実習Ⅲ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3046a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 疾患や障がいを持ち、治療を受けている高齢者の健康を回復・維持する過程における看護上の課題に対して、身体的・心理的・社会的側面からのアセスメントを行い、看護する方法を学ぶ。また、ケアにおいては老年看護に必要な基礎知識・技術を活用し、看護師として必要な倫理的態度を養う。</p> <p>【目的】 入院治療を必要とする高齢者を総合的に理解し、その人らしい生活が退院後もできるよう対象者のニーズに合わせた看護を実践する能力を養う。</p>																																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う変化や、高齢者に生じやすい健康問題から高齢者を総合的に理解できる。 2. 疾病や障がいをもつ高齢者の身体的・心理的・社会的機能をアセスメントし、健康上の課題を明確にすることができる。 3. 健康問題を持つ高齢者の特性・個性性を考慮した看護計画が立案できる。 4. 高齢者の状態に適した看護援助を実践し、評価・修正することができる。 5. 高齢者の人権と権利を擁護する態度を身につけることができる。 6. 適切な態度で実習に臨むことができる。 7. 実習を通して、高齢者観や看護の役割について、自分の考えを深めることができる。 																																										
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																																										
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前の計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、よく見られる高齢者の疾患の特徴を事前に学習する。 <p>【実習計画】</p> <p>1週目</p> <table border="1"> <tr> <td>月曜日</td> <td>学内</td> <td>実技演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>火曜日</td> <td>実習施設</td> <td>実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水曜日</td> <td>実習施設</td> <td>実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>木曜日</td> <td>学内</td> <td>対象理解のための記録整理</td> <td>看護の方向性の明確化</td> </tr> <tr> <td>金曜日</td> <td>実習施設</td> <td>実習</td> <td></td> </tr> </table> <p>2週目</p> <table border="1"> <tr> <td>月曜日</td> <td>実習施設</td> <td>実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>火曜日</td> <td>実習施設</td> <td>実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水曜日</td> <td>実習施設</td> <td>実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>木曜日</td> <td>学内</td> <td>計画修正 倫理カンファレンス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金曜日</td> <td>学内</td> <td>ケーススタディ発表</td> <td>記録整理・面談</td> </tr> </table> <p>*状況によって日程、内容が変更になります。</p> <p>【事後の計画】 学習の振り返りを通じて、老年看護学の役割および今後の学生自身の課題を明確にする。</p>			月曜日	学内	実技演習		火曜日	実習施設	実習		水曜日	実習施設	実習		木曜日	学内	対象理解のための記録整理	看護の方向性の明確化	金曜日	実習施設	実習		月曜日	実習施設	実習		火曜日	実習施設	実習		水曜日	実習施設	実習		木曜日	学内	計画修正 倫理カンファレンス		金曜日	学内	ケーススタディ発表	記録整理・面談
月曜日	学内	実技演習																																									
火曜日	実習施設	実習																																									
水曜日	実習施設	実習																																									
木曜日	学内	対象理解のための記録整理	看護の方向性の明確化																																								
金曜日	実習施設	実習																																									
月曜日	実習施設	実習																																									
火曜日	実習施設	実習																																									
水曜日	実習施設	実習																																									
木曜日	学内	計画修正 倫理カンファレンス																																									
金曜日	学内	ケーススタディ発表	記録整理・面談																																								
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ																																										
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																								
1																																											
2																																											
3																																											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																								
1																																											
2																																											
3																																											
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価表を用いて評価します。																																										
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。																																										
担当者の研究室等	松田 (7号館3階 研究室6) 小川 (7号館3階 研究室10) 村瀬 (7号館3階 研究室4) 田中 (7号館3階 共同研究室2)																																										
備考																																											

科目名	精神看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Psychiatric and Mental Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	眞野 祥子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3058a0		

授業概要・目的	<p>精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、疾病・治療論Ⅵでの学習をもとに、精神疾患を持つ人とのかかわりを通し、精神看護について学ぶ。具体的には、精神に障害を持つ人および家族について理解し、人間性を尊重したかかわりを通して、健康段階やその変化に応じた基礎的知識、技術およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p>【目的】 精神に障害を持つ人と看護師との関係について学ぶとともに、その人の全体像を把握し、病気やセルフケア能力の回復過程に沿った援助に必要な看護実践能力を修得する。また、精神医療の現状を理解する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。 ・受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。 ・精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。 																
授業方法及び留意点	<p>【実習期間】 2022年10月～2023年6月の2週間</p> <p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害を持つ人と、患者-看護師関係の成立を目的としたコミュニケーションを図る。 2. 看護場面を選択して、プロセスレコードを記載し、自己のコミュニケーションパターンと患者の気持ちの理解の振り返りを行う。 3. 地域における精神科医療の現状を学ぶ。 4. 精神障害者の権利擁護について考察する。 <p>【事前学習課題】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学習した知識と技術を活用できるように復習しておくこと。 特に統合失調症（教科書②第6章Ⅱ-A、P.270～289）、うつ病・躁うつ病（教科書②第6章Ⅱ-B・C、P.289～300）、精神保健福祉法（教科書①第7章、236～273）、援助的人間関係（教科書②第4章、P.190～219）に関しては必ず復習しておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として少人数（2～5人）グループを編成し、担当教員の指導を受ける。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習施設のオリエンテーションを受け、施設の機能や看護職をはじめとして専門職の役割を理解する。 5. カンファレンスを行い、互いの学びを共有し、次の機会に活かす。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 患者との関わりにおいて、感じたことや考えたことを振り返ることができる。 (2) 毎日の看護活動における患者-看護師関係を振り返ることによって、自らの対人関係の傾向に気づくことができる。 (3) 対人援助技術を意図的に活用することができる。 (4) 患者-看護師関係を振り返ることによって、患者と共働してきたことを意味づけすることができる。 2) 受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) セルフケアモデルによる看護の展開に必要な情報を収集することができる。 (2) 精神機能の障害とその症状をアセスメントすることができる。 (3) 生育歴、病歴、現在の疾患、精神・身体症状、社会的状況、治療が、患者のセルフケア能力に影響を及ぼしていることがわかり、普遍的セルフケア不足をアセスメントし、看護上の問題を明らかにすることができる。 (4) 過去および現在のセルフケア能力、その回復と開発の可能性をアセスメントすることができる。 (5) 患者とともに達成可能な目標を設定することができる。 (6) 目標達成に向けた看護計画を立案することができる。 (7) 看護計画を実施することができる。 (8) 看護計画に基づいた実践を評価し、修正することができる。 3) 精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 精神医療チームにおける看護の役割・機能と独自性を理解することができる。 (2) 精神医療チームにおける各職種の役割を理解することができる。 (3) 精神医療チーム間の連携について理解することができる。 (4) 精神医療における精神障害者の権利擁護について理解することができる。 (5) 患者の退院に必要な社会資源を理解することができる。 																
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、疾病・治療論Ⅵ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健</td> <td>岩崎弥生</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害を持つ人の看護</td> <td>岩崎弥生</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健	岩崎弥生	メヂカルフレンド社	2	新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害を持つ人の看護	岩崎弥生	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健	岩崎弥生	メヂカルフレンド社														
2	新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害を持つ人の看護	岩崎弥生	メヂカルフレンド社														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、レポートを総合して評価する。																
学生へのメッセージ	授業で学んだ知識と技術を臨床で生かしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)、共同研究室2(吉永)																
備考	<p>【実習場所】 ハートランドしぎさん、大阪精神医療センター、就労継続支援施設</p>																

科目名	基礎看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2032a0		

授業概要・目的	看護学概論等の既習内容を踏まえ、保健医療の現場における看護の対象である人とその生活・健康状態、それらを取り巻く環境のあり方、看護職者やチーム専門職者の役割を体験的に学び、看護の役割や機能について理解を深め、今後の看護を学ぶ動機とする。科目責任者および担当者は大学病院及び総合病院において看護師としての実務経験をもち、それらの経験をふまえ実践的な指導を行う。																		
	[実習目的] 看護の対象となる人とその人を取り巻く環境を理解する。 また、実習による体験を通して、看護の目的と役割、看護の機能する場および看護活動に関する知識を深める。																		
到達目標	1) 看護の対象となる人の療養生活を支える環境のあり方を理解する。 2) 看護の対象となる人とその健康状態、生活や思いを理解し、看護職者およびその他の専門職者による援助の実際を知る。 3) 看護の目的、看護が果たす役割や機能する場、看護のあり方について自己の考えをまとめ、今後の看護を学習する上での課題を見出すことができる。 4) 看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。																		
授業方法と留意点	病院実習および学内実習を行う。 原則として学生配置は1グループ4～6人編成とし、各グループは教員の指導を受ける。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 実習時期 8月下旬～9月上旬 2. 事前学内オリエンテーション ○実習前に、実習目的・目標、実習計画、事前学習、留意事項等の説明を受ける。 ○実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 3. 病院実習 ○臨床講義：看護部長より病院の概要および看護職者の役割についての講義を受ける。 ○病院見学：病院環境の見学を行い、各部署の機能について説明を受ける。 ○病院実習：対象者とのコミュニケーションから、健康状態、療養生活とその思いについて知る。 看護師またはその他専門職者が実施するケアを見学し、ケアの実際と対象者の反応を知る。 4. 学内実習他 ○疾患をもつ患者の思いについて考え、討議する。 ○実習を通して学んだことを討議し、発表する。 ※原則上記を予定しているが、感染状況により実習内容を変更することもある。																		
関連科目	看護学概論、看護対人関係論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録を総合して評価する。																		
学生へのメッセージ	看護学生として初めての实習です。看護学生としての心構えや態度をしっかりと学び、体調を整えて実習に臨みましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)、研究室2 (神谷)、研究室3 (山居)、共同研究室1 (北村、他)																		
備考	実習病院：関西医科大学附属病院、星ヶ丘医療センター																		

科目名	老年看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2044a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 地域在住高齢者とのかかわりを通して、高齢者の理解を深める。</p> <p>【目的】 地域で暮らす高齢者とのかかわりを通して、高齢者の身体的・心理的・社会的変化や特徴を理解する。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的特徴を理解できる。 2. 地域で暮らす高齢者の「思い」を理解できる。 3. 高齢者の地域での生活状況を理解できる。 4. 老年看護のあり方について自己の考えをまとめることができる。 5. 看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。 																		
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションで詳細を指示します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前の計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、高齢者の特徴を事前に学習する。 <p>【実習計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1日目</td> <td>学内</td> <td>オリエンテーション、対象理解の学内実習</td> </tr> <tr> <td>2日目</td> <td>学内</td> <td>高齢者の集う地域活動に参加するための学内実習</td> </tr> <tr> <td>3日目</td> <td>地域</td> <td>高齢者の集う地域活動に参加する</td> </tr> <tr> <td>4日目</td> <td>地域</td> <td>高齢者の集う地域活動に参加する</td> </tr> <tr> <td>5日目</td> <td>学内</td> <td>グループワーク・発表・個人面談</td> </tr> </table> <p>*状況によって日程や内容が変更になる可能性がある</p> <p>【事後の計画】 学習の振り返りを通じて、自己の看護観、高齢者観および今後の学生自身の課題を明確にする。</p>			1日目	学内	オリエンテーション、対象理解の学内実習	2日目	学内	高齢者の集う地域活動に参加するための学内実習	3日目	地域	高齢者の集う地域活動に参加する	4日目	地域	高齢者の集う地域活動に参加する	5日目	学内	グループワーク・発表・個人面談	
1日目	学内	オリエンテーション、対象理解の学内実習																	
2日目	学内	高齢者の集う地域活動に参加するための学内実習																	
3日目	地域	高齢者の集う地域活動に参加する																	
4日目	地域	高齢者の集う地域活動に参加する																	
5日目	学内	グループワーク・発表・個人面談																	
関連科目	老年看護学概論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価します。																		
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目で学んだ内容の確認をしてください。																		
担当者の研究室等	松田 (7号館3階 研究室6) 小川 (7号館3階 研究室10) 村瀬 (7号館3階 研究室4) 田中 (7号館3階 共同研究室2)																		
備考																			